本論 第２部 シェンクのジングシュピールのドキュメント，及び資料研究

第１章　資料研究の方法論

本論文において，シェンクのジングシュピールのドキュメント，および資料研究に用いる用語と方法を論ずるにあたり，理解を容易にするために，ゲオルク・フェーダーが1987年に発表した著作『音楽文献学』(Feder 1987)の記述を援用することとする。フェーダーのこの著作は，音楽学の分野において，初めて音楽資料の研究の方法論を体系的に論じ，問題点を整理したという点で，大きな意味をもつものである。

第１節　学問的資料研究の三つの基礎

フェーダーによれば，音楽の分野における資料研究を学問的なものとするための３つの基礎は，ソース (Quellen; source)，状態 (Kontext)，および綜合的能力(Kompetenz) [1] である。(Feder 1987: 30)

注

(1) 大宮 1990: 154では，Kompetenz を「音楽的表現手段」と訳している。Kompetenz (competence)は，言語学の分野では，母語の話し手の脳に内蔵された，その言語の文に関する知識を意味している。(田中 1988: 107)　フェーダーは音楽文献学の分野でこの語を用いるにあたって，単なる音楽的能力ばかりでなく幅広い能力を意図しているものと捉え，ここでは「綜合的能力」と訳した。

１．ソース

フェーダーによれば，ソースという語は三種類の意味で用いられる。(Feder 1987: 30) すなわち，第一に，作家，或いは作曲家が作品を作る場合の「典拠」としての意味，第二に，歴史学者が過去の事柄を解明するための手立てとして用いる「史料」や「文献」としての意味，そして第三に，記述された作品の正しいテクストを得るために文献学者が用いる「資料」としての意味である。(Feder 1987: 30)

このうち，本章においては，第二，第三の意味によるソースが重要な意味をもつ。

まず，第二の意味によるソースとして，ジングシュピールの作曲・上演に関する史料と文献を挙げることができる。例えば，初演時のちらし，劇場の収支記録，当時の新聞記事等は，ジングシュピールの作曲と上演を証明する直接的な史料である。これらの直接的な史料が消失している場合，各劇場の上演史を扱った文献の記述が二次的な参考となる。本論文では，これらの「史料」，および「文献」を「ドキュメント」と総称し，作品に関わる歴史的事実を解明するための根拠として用いることとする。

次に，第3の意味によるソースとして，ジングシュピールの楽譜資料（自筆譜，筆写譜，出版譜）と台本（印刷台本，プロンプター用手書台本）が挙げられる。これらのソースは，本論文では「資料」と称し，作曲家が書いた原典に最も近い楽曲内容を再現するために用いる。その際，資料批判（Quellenkritik)をおこない，各資料の価値を評価した上で，テクスト批判（Textkritik）の手掛りとして用いるものとする。

２． 状態

フェーダーが，学問的資料研究の第二の基礎として挙げているのは，状態である。(Feder 1987: 32-35)　これは，楽譜等のテクストの前後がどうなっているか，どのような歌詞が付いているか，問題の箇所と対応する箇所（Parallelstelle）がどのように書かれているか，といったレヴェルの問題のほかに，当該楽譜がどのような状態で書かれたものか（スケッチ，修正稿，清書稿，等），当該楽章と他楽章との関係はどうか，といった様々なレヴェルにおける相互関係を意味している。資料研究においては，このような状態を詳細に検討することが重要な意味をもつ。

３． 綜合的能力

フェーダーが挙げている学問的資料研究の第三の基礎，綜合的能力とは，手掛りとなるものを見出し，正しく利用することができるための，学問的思考方法，歴史感覚，創造性，音楽的能力，語学力等，さまざまな意味での能力を意味している。(Feder 1987: 35-37) ソースを材料として，その状態に注目しながら，より適切な判断を下すために，フェーダーは，このような綜合的能力を重視している。

第２節　資料研究の手順

上記の第三の意味におけるソース，すなわち楽譜資料や台本を研究する際の手順を，フェーダーは次のように示している。

１．資料批判

まず，当該楽曲に関して現存している資料のリストを作成したのち，資料の状態に注目しながら，原典との近接度に基づいてそれぞれの資料の価値を評価し，分類，記述する。(Feder 1987: 43-56)

本論文では，シェンクがみずら書いた資料，直接関わった資料，および直接関わった形跡のない資料との，三つのカテゴリーに分類し，アルファベットで分類記号を付ける。第一のカテゴリーは，シェンクが書いた自筆譜（断片，スケッチを含む）であり，これらは，資料記述においてＡ１，Ａ２... の記号を付す。第二のカテゴリーは，シェンクが書き込みや修正を加えた筆写譜，シェンクと近い関係にあるコピストの筆写譜等であり，これらは，資料記述においてＢ１，Ｂ２... の記号を付す。第三のカテゴリー，すなわち，シェンクとの直接的関係が認められない筆写譜と出版譜は，資料記述においてはＣ１，Ｃ２... の記号を付す。台本の場合には，シェンクと直接関係のあるものと，ないものの二つのカテゴリーに分類する。前者は，シェンクが作曲に用いた台本，あるいは初演の際に劇場で販売されたと思われる台本であり，資料記述においてａ１，ａ２....の記号を付す。後者は，シェンクが作曲に用いた台本そのものではないが，登場人物やストーリーが部分的に共通している台本であり，資料記述においてｂ１，ｂ２....の記号を付す。

楽譜の資料評価をおこなう際には，以下の三つの事柄が資料評価の外的補助手段となる。まず第一は，五線紙の使用状態である。シェンクの自筆譜の紙は，多くの場合，横長判の大きな紙をまず横二つ折にし，さらにそれを縦二つ折にした上で，上辺を切った状態（図1a）で用いられている。その結果，全体は，横長の二つ折の紙，すなわちドッペルボーゲ

図1a

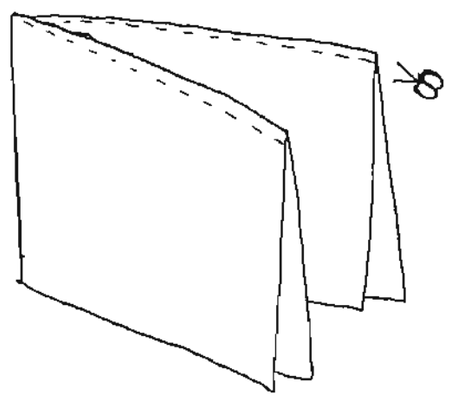


図1b

(図1aを上から見た状態)

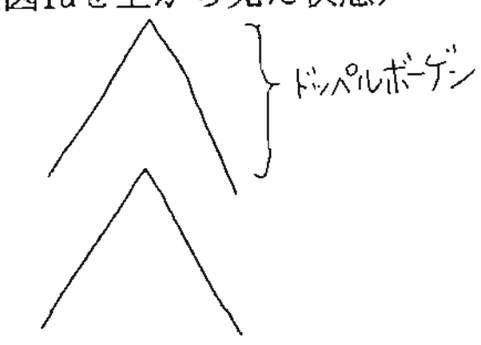
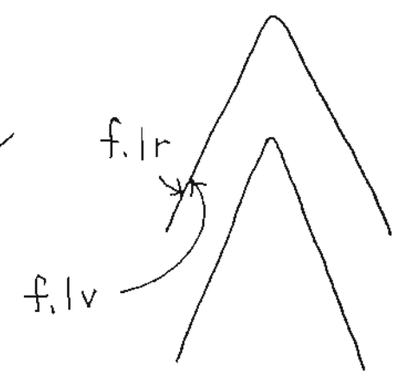


図1c



ン (Doppelbogen)が二つ組み合わされた状態（図1b）となる。ドッペルボーゲンの左右いずれか片側をフォリオ（folio）[1] と呼び，楽譜の数量は，通常フォリオ数（枚数）で数える。例えば，図1bは，二つのドッペルボーゲンからなる４枚の楽譜である。楽譜１枚の表と裏は，それぞれfolio recto，folio versoと表し，例えば図1cのように，１枚目の表（冒頭から数えて１ページ目）は，f.1r（フォリオ１の表）と略記する。長い楽曲の場合には，ドッペルボーゲンの組み合わせを幾つも重ねた状態で用いられる。例えば，図２の場合には，ドッペルボーゲン四つを組み合わせたもの（合計８枚，16ページ）を１単位（ラーゲ；Lage）として，四つのラーゲが重ねられている。図３のように，一つのラーゲの中でドッペルボーゲンの組み合わせが不規則である場合には，その部分は，後から単葉(folio)をさしかえたり，付加した部分である可能性がある。

図２

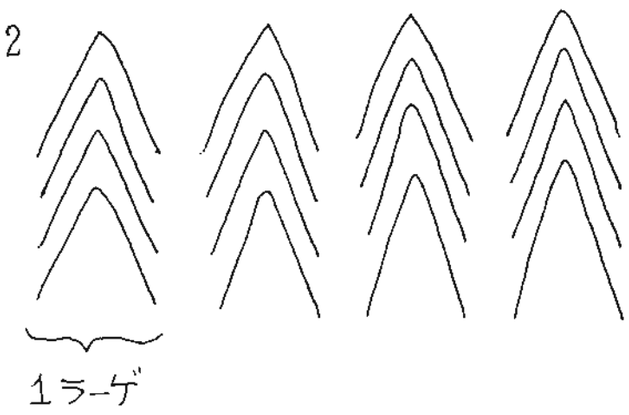
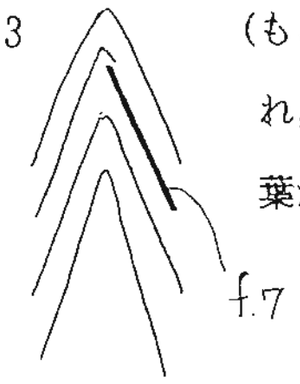


図３



（もとのf.7 が切り取られ，同じ部分に別の単葉が挿入されている）

資料評価の外的補助手段の第二は，五線紙の漉しと五線の幅の寸法である。五線紙の漉しと五線の幅の寸法の両方を照合することにより，同じ紙か，異なる紙かを識別し，同一のラーゲの中で紙がさしかえられたり，ある部分から異なる紙が用いられたりしていることを知ることが可能となる。本論文では，五線紙の漉し（Wasserzeichen: Wz と略）をWz＃１～Wz＃42のコード・ナンバーで示し，その詳細については付録３に示した。作曲年代が書き込まれた自筆譜に用いられている紙を調べることにより，シェンクがどの年代にどの紙を用いたかを知ることができる。しかし，用いた紙と作曲年代との関係を，年代の記入されていない自筆譜の作成年代の根拠とすることには，常に危険がつきまとう。本論文では，自筆譜の五線紙の種類だけを根拠として年代推定をおこなうことは避け，必ず複数の観点から作曲年代の可能性を考察することとし，当該自筆譜に用いられている五線紙が他の年代入り自筆譜（ジングシュピール以外の曲も含む）ではどのように用いられているか，を示した。

資料評価の外的補助手段の第三は，記譜者の判定である。シェンクと直接関わりのあったコピストに関しては，まったく判明していないため，本論文においては，シェンクのジングシュピールの筆写譜に見られるコピスト（Kopist: Kpと略）に独自の番号（Kp＃１～

Kp#20，宮廷劇場付コピスト，ヴェンツェル・スコヴァティ Wenzel Skowaty [2] のグループ：Kp#31～Kp#46）を与え，筆跡を照合した。そのうち，シェンクが自筆で書き込みを加えた筆写譜のコピスト，及び自筆譜と同じ紙を用いて筆写したコピストは，シェンクと近い関係にあった可能性がある。

注

(1) ドイツ語ではボーゲン(Bogen) であるが，ドッペルボーゲンと紛らわしいので，ここでは用いない

(2) スコヴァティ（生没年不明）については，Bartha，Somfai 1960：425-427を参照せよ。

２．テクスト批判

フェーダーによれば，テクスト批判には，「低次の」批判（“niedere” Kritik）と「高次の」批判（“höhere” Kritik)の二種類がある。(Feder 1987：56-82)

前者は，複数のソースを比較し，より良質なソースに基づいて，作曲者の原典に出来るだけ近い楽譜を作成することを意味している。本研究においては，「低次の」批判に基づいて作品の校訂楽譜を作成し，その一例として，所蔵館であるウィーン楽友協会から許可の得られた#8「アッハメットとアルマンツィーネ」の校訂楽譜を論文の付録４とした。

これに対して，「高次の」批判とは，作品の作曲者，作曲年代，曲種の分類等が不明，あるいは疑わしい場合，その問題点を追求し，作品の作曲家，作曲年，成立事情，編曲・借用関係等を明らかにすることを意味している。本論文においておこなった「高次の」批判の主要な点は，次の二点である。第一は，ひとつの曲に複数の稿が存在する場合についてであり，この場合には，資料の状態と楽曲内容とを比較し，第２章の資料記述の項で，複数の稿がどのような順序で成立したと考えられるか，について筆者の見解を示した。第二は，曲の資料が帰属している作品とは異なる作品に帰属する可能性がある場合である。この種の楽曲については，第２章の資料記述において，帰属作品に疑義があるという意味で楽譜資料＊印を付し，＊１，＊２，＊３....という通し番号を付けて，資料の状態を記述するにとどめてある。さらに第３章において，これらの楽曲の帰属作品の問題点について検討した。また，このような「高次の」批判の際には，批判の外的補助手段として，シェンクの自筆譜の記譜の特徴の年代的変化に関する観察結果を援用した。

第２章　各作品の主題目録と資料記述

以下の主題目録においては，次の凡例に従って記述するものとする。

凡例

1．作品（ジングシュピール全体を意味する語として用いる）の名称は，通常，#を付けたコード・ナンバー，「　」内の訳題，及び（　）内に作曲年または初演年，の三つを並べて示すこととする。例えば，1780年に作曲された第１作の「宝掘り」は，#1「宝掘り」(1780年）と表記する。これは，当該作品が，シェンクのジングシュピール12作品の中で何番目の作品であるか（コード・ナンバー），何年の作品であるかを，常に明らかにするためのものである。但し，第10作の「皇后マリア・テレージアの命名祝日のためのパントマイムとジングシュピール」（1798年）のみは，題名が長いため，初出以外は #10「パントマイム」（1798年）と略記する。

2．登場人物の声域は，楽譜資料に記譜された音部記号に基づき，例えばソプラノ記号で記譜されているパートの役柄を〔ソプラノ〕と表記する。

3．楽器のうち，出現頻度の多いものは，以下の略語で表記する。弦楽器＝Str，ヴァイオリン＝Vn，低音弦楽器（チェロを含む）＝Baß，ピッコロ＝Pik，フルート＝Fl，オーボエ＝Ob，クラリネット＝Kl，ファゴット＝Fg，ホルン＝Hr，トランペット＝Tp，トロンボーン＝Tb，ティンパニ＝Pk。その他の楽器については，日本語で表記する。

4．作品の中における曲番が伝えられていない曲（ジングシュピールの中の各曲を意味する語として用いる）については，その歌詞の冒頭の訳を（初出のみ原語も含めて）併記する。例：曲番不明の三重唱「消え失せろ，田舎者め」(“Packe dich, du Bauernschlegel”)

5．作品の中における曲番が伝わっているが番号づけに矛盾がみられる曲については，妥当と考えられる曲番を〔　〕付きで示す。複数の稿が存在する曲に関しては，妥当と考えられる稿の番号を〔　〕付きで示す。

6．各曲の主題には，その楽譜資料の記号（Ａ１，Ｂ１，等）を付記する。

7．各曲の主題の五線の上に示した数字は小節番号，五線の下に括弧付きで示した数字は総小節数を表す。

8．１曲の中でテンポと拍子が変化する場合には，曲の最初と，テンポと拍子が変化した部分の，両方の冒頭楽譜を示す。但し，大規模な曲で，テンポと拍子が曲の途中で何度も

変化するものについては，筆者の判断により，主要な部分のみの冒頭楽譜を示すこととする。

9．資料記述において，〔　〕内の記述は，筆者の判断による補足である。〔！〕は，資料に記述されている内容に，明らかな誤りや欠落がみられる場合に用いる。

10．資料記述において，五線紙の漉し（Wasserzeichen: Wz と略）は，♯を付けたコード・ナンバー（Wz♯１～Wz♯42）で示す。各漉しの記述は付録３にまとめられている。また，同様にコピスト（写譜家，Kopist: Kpと略）も，♯を付けたコード・ナンバー（Kp♯１～Kp♯20，宮廷劇場コピスト，ヴェンツェル・スコヴァティとその協力者[1]：Kp♯31～Kp♯46）で示す。

11．作品内での曲番や，複数の稿の相互関係について問題がある場合には，各資料記述の末尾に，筆者の見解と根拠を示す。

12．作品の帰属に関して問題のある楽譜資料は，＊を付した通し番号（＊１～＊20）で示す。これらの楽譜資料については，本章では資料の状態を記述するにとどめ，第３章において作品の帰属の問題について詳述する。なお，これらの楽譜資料に含まれる登場人物名は，主題目録の登場人物欄には記載しないものとする。

注

(1) スコヴァティについては，Bartha, Somfai 1960: 425-427を参照せよ。

#1 “Der Schatzgräber”
「宝掘り」（1780年）

(1) 作曲年と根拠：1780年（自筆譜A1のタイトルページに記入されている）

(2) 上演記録：のこっていない

(3) 作品の構成と主題

登場人物　ジーモン（Simon），裕福な父親〔テノール〕

マルティン（Martin），ジーモンの下僕〔テノール〕

ユリアーネ（Juliane），ジーモンの娘〔ソプラノ〕

ハンヒェン（Hannchen）〔ソプラノ〕

シェーンフェルス（Schönfels），ユリアーネの恋人〔テノール〕

ヴァレンティン（Valentin），シェーンフェルスの召使〔テノール〕

フックス（Fuchs），おかしな宝泥棒〔バス〕

序曲（Introduzione）（Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）楽譜資料A1

Allegro di molto

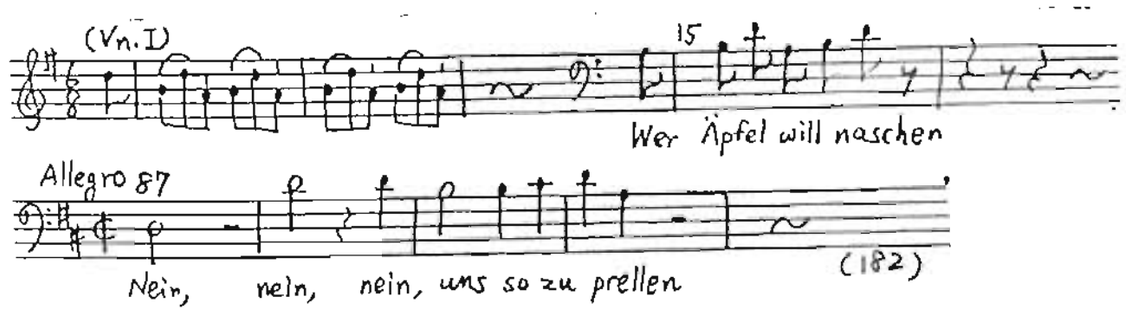
第1幕

No.1　二重唱（マルティン，ジーモン，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料A1

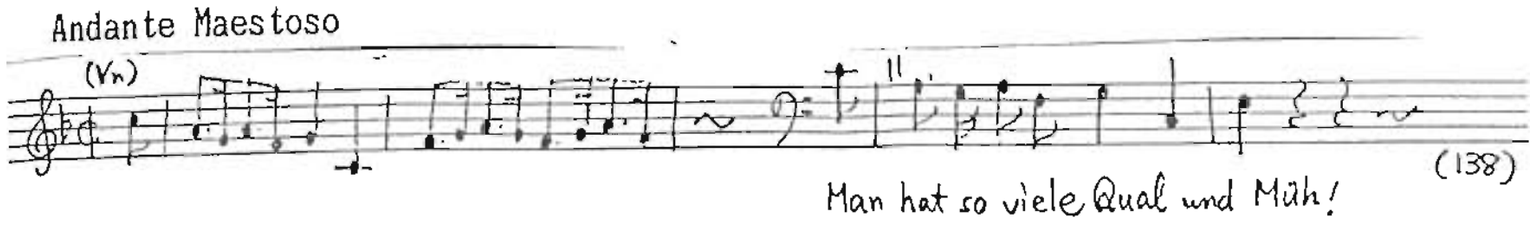
Andantino

No.2　アリア（マルティン，Str，2Fl，2Fg，2Hr）　楽譜資料A1

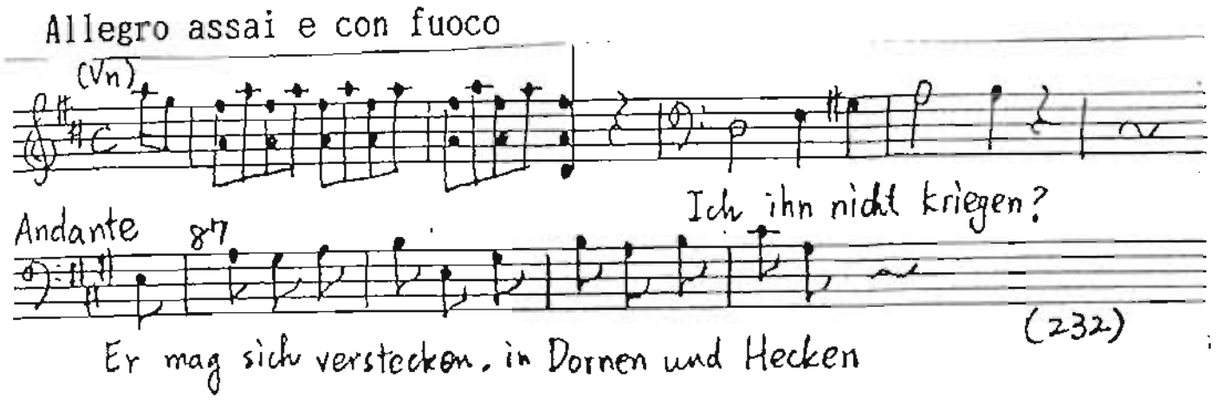
Presto



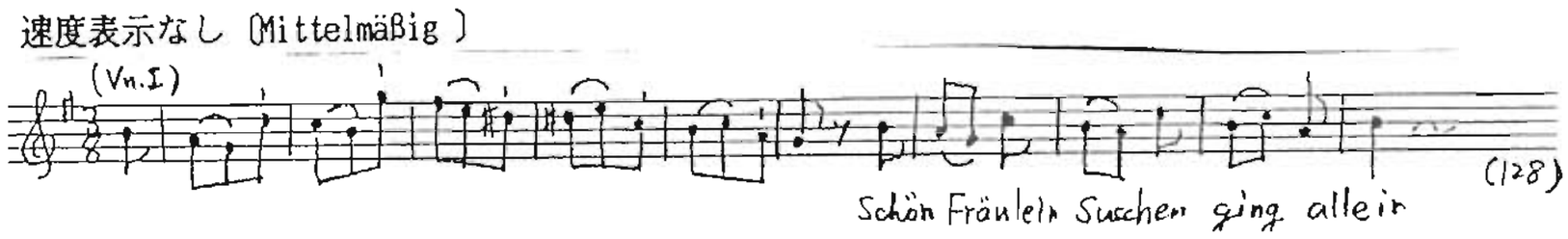
No.3　アリア（ジーモン，Str，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１



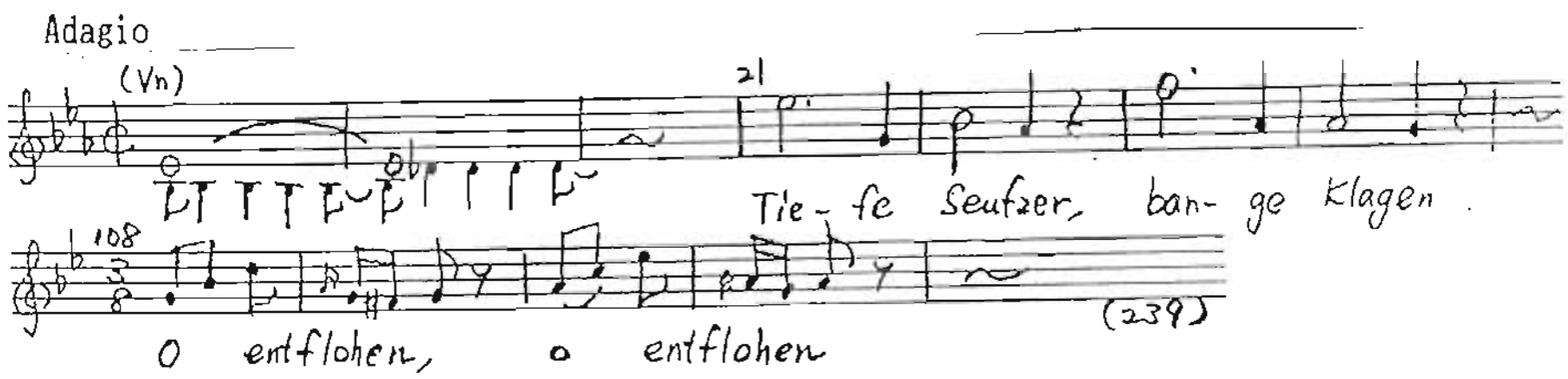
No.4　アリア（マルティン，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１



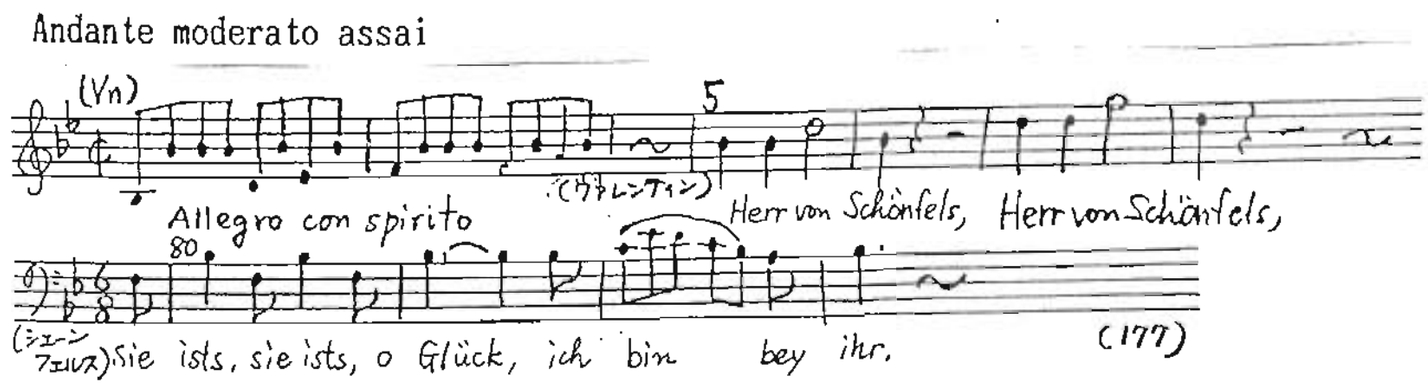
No.5　アリオーソ（ハンヒェン，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１



No.6　アリア（ユリアーネ，Str，1Ob，1Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１

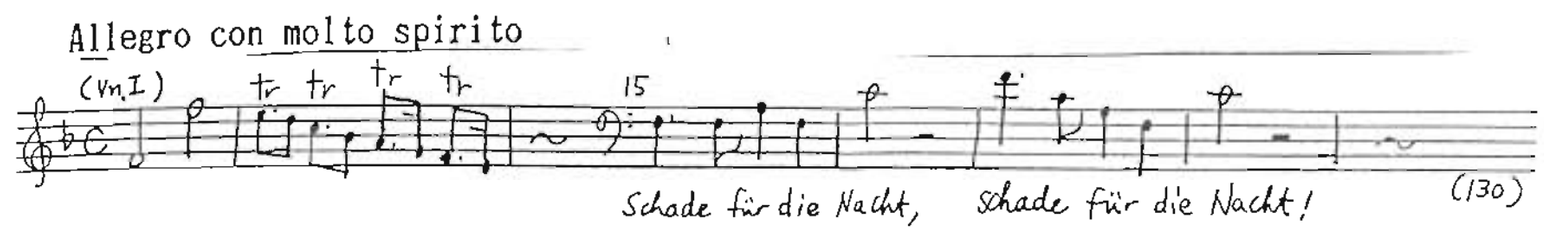


No.7　五重唱（ユリアーネ，ハンヒェン，シェーンフェルス，ヴァレンティン，マルティン，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１

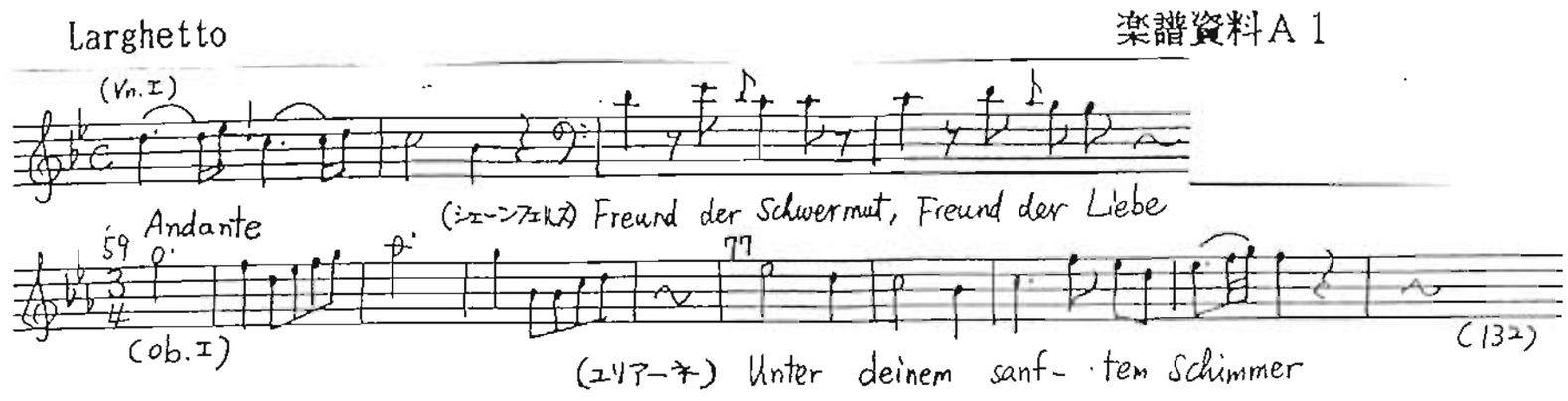


第2幕

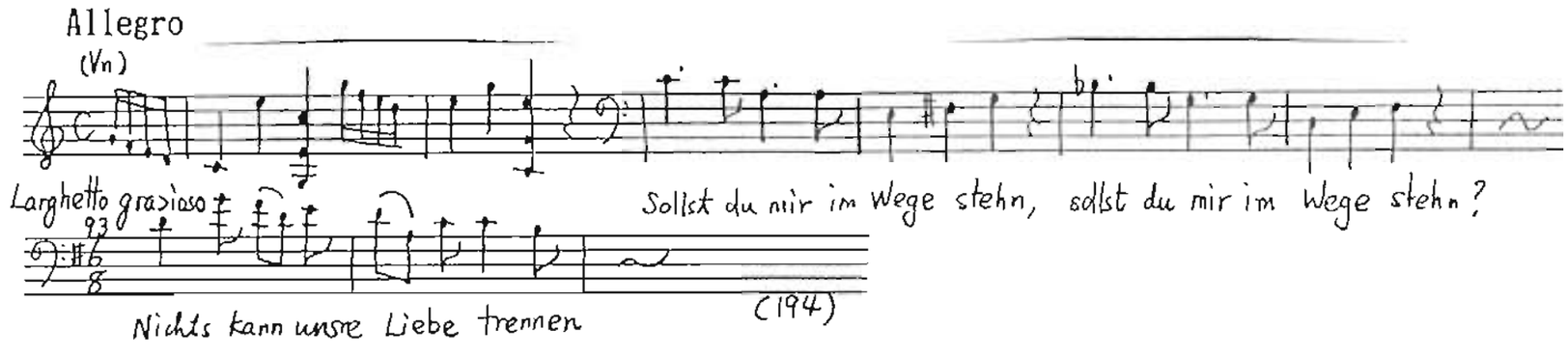
No.8 アリア（ヴァレンティン，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr） 楽譜資料A 1



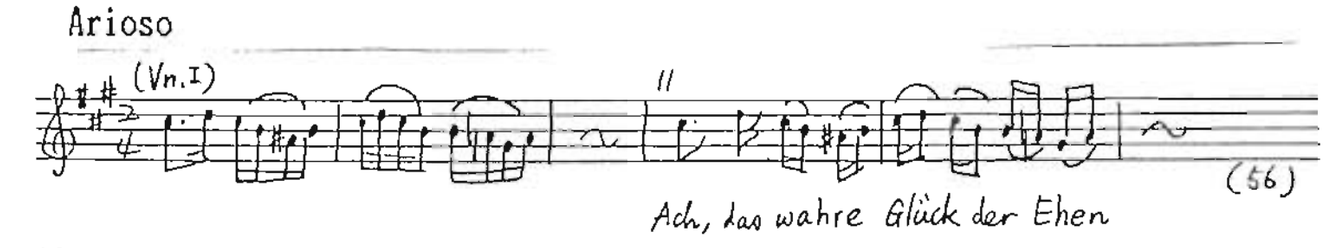
No.9 二重唱（ユリアーネ，シェーンフェルス，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）



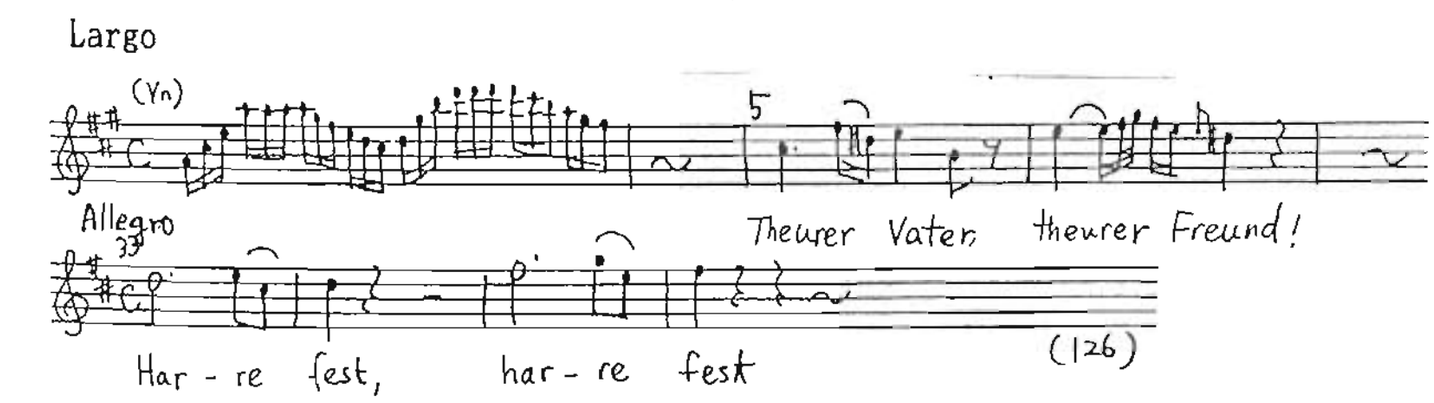
No.10 アリア（シェーンフェルス，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr） 楽譜資料A 1



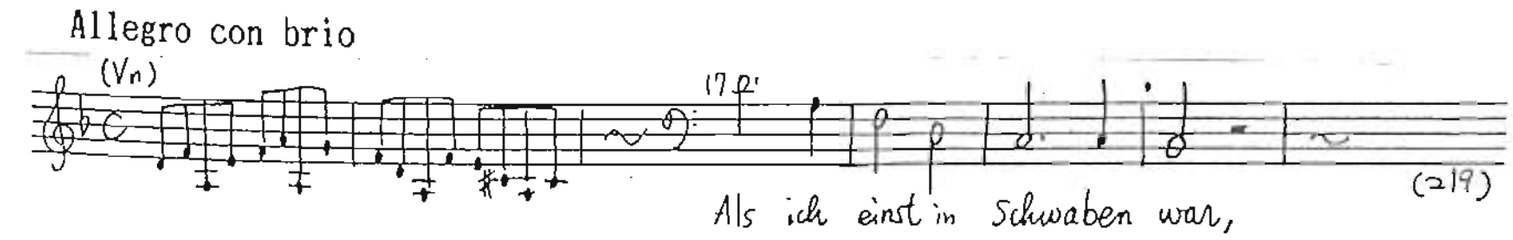
No.11 アリオーソ（ハンヒェン，Str，2Fl） 楽譜資料A 1



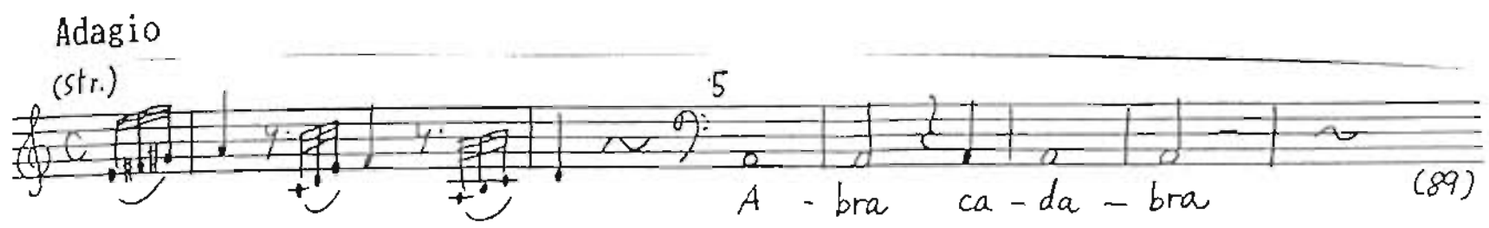
No.12 アリア（ユリアーネ，Str，2Fl，2Hr） 楽譜資料A 1



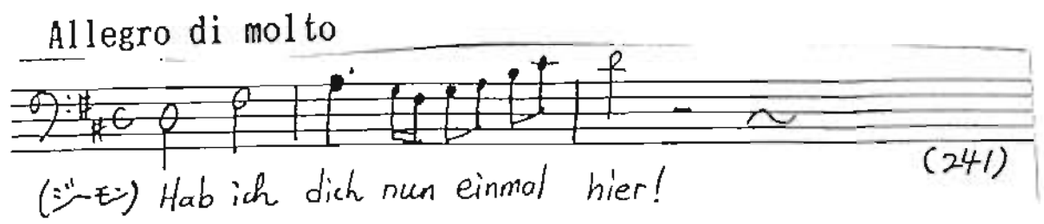
No.13 アリア（フックス，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr） 楽譜資料A 1



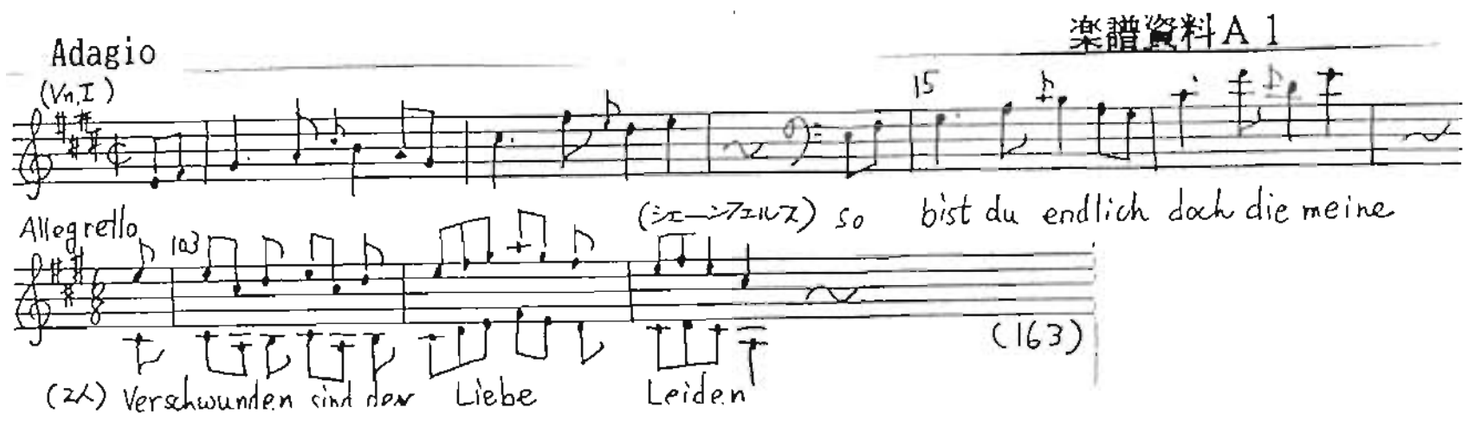
No.14 アリア（フックス，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr） 楽譜資料Ａ１



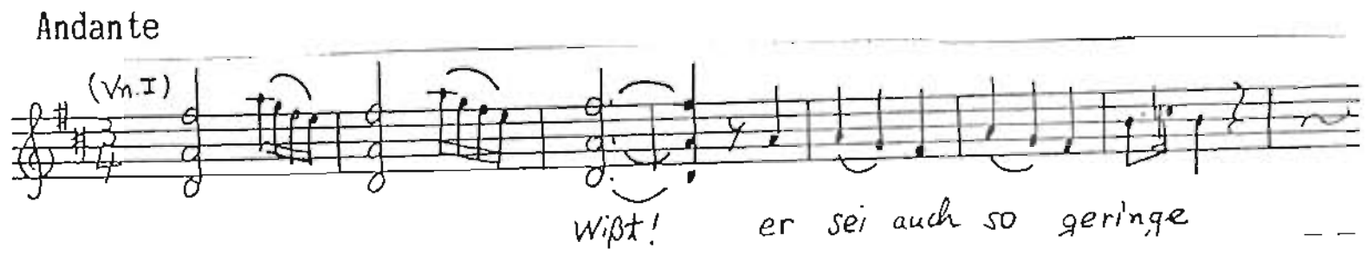
No.15 六重唱（ユリアーネ，ハンヒェン，シェーンフェルス，ヴァレンティン，ジーモン，フックス，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr） 楽譜資料Ａ１



No.16 二重唱（ユリアーネ，シェーンフェルス，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）



No.17 六重唱（ユリアーネ，ハンヒェン，シェーンフェルス，ヴァレンティン，ジーモン，マルティン，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr） 楽譜資料Ａ１



(4) 楽譜資料

Ａ１　自筆スコア A-Wgm Aut Schenk 10（Ⅳ 17617）

縦型判（縦約32cm×横約23cm），16段の五線紙で，端は切り揃えられていない。大理石模様の厚紙表紙で１冊に製本されている。厚紙表紙のタイトルは，"Der Schatzgräber/ Oper/ 1780" であり，青のボールペンでウィーン楽友協会の所蔵番号 "⑩" が付記されている。

製本されているが，綴じられた上下の部分から紙の組み合わせ方を知ることが可能である。基本的に，ドッペルボーゲン四つが組み合わせられて１つのラーゲが作られている。

よって，1ラーゲは16ページ分ある。シェンクは，異なる曲(No.）を書く時でも，ラーゲを換えず，同じラーゲに続けて次の曲を記入している。

第1幕は 114枚（第1～第14ラーゲ，及びドッペルボーゲン1枚)，第2幕は 128枚(第5～第30ラーゲ）の五線紙を使用。第2幕の最初と最後のページは記入されていない。よって，記入されているのは合計 482ページである。

第1幕，第2幕では，それぞれページ番号が通して記入されている。（第1幕: 1-227; 第2幕: 1-254).

タイトルページには，次のようなアロイス・フックスの記述がある。“Der Schatzgräber/ Oper in 〔! 〕Akten/ Musik von Johan 〔! 〕Schenk/ Partitura Autographa.” 右上にはウィーン楽友協会の所蔵番号）“ Ⅳ 17617”，右下には，おそらく自筆で“1780”と記されている。

第15ラーゲの第1ページ(f.115r)の右上端には，筆者不明のメモ「第2幕No.13 の再現部にあたる」(”gehört in der 2. Akt zu Nr.13 als Reprise 〔? 〕”)が記されている。

ラーゲ	フォリオ	内容	ページ番号
1-14	1r	タイトル	
	1v～112	序曲，No.1～7(第1幕終曲)	1 ～223
	113～114		224 ～227
15	115～122	No.13（続き）	128 ～143
16-23	123r	空白（第2幕タイトル用か？）	
	123v ～186	No.8(第2幕冒頭曲）～No.13(途中)	1 ～127
24-30	187～242r	No.14～17	144 ～254
	242v	空白	

この表から明らかなように，ページ番号からみても，第15ラーゲは，誤ってこの位置に置かれたものであり，本来，第23ラーゲと第24ラーゲの間に位置すべきである。

用いられている紙は，Wz＃2，Wz＃3，Wz＃34の3種類であり，これらは，同一のラーゲで混合して用いられている場合がある。しかし，筆跡の状態と内容の点からみて，のちにさしかえられたものとは考え難い。すなわち，3種類の紙は同時に用いられたものと推測される。3種類のどの紙においても，五線は，ドッペルボーゲンの両側に渡って連続して引かれている。

Nos.2，3，4，6，13，14には，多くの箇所に省略を指示する線（Striche)が自筆で記入

されている。

(4) 台本：伝承していない。

(5) 作曲と上演に関するドキュメント

この作品に関連すると思われる記録は，以下の自伝の記述だけである。

「その頃〔1780年〕，私はオペラを見るために劇場に通い始めた。快く仕上がった歌と気持ち良く語りかけてくる音楽に，私は，劇場に一身を捧げたいという気持ちをかきたてられた。1781～85年のあいだは長い空白期間であった。この間に，私はゲーテやミヒャエーリスの有名なジングシュピールを用いて5曲のオペラを作曲した。この作曲は，私の劇場でのキャリアのための練習となり，準備として役立った。」(Schenk, J.B. 1830N: 78-79)

自筆譜に記された年代からすると，この作品は，1780年代の前半に作られた5曲の習作のうちの一つということになるが，曲の規模は習作とは考え難いほど大きい。

#2 “Die Weinlese”
「ぶどう摘み」（1785年）

(1) 作曲年と根拠：1785年10月12日（初演日）より前

(2) 上演記録

ゾンライトナーによれば，この作品は，1785年10月12日にレオポルトシュタット劇場において初演された。以来，1803年に至るまで，1786，87，88，89，90，91，92，94，95，1800，01，02，及び03年の各年に，計85回上演された。(Sonnleithner 1873: Bd.3)　また，ハダモフスキーによれば，初演以来，計86回（1785年10月12～14日，16～18日，20～23日，29～31日，11月1～3日，5日，18～20日，30日，12月1日，30日，31日，1786年1月1日，24日，28日，29日，10月19日～23日，11月11日，12日，21日，1787年10月16日，17日，27日，28日，11月15日，1788年10月4日，5日，14日，19日，26日，1789年10月1日，2日，4日，5日，11日，1790年10月16～18日，23日，24日，1791年10月11～13日，21日，23日，1792年9月26～28日，1793年10月26日，27日，11月4日，5日，1794年10月4～6日，1795年11月7日，8日，1800年10月14～16日，19日，20日，1801年10月10～12日，1802年10月12日，13日，17日，18日，1803年10月22日），レオポルトシュタット劇場で上演された。(Hadamowsky 1934 :284)

(3) 作品の構成と主題

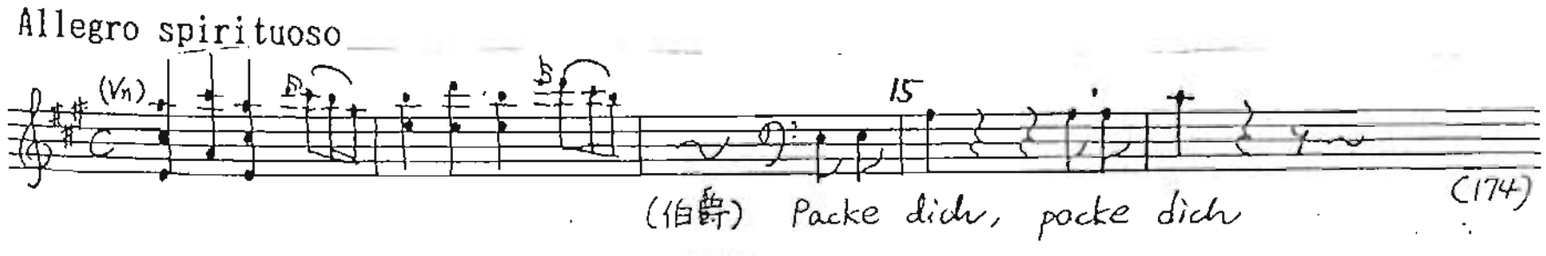
登場人物　カスパー（Kasper），村の見張り番〔バス〕

リーゼ（Lise）　〔ソプラノ〕

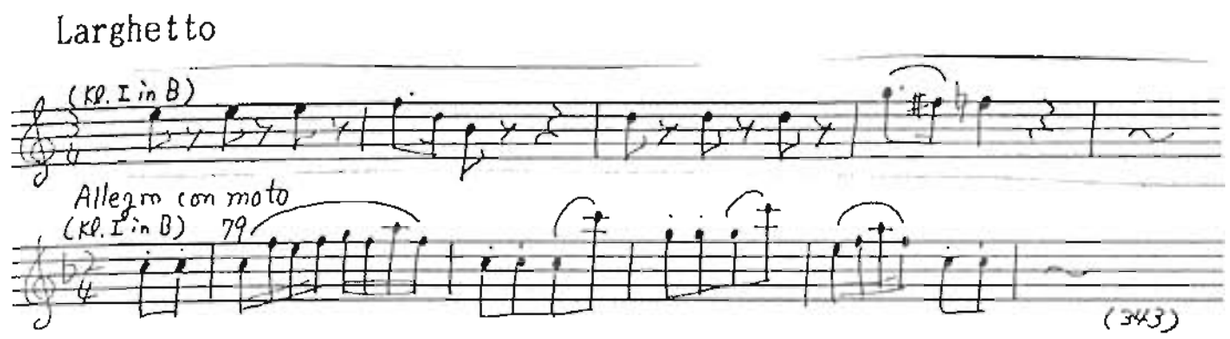
伯爵　〔テノール〕

序曲　消失

曲番不明　三重唱「消え失せろ，田舎者め」(“Packe dich, du Bauernschlegel”)（リーゼ，カスパー，Str，2Ob，2Hr）楽譜資料C1

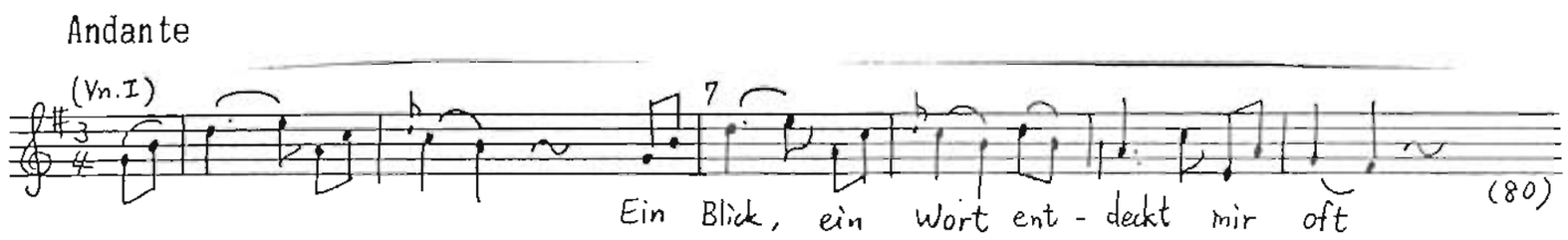


曲番不明　ロンド（2Ob，2Kl，2Hr，2Fg；オリジナルの編成不明）楽譜資料Ｃ２

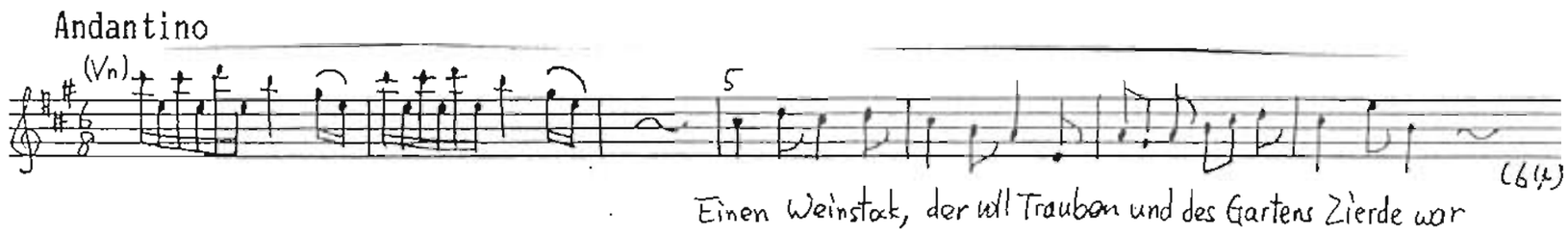


問題のある曲

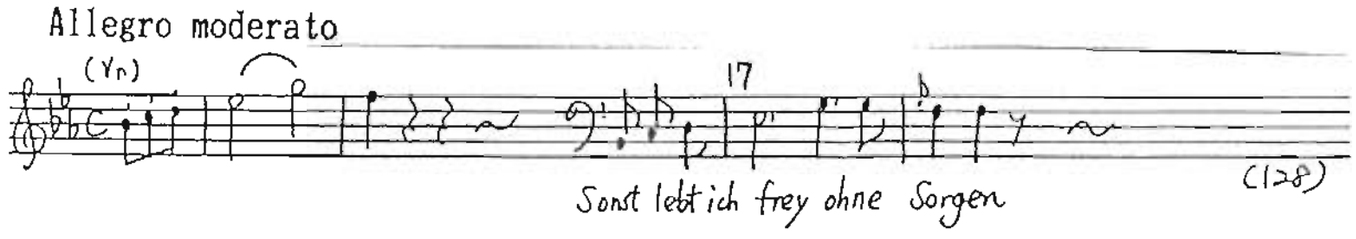
No.2　アリア（ハンヒェン，Str，2Fl，2Fg）　楽譜資料＊１



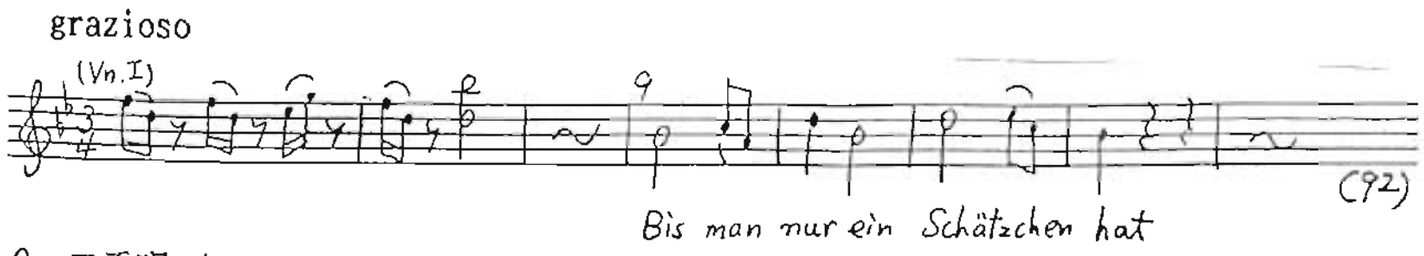
No.4　アリア（ハンヒェン，Str，2Fl，2Fg）　楽譜資料＊２



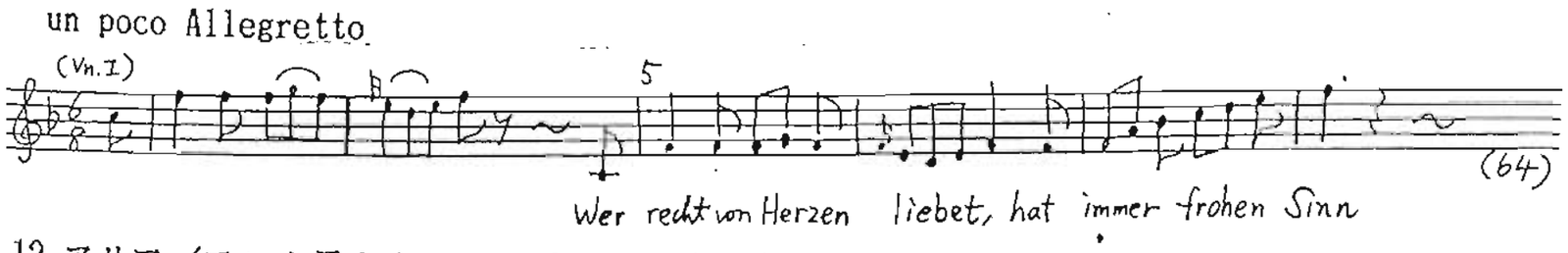
No.7　アリア（マルティン，Str，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料＊３



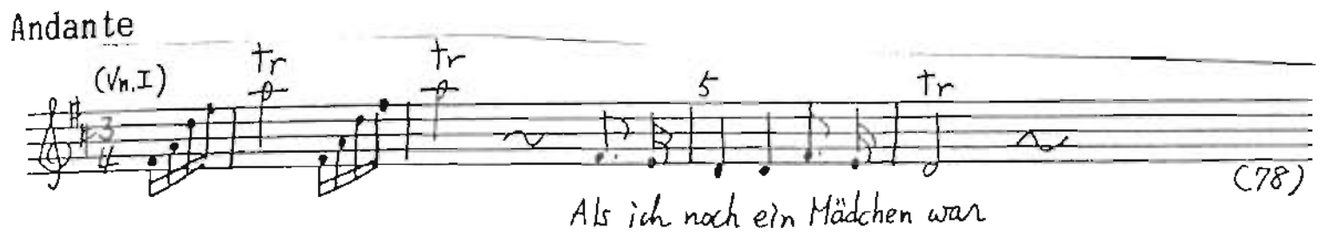
No.8　アリア（ハンヒェン，Str，2Ob，2Fg)楽譜資料＊４



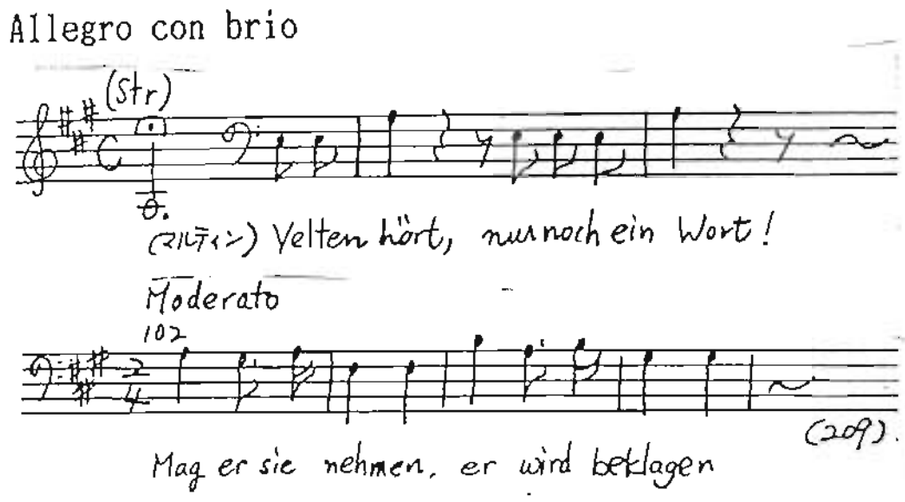
No.9　二重唱（ハンヒェン，シュテフェン，Str，2Fl，2Fg，2Hr）　楽譜資料＊５



No.12 アリア（アンナ母さん，Str，2Ob，2Hr）　楽譜資料＊６



曲番不明の四重唱「フェルテン，ちょっと話を聞いてくれ」("Velten hört! nur noch ein Wort") (ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテン，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr) 楽譜資料＊7



(4) 楽譜資料

C1　リーゼ，伯爵，カスパーの三重唱「消え失せろ，田舎者め」の筆写スコア

A-Wn-M 16157

横長判（縦22.3cm×横30.7cm），10 段の五線紙で，端を切り揃えてある。厚紙表紙を付けて製本されているため，紙の組み合わせ方は不明。合計23枚で，最後のページは未記入。よって，記入されているのは，合計45ページである。

タイトルページには以下の記述がある。"Terzetto/ aus/ Der Weinlese// Lise, der Graf und Kasper// /:Packe dich! packe dich, du Bauernschlegel!:/" 左上には，オーストリア国立図書館の所蔵番号 "16157"が記されている。

C2　ロンドのハルモニームジーク(2Ob，2Kl，2Hr，2Fg)用筆写パート譜

A-Wn-M S.m.3850

縦長判（縦28.6cm×横20.4cm），12 段の五線紙で，端を切り揃えてある。合計22枚の五線紙が，パートごとに糸で綴じられている。

Fg.Iパートのタイトルページの上端には，筆者不明の書き込み "Rondo/ von der Weinlese."がある。Hr.I，Hr.II のパートのタイトルページは欠落している。

どのパートにおいても，ロンドの最後の5-13小節は異なる筆跡で書き足されている。

以下の楽譜資料＊１～＊７は，いずれも#2「ぶどう摘み」の自筆譜として同じ所蔵番号でウィーン楽友協会に所蔵されている。但し，作品のタイトルページは現存せず，１曲ごとに糸で綴じられており，全体は製本されていない。よって，以下の七つの楽譜の順序は定まっておらず，自由に入れ換えることができる。1921年にこれらの楽譜を調査したローゼンフェルト＝レーマーは，楽譜資料＊３～＊７を#2「ぶどう摘み」（1785年）の曲と記しているが，楽譜資料＊２については言及していない。(Rosenfeld-Roemer 1921: 67-68)

＊1　No.2（ハンヒェンのアリア）の自筆スコア A-Wgm Schenk 18

横長判（縦約23cm×横約32cm），10段の五線紙Wz#18で，端は切り揃えられていない。ドッペルボーゲン三つを組み合わせて１ラーゲとし，表紙なしで糸で綴じられている。自筆でページ番号が記入されており，最後のページは空白。よって，記入ページは11ページである。第１ページの右上には，鉛筆で"Weinlese"と記されている。

＊2　No.4（ハンヒェンのアリア）の自筆スコア A-Wgm Schenk 18

横長判（縦約23cm×横約32cm），10段の五線紙Wz#18で，端は切り揃えられていない。ドッペルボーゲン三つを組み合わせて１ラーゲとし，表紙なしで糸で綴じられている。自筆でページ番号が記入されており，最後のページは空白。よって，記入ページは11ページである。

＊3　No.7（マルティンのアリア）の自筆スコア A-Wgm Schenk 18

横長判（縦約23cm×横約32cm），10段の五線紙で，端は切り揃えられていない。ドッペルボーゲン四つを組み合わせて１ラーゲとしたものの後ろに，もうひとつのドッペルボーゲン(f.9-10)を加え，糸で綴じられている。前半のラーゲに用いられている紙はWz#18で，最後のドッペルボーゲン(f.9-10)にはWz#36が用いられている。異なる紙が用いられていることから，最後の部分がのちに修正された可能性が考えられるが，f.1-8 とf.9-10の間に，明瞭なインクや書き方の変化はない。第１ページの右上には，楽譜資料＊１と同様の筆跡により，鉛筆で"Weinlese"と記されている。

＊4　No.8（ハンヒェンのアリア）の自筆スコア A-Wgm Schenk 18

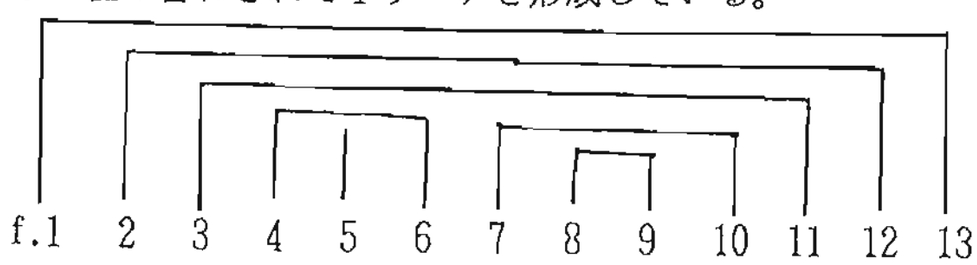
横長判（縦約23cm×横約32cm），10段の五線紙Wz#18で，端は切り揃えられていない。ドッペルボーゲン三つを組み合わせて１ラーゲとし，表紙なしで糸で綴じられている。自筆でページ番号が記入されており，全12ページに記入されている。第１ページの中央上には，自筆の"Aria"に続けて，アロイス・フックスの筆跡により黒インクで"von Schenck zur Oper" "と記されている。同ページ右上端には，フックスの筆跡により，同様の黒インクで"Weinlese"と小さく記されている。

＊5　No.9（ハンヒェンとシュテフェンの二重唱）の自筆スコア A-Wgm Schenk 18

横長判（縦約23cm×横約32cm），12段の五線紙Wz#18で，端は切り揃えられていない。ドッペルボーゲン三つを組み合わせて１ラーゲとし，糸で綴じられている。第１ページの中央上には，自筆の"Aria"に続けて，フックスの筆跡により黒インクで"zur Operette die Weinlese v. Schenk"と記されている。

＊6　No.12 アンナ母さん（Mutter Anna)のアリアの自筆スコア A-Wgm Schenk 18

横長判（縦約23cm×横約32cm），16段の五線紙Wz#21で，端は切り揃えられていない。ドッペルボーゲン二つを組み合わせて１ラーゲとし，糸で綴じられている。元２枚目であった部分が切り取られているため，全体は３枚，６ページで，最後のページは空白である。この自筆譜には，同じ曲の筆写譜が付随している。この筆写譜では，ドッペルボーゲン７つが下記のように組み合わされて１ラーゲを形成している。



自筆部分と同じ大きさの10段の五線紙Wz#36が用いられている。最後のページは空白。第１ページ左上には，茶色の鉛筆で"Nr° 12"と記入されている。f.7rが空白であることから，f.7-10は後からさしかえ，付加されたものと考えられる。この部分は，歌詞の第１節の結尾から第２節までに当たる。第２節は，自筆譜では転調を伴っているが，この筆写譜では第１節と全く同じ音楽に変えられている。コピストはKp#36である。

＊7　曲番不明　ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテンの四重唱「フェル

テン，ちょっと話を聞いてくれ」の自筆スコア A-Wgm Schenk 18

横長判（縦約23cm×横約32cm），16段の五線紙Wz#38で，端は切り揃えられていない。基本的に，ドッペルボーゲン二つを組み合わせたものを1ラーゲとし，6ラーゲを重ねて，表紙なしで糸で綴じてある。よって，全体は48ページで，全ページに記入され，自筆でページ番号が付されている。さらに，第3ラーゲと第4ラーゲの間に，糸で綴じていないドッペルボーゲン1枚（ページ番号23～26）が挿入されている。第1ページ上端には，フックスの筆跡で“zur Operette die Weinlese v. Schenk”と記されている。

(5) 台本

現存していない。ゾンライトナーは，台本作家をペーター・ヴィースト（Peter Wiest，生没年不明）と記している。(Sonnleithner 1873: Beilagen) 他方，ハダモフスキーは，ペリネットの作による3幕物と記している。(Hadamowsky 1934: 284) 両者とも，この作品の中で，喜劇役者カスペルレ・ラ・ロッシュ（Kasperle La Roche，1745-1806）が夜警，または村の見張り番の役を演じた，と伝えている。(Sonnleithner 1873: Beilagen, Hadamowsky 1934: 284) [1]

楽譜資料＊1，＊2，＊3の歌詞は，シェンクの最後のジングシュピール，#12「桶屋」（1802年）の原作の台本(#12「桶屋」の台本b1）の歌詞とよく似ている[2]。

(6) 作曲と上演に関するドキュメント

この作品の作曲について，シェンクの自伝には次のような記述がある。

「1785年に，私の最初のオペラ『ぶどう摘み』が，レオポルトシュタット劇場で10月8日に初演された。しかし，この作品の作曲を引き受ける前に，私は自ら望むまで名前を公表しないことを条件とした。興行主は秘密を守り，名前を挙げなかった。だが，私の音楽は大きな喝采をもって受け入れられ，センセーションを巻き起こした。11回目の上演には，フランツ大公とエリザベト王女をお供にしてヨーゼフ皇帝が臨席された。皇帝は，同年内にあと2回，2回目はレオポルト大公と共に，3回目はケルン選帝侯のマクシミリアン大公と共に，上演に臨席した。.....この2つのジングシュピール〔#2『ぶどう摘み』(1785年）と#3『田舎のクリスマス』（1786年）〕は18年以上も上演され続けた。」(Schenk, J.B. 1830N: 79)

晩年のシェンクと親交のあった劇作家バウエウンフェルトの回想録では，「ぶどう摘

み」の初演日を1785年10月10日としている。(Bauernfeld 1837: 44)　しかし，この日付が何に基づいているのかは明らかでない。

他方，ゾンライトナーは，『ウィーンのオペラとバレエの歴史のための資料』に付随する未製本のメモの中に，次のようなエピソードを書き留めている。「このオペラは，音楽がすばらしかったので，皇帝ヨーゼフⅡ世のお気に召した。彼は，この作品のスコアを持って来させさえした。劇場監督の召使がスコアを持って来ると，皇帝は直接それを受け取った。皇帝は，（夜警の役を演じた）カスペルレのアリア「さぁ皆さん，時計が2時を打ちました」("Meine Herren u. Frauen, laßt euch sagen, der Hammer hat 2 geschlagen")を口ずさみながら，召使に2ドゥカーテンを与えた。」(Sonnleithner 1873: Beilagen)

1786年 5月13日付の"Wiener Zeitung"紙には，この作品のアリアのヴォーカル・スコアの出版広告がみられる。「コールマルクト，ミラノワ・コーヒーハウス隣の芸術・音楽出版販売業，クリストフ・トリチェッラは，次の楽譜を印刷した。レオポルトシュタット劇場で大喝采を得たオペレッテ『ぶどう摘み』の中の曲，"Ein Leyrer ist halt ein recht lustiges Ding"（歌とクラヴィーア用）20クロイツァー」（Anonymus 1786: Sp.1126)
しかし，この作品の出版譜は現存していない。

この作品が初演後も長く人気を保ったことは，『1794年のウィーン演劇年報』("Wiener Theateralmanach für das Jahr 1794")にも述べられている。「ヨハン・シェンク氏は，郊外の劇場のために幾つかのオペラを作曲した。レオポルトシュタット劇場では『ぶどう摘み』と『田舎のクリスマス』が上演された。両方とも並外れた喝采で受け入れられ，未だに毎年ぶどう摘みと収穫の季節には好んで上演されている。」(Sonnleithner 1794: 185)

注

(1)　レーヴェンベルクは，シェンクの「ぶどう摘み」の台本は，ヴァイセの「収穫祭の冠」をW.C.D.マイヤー（Meyer)が編作したものである，と指摘している。(Leowenberg 1955: 417)　確かに，「収穫祭の冠」を編作した「ぶどう摘み」という題名の台本は伝承しているが（#7「収穫祭の冠」の台本ｂ５），両者の登場人物とストーリーはほぼ同一であり，カスペルレ（またはカスパー）は登場しない。よって，シェンクの作曲した台本は，「収穫祭の冠」を編作した「ぶどう摘み」とは異なるものであると考えられる。

(2)　歌詞の比較は，第２章でおこなう。

#3 “Die Weihnacht auf dem Lande”
「田舎のクリスマス」（1786年）

(1) 作曲年と根拠: 1786年（自筆譜A1，A2のタイトルページに記入されている）

(2) 上演記録:

ゾンライトナーとハダモフスキーによれば，1786年12月14日にレオポルトシュタット劇場で初演された。(Sonnleithner 1873: Bd.3, Hadamowsky 1934: 283)　初演以降1803年までの間に，ゾンライトナーによれば合計61回（1787，88，89，90，91，92，93，1801，02，及び03年の各年; Sonnleithner 1873: Bd.3)，またハダモフスキーによれば合計60回（1786年12月14～21日，26日，27日，31日，1787年1月1日，14日，15日，2月1日，2日，10日，12月19～21日，26日，27日，1788年12月19～21日，26～28日，1789年12月19～21日，27日，28日，1790年12月20日，26日，29日，1791年1月2日，12月26日，27日，1792年1月14日，15日，12月20日，21日，26日，1793年1月1日，12月19～21日，26日，1801年12月21日，26日，27日，1802年1月2日，3日，12月20日，21日，26日，27日，1803年12月21日，26日)，レオポルトシュタット劇場において，主にクリスマスの時期に上演された。(Hadamowsky 1934: 283)

(3) 作品の構成と主題:

登場人物　ハンヒェン（Hannchen）〔ソプラノ〕

ハンヒェンの父親　〔バス〕

トラウデル（Traudel），ハンヒェンの母親〔ソプラノ〕

マティース（Mathies），裕福なヘーニッヒジュース（Hönigsüß）家の馬鹿息子〔バス〕

ミヒェル（Michel）またはフェリックス（Felix），ハンヒェンの恋人〔テノール〕

伍長〔テノール〕

兵士ドナー（Donner）〔バス〕

リースヒェン（Lieschen）〔ソプラノ〕

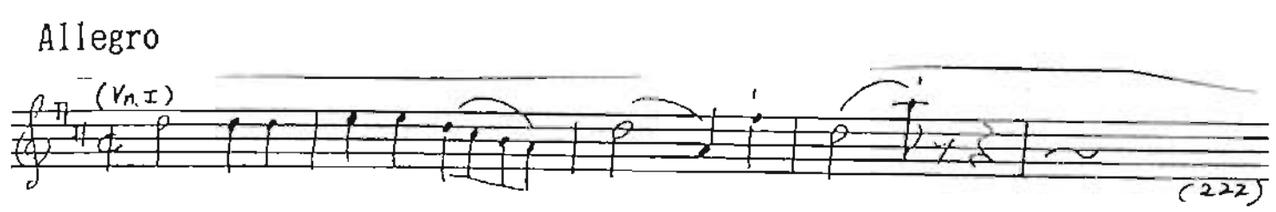
宿の主人〔バス〕

郵便配達夫〔テノール〕

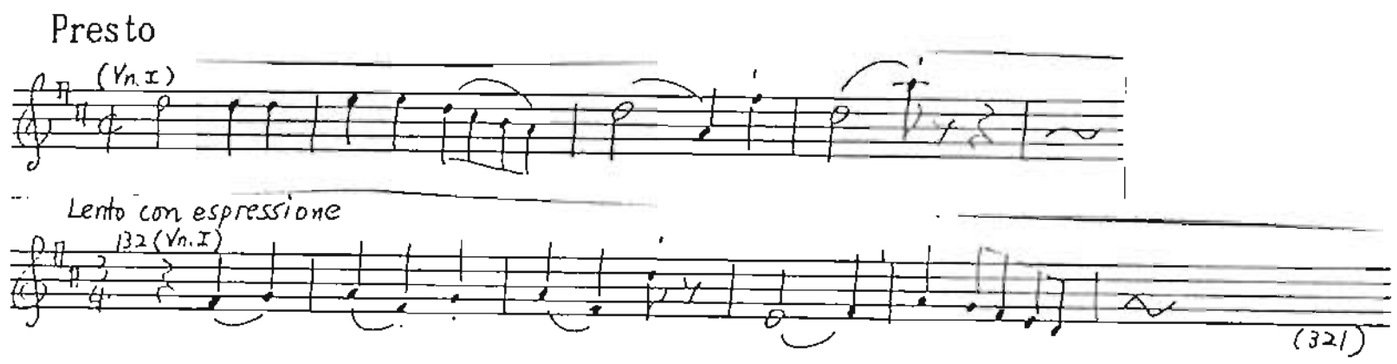
兵隊〔テノール・バス〕

村人／合唱〔ソプラノ・アルト・テノール・バス〕

序曲〔第１稿〕(Str, 2Ob, 2Fg, 2Hr)　楽譜資料Ａ２

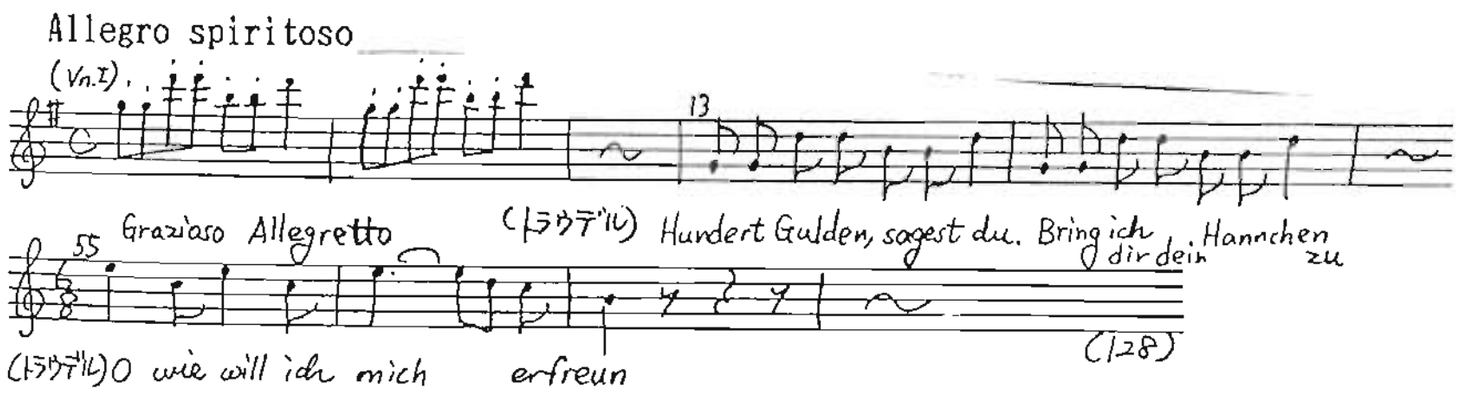


序曲〔第２稿〕(Str, 2Fl, 2Fg, 2Hr, 2Tp, Pk)　楽譜資料Ａ１

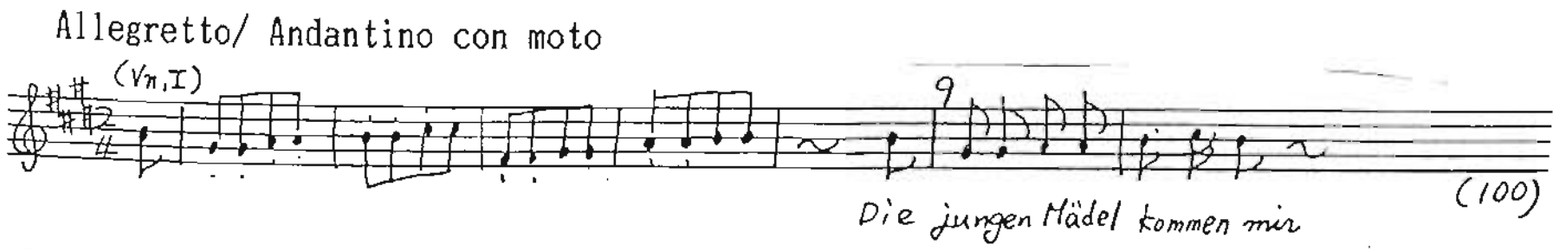


第１幕

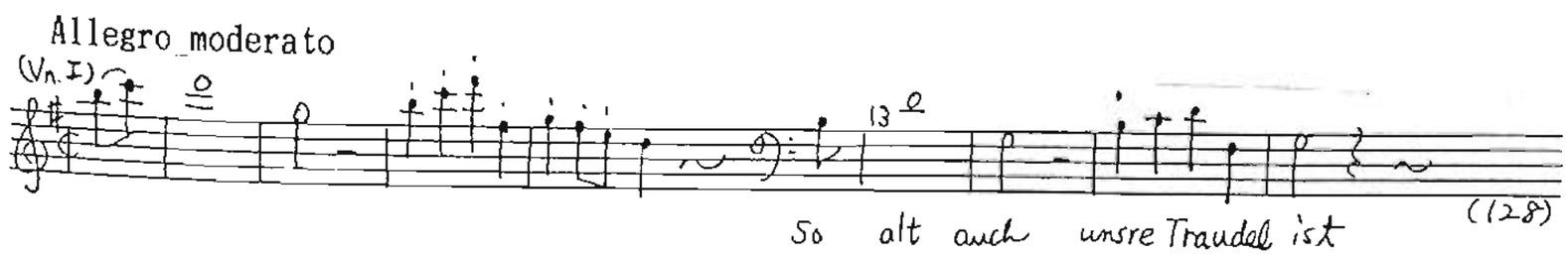
No.1　二重唱（トラウデル，マティース，Str, 2Ob, 2Fg, 2Hr)　楽譜資料Ａ１



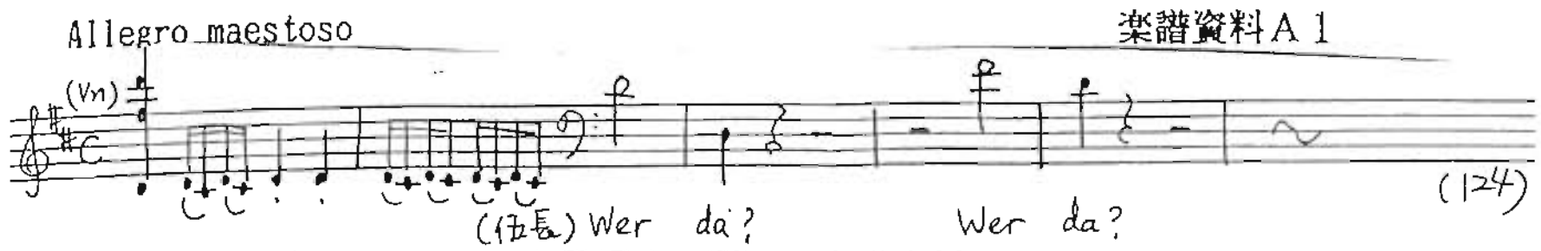
No.2　アリア（トラウデル，Str, 2Fl, 2Hr)　楽譜資料Ａ１



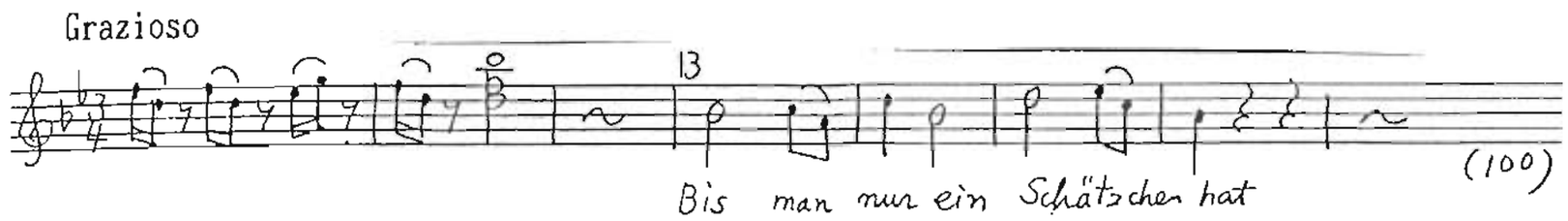
No.3　アリア（マティース，Str, 2Ob, 2Fg, 2Hr)　楽譜資料Ａ１



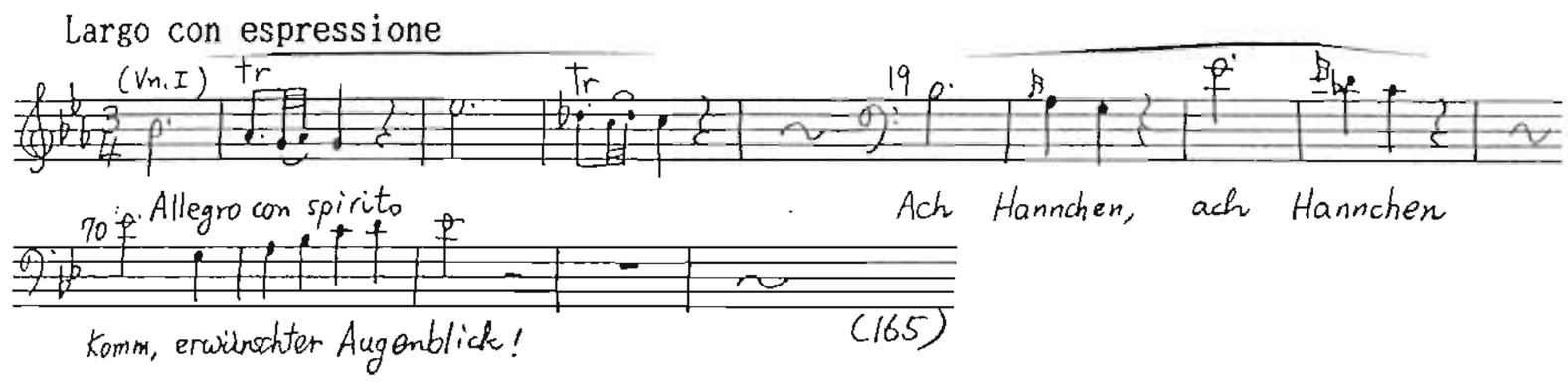
No.4　アンサンブル（マティース，伍長，兵隊，Str，2Ob，2Hr，2Tp，Pk）



〔No.5 ?〕アリア（ハンヒェン，楽器編成不明）　楽譜資料Ｃ１，Ｃ２

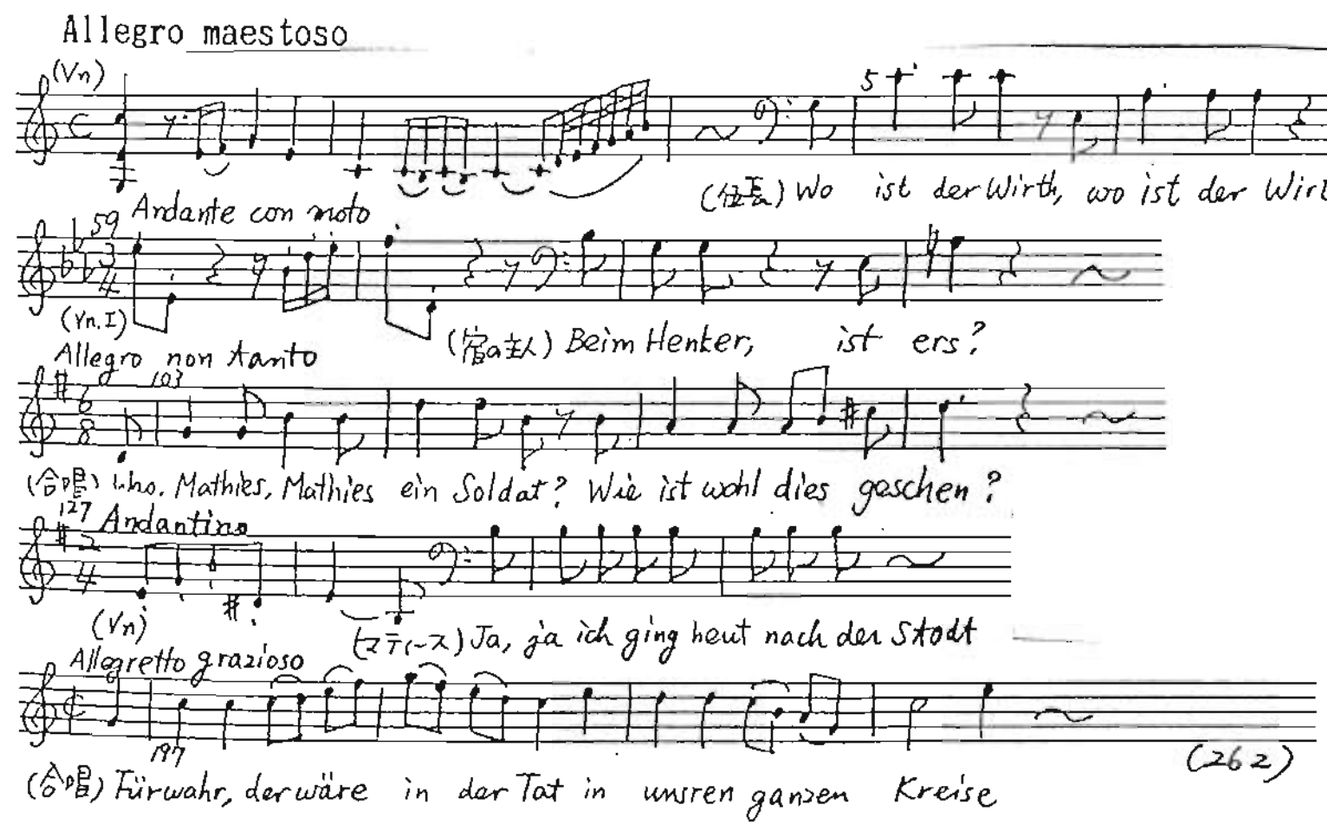


No.6　アリア（ミヒェル，Str，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１



No.7　フィナーレ（伍長，宿の主人，リースヒェン，ミヒェル，マティース，村人，兵隊，

Str，2Ob，2Fg，2Hr，2Tp，Pk）　楽譜資料Ａ１



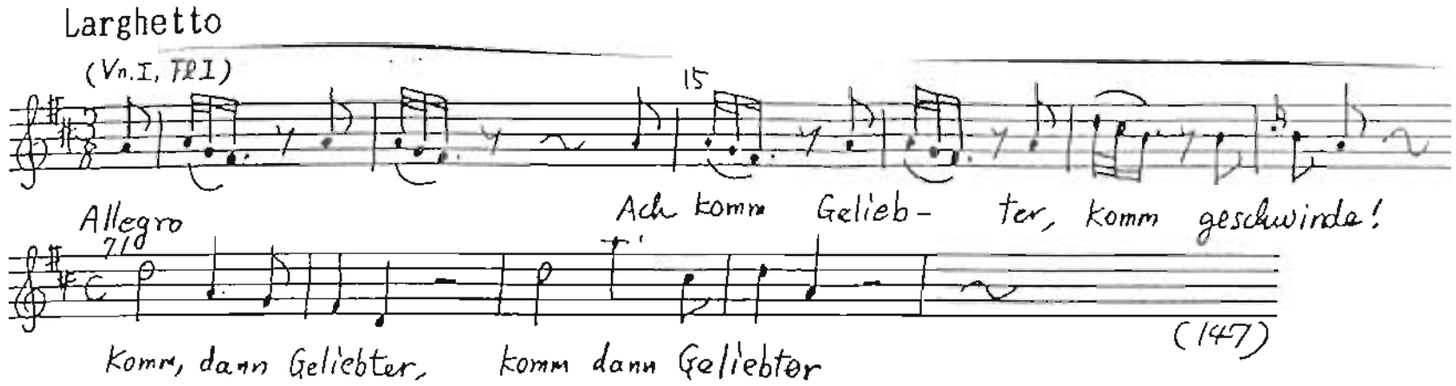
第２幕

No.8 アリア（マティース，Str，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１

Allegretto

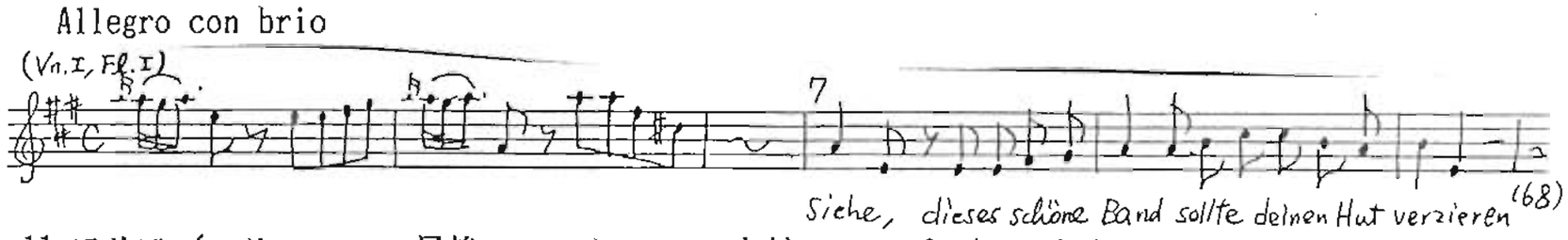
No.9 アリア（ハンヒェン，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１

Larghetto



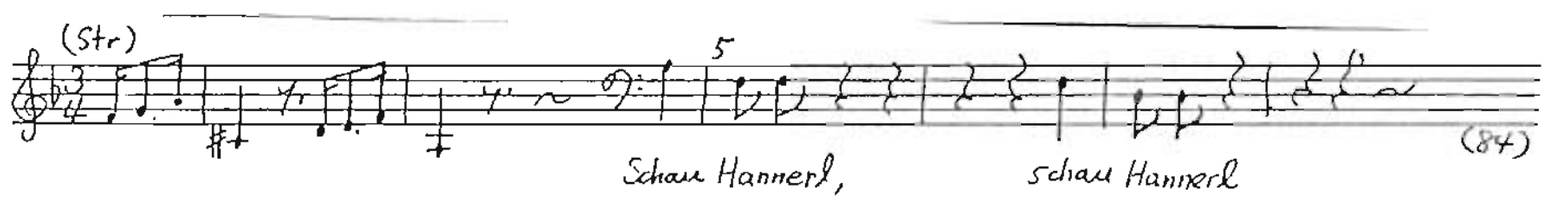
No.10 アリア（ハンヒェン，Str，2Fl，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ａ６

Allegro con brio



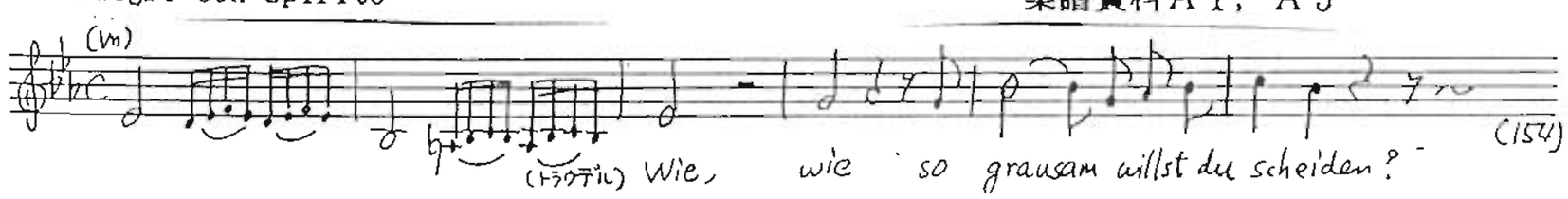
No.11 アリア（マティース，最後にハンヒェンに交替，Str，2Ob）　楽譜資料Ａ１

Andantino con moto

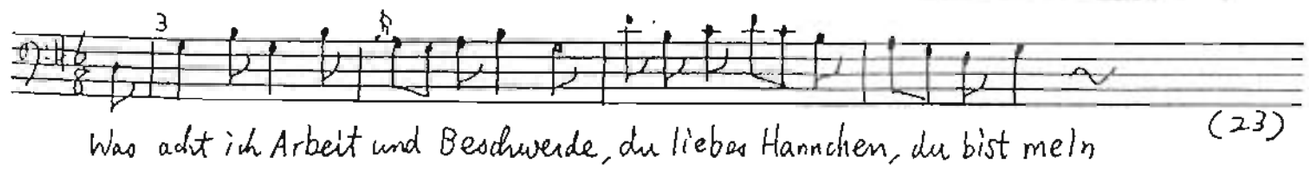


No.12 三重唱（トラウデル，ハンヒェン，マティース，Str，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr）

Allegro con spirito　　楽譜資料Ａ１，Ａ５

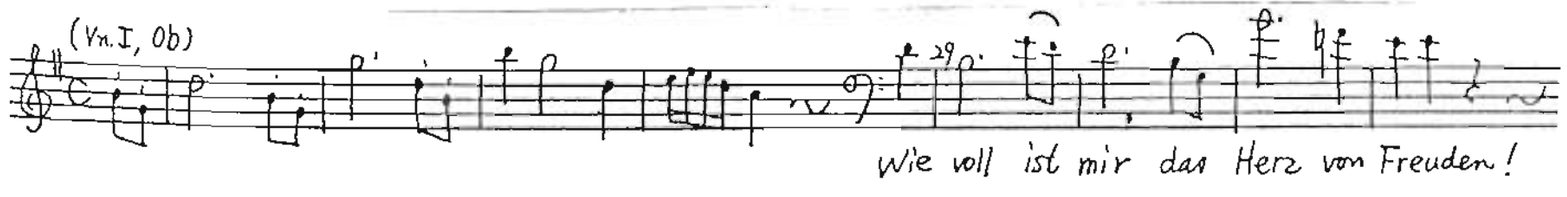


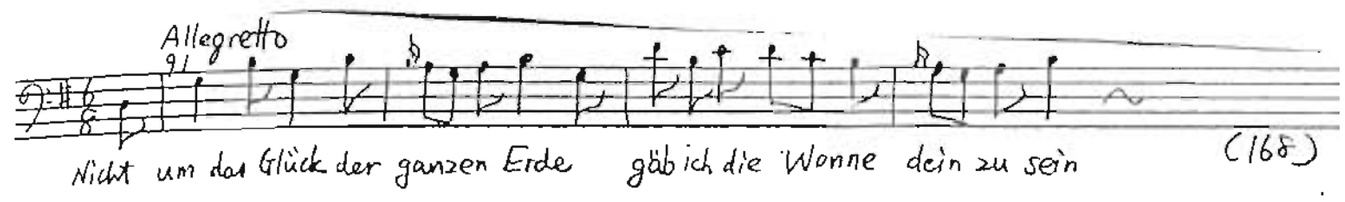
No. 13〔第１稿〕アリア（断片）（ミヒェル，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　最後の23小節のみ伝承　楽譜資料Ａ１



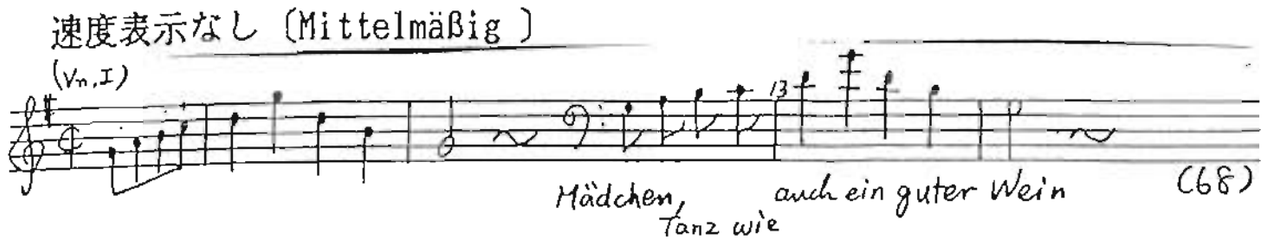
No. 13〔第２稿〕アリア（ミヒェル，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１

Allegro

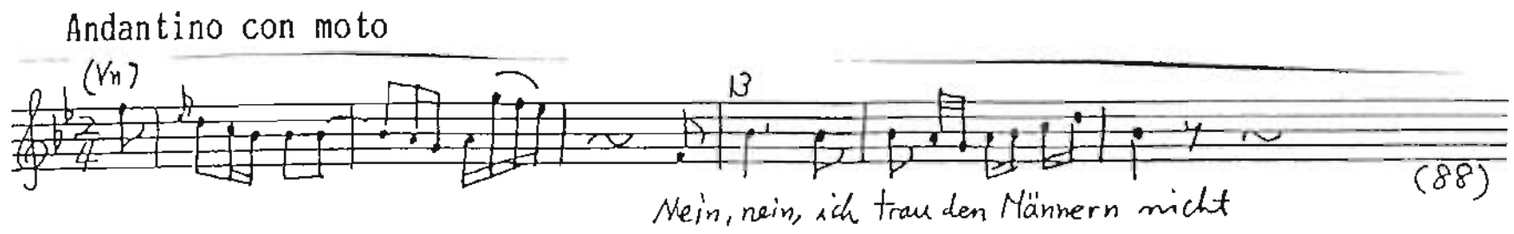




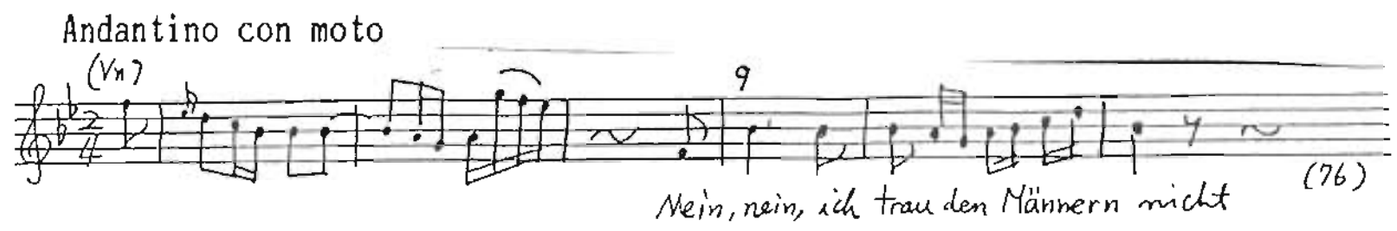
No.14 アリア（伍長，Str，2Fl）　楽譜資料Ａ１



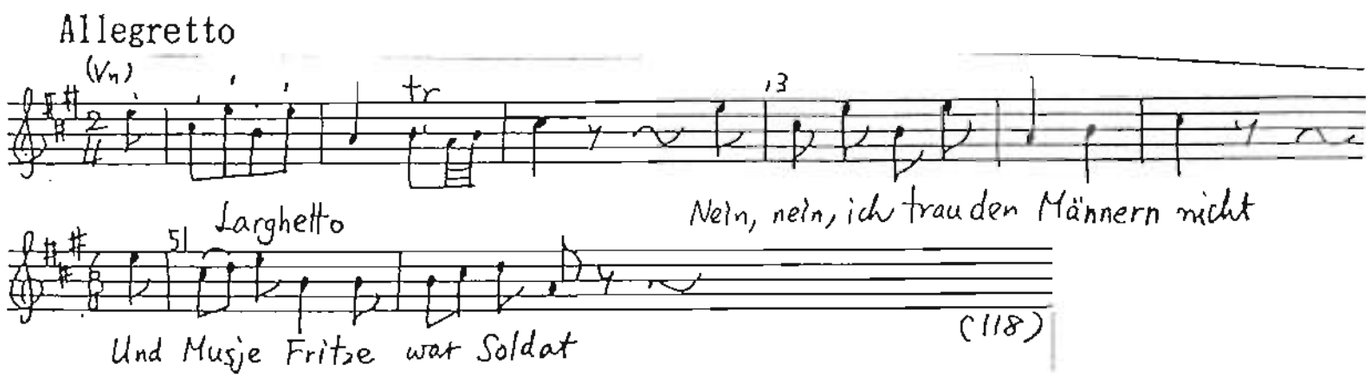
No. 15〔第１稿〕アリア（リースヒェン，Str，2Hr）　楽譜資料Ａ１



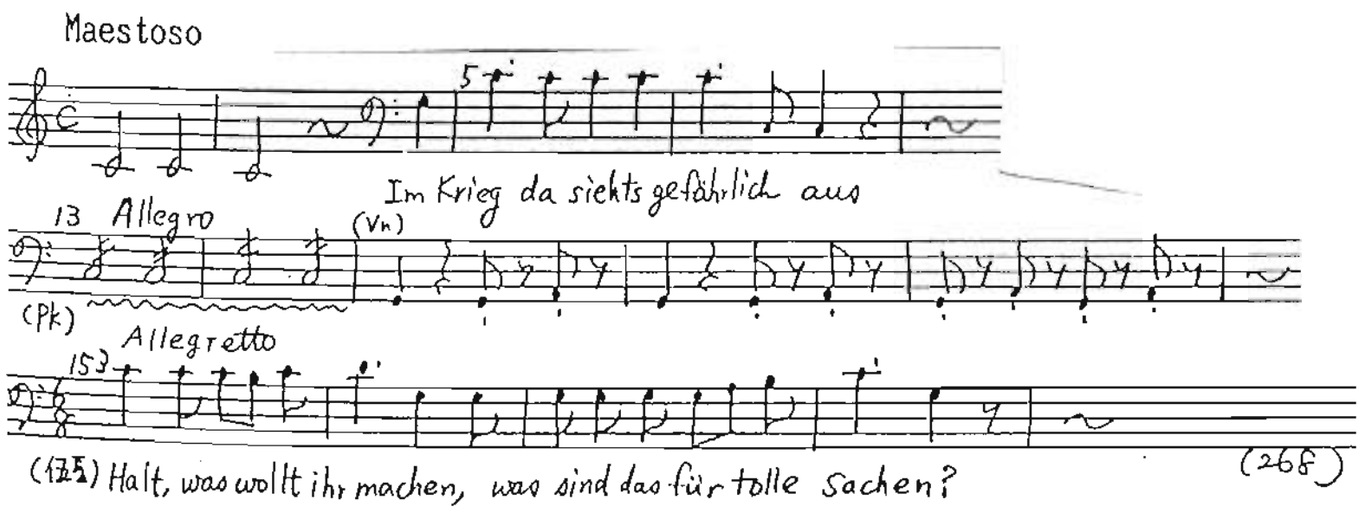
No. 15〔第２稿〕アリア（リースヒェン，Str，1Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１



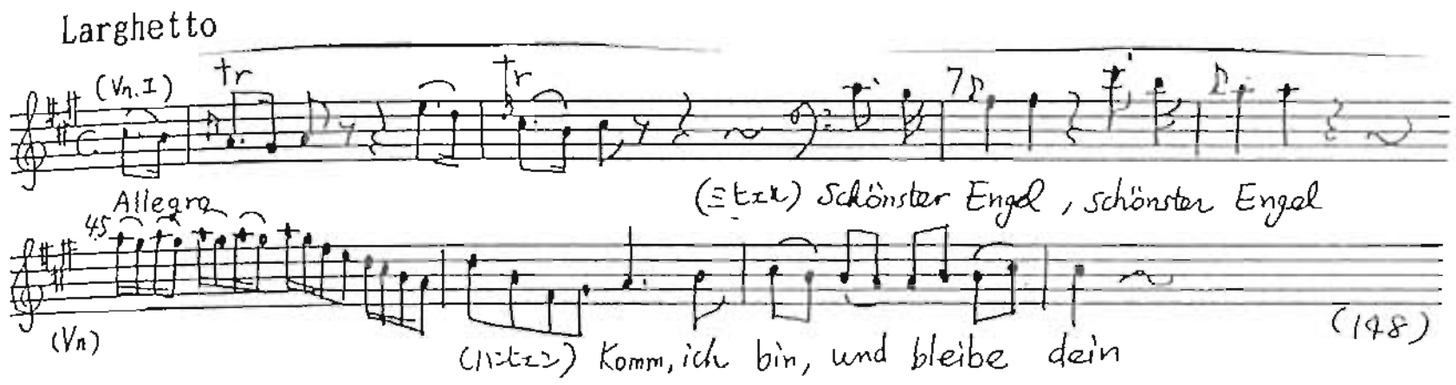
No. 15〔第３稿〕アリア（リースヒェン，Str，20b，2Hr）　楽譜資料Ａ１



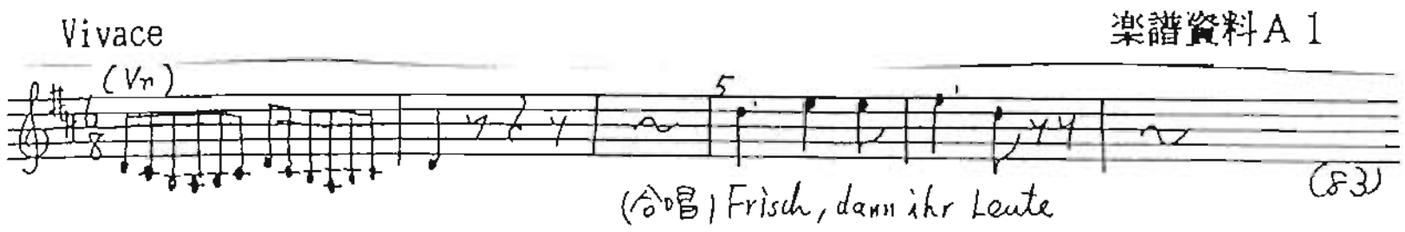
No.16 アリアと四重唱（兵士ドナー，その後，伍長とマティースとリースヒェンが加わる
Str，2Fl，20b，2Fg，2Hr，2Tp，Pk）　楽譜資料Ａ１



No.17 二重唱（ハンヒェン，ミヒェル，Str，20b，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１



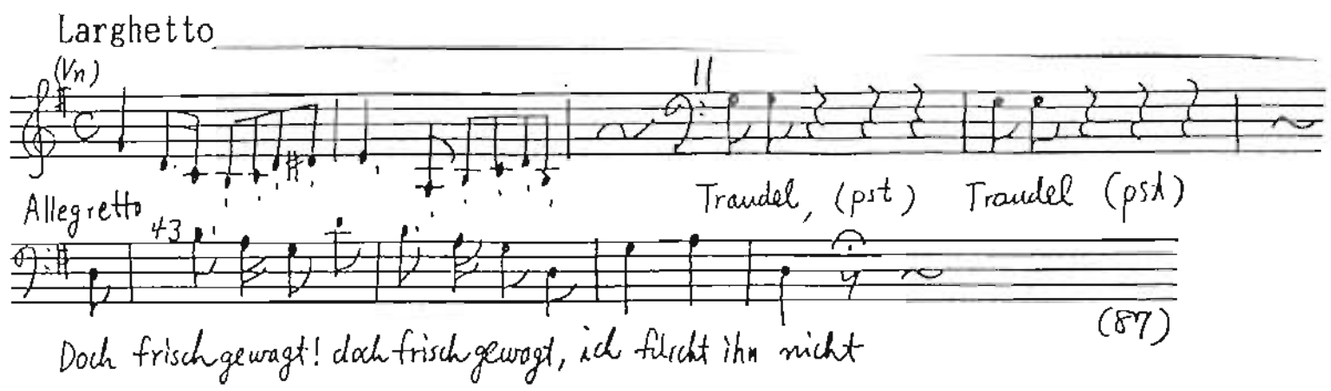
No.18 合唱（ソプラノ・テノール・アルト・バス，Str，2Ob，2Fg，2Hr，2Tp，Pk）



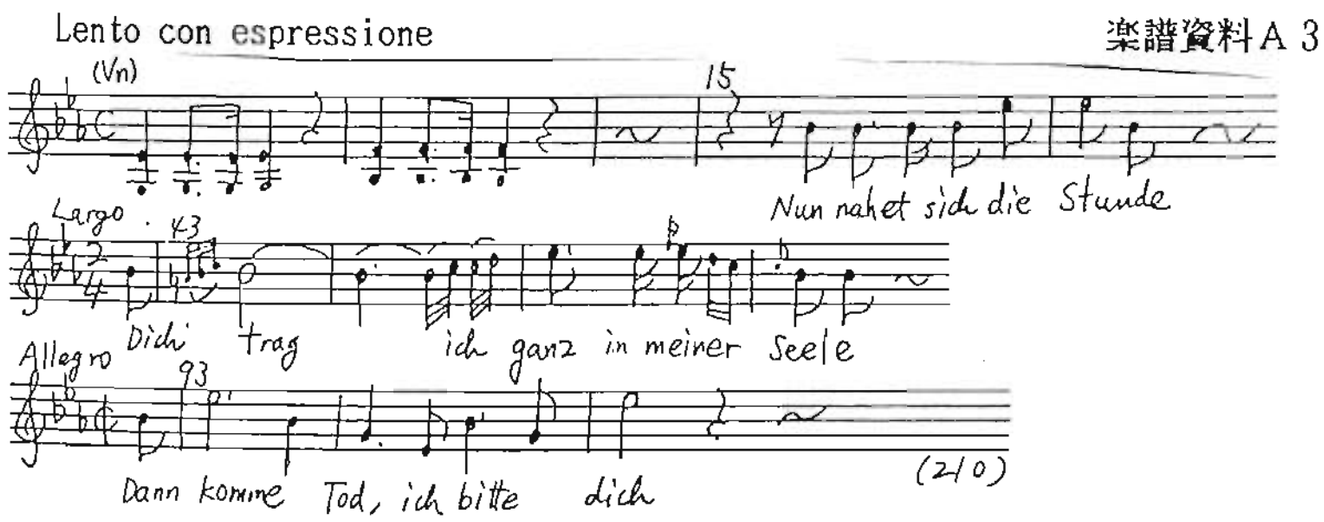
楽譜資料Ａ１

第３幕

〔No.19 〕アリア（マティース，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr） 楽譜資料Ａ１

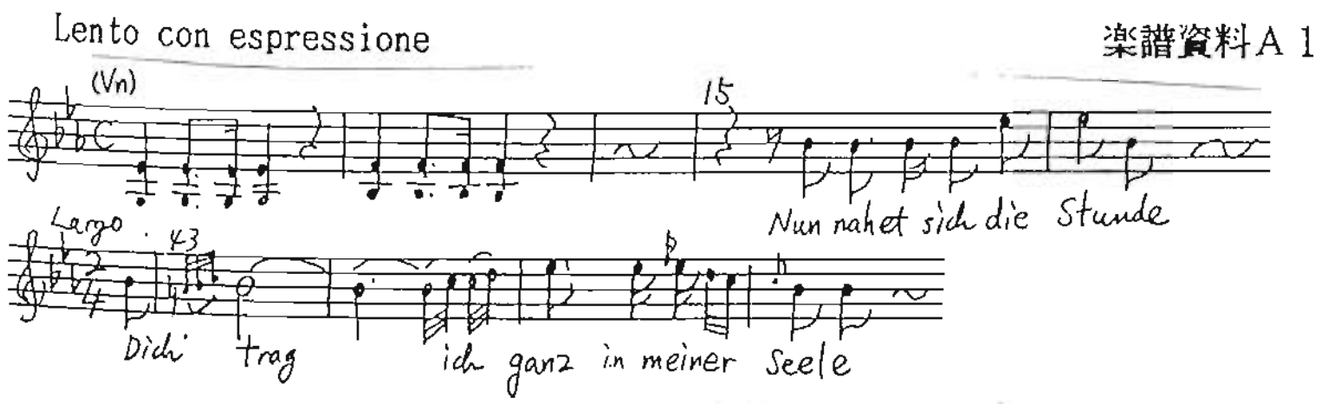


〔No.20 第１稿〕レチタティーヴォとアリア（ハンヒェン，Str，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr）

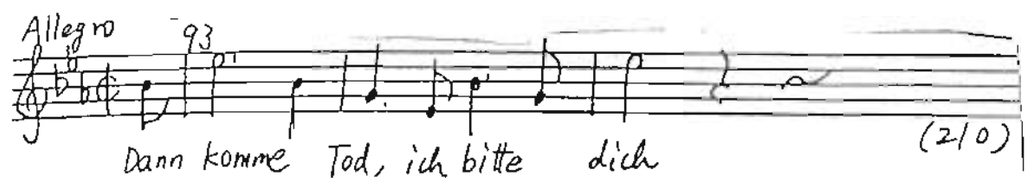


楽譜資料Ａ３

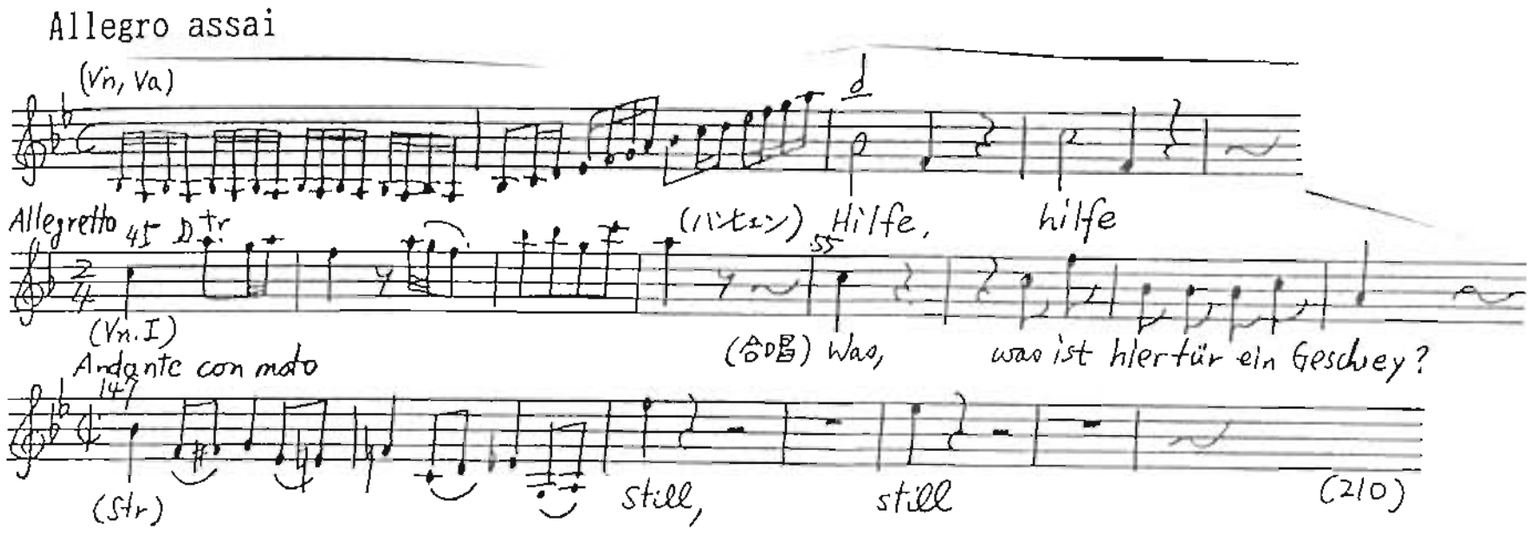
〔No.20 第２稿〕レチタティーヴォとアリア（ハンヒェン，Str，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr）



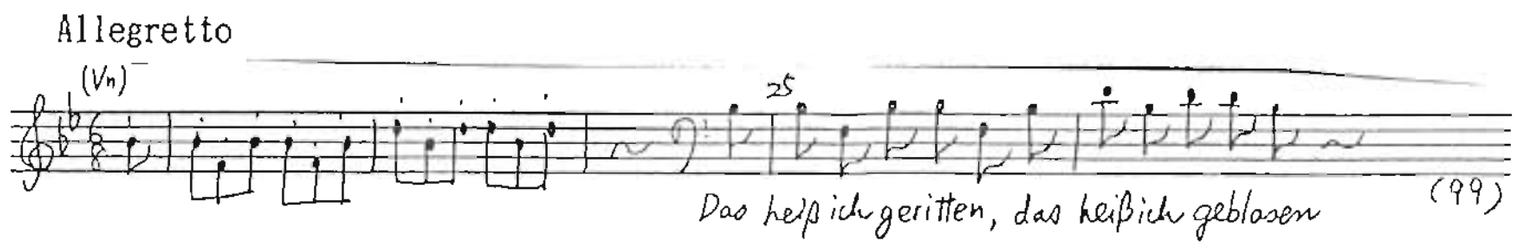
楽譜資料Ａ１



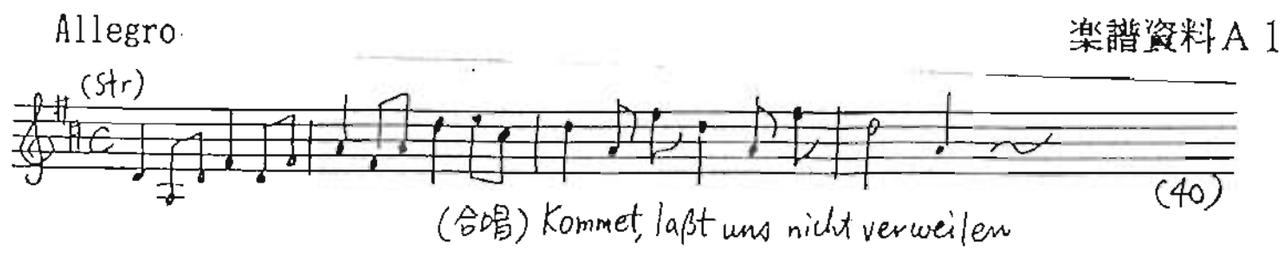
〔No.21 〕合唱付きの四重唱（ハンヒェン，フェリックス，父親，マティース，ソプラノ・アルト・テノール・バス，Str，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１



〔No.22 〕アリア（郵便配達夫，Str，2Ob，2Fg，Posthorn）　楽譜資料Ａ１

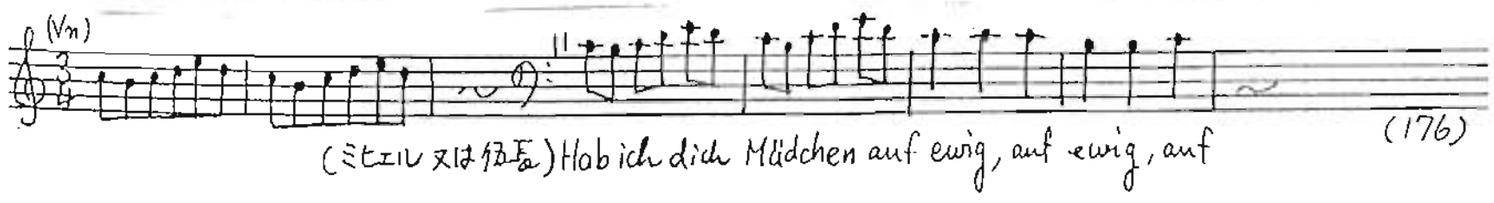


No.23 合唱（ソプラノ・アルト・テノール・バス，Str，2Ob，2Fg，2Hr，2Tp，Pk）



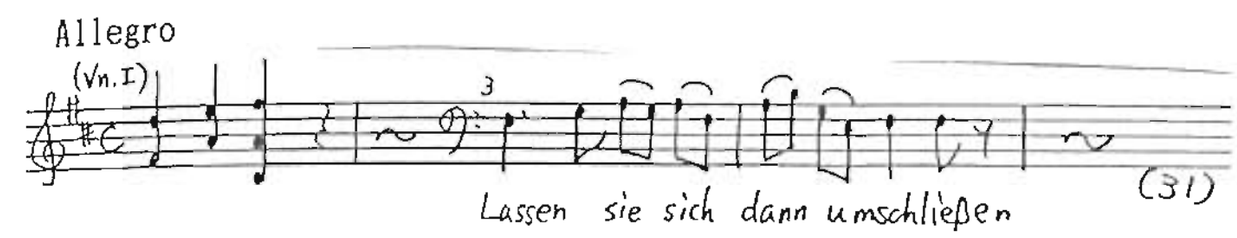
楽譜資料Ａ１

曲番不明　後に付加された二重唱「君が永遠に僕のものになったなら」（“Hab ich dich Mädchen auf ewig als mein”）（ハンヒェンとミヒェル，又は，リースヒェンと伍長，Str，2Fl，2Kl，2Hr）　楽譜資料Ａ４

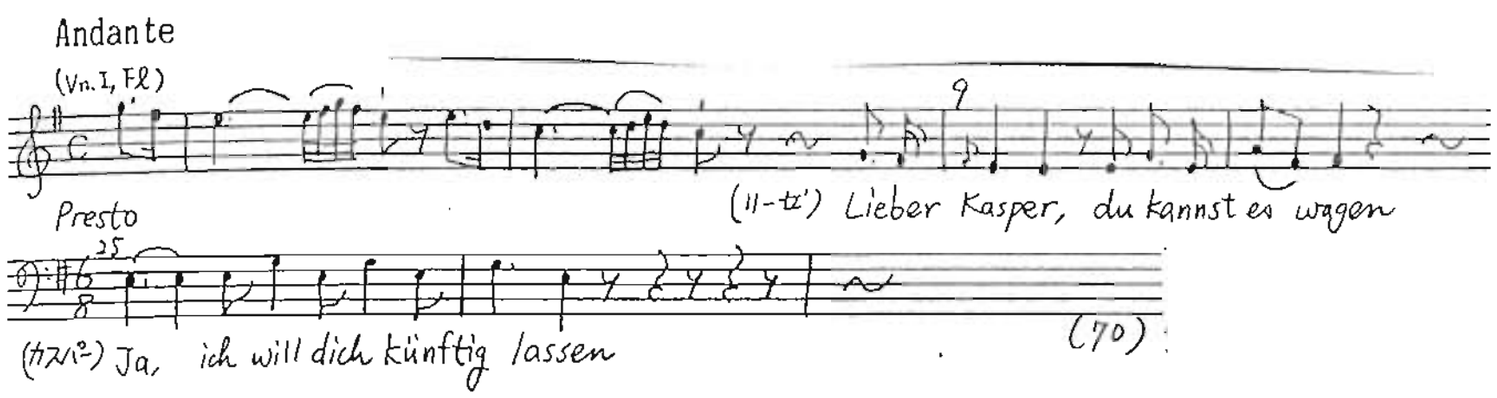


問題のある曲

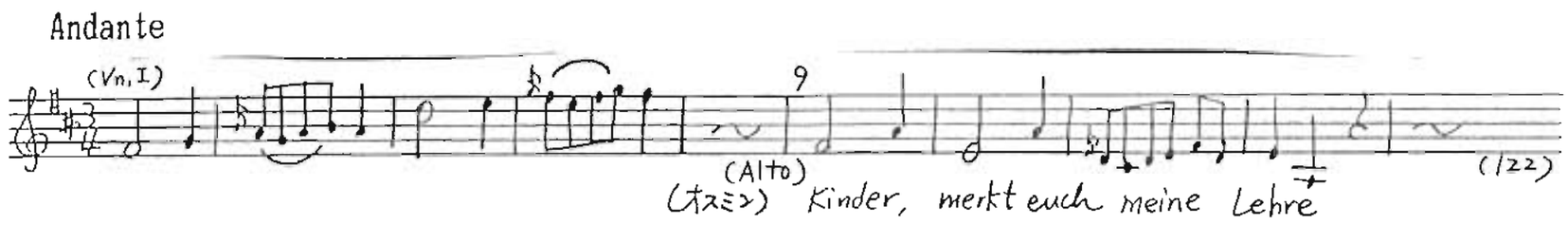
No.13 アリア（カスパー，Str，2Fl，2Fg，2Hr）　楽譜資料＊８



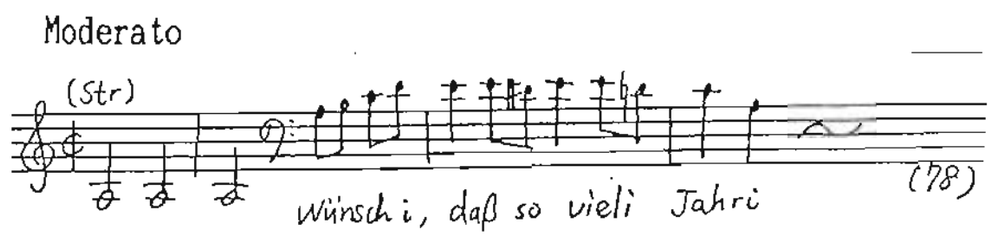
No.14 二重唱（リーゼ，カスパー，Str，20b，2Fg，2Hr）　楽譜資料＊9



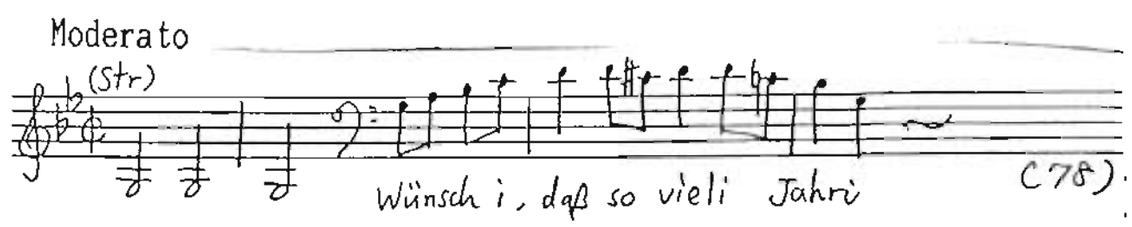
No.19 アリア（オスミン，Str，20b，2Hr）　楽譜資料＊10



アリア「何年も前から望んでいた」（"Wünsch i, daß so vieli Jahri"）〔a-Moll稿〕（軽騎兵の曹長，Str，1Fg）　楽譜資料＊11

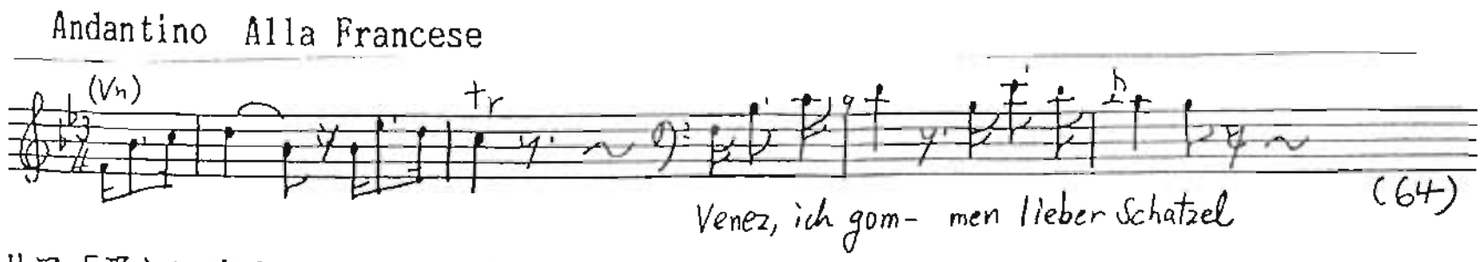


アリア「何年も前から望んでいた」〔g-Moll稿〕（軽騎兵の曹長，Str，2Fg）

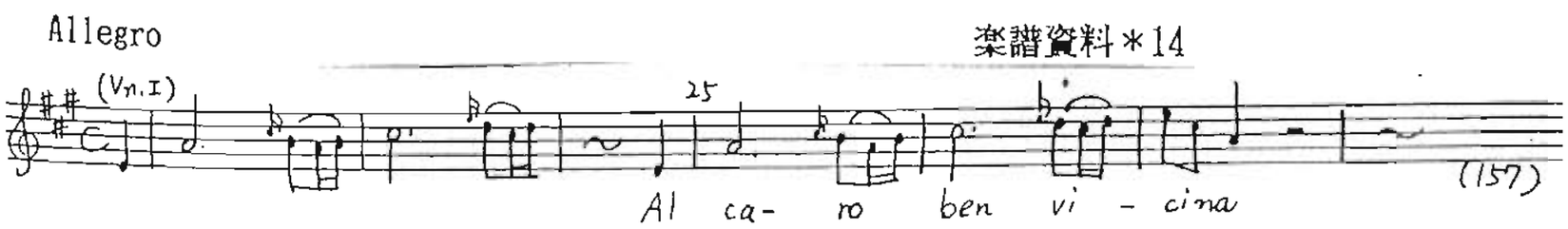


楽譜資料＊12

アリア「愛しい娘よ，こちらにおいで」（"Venez, ich gommen lieber Schatzel"）（ムッシュー・ジャン，Str，2Kl，2Hr）　楽譜資料＊13

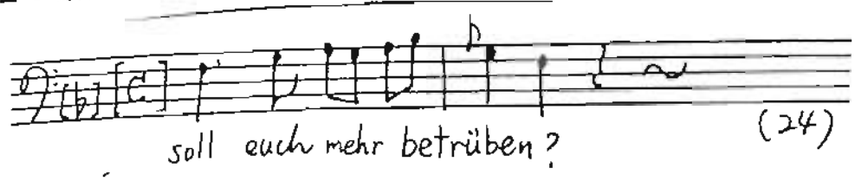


アリア「愛しい恋人のそばで」（"Al caro ben vicina"）（セレーネ，Str，20b，2Hr）



楽譜資料＊14

独唱の断片（独唱〔バス〕， Str，2Fl/2Ob?）　楽譜資料＊15



2つの二重唱と2つのアリアのスケッチ（L〔バス〕，S〔ソプラノ〕，Sch〔バス〕

楽器編成不明）　楽譜資料＊16

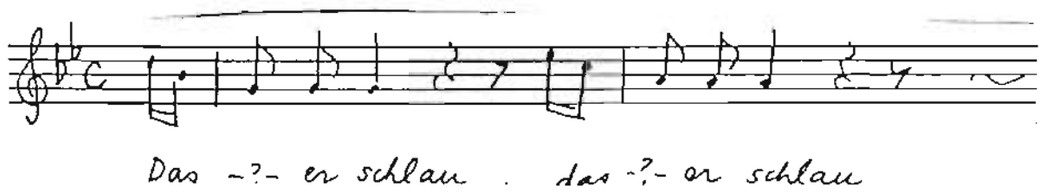
LとSの二重唱

Lのアリア

Sch とLの二重唱

(Sの?)アリア

Allegro moderato



(4) 楽譜資料

A1　Teilautograph　A-Wgm Aut Schenk 11 (Ⅳ 17614)

作品全体のTeilautograph （筆写譜が混じった自筆譜）。No.5が欠落し，また，第2幕の楽譜〔No.15 第2稿〕3枚（f.191 ～193)と第3幕の楽譜〔No.20 第2稿〕9枚(f.231～236，250～252)は，筆写譜である。

横長判（縦約23cm×横約31cm)，12 段と16段の五線紙で，端は切り揃えられていない。大理石模様の厚紙表紙で1冊に製本されている。厚紙表紙のタイトルは，“Die Weihnacht/ auf dem Lande./ Singspiel/ 1786”であり，その下に青いボールペンでウィーン楽友協会の所蔵番号“⑪”が記されている。

製本されているが，綴じられた上下の部分から紙の組み合わせ方を知ることが可能であ

る。シェンクは，No.2-7(5は欠落）とNo.16-23においては，各曲ごとにラーゲとページ番号を改めている。他方，序曲とNo.1，No.8-15 においては，曲の変り目とラーゲ，およびページ番号の変り目が一致せず，ページ番号は通して数えられている。後者においては，基本的にドッペルボーゲン四つを組み合わせて１つのラーゲが作られている。

第１幕は90枚，第２幕は110 枚，第３幕は57枚の五線紙を使用。合計 257枚で，記入ページは 507ページ，空白ページは 7ページ(f.40v，58v，72v，140r，201r，228v，257v)である。

タイトルページには，次のようなフックスの記述がある。“Die Weihnacht/ auf dem Lande.// Singspiel in 3 Aufzügen./ mit Musik von/ Johann Schenk.// Partitura Autographa.” 右下の書き込み“im Februarij 1786”は，フックスの筆跡かどうか不明。右上にはフックスの手でウィーン楽友協会の所蔵番号“Ⅳ 17614”が記されている。作品の最後(f.257r)には，自筆で“Fine del'oprea”〔! 〕と記入されている。

この自筆譜には，Wz♯１（16段と12段），Wz♯12（12段：以下同じ），Wz♯33，Wz♯20，Wz♯21の５種類の紙が用いられている。このうち，主に用いられているのはWz♯１で，通常12段，声部数の多い楽曲では16段の五線がひかれている。第２ラーゲと第６～８ラーゲにおいては，Wz♯１とWz♯33，或いはWz♯12とWz♯33が混合して用いられている。しかし，いずれの場合も，筆跡と音楽的内容からみて，あとからさしかえられたものとは考え難い。よって，Wz♯１，Wz♯12，Wz♯33は，おそらく同時に使用されたものと考えられる。これに対して，No.15 〔第１稿〕に用いられているWz♯20は，明らかに後から加えられたものである。

ラーゲ	フォリオ	内容	ページ番号	紙	
1-3	1r	タイトル		Wz♯１	Wz♯33
	1v～21r	序曲〔第２稿〕	1～40		
	21v	No.1	41		
4-5	22～33		42～65	♯Wz♯	
6	34～40r	No.2	1～13	Wz♯33	Wz♯12
	40v	空白			
7	41～47	No.3	1～14	Wz♯33	Wz♯12
8-9	48～58r	No.4	1～16	Wz♯１	Wz♯33
	58v	空白			

10-11	59～72r	No.6		1～27	Wz#1
	72v				
12-13	73～86	No.7		1～28	Wz#1 (16段)
14	87～94	No.14	〔No.15 第3稿〕	1～16	Wz#20 Wz#21
15	95～96r		〔No.13 第1稿〕	96～98	Wz#1
	96v ～99r	No.14		99～104	
	99v ～101	No.15	〔第1稿〕	105～109	
	102				Wz#20
	103			110～111	Wz#1
16-18	104 ～121	No.16		1～36	Wz#1 (16段)
19-20	122 ～135	No.17		1～28	Wz#1
21	136 ～139	No.7 (続き)		29～36	Wz#1 (16段)
22-27	140r	空白			Wz#1
	140v～147r	No.8		1～14	
	147v～156	No.9		15～33	
	157 ～163r	No.10		34～46	
	163v～166r	No.11		47～52	
	166v～178	No.12		53～77	
	179 ～185	No.13		78～91	
28	186 ～190			〔92～101 〕	Wz#1
29	191 ～193	No.14	〔No.15 第2稿〕 (Ms)	1～ 6	Wz#1 (16段)
30	194 ～200	No.18		1～14	Wz#20
31	201r	空白			Wz#1
	201v～209	No.18	〔No.19 〕	1～17	
32-33	210r	No.20	〔No.21 〕	タイトル	Wz#1 (16段)
	210v～223			1～27	
34	224 ～228r	No.20	〔No.22 〕	1～ 9	Wz#1 (16段)
	228v	空白			
35	229 ～230	No.19	〔No.20 第2稿〕 (Aut)	1～ 4	Wz#1
	231 ～236	No.21	〔No.20 第2稿〕 (Ms)	1～12	
	237 ～239		〔No.20 第2稿〕 (Aut)	11～16	
36	240 ～242		〔No.20 第2稿〕 (Aut)	17～22	Wz#1
	243		〔自筆による付加〕		Wz#33 ?

	244 ～248		〔No.20 第２稿〕	(Aut)	23～32	Wz♯１
	249				33～34	Wz♯12
37	250 ～252			(Ms)	29～30，25～28	?
	253			(Aut)	35～36	Wz♯12
38	254 ～257r	No.23			1～ 7	Wz♯１
	257v	空白				

第14～第20ラーゲ（f.87-135）は，本来連続しているべき第13ラーゲと第21ラーゲの間に割って入った状態となっている。

筆写譜の部分(f.191-193; 231-236)にも，自筆譜と同じ紙Wz♯１が用いられている。f.250-252 の部分の紙は照合できない。

Ａ１における稿と曲番号

① この自筆譜に含まれている序曲は，おそらく第２の稿である。（後述の自筆譜Ａ２を参照）

② 〔No.13 第１稿〕(f.95-96r)は，次のNo.14 と同じラーゲに書かれ，ページ番号が連続していることから，〔No.13 第２稿〕(f.179-190) よりも古い稿の断片と考えられる。〔第１稿〕は結局採用されなかったが，おそらくは，No.14 と同じラーゲに書かれていたために，その最後の部分だけが伝承した。一方，〔No.13 第２稿〕においては，92ページ以降のページ番号が欠けている。この部分は，中間部の開始部分と一致し，別のラーゲに書かれているため，中間部以降の音楽は後から書き直された可能性がある。

③ No.15 には３つの稿がある。このうち，前後No.14 及び16と同じ紙Wz♯１に通しページ番号で記入された〔No.15 第１稿〕(f.99v-103) が最初の稿と考えられる。〔No.15 第２稿〕(f.191～193)は，〔第１稿〕にファゴット・ソロを加え，前奏と末尾を短縮したヴァリアンテの筆写譜で，〔第１稿〕と同じ紙に記されている。また，短縮の内容は，〔第１稿〕の自筆譜にクレヨンで記入，或いは挿入(f.102r)された内容と一致する。これに対して，〔No.15 第３稿〕(f.87-94) は，〔第１稿〕〔第２稿〕と歌詞は同じであるが音楽が異なっている。用いられている紙は，Wz♯20（〔第１稿〕の挿入部分に用いられた）とWz♯21であり，前述の２つの稿よりも後に作られたものと推測される。〔第２稿〕と〔第３稿〕は，共に自筆譜ではNo.14 と番号付けされているが，その理由は明らかでない。おそらく，上演を重ねる過程において曲順の入れ替えや曲の省略などが行われたためと推測される。

④ 第３幕の５曲（No.19-23）は，それぞれ自筆譜では，No.18，19，20(後に抹消)，20，及び23（3 は書き直したもの）と番号付けされている。第２幕の最後の曲(No.18) には，〔No.15 第１稿〕の挿入部分と〔No.15 第３稿〕に用いられている紙Wz♯20が使用されているため，これを後からの挿入曲と推測すると，自筆譜に記されたNo.18，19，20 は，新

しいNo.18 を挿入する前の段階の番号と理解できる。よって，自筆譜でNo.18(f.201v-209)，19(f.229-253) と番号づけされた曲を，ここでは〔No.19 〕，〔No.20 〕とする。自筆譜でNo.20 と付けられた2曲のうち，f.210-223 の四重唱は〔No.20 〕に続く内容となっているので，ここではこの四重唱を〔No.21 〕，f.224-228の郵便配達夫のアリアを〔No.22 〕と番号付けした[1]。

⑤ 第1幕と第2幕では，ハンヒェンの恋人役はミヒェルであるが，第3幕ではフェリックスとなっている[2]。第1，第2幕と第3幕で，自筆譜に用いられている紙に変化はなく，台本も失われているため，その理由は明らかでない。

⑥ ここに含まれている〔No.20 〕は，おそらく第2の稿，またはヴァリアンテである(後述の自筆譜A3を参照)。上の表に示したとおり，〔No.20 第2稿〕においては，自筆譜と筆写譜が混合されている。自筆譜の第1ページでは，Kp♯11が拍子記号をC から2/4 に変え，第1ページを斜線で抹消している。それに続く同コピストの筆写譜では，最初の3ページが，同じ方法で訂正されている。また，自筆譜と筆写譜の両方において，第15～42小節のレチタティーヴォを省略して，第43小節のLargo 部分につなげるように指示が加えられている。

A1におけるコピスト

〔No.15 第2稿〕と〔No.20 第2稿〕はKp♯11の筆跡である。このコピストは，基本的にシェンクと同じ紙を用いている。また，No.17 においては自筆譜に歌詞の訂正を加え，〔No.20 第2稿〕では，上記⑥のとおり，自筆譜を修正する役割をしているため，シェンクと近い関係にあったことが推測される。Kp♯11は，♯5「思いがけない海の祝祭」(1789年) のTeilautograph(楽譜資料A1) においても，自筆譜のタイトルを補足する役割を果たしている。

A2 序曲〔第1稿〕，及びNo.1の第1ページの自筆スコア

A-Wgm Aut Schenk 30 (XIII 17675) (交響曲として分類されている)

横長判 (縦約23cm×横約32cm)，12 段の五線紙で，端は切り揃えられていない。

ドッペルボーゲン四つを1ラーゲとして，五つのラーゲが，大理石模様の厚紙表紙で1冊に製本されている。最後の8ページは空白で，計72ページに記入されている。

ページ番号は，第1～第2ラーゲで 1-31 まで，第3ラーゲ以降は1-40まで，それぞれ通して数えられている。このうち，前者には，序曲〔第1稿〕とNo.1の第1ページが書かれている。後者には，ハイドンのパリ交響曲の4つの第2楽章が，シェンクの自筆で記されている。後者の内容 (Andante B-dur (= Haydn Hob.I:84/II)，Romanze. Allegretto Es-dur (= Hob.I:85/II)，Capriccio. Largo G-dur (= Hob.I:86/II)，及びAndante Es-dur (=Hob.I:83/II) は，明らかに，シェンクのジングシュピール「田舎のクリスマ

ス」とは全く関係がない。

この自筆譜には，下記の３種類の紙が，以下のように組み合わせて用いられている。

第１～第２ラーゲ（f.1-16）＝Wz♯１；第３～第４ラーゲ（f.17-32)＝Wz♯４；

第５ラーゲ
- f.33　Wz♯４
- f.34-39 Wz♯11
- f.40　Wz♯４

第３～第５ラーゲにおいては，第１～第２ラーゲとは異なる紙が用いられ，ページ番号も連続していないことから，別の目的で書かれ，あとから第１～第２ラーゲと一緒にされたものと考えられる。

タイトルページには，次のようなフックスの記述がある。（右上，所蔵番号）

XIII 17675.（中央）"Sinfonie No.9/ fürs Orchester/ von/ Johann Schenk./ Partitura Autographa "　（右下，自筆?）"in July 1786"

フックスの記述では，この楽譜が，「田舎のクリスマス」の序曲とハイドンの４つの楽章を組み合わせた交響曲であるかのように理解される。しかし，前半部分は，序曲〔第１稿〕に続いてジングシュピールの第１曲が記されていることから，本来，交響曲として用いるために書かれたものではないと思われる。さらに，後半のハイドンの４つの楽章は，すべて，もともと第２楽章として作曲されたものであり，調の組み合わせからみても，全体を１曲の交響曲と考えることには無理がある。むしろ，これは，フックスの誤解に基づく記述である可能性が高い。

ホーボーケンによれば，ハイドンのパリ交響曲のうち，ここに含まれている83番は1785年，84番と86番は1786年に作曲されたことが，それぞれ，ハイドンの自筆譜に明記されている。(Hoboken 1957: 136)　また，パリ交響曲の初版であるArtaria 版の広告は，1787年12月19日の"Wiener Zeitung"紙に掲載されている。(Hoboken 1957: 137)　しかし，シェンクが何を典拠として，また何の目的で４つの第２楽章の楽譜を写したのかは明らかでない。

この楽譜に含まれる序曲〔第１稿〕と，前述の自筆譜Ａ１に含まれる序曲〔第２稿〕とを比較すると，後者では，楽器編成が拡大されると共に，中間部に相違が見られる。〔第１稿〕の自筆譜には，〔第２稿〕にみられる強弱記号等が鉛筆で書き込まれているため，前者を基に後者へと改訂されたのではないかと推測される。

以下，Ａ３～Ａ６の資料は未製本の自筆スコアであり，厚紙表紙で製本されたTeil-autograph Ａ１に付随して，同じ所蔵番号で伝承している。

Ａ３　〔No.20 第１稿〕（ハンヒェンのレチタティーヴォとアリア）の自筆スコア

A-Wgm Aut Schenk 11

横長判（縦約23cm×横約31.5cm），12 段の五線紙Wz井１で，端は切り揃えられていない。

18枚の五線紙（ドッペルボーゲン四つを組み合わせたラーゲ二つと，ドッペルボーゲン一つ）が，表紙なしで糸で綴じられている。ページ番号 1-36 が記入されている。

第１ページ上端には，自筆で次のように記入されている。“No:19 Lento con Espressione, Aria con Recitativo.” 右上には筆者不明の書き込み “= Weihnacht a. d. L.” と，ライブラリアンの手による書き込み “zu ⑪” がある。

〔No.20 第１稿〕は，前述の自筆譜Ａ１に含まれる〔No.20 第２稿〕と同じ紙に書かれている。しかし，この楽譜では，〔No.20 第２稿〕にある修正（楽譜資料Ａ１の資料記述＊稿と曲番号＊の⑥を参照）が加えられていない。また，この楽譜では，クラリネット・パートの段が休止の間も確保されているのに対し，〔第２稿〕においては，休止部分でクラリネット・パートの段が省略され，また//や“3za” などの省略指示がより多く用いられている。以上の理由から，この楽譜の方が先に作られたものと推測される。

Ａ４　後に付加された二重唱「君が永遠に僕のものになったなら」（曲番号不明）の自筆スコア　　A-Wgm Aut Schenk 11 (IV 17614)

横長判（縦約23cm×横約31.5cm），12段の五線紙Wz井５で，端は切り揃えられていない。

ドッペルボーゲン五つを組み合わせて１ラーゲとし，表紙なしで糸で綴じてある。但し，１枚目が切り取られているため，合計18ページ。最後のページは空白である。

第１ページの上端には，自筆で次の記述がある。“un poco Allegretto Duetto zur Weihnacht auf dem Lande ” 続いて，ライブラリアンの手で，ウィーン楽友協会の所蔵番号 “ ad Num. 17614. IV. ” がある。右上には自筆で “di Schenk/ den 1ten Decemb./ 1792” と書かれ，その下に別のライブラリアンの手でウィーン楽友協会の所蔵番号 “⑪” が記されている。

自筆による記入年代からみて，1792年12月のレオポルトシュタット劇場における上演のために準備されたものと思われる。役名が抜けているが，歌唱声部がソプラノ記号とテノール記号で記譜されているところからみて，ハンヒェンとミヒェル（フェリックス），或いはリースヒェンと伍長の二重唱である可能性がある。

Ａ５　No.12（トラウデル，ハンヒェン，マティースの三重唱）の自筆スケッチの断片

A-Wgm Aut Schenk 11

横長の紙片（縦約 7cm×横約18.5cm）。Wz井１の16段の紙を小さく切ったものと思われる。

裏面には，和声進行のスケッチが記されている。

Ａ６　No.10（ハンヒェンのアリア）の自筆スケッチの断片 A-Wgm Aut Schenk 11

横長の紙片（縦約18cm×横約31cm）。Wz＃１の12段の紙の下の部分を切り取ったものと思われる。

No.10 では歌唱声部がソプラノ記号で書かれているが，このスケッチでは，アルト記号になっている。裏面には，コロラトゥーラ(?) のスケッチが記されている。

Ｃ１　〔No.5 ?〕　ハンヒェンのアリア「恋人を得るまでは」(“Bis man nur ein Schätzchen hat“)のヴォーカル・スコアの筆写譜　A-Wgm VI 17142 (Q 9343)

横長判（縦22.4cm×横31.0cm)，8段の五線紙で，端は切り揃えられている。

ドッペルボーゲン三つが１つのラーゲに組み合わされて，表紙なしで糸で綴じられている。合計12ページあるが，ページ番号は記入されていない。

タイトルページには，以下の記述がある。“Arie/ aus der/ Weihnacht auf dem Lande. / /:Bis man nur ein Schätzchen hat:// Herrn von Sonnleithner gehörig./（左下）Del. Sig. Schenk.

最後のページには，典拠不明の旋律(24 小節）が書かれている。

Ｃ２　〔No.5 ?〕　ハンヒェンのアリア「恋人を得るまでは」のヴォーカル・スコアの筆写譜　A-Gk　40.668/C

横長判（寸法不明)，10 段の五線紙 5枚で，端は切り揃えられている。

紙の組み合わせ方は不明。最後のページは空白。

タイトルページには，以下の記述がある。“Aria/ Aus der/ Weihnacht auf dem Lande./ /:Bis man nur ein Schätzchen hat:/ //　（左下）vom H. Schenk.

上記の筆写譜Ｃ１と同じ内容である。

上記の２つの筆写譜にみられるハンヒェンのアリア「恋人を得るまでは」は，Teilautograph Ａ１の中に含まれていない。しかし，歌詞中に現れるハンヒェンとフェリックスは，「田舎のクリスマス」の登場人物名と一致し，金持ちでも馬鹿な男とは結婚したくないという歌詞の内容が「田舎のクリスマス」のストーリーと相応することから，この曲は，「田舎のクリスマス」の中に含まれる曲と考えてよいと思われる。自筆スコアの中で消失しているNo.5，或いは，後に付加された曲である可能性が考えられる。

以下の楽譜資料＊８～＊16は，Ａ３～Ａ６と同様，Teilautograph Ａ１に付随して，同じ所蔵番号で伝承している。但し，1921年にローゼンフェルト＝レーマーが調査した時点

においては，楽譜資料＊８と＊９は#2「ぶどう摘み」（1785年）の曲として伝わっていた。(Rosenfeld-Roemer 1921: 68)　また，ローゼンフェルト＝レーマーは＊11～14と＊16を帰属作品不明の曲としている。(Rosenfeld-Roemer 1921: 36)　さらに，楽譜資料＊10と＊15については何も言及していない。

＊８ No.13（カスパーのアリア）の自筆スコア A-Wgm Aut Schenk 11

横長判（縦22cm×横30.4cm），12 段の五線紙Wz＃41で，端を切り揃え，赤く塗ってある。ドッペルボーゲン二つを組み合わせて１ラーゲとし，表紙なしで糸で綴じてある。f.2 が切り取られているため，合計６ページで，自筆によりページ番号が記入されている。

＊９ No.14（リーゼとカスパーの二重唱）の自筆スコア A-Wgm Aut Schenk 11

横長判（縦22cm×横30.4cm），12 段の五線紙で，楽譜資料＊８と同様，端を切り揃え，赤く塗ってある。ドッペルボーゲン四つを組み合わせて１ラーゲとし，２つのラーゲを重ねて，表紙なしで糸で綴じられている。但し，第２ラーゲの最後の紙(f.16)が切り取られているため，全体は30ページで，自筆でページ番号が記入されている。用いられている紙は，Wz#25とWz#41の２種類で，後者は第２ラーゲの中央のドッペルボーゲン２枚（f.11-14)にあたる。しかし，筆跡と音楽的内容からみて，これはのちにさしかえられたものとは考え難い。

＊10 No.19（オスミンのアリア）の自筆スコア A-Wgm Aut Schenk 11

横長判（縦約23cm×横約31.5cm），10 段の五線紙Wz＃６で，端は切り揃えられていない。ドッペルボーゲン四つを１ラーゲに組み合わせ，表紙なしで糸で綴じてある。合計16ページで，自筆でページ番号が記入されている。

＊11　軽騎兵の曹長（Husar Wachtmeister）のアリア「何年も前から望んでいた」の自筆スコア〔a-Moll稿〕　　A-Wgm Aut Schenk 11

横長判（縦約23.5cm×横約32.5cm），10 段の五線紙で，端は切り揃えられていない。ドッペルボーゲン四つを組み合わせて１ラーゲとしたものの後ろに，もうひとつのドッペルボーゲンが続いている。表紙もなく，糸で綴じられてもいない。ページ番号32～50が自筆で記入されている。最後のページは空白である。用いられている紙は，第１ラーゲの外側２枚のドッペルボーゲン（すなわち，f.1，2，7，8）がWz#16で，第１ラーゲの内側２枚のドッペルボーゲン（すなわち，f.3-6)と，最後に付けられたドッペルボーゲン（f.9-10）はWz#37である。

＊12　軽騎兵の曹長のアリア「何年も前から望んでいた」の自筆スコア〔g-Moll稿〕
A-Wgm Aut Schenk 11
横長判（縦約23.5cm×横約32.5cm），10 段の五線紙Wz＃37で，端は切り揃えられていない。ドッペルボーゲン二つを組み合わせて１ラーゲとされているが，表紙もなく，糸で綴じられてもいない。ページ番号1-8 が自筆で記入されている。第１ページの五線の上側には，“Ja, ja, laß er sich hören” というStichwort(音楽の開始のきっかけとなる台詞)が記入されている。

＊13　ムッシュー・ジャン（Monsieur Jean)のアリア「愛しい娘よ，こちらにおいで」の自筆スコア A-Wgm Aut Schenk 11
横長判（縦約23cm×横約32cm），12 段の五線紙Wz＃４で，端は切り揃えられていない。ドッペルボーゲン三つを組み合わせて１ラーゲとしたものが，表紙なしで糸で綴じられている。f.3 が切り取られているため，全体は10ページで，全部のページに記入されている。

＊14　セレーネのイタリア語アリア「愛しい恋人のそばで」の自筆スコア
A-Wgm Aut Schenk 11
横長判（縦約23cm×横約32cm），10 段の五線紙Wz＃36で，端は切り揃えられていない。ドッペルボーゲン四つを組み合わせて１ラーゲとしたものを，２つ重ね，表紙なしで糸で綴じられている。全体は32ページで，自筆でページ番号が記入されている。

＊15　独唱〔バス〕の自筆スコア A-Wgm Aut Schenk 11
横長判（縦約22.5cm×横約31.5cm），16 段の五線紙で，端は切り揃えられていない。ページ番号47，48の記入された１枚（Einzelblatt)で，紙の漉かしはWz＃26と考えられる。

＊16　S.，L.，Sch.の２つの二重唱と２つのアリアの自筆スケッチ A-Wgm Aut Schenk 11
横長判（縦約23cm×横約32cm），16 段の五線紙Wz＃９で，端は切り揃えられていない。ドッペルボーゲン三つを組み合わせて１ラーゲとされているが，表紙もなく，糸で綴じられてもいない。ページ番号は記入されていない。

(5) 台本
台本は現存していない。ゾンライトナーとハダモフスキーは，いずれも台本作家をペーター・ヴィーストと記している。(Sonnleithner 1873: Bd.3, Hadamowsky 1934: 283)
また，ハダモフスキーによれば，喜劇役者カスペルレ・ラ・ロッシュがこの作品の中で愉快な兵士の役を演じた。(Hadamowsky 1934: 283)　これは，自筆譜に現れる役柄の中で，

兵士ドナーの役である可能性が大きい。

(6) 作曲と上演に関するドキュメント

この作品の作曲について，シェンクは自伝に次のように記している。

「その後，私はレオポルトシュタット劇場のために「田舎のクリスマス」を作曲した。この作品は1786年12月８日に上演された。この２曲のジングシュピール〔#2「ぶどう摘み」（1785年）と#3「田舎のクリスマス」（1786年）〕は18年以上も上演され続けた。」(Schenk, J.B. 1830N: 79)

この作品が，前作#2「ぶどう摘み」（1785年）と共に初演後も長く人気を保ったことは，『1794年のウィーン演劇年報』に言及されている。（#2「ぶどう摘み」（1785年）の本項を参照せよ。）

注

(1) ローゼンフェルト＝レーマーは，第３幕の曲順を，〔No.19 〕マティースのアリア，〔No.21 〕四重唱，〔No.22 〕郵便配達夫のアリア，〔No.20 〕ハンヒェンのアリア，のちに付加された二重唱（楽譜資料Ａ４），No.23 合唱，という順序にしている。しかし，その根拠は示していない。(Rosenfeld-Roemer 1921: 71)

(2) ローゼンフェルト＝レーマーは，フェリックスとミヒェルを別人と考え，ハンヒェンとフェリックスを主役のカップル，リースヒェンとミヒェルを脇役のカップルとしている。(Rosenfeld-Roemer 1921: 70)　しかし，歌詞の内容は，ハンヒェンとフェリックス，及びハンヒェンとミヒェルが恋人どうしであることを示しており，リースヒェンとミヒェルの関係は特に強調されていない。

#4 "Im Finstern ist nicht gut tappen"
「暗中模索」（1787年）

(1) 作曲年と根拠：1787年（自筆譜A1のタイトルページに記入されている）

(2) 上演記録

1787年10月12日にケルントナートア劇場で初演。初演のちらしには，以下のように記されている。「本日，1787年10月12日，金曜日，ケルントナートア劇場において，ドイツ宮廷歌劇団（Deutsche Hof-Operisten）により『暗中模索』を初演。ヒースベルガー（Hiesberger）台本，シェンク作曲による，2幕の喜劇的ジングシュピール。....」（A-Wn-Th 773.042-D.Th）『1788年のウィーン国立劇場年報』（"Allmanach der k.k. National=Schaubühne in Wien auf das Jahr 1788"）には，初演における配役が次のように記録されている。「クーニグンデ＝ロッテ夫人（Md. Rotte），ロゼッテ＝ランゲ夫人（Md. Lange),市長＝ザール氏（Hr. Saal），シュタイルベルク＝ダウアー氏（Hr. Dauer），シュヴィマー＝アルノルト氏（Hr. Arnold），ハンヒェン＝デーラウ嬢（Mll. Delau）」（Kunz s.d.）ハダモフスキーによれば，この作品は，初演後，同年内にケルントナートア劇場において10回（10月14日，16日，21日，28日，11月9日，15日，23日，12月7日，16日，28日）再演された。(Hadamowsky 1966: 64)

(3) 作品の構成と主題

登場人物：　クーニグンデ（Kunigunde）〔ソプラノ〕

ロゼッテ（Rosette），クーニグンデの姪〔ソプラノ〕

市長ヴァルブッシュ（Wallbusch）〔バス〕

書記シュタイルベルク（Steilberg）〔テノール〕

シュヴィマー（Schwimmer）〔テノール〕

ハンヒェン（Hannchen），クーニグンデの召使〔ソプラノ〕

庭師／結婚式の客／合唱〔ソプラノ・アルト・テノール・バス〕

音楽隊

序曲 (Str, 2Fl, 2Ob, 2Fg, 2Hr, 2Tp, Pk)

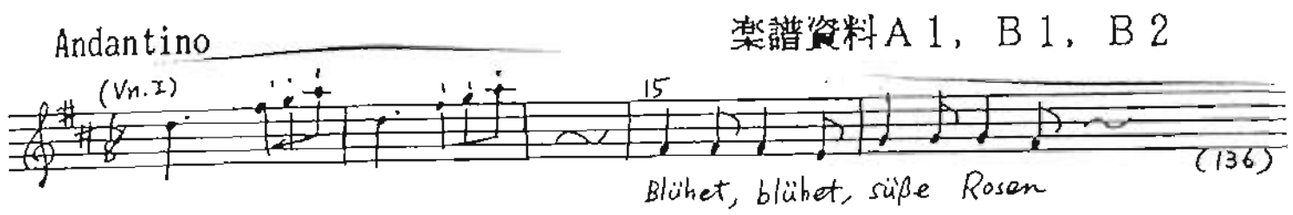
Allegro con spirito

第1幕

第1場 (庭: シュタイルベルク, 庭師)

No.1 庭師の合唱 (ソプラノ・アルト・テノール・バス, Str, 2Fl, 2Ob, 2Fg, 2Hr)

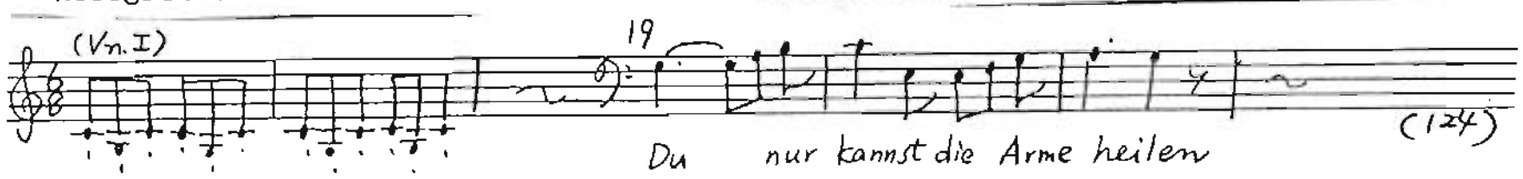
Andantino　　楽譜資料A1, B1, B2



第2場 (シュタイルベルク, シュヴィマー)

No.2 アリア (シュタイルベルク, Str, 1Fl, 2Ob, 2Hr, 2Tp)

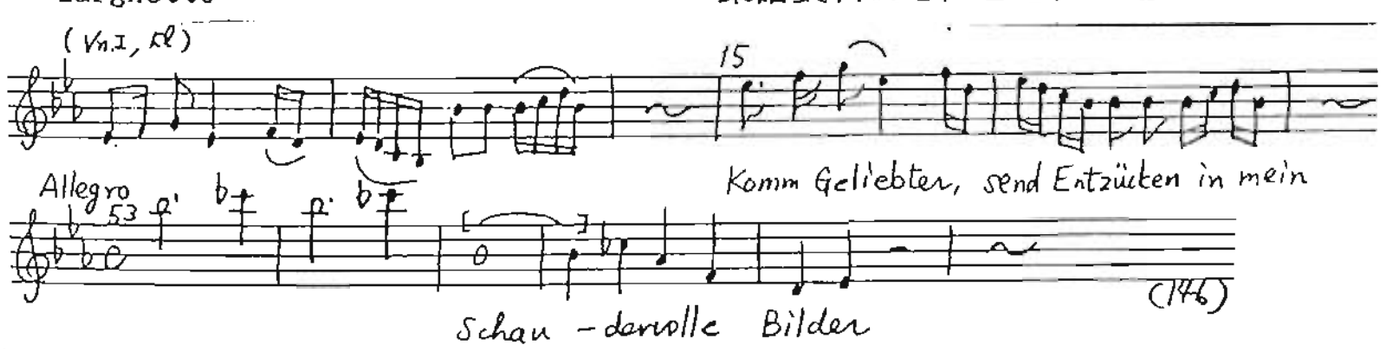
Allegretto　　楽譜資料A1, B1, B2



第3場 (ロゼッテ, シュヴィマー)

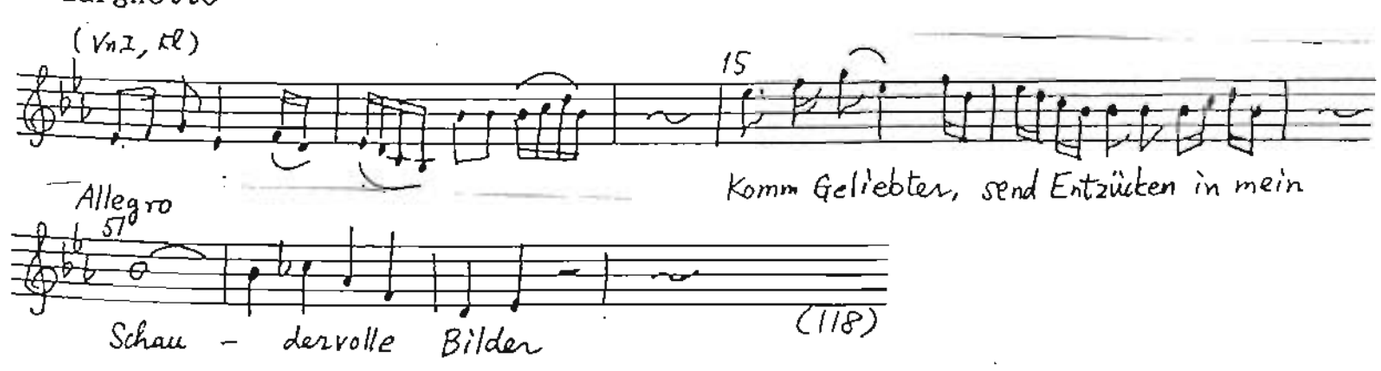
No.3〔第1稿〕アリア (ロゼッテ, Str, 2Fl, 2Kl, 2Fg, 2Hr)

Larghetto　　楽譜資料A1, B1, B2

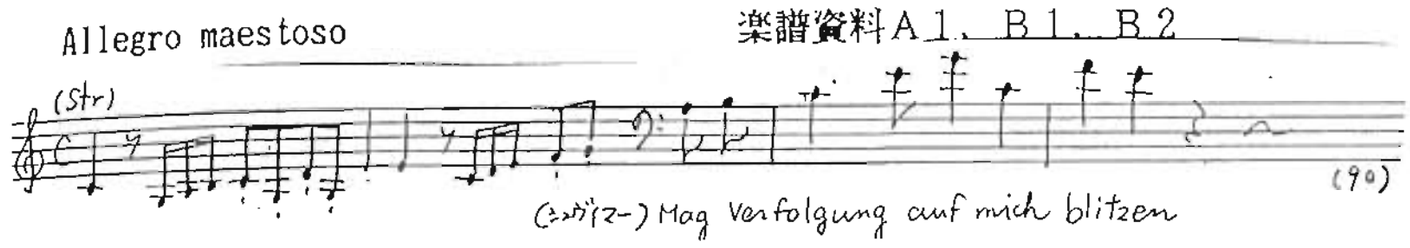


No.3〔第2稿〕アリア (ロゼッテ, Str, 2Kl, 2Fg, 2Hr)　楽譜資料A1

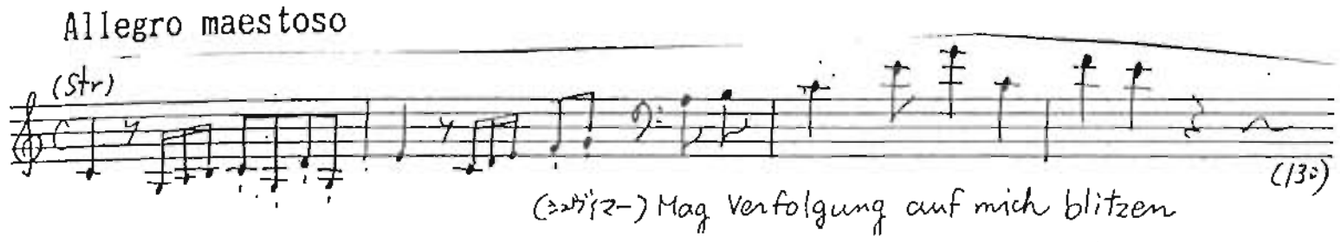
Larghetto



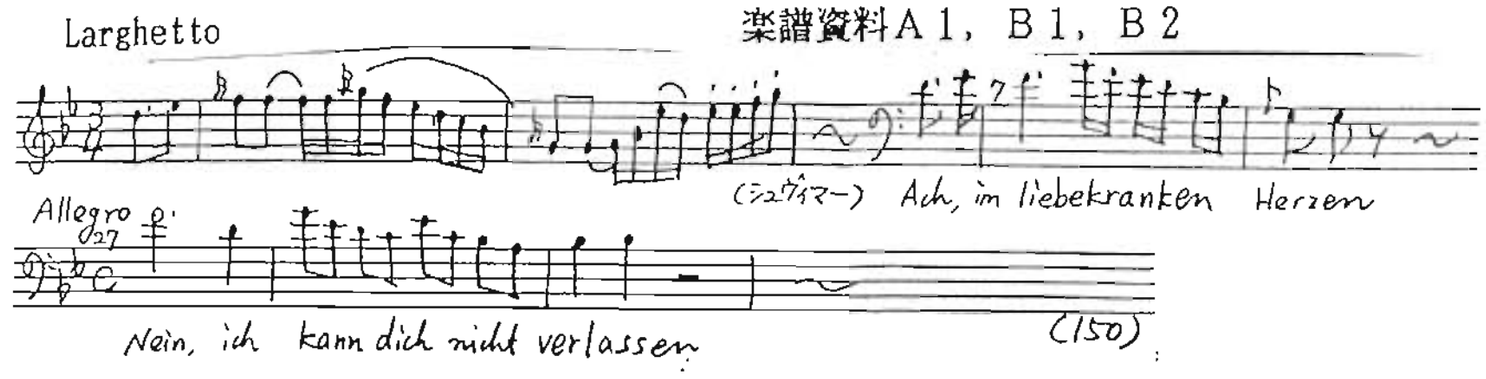
No.4〔第1稿〕アリア (シュヴィマー, Str, 2Ob, 2Tp, Pk)



No.4〔第２稿〕アリア（シュヴィマー，Str，2Ob，2Tp，Pk）楽譜資料Ａ１

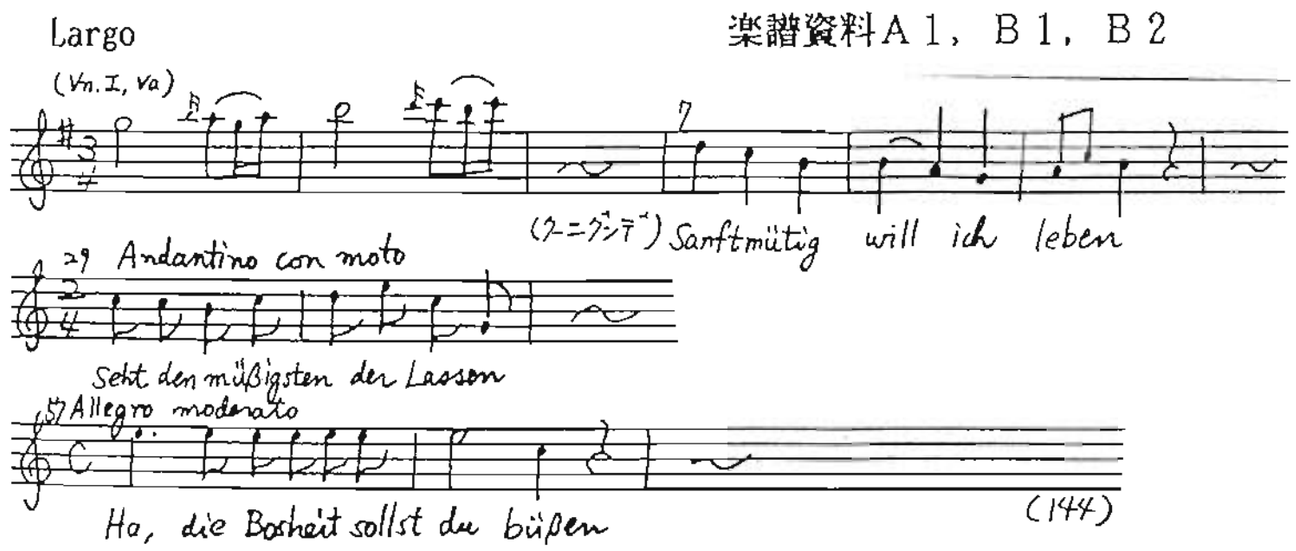


No.5　二重唱（ロゼッテ，シュヴィマー，Str，2Fl，2Kl，2Fg，2Hr）



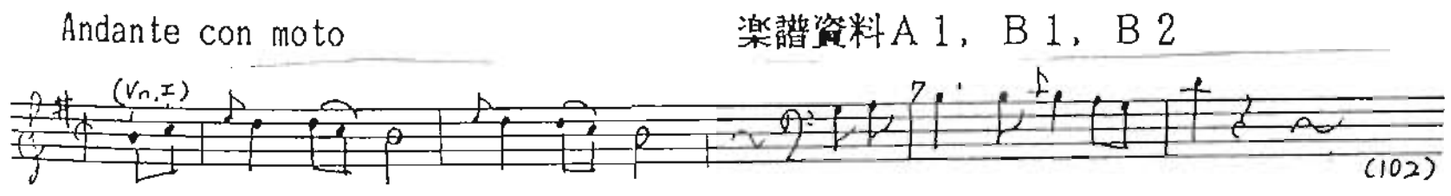
第４場（部屋の中：クーニグンデ，ハンヒェン）

No.6　二重唱（クーニグンデ，ハンヒェン，Str，2Fl，2Ob，2Fg）

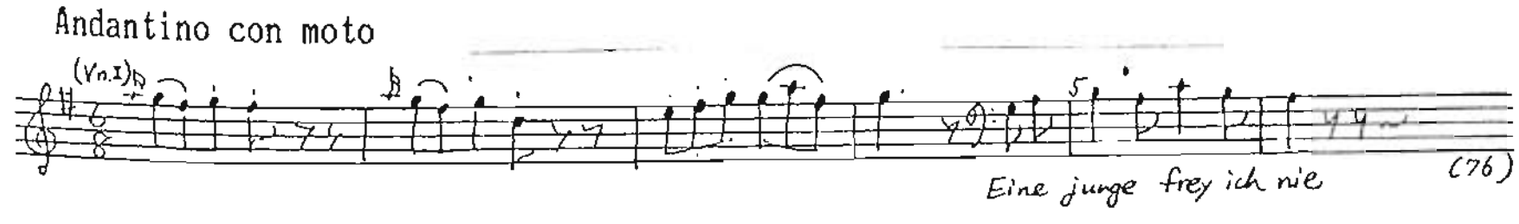


第５場（クーニグンデ，シュタイルベルク）

No.7〔第１稿〕アリア（シュタイルベルク，Str，2Fl，2Ob，2Hr）

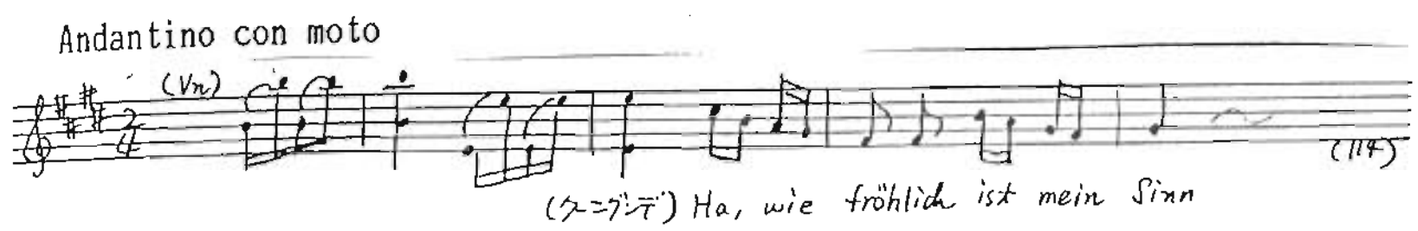


No.7〔第２稿〕アリア（シュタイルベルク，Str，2Fl，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１



第6場（クーニグンデ，シュタイルベルク，シュヴィマー）

No.8　ロンド（クーニグンデ，Str，2Fl，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２

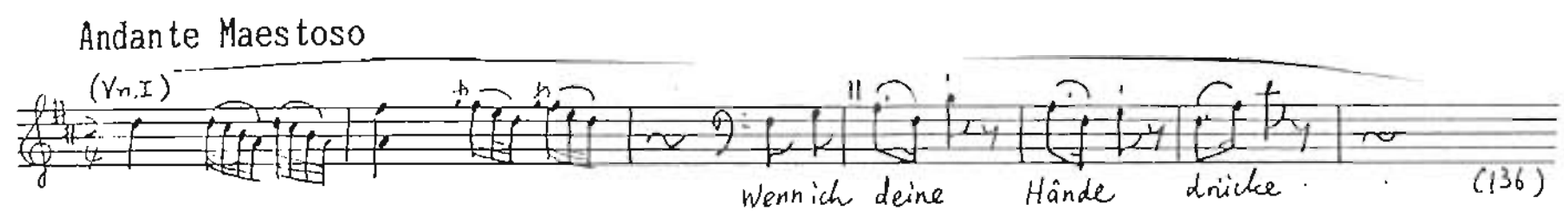


第7場（クーニグンデ，シュヴィマー，シュタイルベルク，市長）

第8場（シュヴィマー，シュタイルベルク，市長）

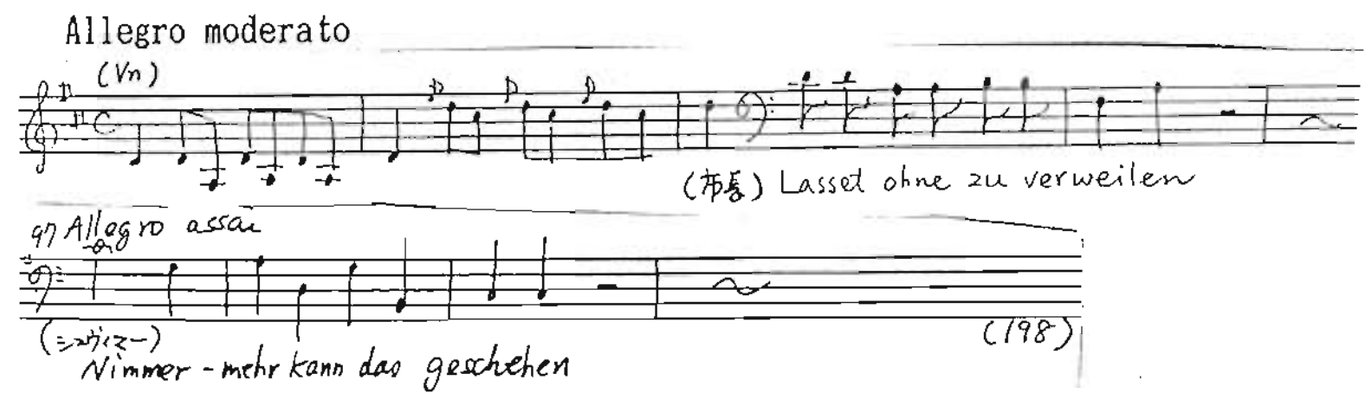
第9場（市長，シュヴィマー，シュタイルベルク，クーニグンデ，ロゼッテ）

No.9　アリア（市長，Str，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２



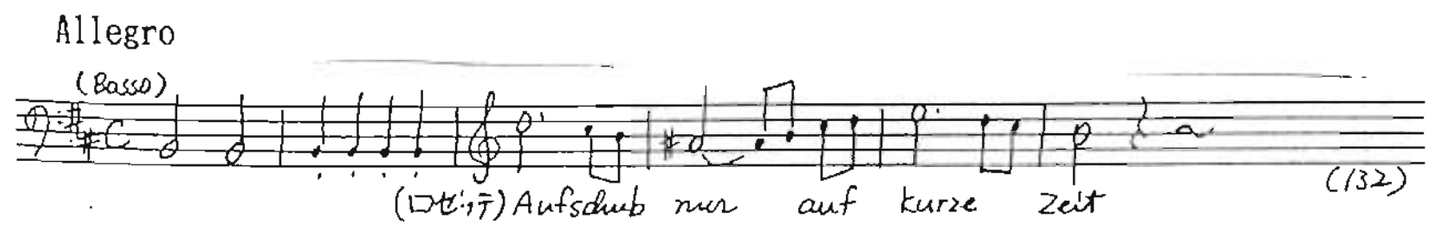
No.10 五重唱（ロゼッテ，クーニグンデ，シュヴィマー，シュタイルベルク，市長，Str，

2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２



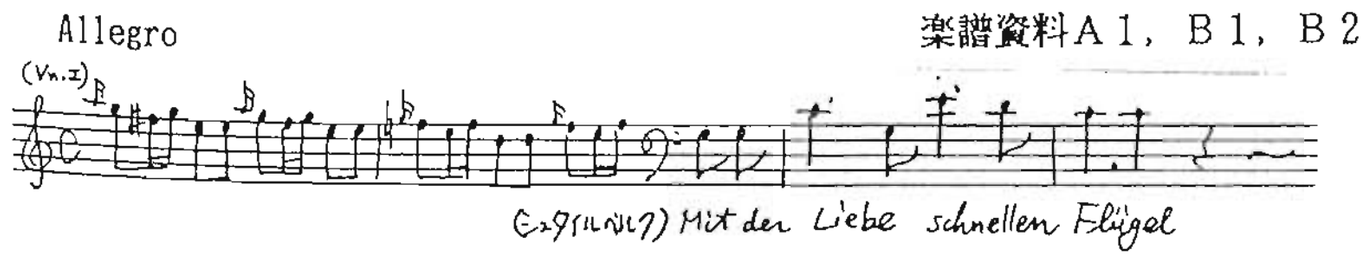
No.11 五重唱（ロゼッテ，クーニグンデ，シュヴィマー，シュタイルベルク，市長，Str，

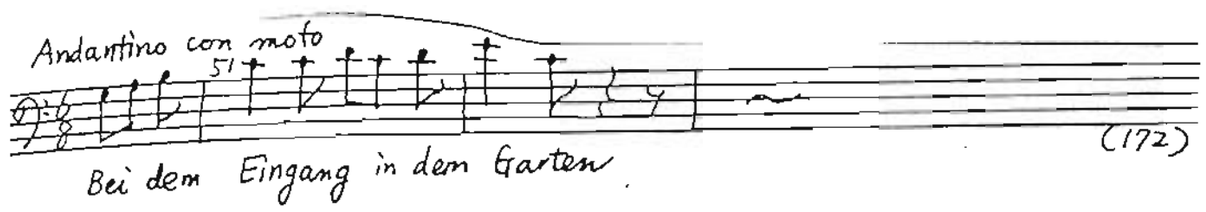
2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２



第10場（ロゼッテ，シュヴィマー，シュタイルベルク）

No.12 三重唱（ロゼッテ，シュヴィマー，シュタイルベルク，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）

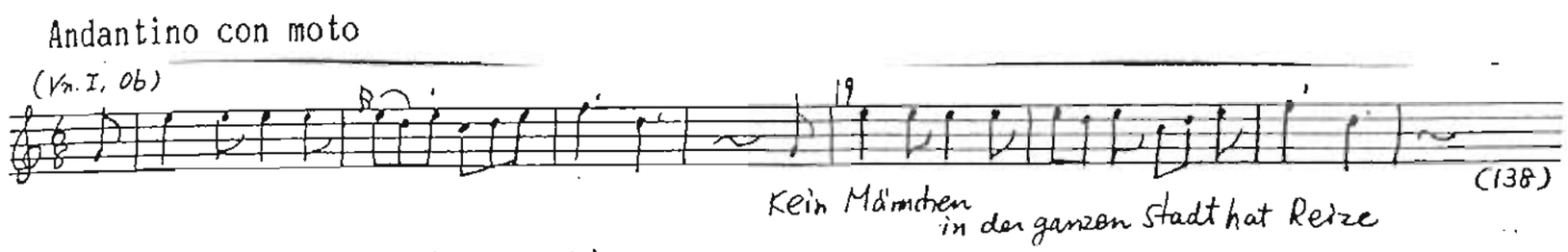




第２幕

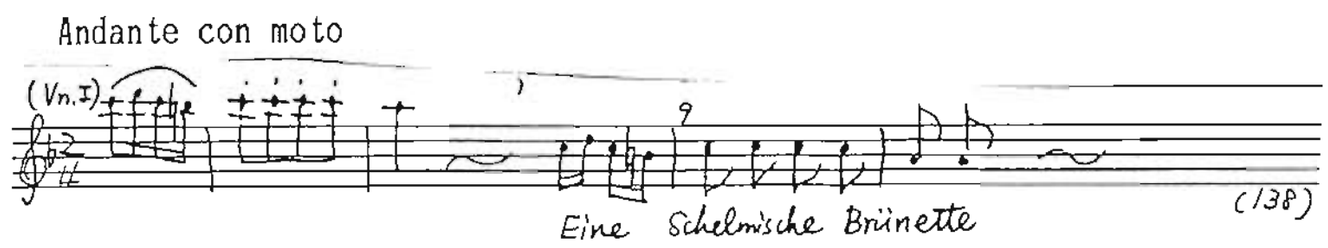
第１場（部屋の中：ハンヒェン）

No.13 ロンド（ハンヒェン，Str，1Fl，1Ob，1Fg，2Hr） 楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２



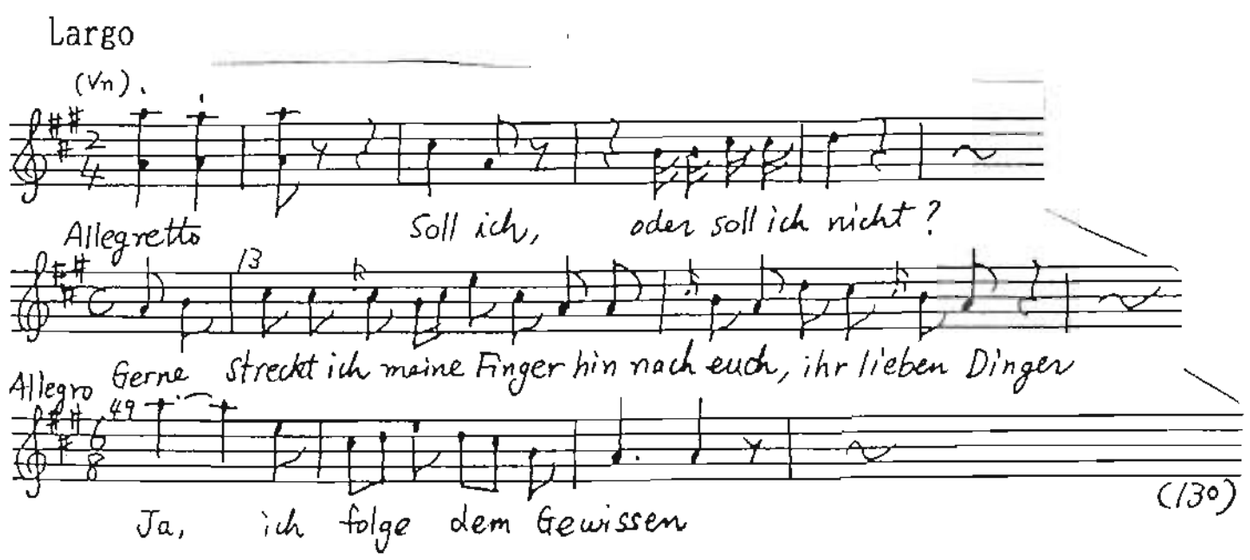
第２場（ハンヒェン，シュタイルベルク）

No.14 アリア（シュタイルベルク，Str，1Fl，2Ob，2Hr） 楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２



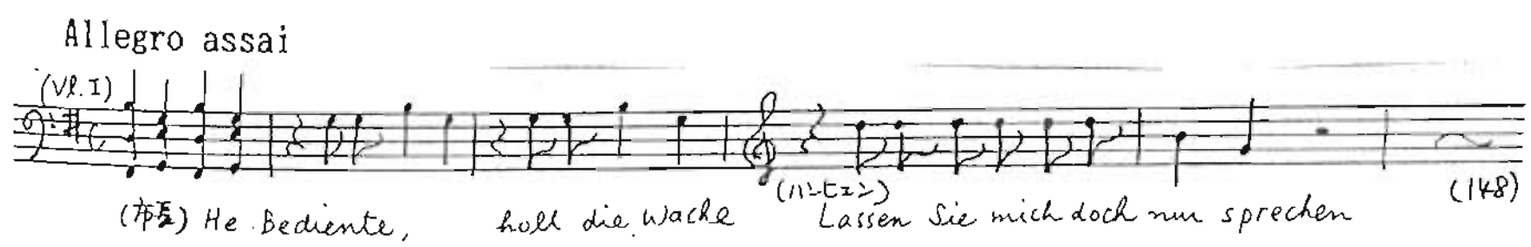
第３場（ハンヒェン）

No.15 アリア（ハンヒェン，Str，2Fl，2Fg，2Hr） 楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２



第４場（ハンヒェン，市長）

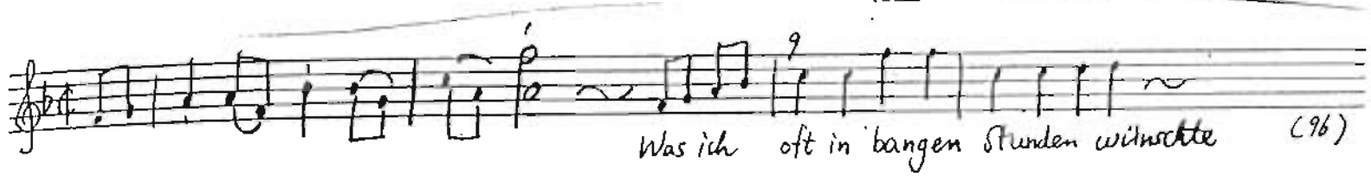
No.16 二重唱（ハンヒェン，市長，Str，2Ob，2Hr） 楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２



第５場（ハンヒェン，市長，クーニグンデ）

No.17 〔第１稿〕アリア（クーニグンデ，Str，2Fl，2Ob）

Andantino con moto　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２

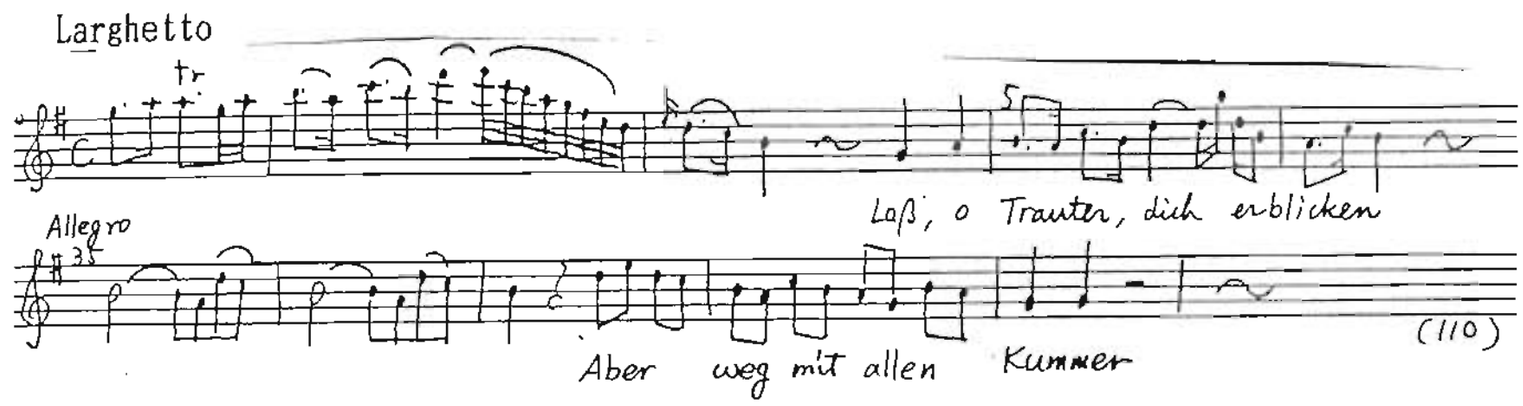


No. 17〔第２稿〕アリア（クーニグンデ，Str，2Fl，2Ob，2Hr）　楽譜資料Ａ１

速度表示なし〔Mittelmäßig〕

第６場（庭：ロゼッテ）

No.18 アリア（ロゼッテ，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２



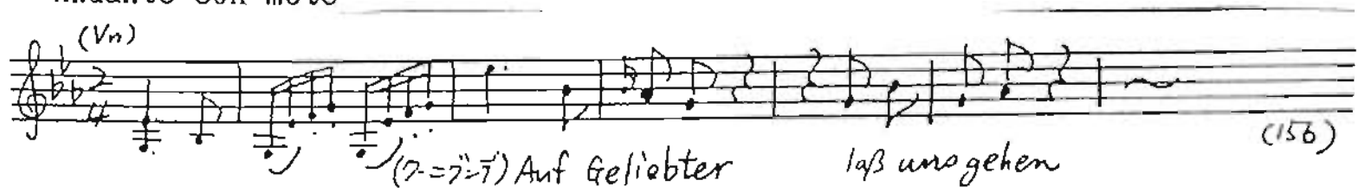
第７場（ロゼッテ，シュヴィマー）

第８場（クーニグンデ，ロゼッテ，シュヴィマー）

第９場（市長，クーニグンデ，ロゼッテ，シュヴィマー）

No.19 四重唱（クーニグンデ，ロゼッテ，シュヴィマー，市長，Str，2Fl，2Kl，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２

Andante con moto



第10場（ロゼッテ，シュヴィマー）

第11場（豪華な照明の広間：ハンヒェン）

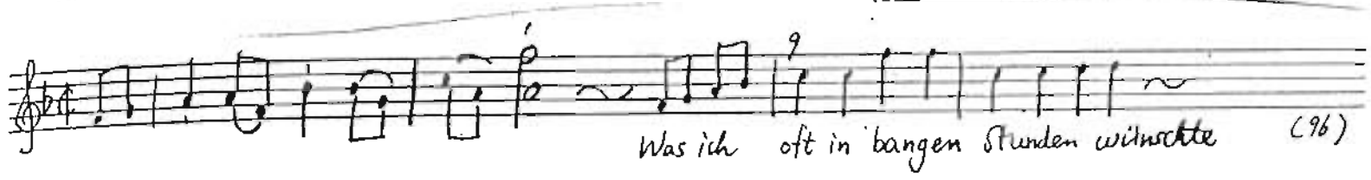
第12場（ハンヒェン，ロゼッテ，シュヴィマー）

第13場（ハンヒェン，ロゼッテ，シュヴィマー，クーニグンデ，市長，シュタイルベルク）

No.20 四重唱（ロゼッテ，シュヴィマー，クーニグンデ，市長，Str，2Fl，2Ob，1Kl，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２

Larghetto

Andantino con moto　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２

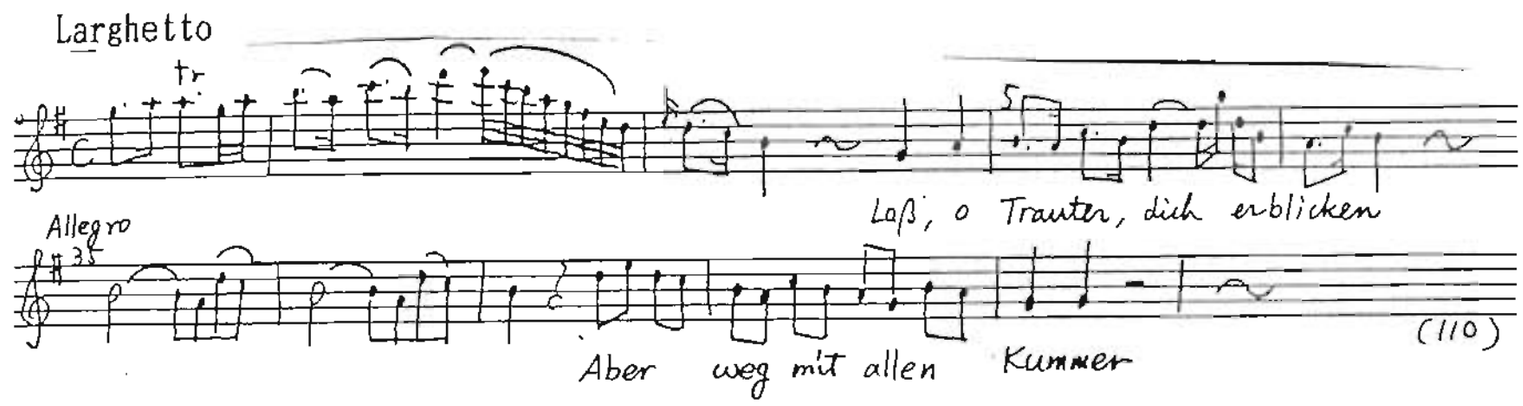


No. 17〔第２稿〕アリア（クーニグンデ，Str，2Fl，2Ob，2Hr）　楽譜資料Ａ１

速度表示なし〔Mittelmäßig〕

第６場（庭：ロゼッテ）

No.18 アリア（ロゼッテ，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２



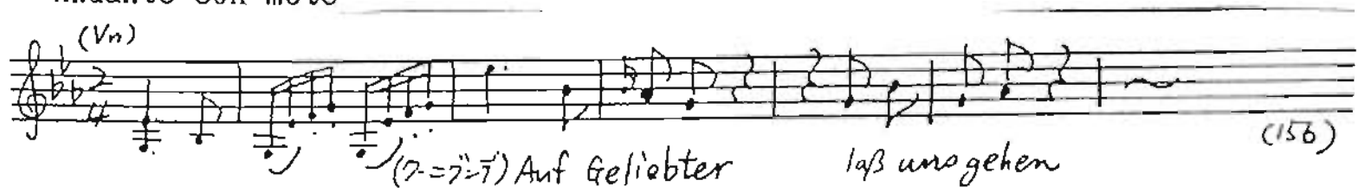
第７場（ロゼッテ，シュヴィマー）

第８場（クーニグンデ，ロゼッテ，シュヴィマー）

第９場（市長，クーニグンデ，ロゼッテ，シュヴィマー）

No.19 四重唱（クーニグンデ，ロゼッテ，シュヴィマー，市長，Str，2Fl，2Kl，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２

Andante con moto



第10場（ロゼッテ，シュヴィマー）

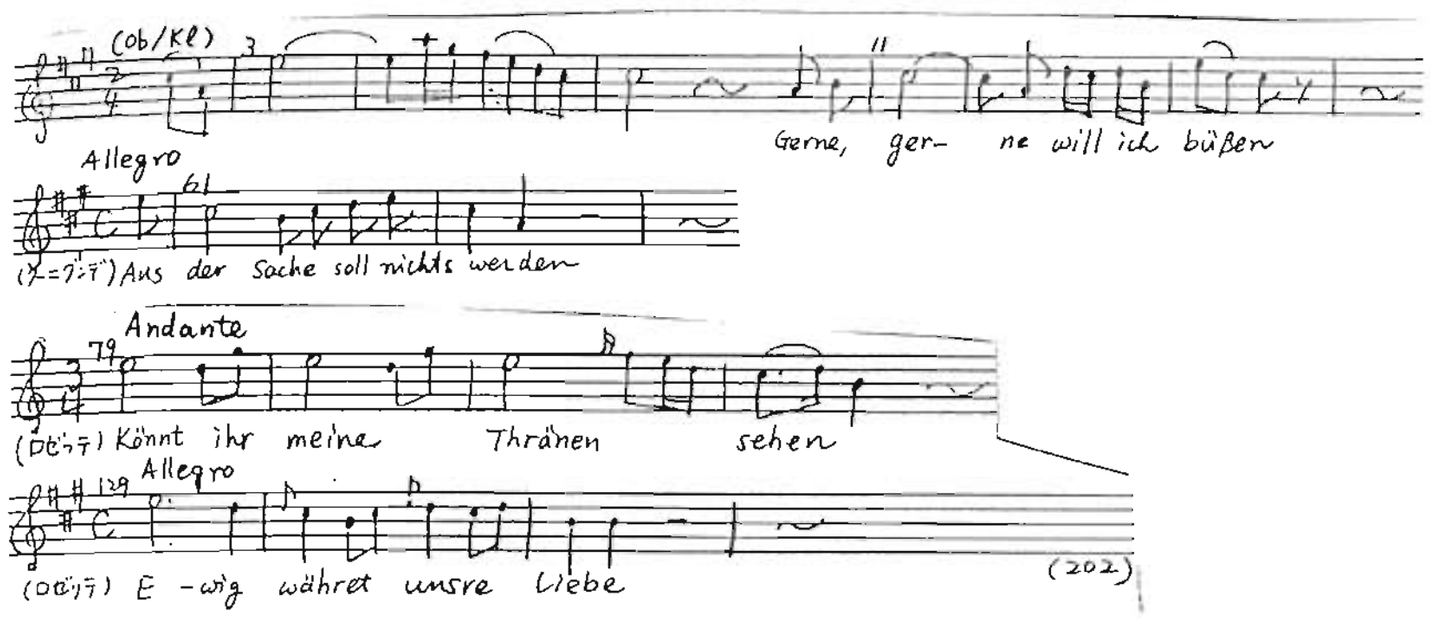
第11場（豪華な照明の広間：ハンヒェン）

第12場（ハンヒェン，ロゼッテ，シュヴィマー）

第13場（ハンヒェン，ロゼッテ，シュヴィマー，クーニグンデ，市長，シュタイルベルク）

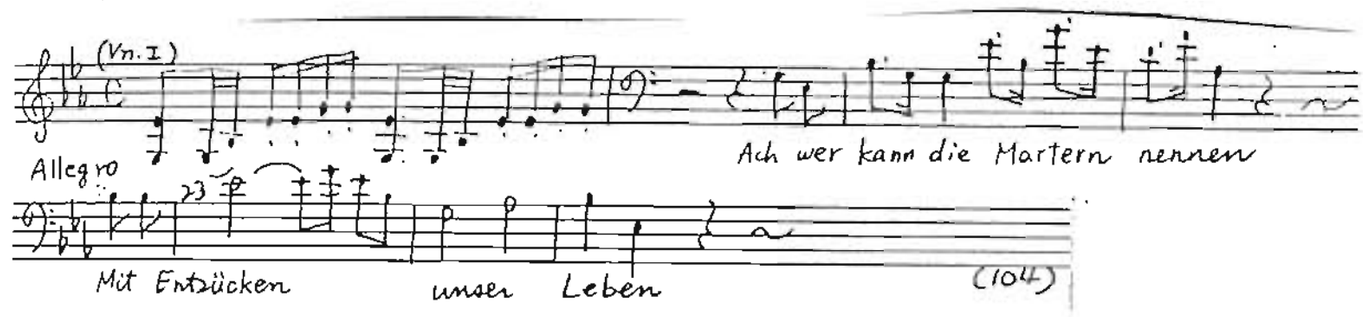
No.20 四重唱（ロゼッテ，シュヴィマー，クーニグンデ，市長，Str，2Fl，2Ob，1Kl，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２

Larghetto



No.21 アリア（シュヴィマー，Str，2Kl，2Hr)楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２

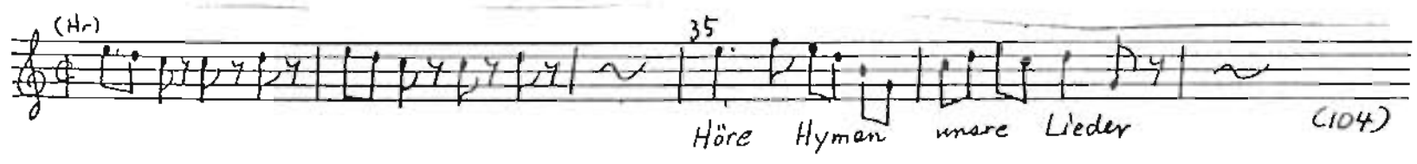
Larghetto



第14場（ハンヒェン，ロゼッテ，シュヴィマー，クーニグンデ，市長，シュタイルベルク，結婚式の客）

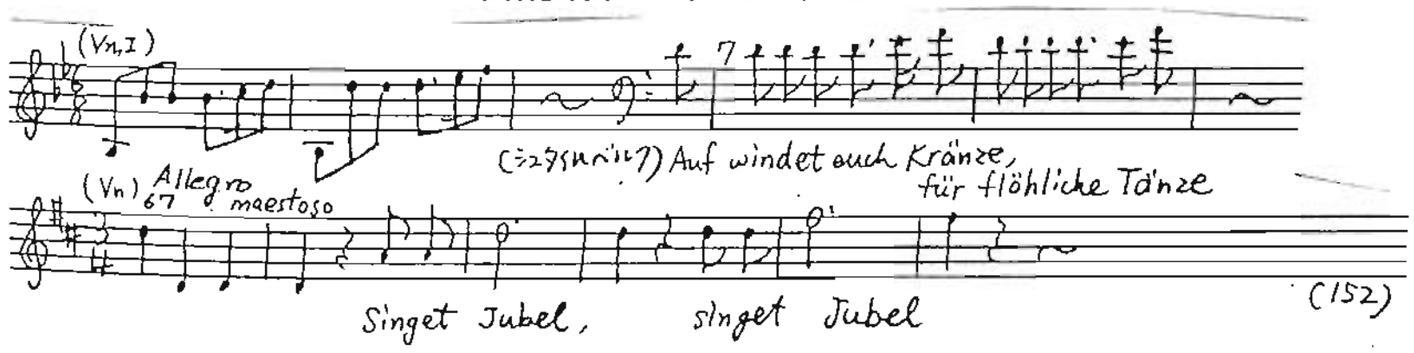
No.22 結婚式の客の合唱（ソプラノ・アルト・テノール・バス，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Tp，Pk）楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２

Marcia Andante



No.23 ヴォードヴィルと合唱（ロゼッテ，クーニグンデ，シュヴィマー，シュタイルベルク，市長，ソプラノ・アルト・テノール・バス，Str，2Fl，2Kl，2Fg)

Andantino con moto　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２



(4) 楽譜資料

A 1　自筆スコア A-Wgm Aut Schenk 12 (IV 17613)

作品全体の自筆スコア，欠落部分はない。

横長判（縦約23cm×横約32cm），12 段と16段の五線紙で，端は切り揃えられていない。大理石模様の厚紙表紙で１冊に製本されている。厚紙表紙のタイトルは，“Im Finstern ist nicht gut tappen/ Singspiel/ 1787”で，その下に青いボールペンでウィーン楽友協会の所蔵番号“⑫”が記入されている。厚紙表紙の内側には，筆者不明の，赤鉛筆による次のような注記がある。“Diese Partitur wurde 1789 überarbeitet (z.T. erweitert,/ z.T. zusammengezogen) und hieß dort “Das/ unvermutete Seefest“ (Dr. Schiffspa-/tron)/ Partitur Autograph im Besitz des G.d M.” その下に別の筆跡（鉛筆）で，“Text von Leopold Hiesberger (1758～1845), aufgeführt in k. k. Hoftheater am Kärntnertor,/ am Freitag 12. 10. 1787/ Text gedruckt 1787 (“Hiesberger“) u. 1791 (anonym)” と記されている。

製本されているが，綴じられた上下の部分から紙の組み合わせ方を知ることが可能である。各曲の規模に合わせ，必要な数のドッペルボーゲンを組み合わせてラーゲが作られている。シェンクは，各曲ごとにラーゲとページ番号を改めている。

第１幕は162 枚，第２幕は 102枚の五線紙を使用。合計 264枚で，記入ページは 521ページ，空白ページは 7ページ(f.30v, 114v, 139v, 162v, 191v, 224v, 264v) である。

タイトルページには自筆で次のように記入されている。“Im Finstern ist nicht gut tappen/ ein komisches Singspiel/ in zween Aufzügen/ von Hiesberger/ in Musik gesetzt/ von/ Schenk” 右下には，自筆で“ 1787”と書かれ，右上には別人の手でウィーン楽友協会の所蔵番号“IV. 17613”が記されている。右下にはフックスの筆跡で“Partitura Autographa”と記されている。

用いられている紙は，Wz♯１（16段と12段），Wz♯21（16段），Wz♯20（12段：以下同じ），Wz♯４，Wz♯30，Wz♯35，Wz♯40の７種類である。このうち，主に用いられているのはWz♯１とWz♯20で，No.20 以降，Wz♯21が加えて用いられている。Wz♯１とWz♯20は，第1, 5, 7, 12 ラーゲにおいて混合して用いられている。その中で，筆跡の変化と音楽的内容からみて明らかに後からのさしかえによるものと思われるのは，No.3〔第１稿〕の S.17-18 （第５ラーゲのf.39）のみである。Wz♯４，Wz♯30，Wz♯35は，おそらく前記３種の紙よりも後に用いられたものと推測される。なぜならば，これらの紙は，二つの稿の

ある曲（No.3とNo.7の〔第２稿〕）にのみ用いられているからである。さらに，No.3〔第２稿〕においては，Wz#30の部分は，音楽的にも筆跡の点でも，明らかに後からさしかえられたものと考えられる。

ラーゲ	フォリオ	内容	ページ番号	紙
	1r	タイトル		Wz#1
1	1v～2	序曲	1～3	
	3		4～5	Wz#20
	4～7		6～13	Wz#1
2	8～14		14～26〔20が重複〕	Wz#1
3	15～22	No.1	1～16	Wz#1（16段）
4	23～30r	No.2	1～15	Wz#1
	30v	空白		
	31～38	No.3〔第１稿〕	1～16	Wz#20
5	39		17～18	Wz#1
	40		19～20	Wz#20
6	41～47	No.4〔第２稿〕	1～14	Wz#1
7	48	No.4〔第１稿〕	1～2	
	49～57		3～20	Wz#20
8	58～60	No.5	1～6	Wz#1
9-10	61～67		7～20	Wz#20
11	68～75	No.6	1～16	Wz#1
	76～77		17～20	Wz#1
12	78		21～22	Wz#20
	79～80		23～26	Wz#1
13	81～87	〔No.17 第２稿〕	1～14	Wz#1
14	88～93	〔No.3 第２稿〕	1～12	Wz#4
	94		13～14	Wz#30
15	95～96		17～20	Wz#4
16	97～101	No.7〔第２稿〕	1～10	Wz#35
17	102～103	No.7〔第１稿〕	1は欠，2～4	Wz#20

	104		15, 16	Wz#1
18	105～108		5～12	Wz#20
19	109～110		13～16	Wz#1
20	111～114r	No.8	1は欠， 2～7	Wz#1 (16段)
	114v	空白		
21-22	115～125	No.9	1は欠， 2～22	Wz#20
23-24	126～139r	No.10	1は欠， 2～27	Wz#1 (16段)
	139v	空白		
25	140～148	No.11	1は欠， 2～18	Wz#1 (16段)
26-27	149～162r	No.12	1は欠， 2～27	Wz#20
	162v	空白		
28	163r	第2幕タイトル		Wz#1
	163v～172	No.13	1～17〔7と 8は重複〕	Wz#1
29	173～181	No.14	1～18	Wz#1
30	182～191r	No.15	1～17 (12と13の間,2ページ番号欠)	
	191v	空白		Wz#1
31-32	192～202	No.16	1～22	Wz#1
33	203～205	No.17〔第1稿〕	1は欠， 2～6	Wz#1 (16段)
34-35	206～215	No.18	1は欠， 2～20	Wz#40
36	216～224r	No.19	1は欠， 2～17	Wz#1 (16段)
	224v	空白		Wz#40
37	225～234	No.20	1は欠， 2～20	Wz#1 (16段)
38	236～236		21～24	Wz#21
39	237～244	No.21	1～16	Wz#1
40	245～250	No.22	7～18	Wz#21
41	251～253		1は欠， 2～6	Wz#20
42-43	254～264r	No.23	1～21	Wz#21
	264v	空白		

A1における稿と曲番号

① No.3には，2つの稿がある。〔第1稿〕（第5ラーゲ）には，他の部分と共通の紙Wz

#1とWz#20が用いられ，訂正が多くみられるため，おそらくオリジナルの稿と考えられる。〔第2稿〕（第14ラーゲ）は，訂正が少なく，他曲とは異なる紙Wz#4とWz#30に番号なしで書かれているため，おそらく後から作られた稿と思われる。音楽的には，後者は〔第1稿〕からフルート・パートを除き，いくつかのフレーズを短縮したものである。

② No.4には，2つの稿がある。どちらの稿も同じ紙Wz#1とWz#20に書かれているが，〔第1稿〕（第7ラーゲ）の方が訂正が多いため，オリジナルである可能性が大きい。〔第2稿〕（第6ラーゲ）は，〔第1稿〕のコロラトゥーラ部分を縮小したものであり，後から作られたヴァリアンテと考えられる。

③ No.7には，2つの稿がある。〔第1稿〕（第17～19ラーゲ）は，他曲と同じWz#1とWz#20の紙が用いられているため，おそらくオリジナルの稿と考えられる。〔第2稿〕（第16ラーゲ）は，他曲とは異なる紙Wz#35に書かれた別稿で，おそらく後から作られたものと考えられる。歌詞は〔第1稿〕と同一で旋律も類似しているが，拍子が異なっている。

④ No.17には，2つの稿がある。どちらも同じ紙Wz#1に書かれており，時間的にどちらが早く作られたのかはわからない。同じ歌詞で，冒頭モティーフも同じであるが，音楽の異なる別稿である。ここでは，No.17と番号付けされている方（第33ラーゲ）を〔第1稿〕，番号が記入されておらず，No.6とNo.7の間に挿入されている方（第13ラーゲ）を〔第2稿〕とした。

B1　部分的にA1と同じ紙が用いられている，全曲の筆写スコア　A-Wn-M 16149　。

横長判（縦22.3cm×横30.5cm），10段，12段，及び16段の五線譜で，端は切り揃えられている。革表紙で一冊に製本されており，背表紙には，“SCHENK/ IM/ FINSTERN/ IST NICHT GUT/TAPPEN.”と，金文字で刻印されている。

第1幕は191枚，第2幕は158枚の五線紙を使用。合計349枚で，記入ページ682ページ，未記入ページは16ページ(f.41v，55v，66v，83v，101v，110v，136v，158v，218v，233v，263v，291v，309v，321v，331v，349v)である。ページ番号は記入されていない。

タイトルページの記述(f.1r)：“Im Finstern ist nicht gut tappen/ Ein komisches Singspiel/ in/ Zwey Aufzügen/ von Hiesberger// In Musik gesetzt von H:Schenk”（右上に別人の手で，太い筆跡で）：“Anno 1787”（下に，同じ太い筆跡で）：“Wien zu finden bey Wenzel Sukowaty Hoftheatral Copist/ am Petersplatz in Magischen Haus

Nro: 554: im Hof rechts im dritten Stock."

f.192r（第２幕冒頭）の記述（飾り文字で）："Im Finstern ist nicht gut tappen/ Zweyter Aufzug"

用いられている紙は，Wz♯４，Wz♯７，Wz♯10，Wz♯35，Wz♯40，Wz♯41の６種類である。このうち，Wz♯35とWz♯40の12段の紙は，楽譜資料Ａ１で用いられているものと同一で，五線の幅も一致している。

自筆譜に見られるNo.3，4，7，及び17の二つの稿のうち，この筆写譜では，それぞれ〔第１稿〕が筆写されている。

この筆写譜には，14種類の筆跡を区別することができる。タイトルページの記述にあるように，この筆写譜は，宮廷劇場コピスト，ヴェンツェル・スコヴァティ（Wenzel Skowaty，生没年不明）とその協力者（Bartha，Somfai 1960: 425-427）によって作成された。ここではこの14人のコピストを，スコヴァティ・コピストNo.31-44（Kp♯31～Kp♯44）と命名した。このうち，自筆譜と同じ紙に筆写しているのは，Kp♯31，Kp♯32，Kp♯40の３人である。

Ｂ２　部分的にＢ１と同じコピストによる，プロンプター用手書き台本付き筆写スコア

A-Wn-M　K.T.216

横長判（縦約23cm×横約32cm），10 段，12段，及び16段の五線譜で，端は切り揃えられている。ボール紙表紙の４分冊が，さらにボール紙の表紙でひとまとめにされている。

第１分冊には109 枚，第２分冊には90枚，第３分冊には84枚，第４分冊には78枚の五線紙が含まれ，合計360 枚。記入ページは 704ページ，未記入ページは16ページ(f.45v，63v，74v，91v，109v，118v，144v，166v，226v，241v，271v，299v，318v，330v，342v，360v)である。ページ番号は記入されておらず，各ラーゲ第１ページの左右の上端に二通りの番号が記入されている。

第１分冊のタイトルページの記述"Im Finstern ist nicht gut tappen/ Ein komisches Singspiel/ in/ zween Aufzügen/ von Hiesberger/ In Musik gesetzt von H: Schenk"　その下に図書館印と所蔵番号"KT 216"，右下に"1787"と記入されている。

第３分冊のタイトルページの記述　（筆写譜Ｂ１のf.192rと同様の飾り文字で）"Im Finstern ist nicht gut tappen/ Zweyter Aufzug."（下に）図書館印と所蔵番号"KT 216".

用いられている紙は，Wz#７，Wz#11，Wz#40，Wz#41の４種類であり，このうち，Wz#40の12段の紙は，楽譜資料Ａ１で用いられているものと一致する。また，Wz#７，Wz#40，Wz#41は，筆写譜Ｂ１で用いられているものと一致する。

自筆譜に見られるNo.3，4，7，及び17の二つの稿のうち，この筆写譜では，それぞれ〔第１稿〕が筆写されている。

この筆写譜には，前述の筆写譜Ｂ１と共通する以下の７人のコピストの筆跡を照合することができる：Kp#32，Kp#36，Kp#38～Kp#41，Kp#43。このうち，楽譜資料Ａ１と同じ紙Wz#40を用いて筆写しているコピストは，Kp#38～Kp#40の３人である。

楽譜資料Ｂ２は，筆写した複数のコピストのうち７人が楽譜資料Ｂ１のコピストと一致しており，さらに，大部分の譜割りがＢ１と一致していることから，Ｂ１と非常に近い関係にあると考えられる。Ａ１，Ｂ１，Ｂ２の内容と記譜の特徴を比較すると，特に省略部分の記入方法からみて，Ａ１→Ｂ２→Ｂ１の順に筆写されたものと考えられる。例えば，No.1，No.3〔第１稿〕，No.22 の場合，Ａ１において後に抹消された箇所が，Ｂ２では，一度筆写したのち，その部分を糸で綴じて省略している。また，No.7〔第２稿〕，Nos.8-11，No.17，No.18の場合には，Ａ１において後に抹消された箇所が，Ｂ２においては，一度筆写したのちに線で消したり，訂正を加えたりしている。これに対して，Ｂ１においては，これらの抹消部分は，最初から短縮，あるいは訂正した形で筆写されている。但し，Ａ１に茶色のクレヨンで記入された省略や短縮の指示は，必ずしもすべてＢ１とＢ２に受け継がれているわけではない。例えば，No.7〔第２稿〕，No.8，Nos.11-13，No.15，及びNo.20 でＡ１に加えられたクレヨンの訂正はＢ１とＢ２に踏襲されているが，Nos.1-3，No.14，No.18，及びNo.22 における訂正は，部分的にしか踏襲されていない。

Ｃ１　No.13（ハンヒェンのアリア）のヴォーカル・スコアの筆写譜

A-Wgm VI 24740 (Q 9359)

横長判（縦22cm×横30cm），10 段の五線紙Wz#30で，端を切り揃えてある。３枚の五線紙（最後のページは未記入）が，表紙なしで糸で綴じられている。

タイトルページの記述“Aria/ Kein Männchen in der ganzen Stadt./ aus der Oper/ Im Finstern ist nicht gut tappen.// Del Sigre Schenk”　最後の記述(f.3r)“S: del Sig Louis Hirsch mpria”

この筆写譜の内容は，楽譜資料Ａ１のNo.13 の前奏を短縮し，第２節を第１節とほぼ同じ内容にした稿で，むしろ，#4「暗中模索」（1787年）のNo.13 を基に編曲した#5「思いがけない海の祝祭」（1789年）のNo.12 の内容と一致する。

(5) 台本

以下の２種類の印刷台本が伝承されている。

ａ１　おそらく初演の際に販売された印刷台本

Im Finstern/ ist nicht/ gut tappen// Eine/ Posse zum Singen/ in/ zween Aufzügen// Von Hiesberger. In Musik gesetzt von Schenk.// Aufgeführt auf dem k. k. Theater am Kärntnerthor// 1787/ Ist beim Logen Meister zu haben.

72ページ

A-Wn-Th 626.484-A.Th.; A-Wn-M 641.433-A.M. X-7, TB; A-Wst A 9733;

U-Wc Schatz-Coll. 9596

この内容は，楽譜資料Ｂ２に付随しているプロンプター用手書き台本の内容と一致している。

ｂ１　一部編作された印刷台本

Im Finstern/ ist nicht/ gut tappen// Eine/ Posse zum Singen/ in/ zwey Aufzügen// Wien/ gedruckt für Joseph Stahel bey Ignaz Alberti/ 1791.

80ページ

A-Wn-D 2598-A; A-Wst A 109606

第１幕第４場では，ハンヒェンと糸紡ぎの少女達の歌が付加されている。また，第２幕第13場ではシュヴィマーのアリアが省略されている。その他，いくつかの部分で多少台詞が変更されている。

この台本には，台本作家の名前も作曲家の名前も記されていない。また，1791年に「暗中模索」が上演された記録は残っていない。上述のように，内容に変化が加えられている点から，(一部に）別の音楽が付けられて上演された可能性もある。

(6) 作曲と上演に関するドキュメント

シェンクの自伝には，この作品の作曲について次のように記されている。

「1787年には，ケルントナートア脇の宮廷劇場のためにジングシュピール『暗中模索』を作曲した。この作品は10月17日に初演された。初演の前に，私はそれまで二年間秘密にしていたこと，すなわち，先に述べた二作のジングシュピール〔#2「ぶどう摘み」（1785年）と#3「田舎のクリスマス」（1786年）〕が自分の作であることを公表した。」(Schenk, J.B. 1830N: 79)　しかし，自伝に記された初演日は，上記(2) に挙げたちらしの記述からみて，おそらく誤りと推測される。

『1788年のウィーン国立劇場年報』には，初演における配役（上記(2) を参照）のほかに，この作品に関して以下のような厳しい批評が記されている。「この作品の音楽は，レオポルトシュタット劇場で上演された『ぶどう摘み』の作曲者，シェンクの作と言われている。しかし，それが本当だとすれば，『ぶどう摘み』の方がこの作品よりずっとよく出来ていると言えよう。このオペラには，確かに美しい旋律が多々みられるが，着想の自由さ，思いがけない展開，大胆な精神的高揚といったものが殆どない。独創性についても同様である。作曲家は，おそらく自分の意志に反して，イタリアの巨匠の作品を何曲か模範にし，それとわかるほどまでに模倣したものと思われる。」(Kunz s.d.)

1787年 4月 7日から1788年 2月末までの『オーストリア・ハンガリー帝国最高劇場管理部会計報告』("K. K. oberste theatral Direktions Rechnung")には，この作品の作曲報酬として 225グルデンがシェンクに支払われたことが，次のように記録されている。「第171号　オペラ『暗中模索』の音楽作曲に対し，ヨハン・シェンクに / 225〔グルデン〕」(A-Wsta Hoftheater Sonderreihe 24: 61)

また，同会計報告の次のページには，宮廷劇場コピスト，ヴェンツェル・スコヴァティに対する次のような報酬支払い記録があるが，これは，この作品のスコヴァティによる筆写譜（楽譜資料Ｂ１）の作成に関係している可能性がある。

「楽譜筆写に対し，ヴェンツェル・スコヴァティに（中略）

ドイツ語ジングシュピール	/ 249. -	〔グルデン〕
同	/ 70.42	〔グルデン〕
同	/ 131.90	〔グルデン〕
同	/ 61. -	〔グルデン〕

(A-Wsta Hoftheater Sopnderreihe 24: 62)

#5 “Das unvermuthete Seefest”
「思いがけない海の祝祭」（1789年）

(1) 作曲年と根拠: 1789年（自筆譜A1のタイトルページに記入されている）

(2) 上演記録

ドイチュによれば，1789年12月9日にフライハウス（ヴィーデン）劇場で初演された。(Deutsch 1937: 31) その後の再演記録は判明していない。

(3) 作品の構成と主題

登場人物: クーニグンデ (Kunigunde)〔ソプラノ〕

ロゼッテ (Rosette)，クーニグンデの姪〔ソプラノ〕

市長ヴァルブッシュ (Wallbusch)〔バス〕

書記シュタイルベルク (Steilberg)〔テノール〕

シュヴィマー (Schwimmer)〔テノール〕

ハンヒェン (Hannchen)， クーニグンデの召使〔ソプラノ〕

船長，市長の兄（または弟）〔バス〕

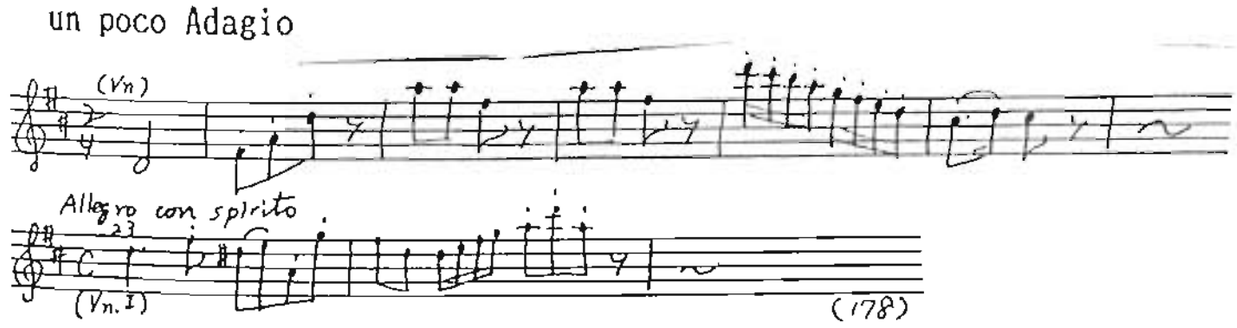
ルンペル (Rumpel)〔バス〕

庭師／結婚式の客／合唱〔ソプラノ・アルト・テノール・バス〕

音楽隊

序曲 (Str, 2Fl, 2Ob, 2Kl, 2Fg, 2Hr, 2Tp, Pk) 楽譜資料A1

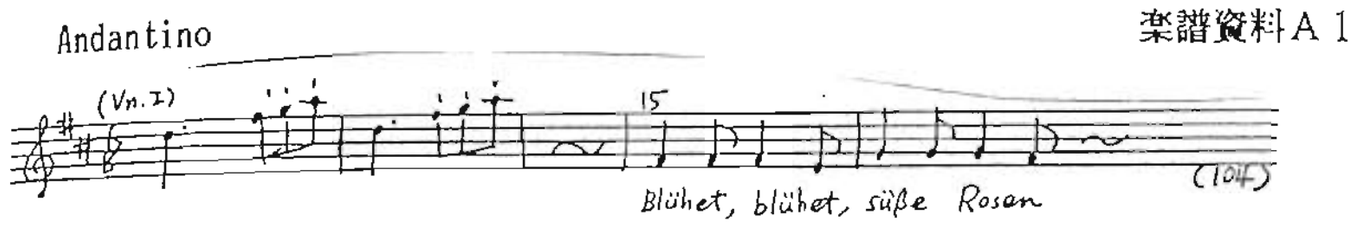
un poco Adagio



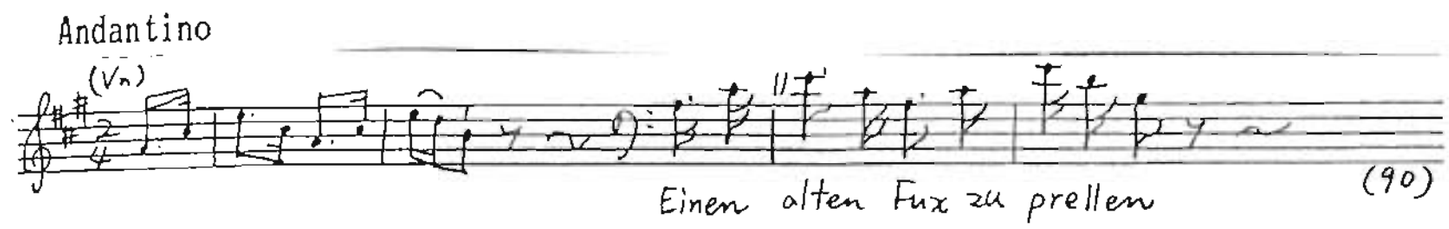
第１幕

No.1　庭師の合唱（ソプラノ・アルト・テノール・バス，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）

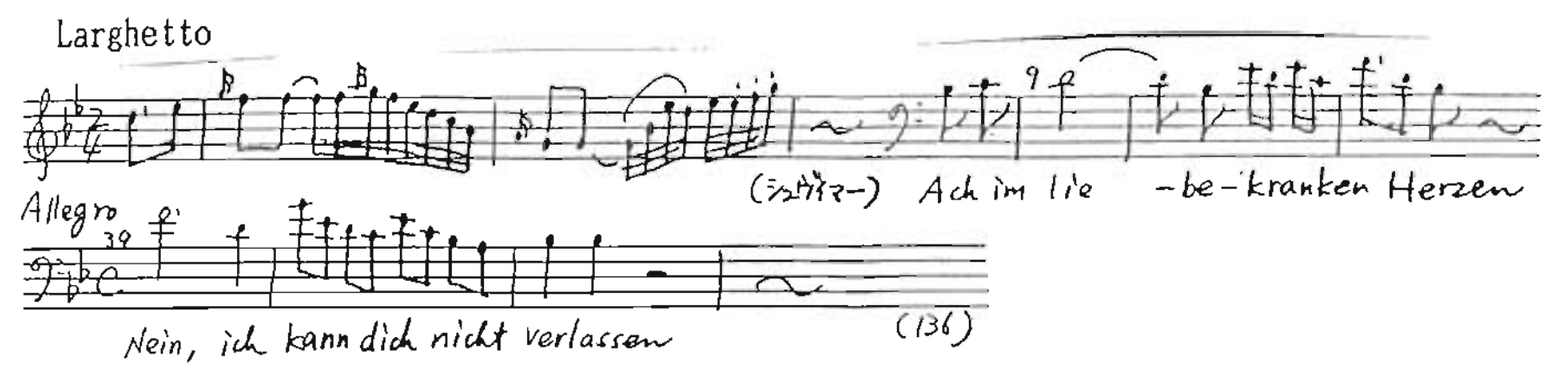
楽譜資料Ａ１



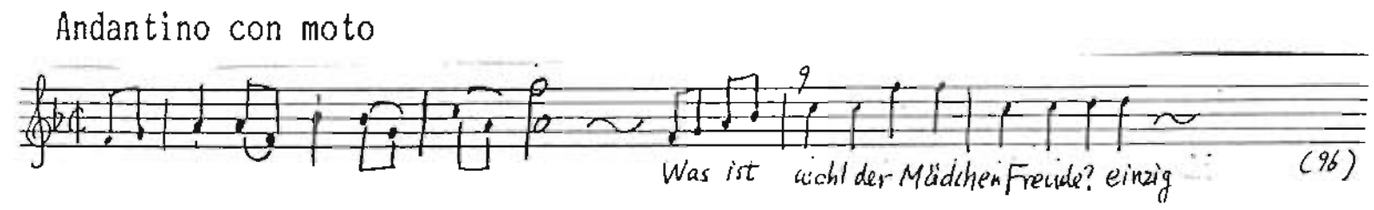
No.2　アリア（シュタイルベルク，Str，2Ob，2Hr）　楽譜資料Ａ１



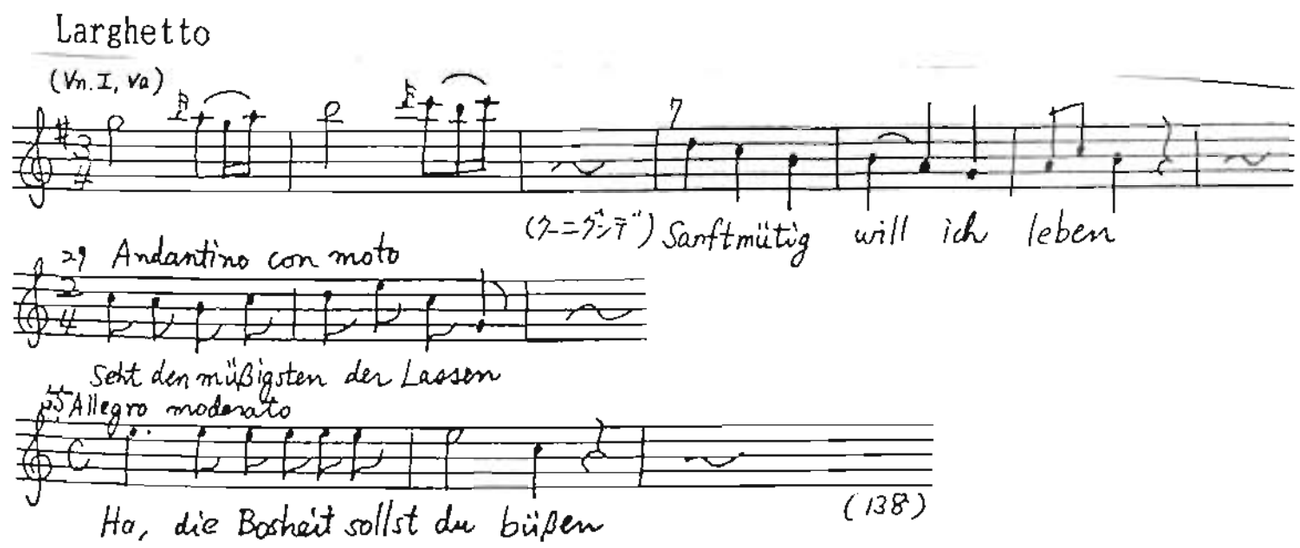
No.3　二重唱（ロゼッテ，シュヴィマー，Str，2Ob，2Hr）　楽譜資料Ａ１



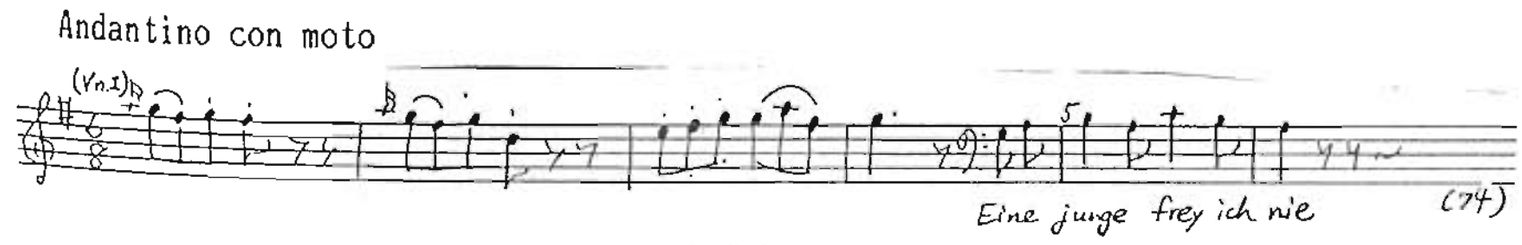
No.4　アリア（ハンヒェン，Str，1Fl，2Ob）　楽譜資料Ａ１



No.5　二重唱（クーニグンデ，ハンヒェン，Str，2Fl，2Ob，2Fg）　楽譜資料Ａ１

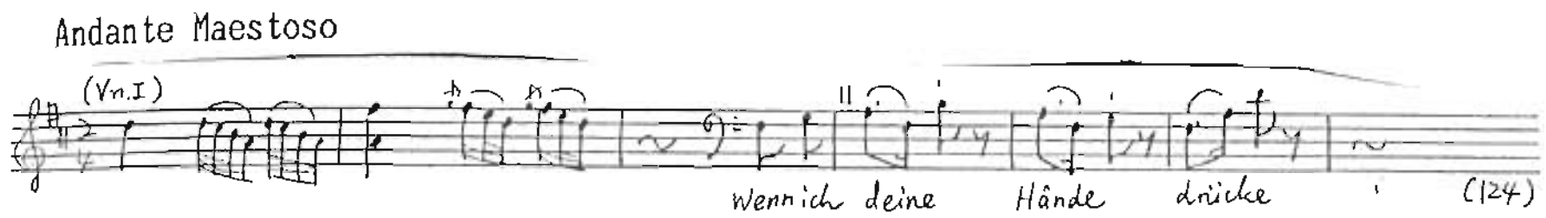


No.6　アリア（シュタイルベルク，Str，2Fl，2Hr）　楽譜資料Ａ１

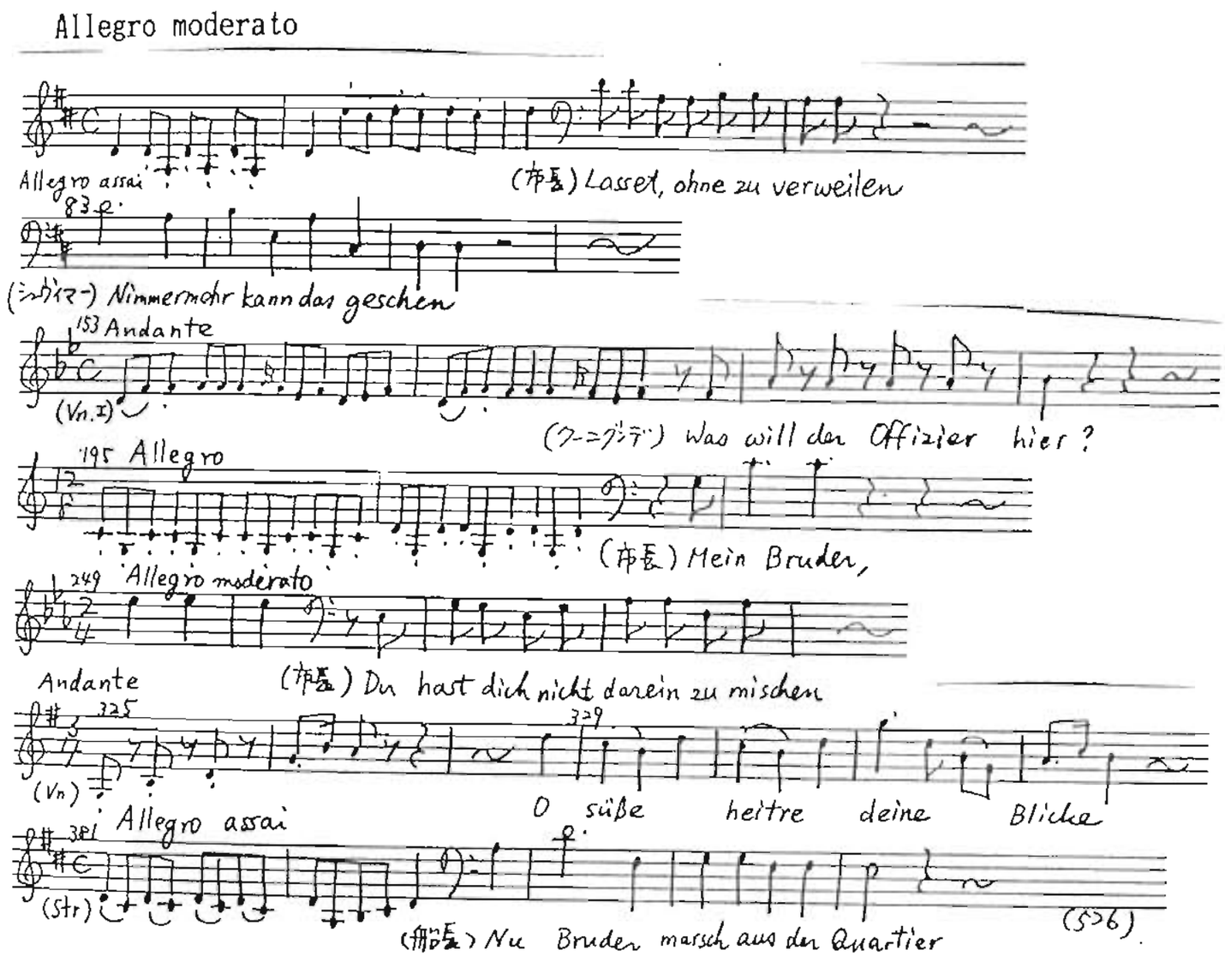


No.7 消失

No.8 アリア（市長，Str，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１

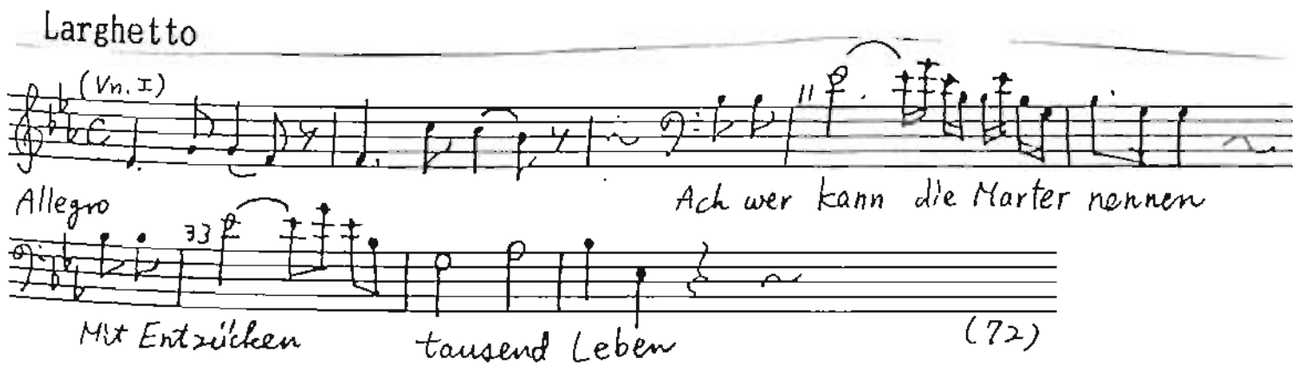


No.9 フィナーレ（ロゼッテ，クーニグンデ，シュヴィマー，シュタイルベルク，市長，船長，ハンヒェン，シャック？，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１



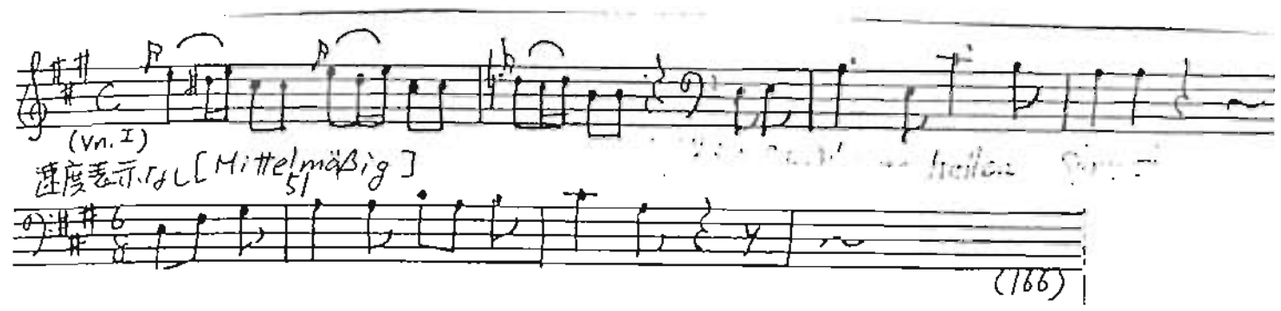
第２幕

No.10 アリア（シュヴィマー，Str，2Kl，2Hr）　楽譜資料Ａ１



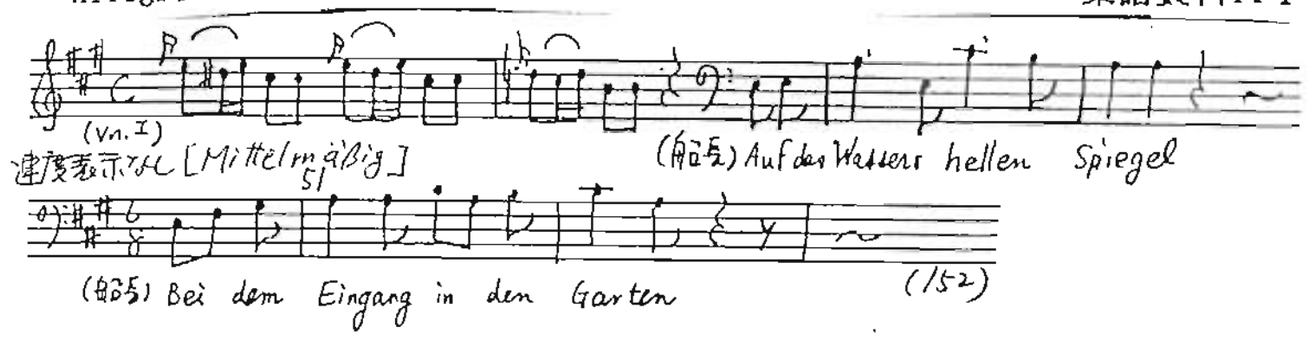
No.11 〔第１稿〕三重唱（ロゼッテ，シュヴィマー，船長，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）

Allegro　　楽譜資料Ａ１



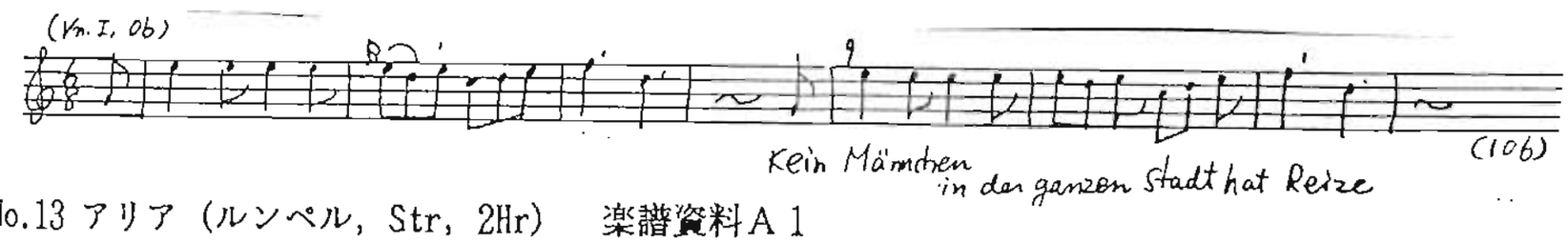
No.11 〔第２稿〕三重唱（ロゼッテ，シュヴィマー，船長，Str，2Fl，2Kl，2Fg）

Allegro　　楽譜資料Ａ１



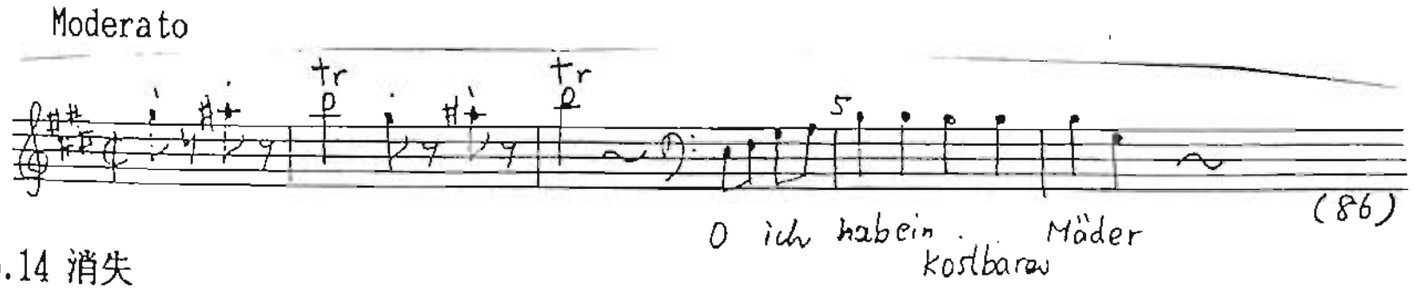
No.12 ロンド（ハンヒェン，Str，1Fl，1Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１

Andantino con moto



No.13 アリア（ルンペル，Str，2Hr）　楽譜資料Ａ１

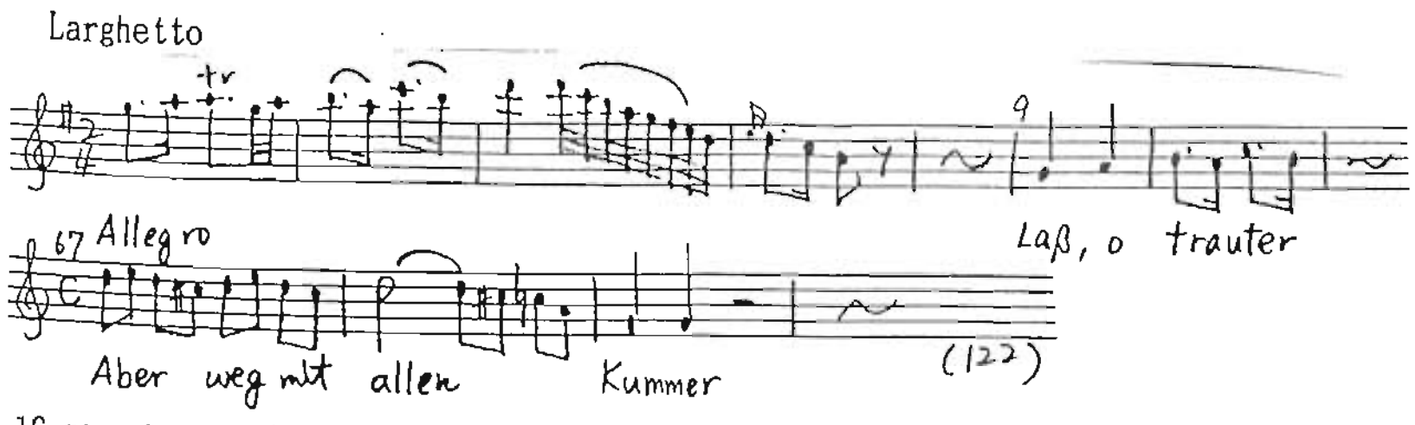
Moderato



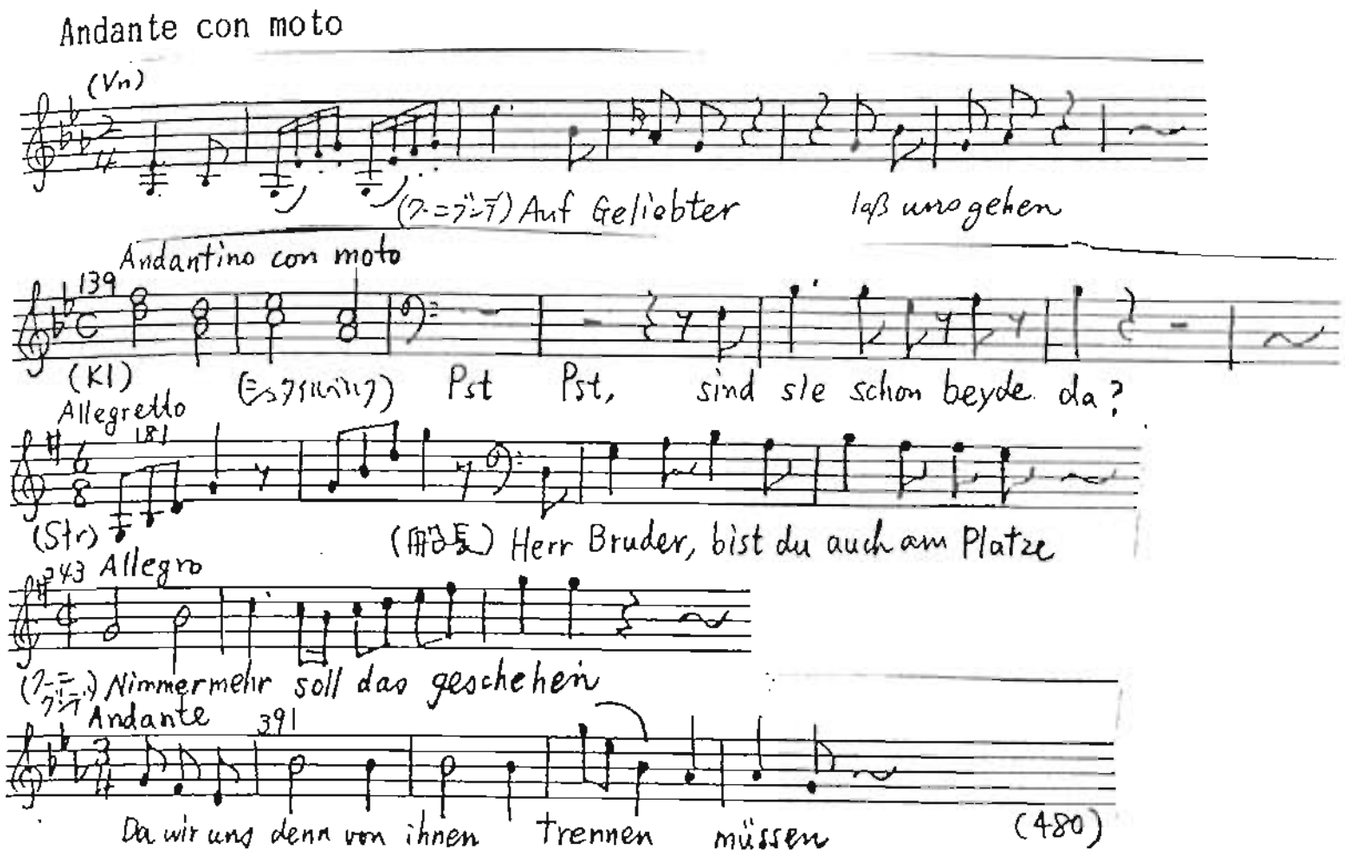
No.14 消失

No.15 アリア（ロゼッテ，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１

Larghetto

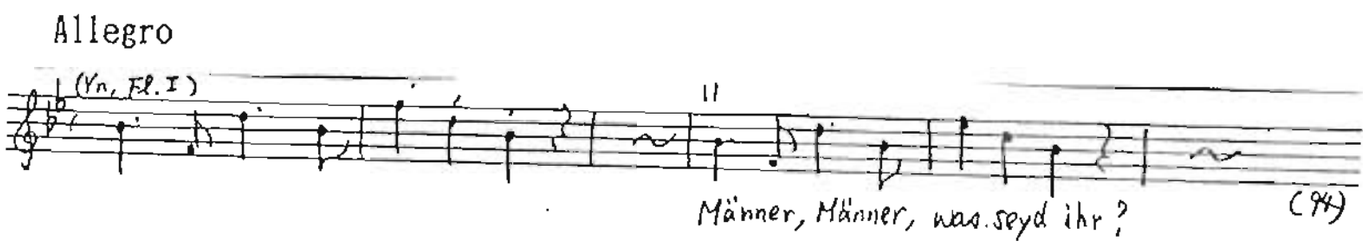


No.16 フィナーレ（ロゼッテ，クーニグンデ，シュヴィマー，市長，シュタイルベルク，船長，Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１

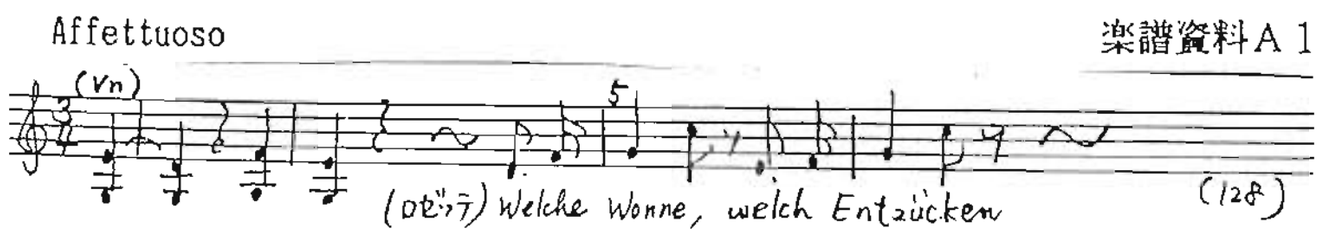


第３幕

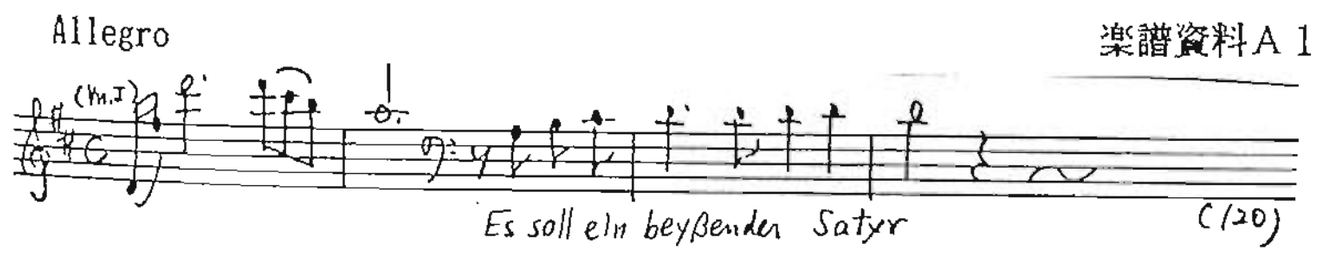
No.17 アリア（クーニグンデ，Str，1Fl，2Ob，2Fg）　楽譜資料Ａ１



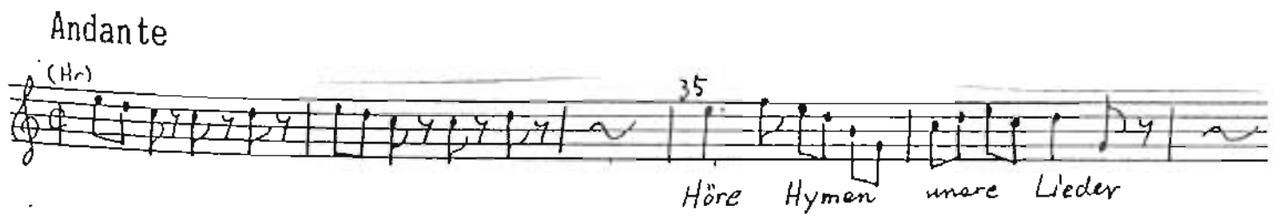
No.18 三重唱（ロゼッテ，シュヴィマー，船長，Str，2Fl，2Kl，2Hr）

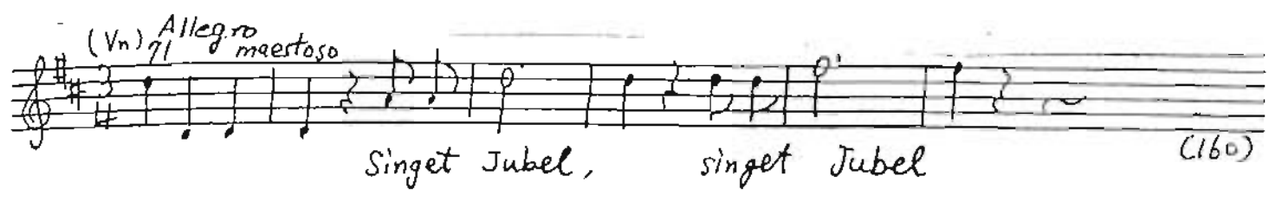


No.19 アリア（船長，Str，2Pik，2Ob，2Hr，2Tp，Pk，小太鼓）



No.20 合唱（ソプラノ・アルト・テノール・バス，Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr，2Tp，Pk）　楽譜資料Ａ１





(4) 楽譜資料

A 1　No.7とNo.14 の欠落したTeilautograph （筆写譜が混じった自筆譜）

A-Wgm Aut Schenk 13　(IV 17612)

第3幕の楽譜8枚(f.187～194)は，筆写譜である。

横長判（縦約23cm×横約32cm)，12段と16段の五線紙で，端は切り揃えられていない。大理石模様の厚紙表紙で1冊に製本されている。厚紙表紙のタイトルは，“Das unvermuthete/ Seefest/ Oper，1789.”で，青いボールペンでウィーン楽友協会の所蔵番号“⑫”が付記されている。厚紙表紙の内側には，#5「暗中模索」（1787年）の自筆スコアA 1と同様に，赤鉛筆により，次のような筆者不明の注記がある。「このスコアは，ウィーン楽友協会に自筆譜が所蔵されているジングシュピール『暗中模索』（1787年）を，編曲（拡大，或いは縮小）したものである。」(“Diese Partitur ist eine Bearbeitung und/ Erweiterung resp. Zusammenfassung d. Singspiels “Im Finstern/ ist nicht gut tappen“ 1787/ Autograph im Besitz des G.d.M.”.　その下に鉛筆で小さく，“aufgeführt 1789 im alten Theater auf der Wieden.”と書かれ，さらにその下に鉛筆で“Im Finstern ist nicht gut tappen. Text von Leopold Hiesberger (1758～1845)./ Text gedruckt 1787 (Hiesberger) u. 1791 (anonym.)”　と記されている。

製本されているが，綴じられた上下の部分から紙の組み合わせ方を知ることが可能である。各曲の規模に合わせ，必要な数のドッペルボーゲンを組み合わせてラーゲが形成されている。シェンクは，各曲ごとにラーゲとページ番号を改めている。

第1幕は109 枚，第2幕は61枚，第3幕は42枚の五線紙を使用。合計212 枚で，記入ページ419 ページ，空白ページは5ページ（f.19v，26v，51v，80v，145v）である。

タイトルページには，シェンクとは異なる筆跡でタイトル“Das unvermuthete/ Seefest/ Oper 3 Akten.”が記され，右上には別の筆跡で，ウィーン楽友協会の所蔵番号“Ⅳ 17612”が記されている。タイトルの下にはアロイス・フックスの筆跡で“Partitura Autographa”と記され，また左下には自筆で“Di Schenk/ 1789”と書かれている。

用いられている紙は，Wz#21（16段)，Wz#30とWz#4（いずれも12段）の3種類であ

る。第8，10，12ラーゲでは，Wz#30とWz#4が混合して用いられている。しかし，筆跡の点でも音楽的な面からも，これは後からのさしかえによるものとは考えられない。これに対して，No.3の第6ラーゲは，明らかに筆跡が変わっており，音楽的に，原曲の#4「暗中模索」（1787年）のNo.5とは異なった内容に変えられた部分に当たるため，後からのさしかえである可能性がある。また，No.6のf.56も，筆跡の変化は明瞭ではないが，やはり原曲の#4「暗中模索」（1787年）のNo.7〔第2稿〕とは異なった内容に変えられた部分に当たり，後にさしかえられたものである可能性がある。No.5においては，筆跡の変化している部分（細いペンを使用：S.3-6，9-16）と紙の変化している部分が一致しない。

ラーゲ	フォリオ	内容	ページ番号	紙
1-2	1r	タイトル		Wz#30
	1v ～12	序曲	1は欠，2 ～23	
3	13～19r	No.1	1～13	Wz#4
	19v	空白		
4	20～26r	No.2	1は欠，2 ～13	Wz#4
	26v	空白		
5	27～29	No.3.	1は欠，2 ～6	Wz#30
6	30～34		7～16	Wz#4
7	35～41	No.4	1は欠，2 ～14	Wz#30
8	42	No.5	1～2	Wz#4
	43～44		3～6	Wz#30
	45		7～8	Wz#4
	46～51r		9～19	Wz#30
	51v	空白		
9	52～55	No.6	1は欠，2 ～8	Wz#4
	56		9～10	Wz#30
	57	スケッチx		Wz#21
10	58～61	No.8	1は欠，2 ～8	Wz#4
	62		9～10	Wz#30
	63～66		11～18	Wz#4
11	67～74	〔No.11 第1稿〕	1は欠，2 ～16	Wz#4

12	75～76		17～20	Wz#30
	77	スケッチｙ		Wz# 4
	78	〔No.11 第１稿〕	21～22	Wz# 4
	79～80r		23～25	Wz#30
	80v	空白		
13-16	81～109	No.9	1は欠，2 ～58	Wz#21
17	110 ～115	No.10	1は欠，2 ～12	Wz#30
18-19	116 ～126	No.11 〔第２稿〕	1～22	Wz#30
20	127 ～133	No.12	1は欠，2 ～14	Wz#30
21	134 ～136	No.13	1は欠，2 ～6	Wz#30
22	137 ～ 145r	No.15	1は欠，2 ～16(3: 重複)	Wz#30
	145v	空白		
23-25	146 ～170	No.16	1，2は欠，3 ～50	Wz#21
26	171 ～178	No.17	1は欠，2 ～16	Wz#30
27	179 ～186	No.18	1は欠，2 ～16	Wz#30
28	187 ～194	No.18 (Ms)	1～16	Wz#30
29	195 ～202	No.19	1は欠，2 ～16	Wz#30
30-31	203 ～212	No.20	1は欠，2 ～20	Wz#21

f.57のスケッチｘは，#1「宝掘り」（1780年）の中のNo.3（ジーモンのアリア）を編曲したものである。f.77に書かれたスケッチｙの内容は，照合できない。

Ａ１における稿と曲番号

No.11 には二つの稿があり，いずれも，#4「暗中模索」（1787年）のNo.12 を編曲して作られている。 f.67-76とf.78-80 に書かれている〔No.11 第１稿〕は，３部分構成の第１部分の構造が#4「暗中模索」のNo.12 と一致している。これに対して， No.11〔第２稿〕(f.116- 126)ではこの部分の構造が異なっている。また， No.11〔第２稿〕は，曲全体が清書されているのに対し，〔No.11 第１稿〕では歌詞と管楽器パートが書き込まれていないため，スケッチ，或いは書きかけて中断した楽譜のような印象を受ける。

Ａ１におけるコピスト

第28ラーゲの筆写譜は，No.18 の自筆部分（第27ラーゲ）と同じ内容であり，自筆部分と同じ紙にKp#10の筆跡で書かれている。

その他，各曲のタイトルは，Kp#11の筆跡で補足されている。Kp#11は，#3「田舎のクリスマス」（1786年）のTeilautograph(楽譜資料Ａ１）においても，自筆譜を補足・修正する役割を果たしている。

(5) 台本 .... 現存していない。

Teilautograph Ａ１の表紙内側に注記されているとおり，この作品は前作 #4 「暗中模索」（1787年）を基に編曲されたものである。Teilautograph Ａ１によれば，#4「暗中模索」（1787年）の登場人物に，船長とルンペルの２人が加わっている。ローゼンフェルト＝レーマーは，フライハウス（ヴィーデン）劇場での上演に合わせて，#4「暗中模索」（1787年）を改作，および改題したものと推測している。(Rosenfeld-Roemer 1921: 71)

(6) 作曲と上演に関するドキュメント

シェンクの自伝には，この作品の作曲について次のように記されている。

「シュタルヘンベルク侯爵のフライハウスに作られたヴィーデン劇場のために，私は三曲のオペラを作曲した。第一作は『思いがけない海の祝祭』で1789年に，第二作は『題名のないジングシュピール』で1790年に，そして第三作は『収穫祭の冠』で1791年に作曲した。このうち二作は喝采をもって受け入れられたが，『題名のないジングシュピール』は５～６回しか上演されなかった。」(Schenk, J.B. 1830N: 80)

『1794年のウィーン演劇年報』には，シェンクがフライハウス劇場のために作曲した３つの作品について，以下のような評価が記されている。

「シカネーダーの劇団は，この作曲家のオペラを三曲上演した。『思いがけない海の祝祭』，『題名のないジングシュピール』，そして『収穫祭の冠』である。この３曲は，マリネッリの劇場で上演された前２作と同様，専門家の賞賛を受けたが，あまり人気を得ることができなかった。このことは，評判が上がるかどうかが作曲家の責任ではなく，俳優の問題であることを証明している。本当のことかどうかはわからないが，シカネーダーは，自作の台本でないオペラを軽視して，成功への努力を怠っていると噂されている。」(Sonnleithner 1794: 185)

#6 “Das Singspiel ohne Titel”
「題名のないジングシュピール」（1790年）

(1) 作曲年と根拠: 1790年（自筆スコアA1のタイトルページに記入されている）

(2) 上演記録:

ドイチュによれば，1790年11月4日？にフライハウス（ヴィーデン）劇場で初演された。(Deutsch 1937: 32) その後の再演記録は判明していない。

(3) 作品の構成と主題

登場人物: スミルナの裁判官（Kadi）〔バス〕

ツァイーレ（Zaire）〔ソプラノ〕

ロクサーネ（Roxane）〔ソプラノ〕

ズースヒェン（Suschen）〔ソプラノ〕

カレプ（Kaleb）〔テノール〕

ドイツの船長〔テノール〕

イギリスの海軍士官

フランス人

舞踊教師〔テノール〕

剣術教師〔バス〕

床屋〔テノール〕

シュス（Schuß）〔バス〕

船員〔テノール・バス〕

トルコ人〔ソプラノ・アルト・テノール・バス〕

中国人

ペルシャ人

ギニア人

トゥングース人

モロッコ人

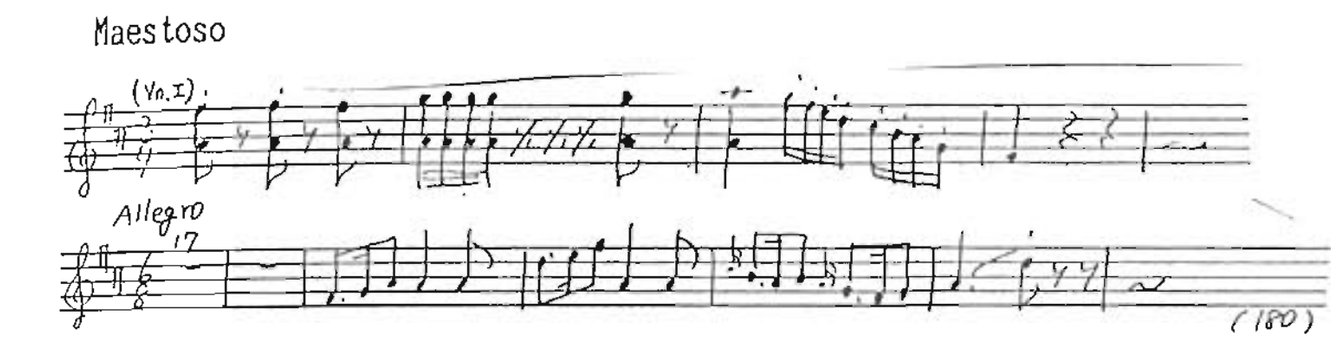
日本人

アルメニア人

ユダヤ人

ベンガル人

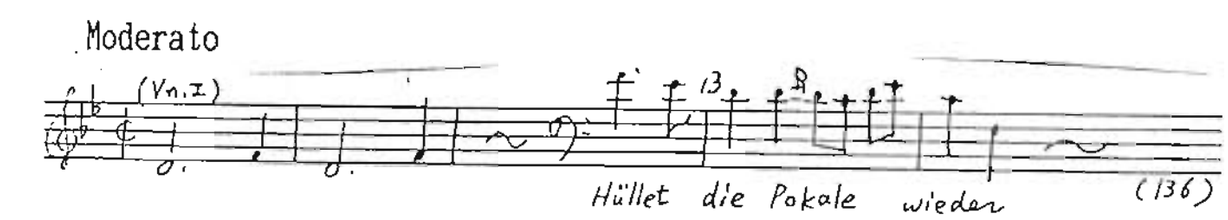
序曲（Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr，2Tp，Pk）　楽譜資料Ａ１，Ａ２



第１幕

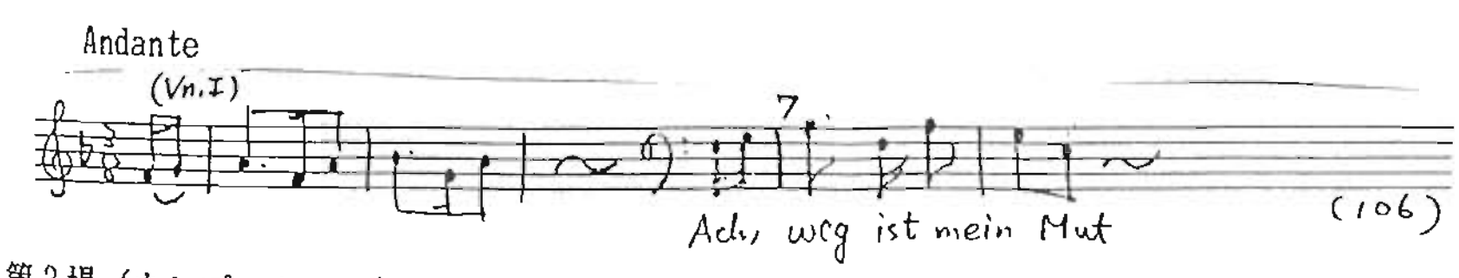
第１場（船長室：船長，船員）

No.1　合唱（船長，船員，Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ａ２



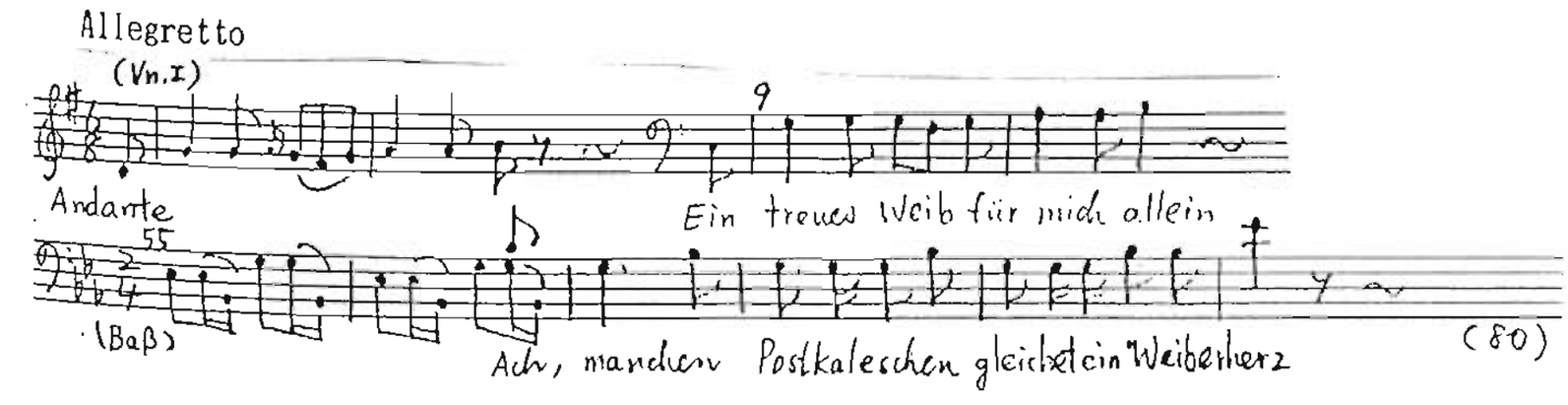
第２場（シュス，船長）

No.2　アリア（船長，Str，2Kl，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ａ２



第３場（カレプ，シュス）

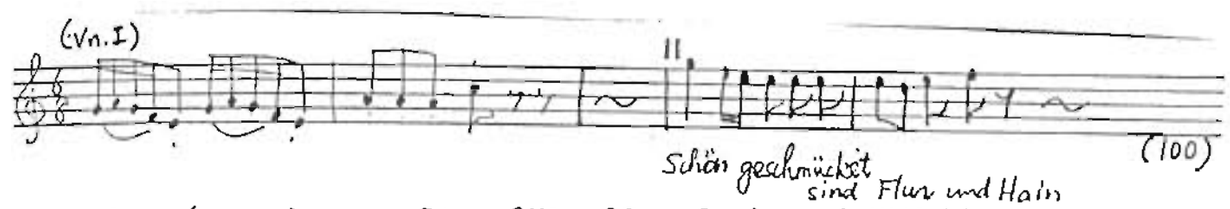
No.3　アリア（シュス，Str，2Ob）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１



第4場（裁判官の屋敷の庭：ツァイーレ，ズースヒェン，ロクサーネ，その他のトルコ女性）

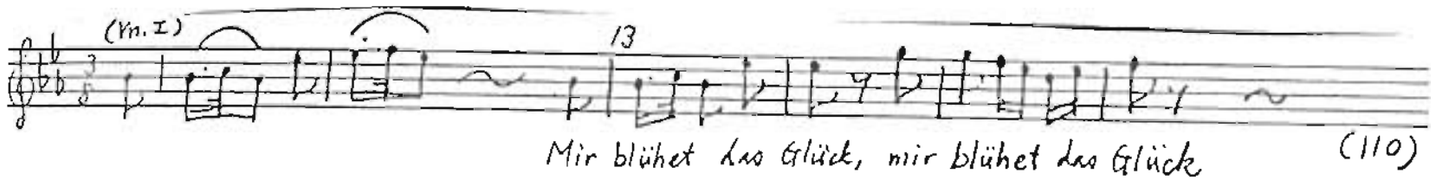
No.4　合唱（ツァイーレ，ズースヒェン，ロクサーネ，その他のトルコ女性〔ソプラノ2部〕，Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ａ２

Andantino con moto



No.5　アリア（ツァイーレ，Str，2Kl，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ａ２

Andantino

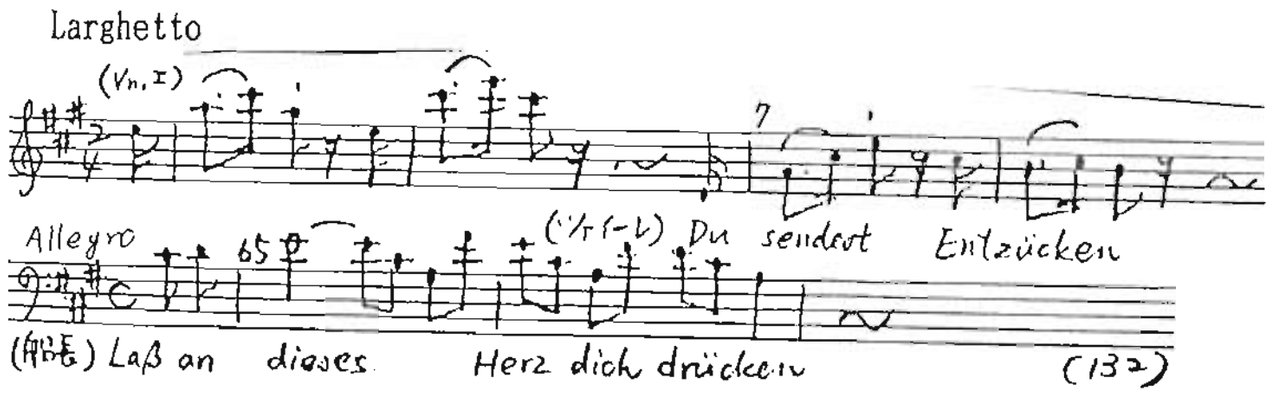


第5場（カレブ，船長，シュス，ツァイーレ）

第6場（ツァイーレ，船長）

No.6　三重唱（ツァイーレ，ロクサーネ，船長，Str，2Fl，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ａ２

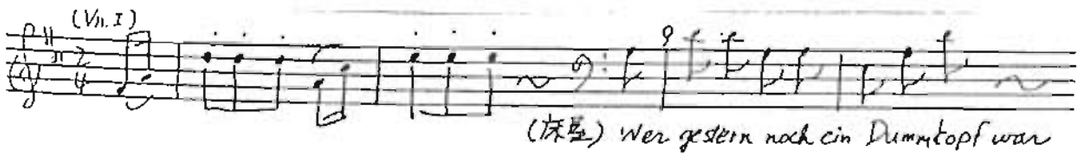
Larghetto



No.7　フィナーレ（以下，編成は場ごとに示す）楽譜資料Ａ１，Ａ２

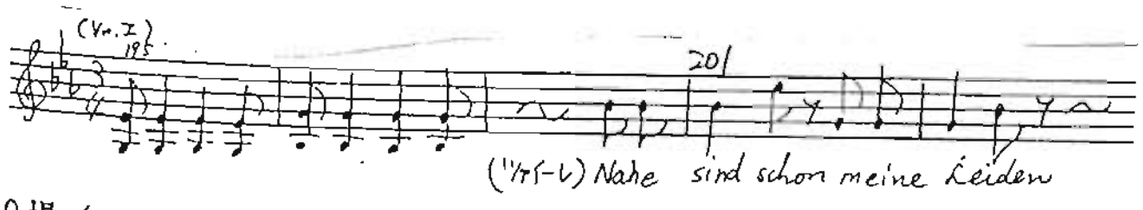
第7場（カレブ，床屋，舞踊教師，剣術教師，Str，2Ob，2Fg，2Hr）

Allegretto



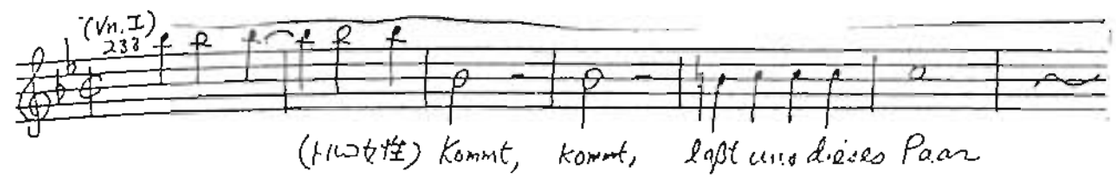
第8場（ツァイーレ，船長，Str，2Kl，2Fg）

Andante

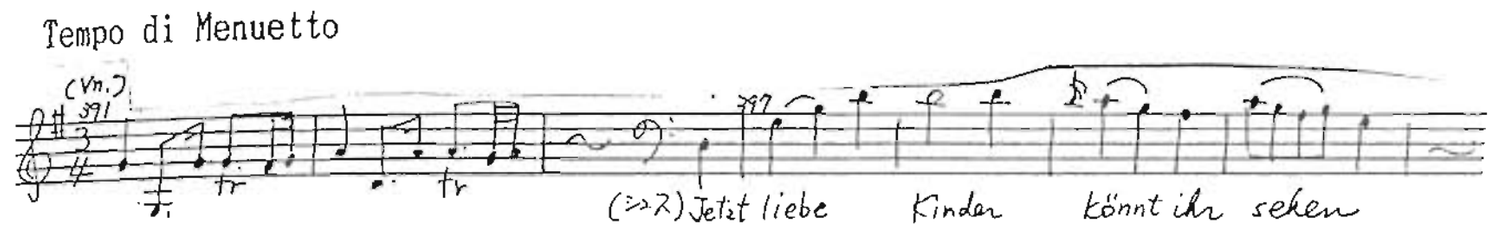


第9場（ツァイーレ，船長，トルコ女性達〔ソプラノ〕，Str，2Fl，2Kl，2Fg）

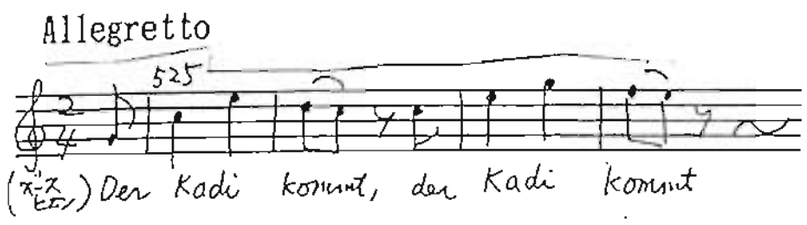
Allegro moderato



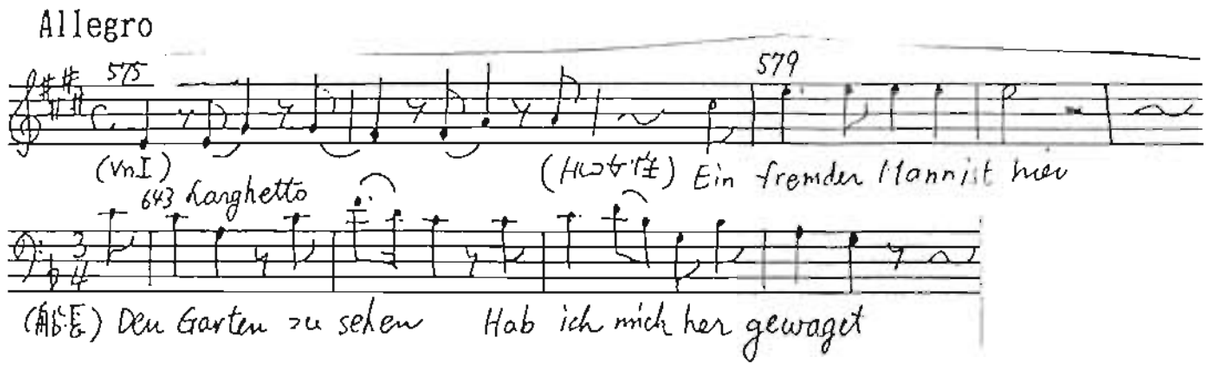
第10場（シュス，カレブ，前場の人々，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）



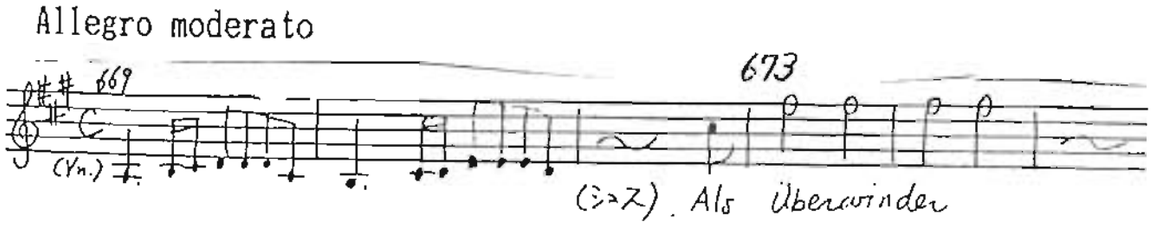
第11場（ズースヒェン，前場の人々，Str，2Fl，2Ob，2Tp）



第12場（前出の人々，裁判官，トルコ人３人〔テノール〕，ロクサーネ，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）



第13場（シュス，前場の人々，Str，2Ob，2Fg，2Hr）



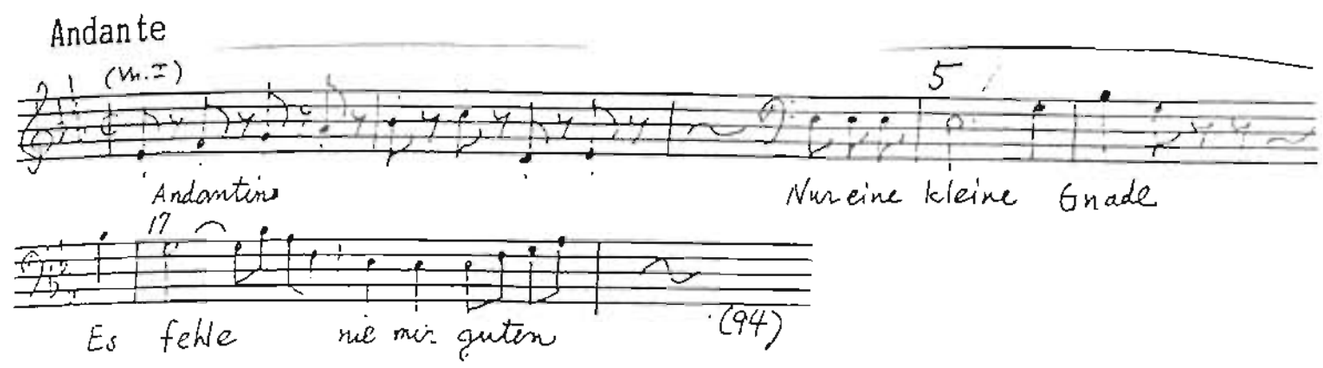
第14場（シュス，床屋，舞踊教師，剣術教師，船員〔バス〕，前出の人々，Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr，2Tp，Pk）

第２幕

第１場（小路：シュス，船長）

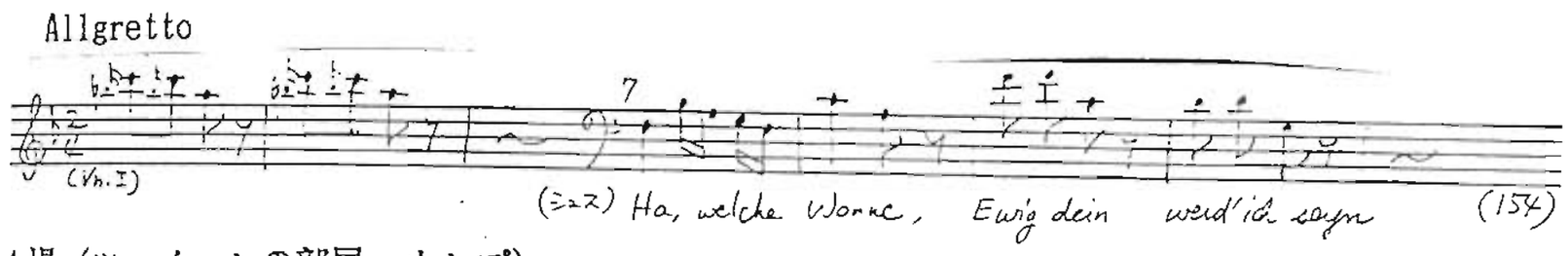
第２場（イギリスの海軍士官，フランスの伊達男，シュス）

No.8 アリア（シュス，Str，2Kl，2Hr） 楽譜資料Ａ１，Ａ２



第３場（ズースヒェン，シュス）

No.9 二重唱（ズースヒェン，シュス，Str，2Ob，2Fg，2Hr） 楽譜資料Ａ１，Ａ２



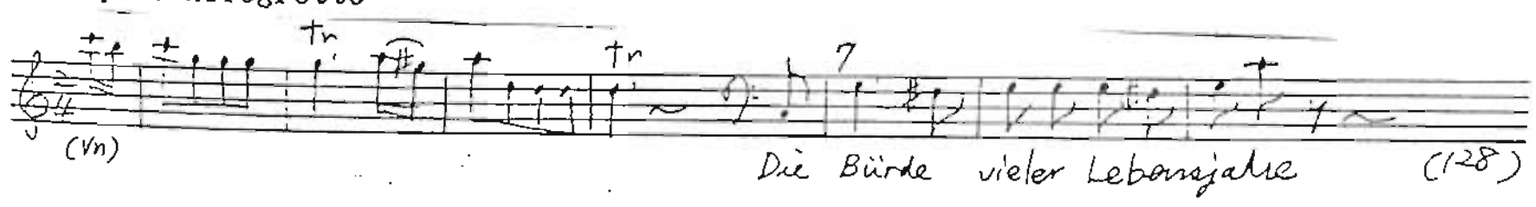
第４場（ツァイーレの部屋：カレプ）

第５場（ツァイーレ，カレプ）

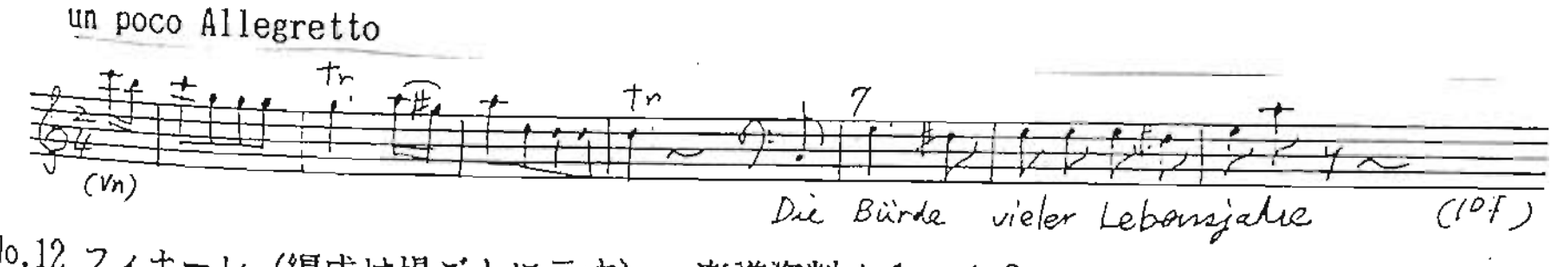
No.10 アリア（ツァイーレ，Str，2Fl，2Fg，2Hr） 楽譜資料Ａ１，Ａ２

第６場（船長，ツァイーレ，カレプ）

No.11 〔第１稿〕アリア（カレプ，Str，1Pik，1Fl，2Hr，2Tp，Pk，シンバル，大太鼓，トライアングル）楽譜資料Ａ１



No.11 〔第２稿〕アリア（カレプ，Str，1Pik，1Fl，2Hr，2Tp，Pk，シンバル，大太鼓，トライアングル）楽譜資料Ａ２

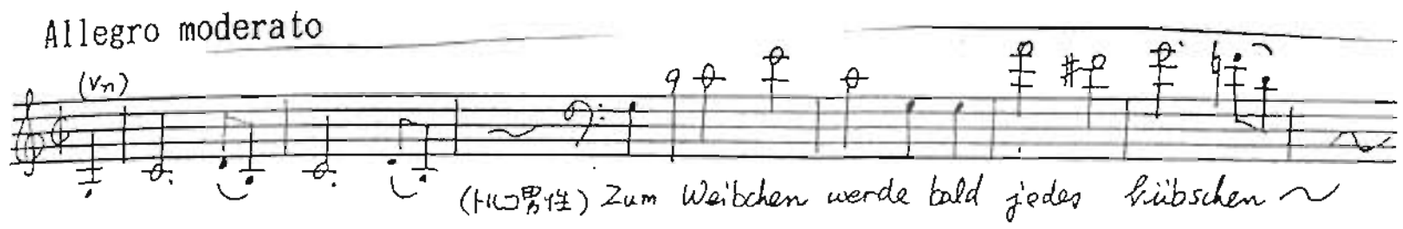


No.12 フィナーレ（編成は場ごとに示す） 楽譜資料Ａ１，Ａ２

第７場（裁判官の屋敷の庭の別の一角：ツァイーレ，ズースヒェン，ロクサーネ，その他

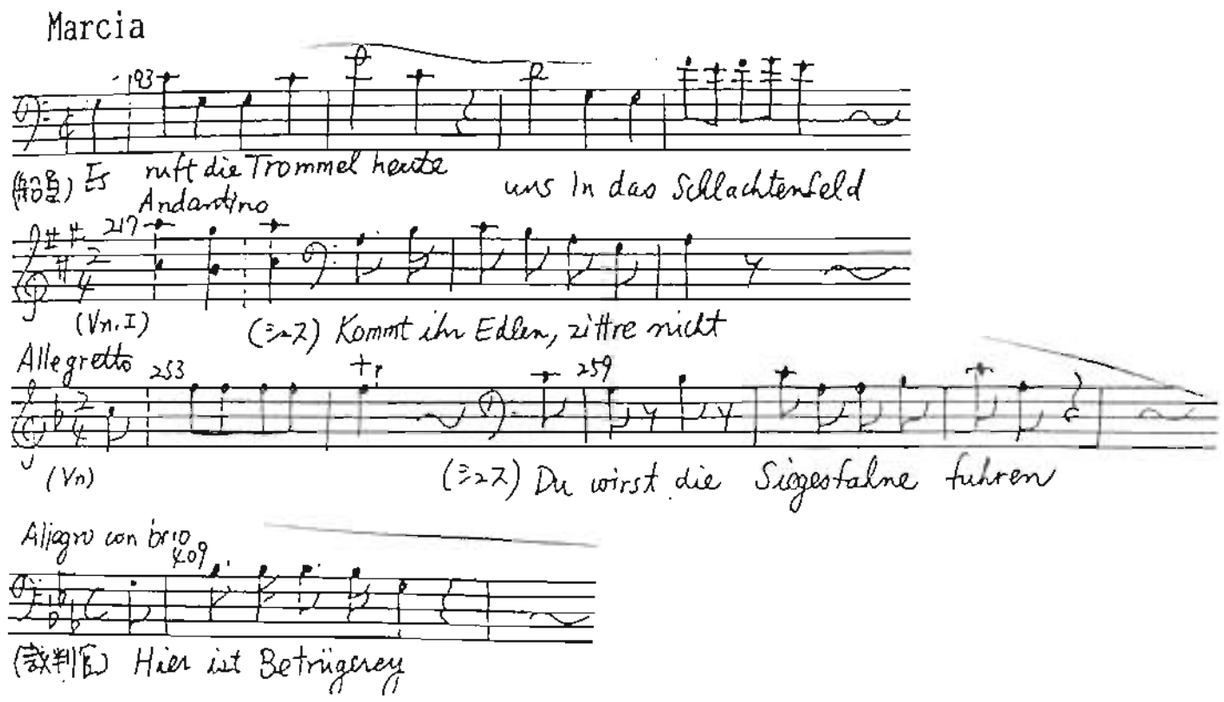
のトルコ女性〔ソプラノ・アルト〕，シュス，裁判官，トルコ人達〔テノール・バス〕，

Str，1Pik，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr，2Tp，Pk，　シンバル，大太鼓，トライアングル)

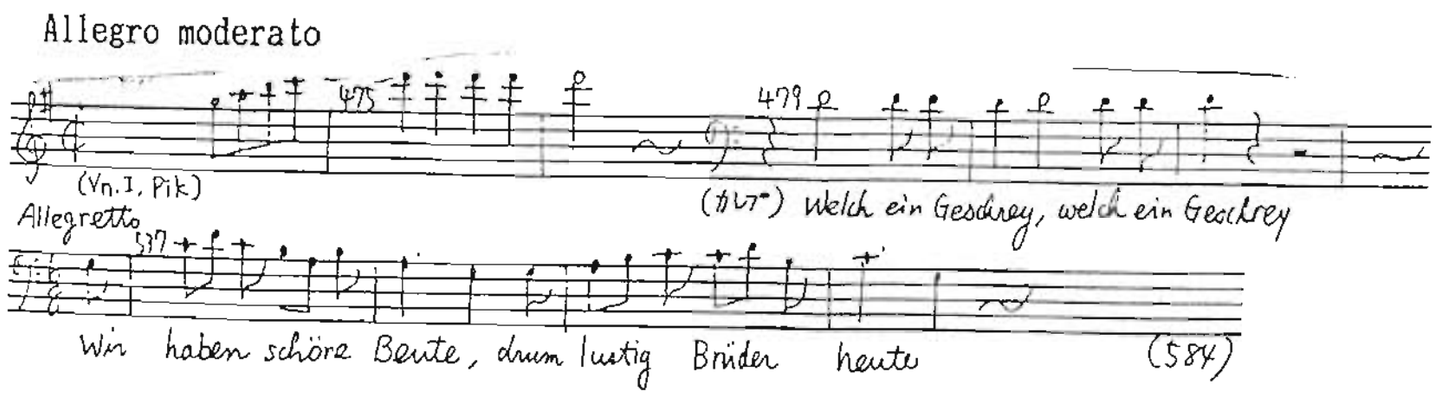


第8場（前場の人々，船員〔テノール・バス〕，兵士の服を着た船長，Str，2Fl，2Ob，

2Kl，2Fg，2Hr，2Tp，Pk，　シンバル，大太鼓，トライアングル)



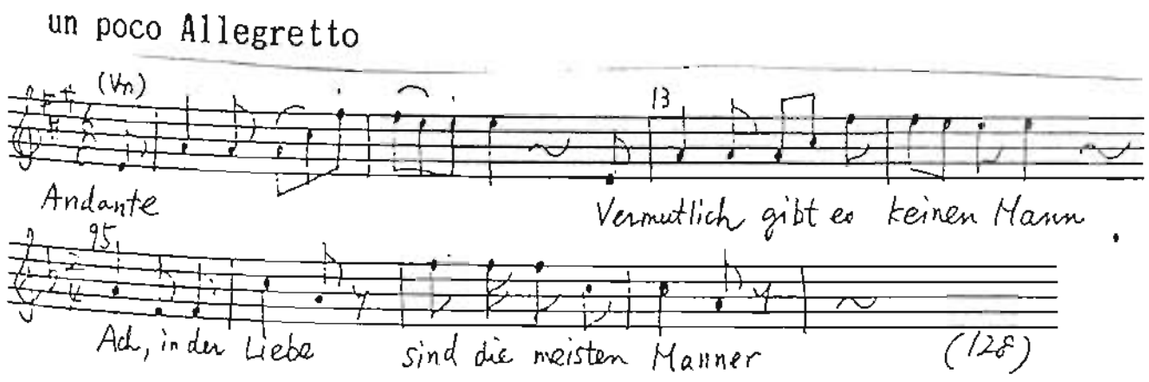
第9場（カレプ，船員〔テノール・バス〕，Str，1Pik，2Ob)



第3幕

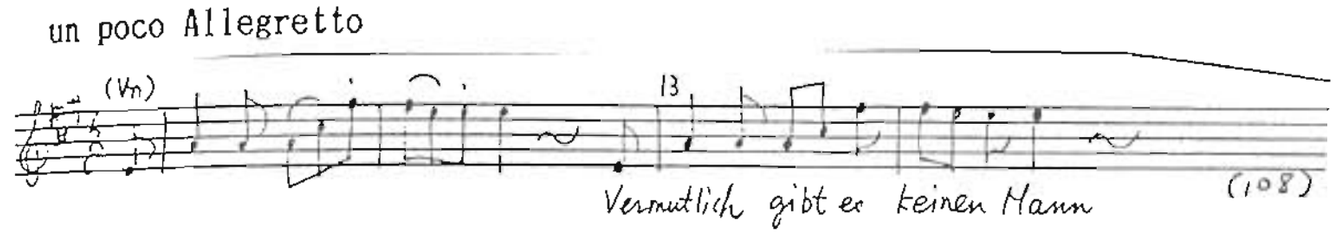
第1場（裁判官の部屋：裁判官，ロクサーネ)

No.13〔第1稿〕アリア（ロクサーネ，Str，2Fl，2Fg)　楽譜資料A1



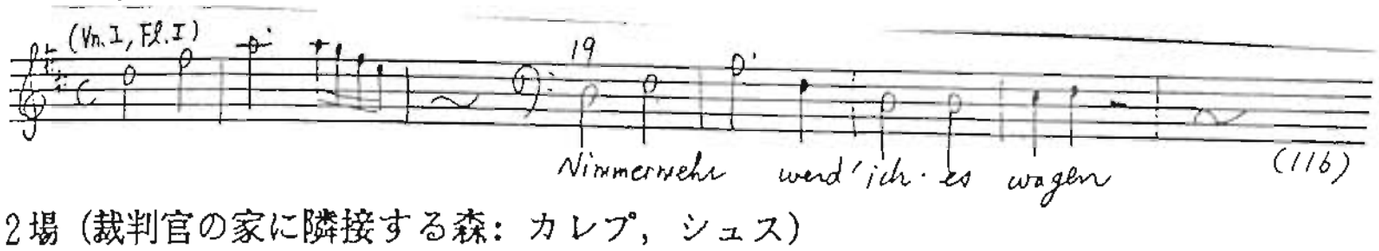
No.13 〔第2稿〕アリア（ロクサーネ，Str，2Fl，2Fg） 楽譜資料Ａ２

un poco Allegretto



No.14 アリア（裁判官，Str，2Fl，2Fg，2Tp，Pk） 楽譜資料Ａ１，Ａ２

Allegro con spirito



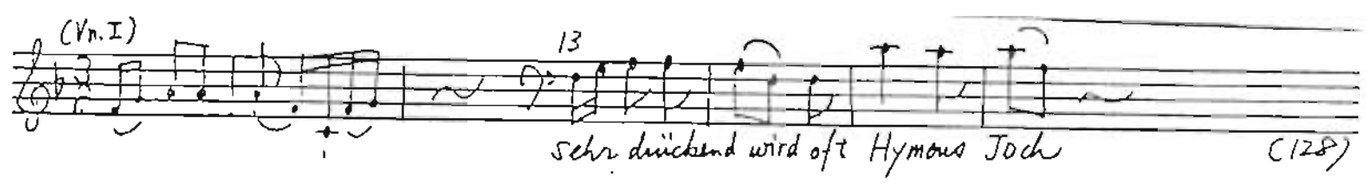
第2場（裁判官の家に隣接する森：カレプ，シュス）

第3場（ズースヒェン，シュス）

第4場（カレプ，庭師数人，前場の人々）

No.15 アリア（シュス，Str，2Ob，2Fg，2Hr） 楽譜資料Ａ１，Ａ２

un poco Allegretto

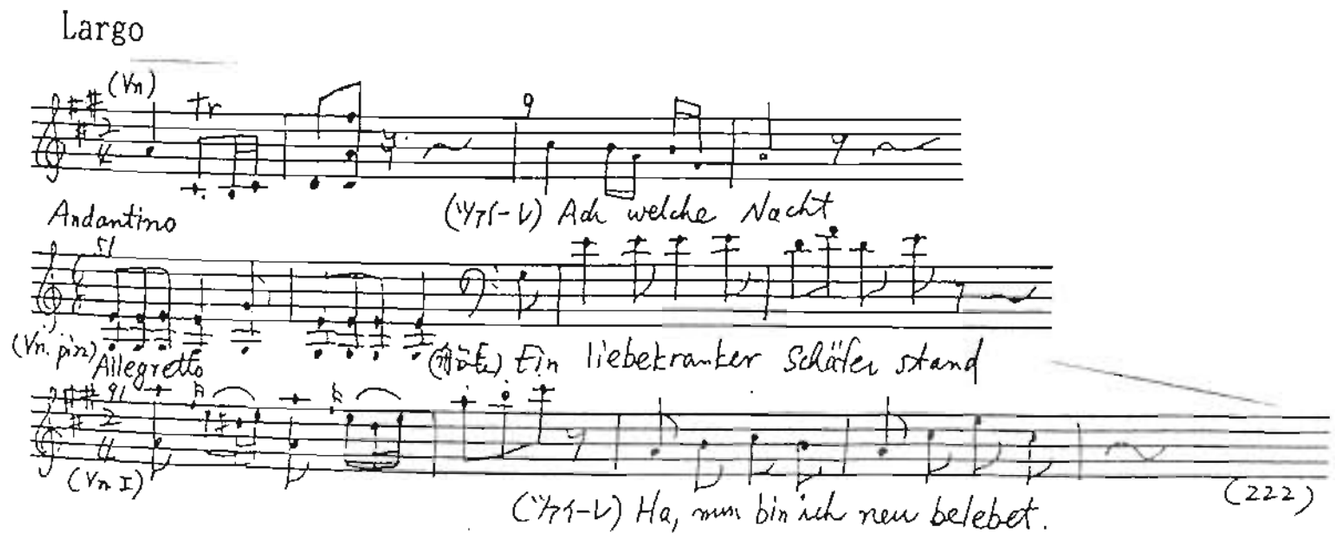


第5場（裁判官の家の後ろの暗がり：庭師，カレプ，シュス，ツァイーレ）

第6場（船長，前場の人々）

No.16 二重唱（ツァイーレ，船長，Str，2Fl，2Ob，1Kl，2Hr） 楽譜資料Ａ１，Ａ２

Largo



第7場（裁判官，船長，ツァイーレ）

No.17 三重唱（裁判官，船長，ツァイーレ，Str，2Fl，2Kl，2Fg，2Hr）

Andante 楽譜資料Ａ１，Ａ２

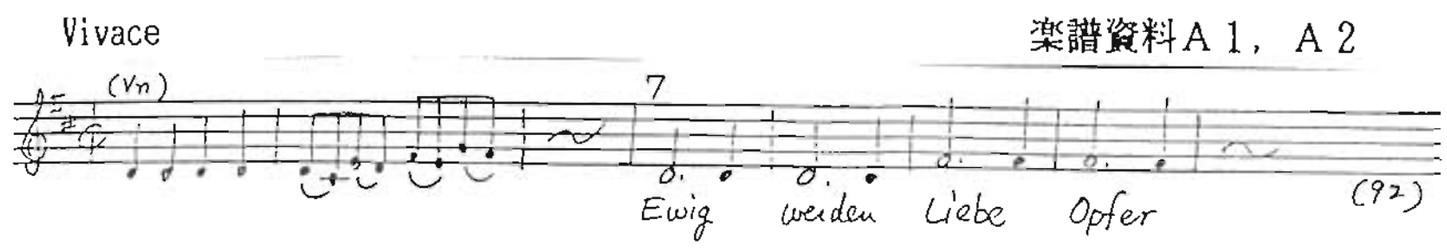
第8場（シュス，前場の人々）

第9場（裁判官の屋敷の広間：ロクサーネ，その他のトルコ女性，トルコ人，裁判官，船長，ツァイーレ）

第10場（前場の人々，シュス，ズースヒェン，カレプ，中国人，ペルシャ人，ギニア人，トゥングース人，モロッコ人，ベンガル人）

No.18 合唱（ツァイーレ，ズースヒェン，船長，裁判官，シュス，カレプ，ソプラノ・アルト・テノール・バス，Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr，2Tp，Pk）

楽譜資料Ａ１，Ａ２



(4) 楽譜資料

Ａ１　作品全体の自筆スコア A-Wn-M　16480

横長判（縦約22cm×横約30.5cm），12 段と16段の五線紙で，端は切り揃えて黄色く塗られている。青い厚紙表紙で１冊に製本されている。厚紙表紙のタイトルはアロイス・フックスの筆跡で，" Das Singspiel ohne Titel/ Oper in 3 Acten/ von/ Johann Schenk/ 1790./ Original=Partitur von der Hand des/ Componisten."と記されている。また，見返しには，フックスの筆跡で以下の記述がある。"Johann Schenk - geboren am 30. Novbr. 1761　†29. Dezbr 1836/ hat nebst dieser noch folgende Opern componirt. / 1. die Weinlese/ 2. die Weihnacht auf dem Lande/ 3. Im Finstern ist nicht gut tappen/ 4. das unvermuthete Seefest/ 5. der Ärndte=Kranz/ 6. Achmet und Almazinde (!) / 7. die Jagd/ 8. der Faßbinder/ 9. Der Dorfbarbier, welcher auf allen Bühnen Europa's mit entschiedenen Beifall gegeben wird./ dessen Biographie ist nachzulesen im Stuttgarder Lexicon der Tonkunst./ 6. Band pag. 188."

製本されているが，綴じられた上下の部分から紙の組み合わせ方を知ることが可能である。各曲の規模の応じて，必要な数のドッペルボーゲンを組み合わせてラーゲが作られている。シェンクは，各曲ごとにラーゲとページ番号を改めている。

第１幕は110 枚，第２幕は67枚，第３幕は48枚の五線紙を使用。合計225 枚で，記入ペ

ージは443ページ，空白ページは7ページ(f.19v，127v，143v，177v，186v，195v，214v) である。

タイトルページには，次のようなフックスの記述がある。“Das Singspiel ohne Titel/ Oper in 3 Acten./ componirt/ von/ Johann Schenk./ 1790./ Original=Partitur von des Componisten eigener Hand..// Vom Verfasser zum Geschenk erhalten/ im Januar 1833./ Aloys Fuchs.” 右側には，オーストリア国立図書館の印“Bibiotheca Palat. Vindoeonensis” があり，右下には自筆で“ 1790 ”と記されている。

序曲，No.1，Nos.3-10においては，別人の手で，バス・パートの音符の玉が上から大きく塗り直されている。

用いられている紙は，Wz#21 (16段)， Wz#19 (12段：以下同じ)， Wz#30，Wz#5の4種類である。第10ラーゲと第12ラーゲではWz#19とWz#5が混合して用いられている。また，第22ラーゲでは，Wz#19とWz#30が混合して用いられている。しかし，いずれの場合も，筆跡の変化や音楽的内容からみて後からのさしかえによるものとは考えられない。唯一の例外は，No.14 のf.194-195 である。この部分では，突然筆跡が細くなり，内容的に終結フレーズが拡大されている部分に当たるため，後からさしかえられた部分である可能性がある。

f.144-154 の部分のラーゲの組み合わせ方は，はっきりわからない。f.86とf.155 の漉かしは，照合できない。

ラーゲ	フォリオ	内容	ページ番号	紙
1-2	1r	タイトル		Wz#19
	1v～11	序曲	1は欠，2 ～21	
3	12～19r	No.1	1は欠，2 ～15	Wz#21
	19v	空白		
4	20～26	No.2	1は欠，2 ～14	Wz#30
5	27～28	No.3	1は欠，2 ～ 4	Wz#19
	29		5 ～ 6	Wz#30
6	30～37	No.4	1は欠，2 ～16	Wz#19
7	38～43	No.5	1 ～12 (11欠)	Wz#19
8-9	44～54	No.6	1 ～22	Wz#19
	55～56	No.7	1 ～ 4	Wz#5

10	57～59		5～9/10, 11/12	Wz#19
	60～61		13 ～16	Wz# 5
11	62～69		17 ～32	Wz#19
	70		33 ～34	Wz#19
12	71		35 ～36	Wz# 5
	72～76		37 ～46	Wz#19
	77		47 ～48	Wz# 5
13	78～85		49 ～64	Wz#19
14	86		65 ～66	照合不可能
	87～93		67 ～80	Wz#19
15	87～101		81 ～96	Wz#19
16-17	102 ～110		97 ～98, 99/100/101	Wz#21
			102/103/104,105～118	
18	111 ～117	No.8	1は欠, 2 ～14	Wz#19
19-20	118 ～ 127r	No.9	1 ～19	Wz#19
	127v	空白		
21	128 ～134	No.10	1は欠, 2 ～14	Wz#19
	135	No.11 〔第１稿〕	1は欠, 2	Wz#30
	136		3 ～ 4	Wz#19
22	137 ～140		5 ～12	Wz#30
	141 ～142		13 ～16	Wz#19
	143r		17	Wz#30
	143v	空白		
?	144 ～154	No.12	1～6, 13 ～16	Wz#21
			7～8, 9/10, 11/12	
			17 ～24	
23	155		25 ～26	照合不可能
	156 ～161		27 ～38	Wz#19
24	162 ～168		39 ～46, 47/48/49,	Wz#19
			50/51/52, 53 ～56	

25	169 ～173		57 ～66	Wz#21
26	174 ～177r		67 ～73	Wz#19
	177v	空白		
27	178 ～186r	No.13 〔第２稿〕	1 ～17	Wz#19
	186v	空白		
28	187 ～193	No.14	1は欠，2 ～14	Wz#30
	194 ～195r		15 ～17	Wz#19
	195v	空白		
29	196 ～202	No.15	1は欠，2 ～14	Wz#19
30-31	203 ～214r	No.16	1 ～23	Wz#19
	214v	空白		
32	215 ～220	No.17	1は欠，2 ～12	Wz#19
33	221 ～225	No.18	1は欠，2 ～10	Wz#21

No.11 とNo.13 の稿については，次の楽譜資料Ａ２を参照せよ。

Ａ２　作品全体のTeilautograph　(筆写譜が混じった自筆譜)

A-Wgm Schenk Aut 46 (Ⅳ 17615)

No.11 の４枚(f.148，149，152，153)のみ自筆譜で，その他の部分はすべて筆写譜である。

横長判（縦約23cm×横約32cm)，16 段，12段，10段の五線紙で，端は切り揃えられていない。大理石模様の厚紙表紙で１冊に製本されている。厚紙表紙のタイトルは，“Schenk/ Singspiel ohne Titel”で，青のボールペンでウィーン楽友協会の所蔵番号“46”が付記されている。

第１幕は 119枚，第２幕は75枚，第３幕は54枚の五線紙を使用。合計 246枚で，記入ページは484 ページ，空白ページは８ページ（f.14v，25v，139v，195v，205v，216v，224v，238v）である。通しページ番号が１から492 までふられている。

作品のタイトルは，もともと序曲の表紙であったページ(f.1r)の上方に，おそらくは後から付け加えて記入されている。“Das Singspiel ohne Titel，von Schenk./ Operette in 3 Acten”　中央に別の手で大きく“Sinfonia”と記入され，右下には“den 4ten November/ 1790”と記されている。右上には，ライブラリアンの筆跡でウィーン楽友協会

の所蔵番号“Ⅳ 17615”が記されている。

自筆部分(f.149-150, 153-154)の紙は，Wz#19とWz#30で，楽譜資料Ａ１で用いられているものと同一である。他方，筆写譜の部分に用いられている紙は，Wz#10，Wz#11，Wz#22，Wz#30，Wz#33を含む，合計６種類で，楽譜資料Ａ１と同一の紙は用いられていない。

筆写譜の部分には，３種類の筆跡が認められる。このうち，No.6-11，No.12の一部，及びNo.16 を筆写しているのは，Kp#10である。Kp#10は，#5「思いがけない海の祝祭」(1789年）のTeilautograph(楽譜資料Ａ１）において，自筆譜と同じ紙を用いて筆写している。

楽譜資料Ａ２の筆写譜の部分は，以下の２つの理由により，楽譜資料Ａ１から直接筆写されたものと考えられる。まず第一に，譜割りなど，記譜の方法がＡ１に類似している。第二に，Ａ１のNo.12 における特殊なページ番号付けが継承されている。但し，以下の点においては，Ａ１との間に相違がある。① Ａ２のNo.7では，"Maestoso"，"Tempo I"，"più lento" という指示があるが，Ａ１では，これらの指示は後からクレヨンで書きこまれている。② Ａ１のNo.10 における付加・訂正は，Ａ２には受け継がれていない。③ Ａ２のNo.11 〔第２稿〕は，中間部と終結部がＡ１のNo.11 〔第１稿〕と異なっており，その部分には自筆譜が４枚挿入されている。④ Ａ１のNo.12 における管楽器パートの書き加えは，Ａ２には継承されていない。⑤ Ａ１では，No.13 の終結部は，2/4 拍子，Andante に変化している〔第１稿〕が，Ａ２では，最初のテンポと拍子（6/8 un poco Allegretto）のままでコロラトゥーラ音型が付加〔第２稿〕されている。

(5) 台本

a 1 おそらく初演のために準備されたと思われる台本

Ein/ Singspiel/ ohne/ Titel/ in drey Aufzügen

年代，出版地，出版社の記載なし

108 ページ

A-Wn-D 2273-A; U-Wc Schatz-Coll. 9594

この内容は，楽譜資料Ａ１とＡ２に書かれた歌詞，ト書きとほぼ同一である。

(6) 作曲と上演に関するドキュメント

シェンクの自伝，及び『1794年のウィーン演劇年報』における記述については，前作#5「思いがけない海の祝祭」（1789年）の本項を参照せよ。

＃７　“Ｄｅｒ　Ärntekranz”
「収穫祭の冠」（１７９１年）

(1) 作曲年と根拠：1791年（自筆スコアＡ２のタイトルページに記入されている）

(2) 上演記録：

ゾンライトナーとドイチュによれば，1791年７月９日にフライハウス（ヴィーデン）劇場で初演された。(Sonnleithner 1873: Bd.2, Deutsch 1937: 33) その後の再演記録は判明していない。

(3) 作品の構成と主題

登場人物：リントフォルト氏 (Herr von Lindford)，貴族〔テノール〕

アマーリア (Amalia)， その妻〔ソプラノ〕

トーマス (Thomas)， リントフォルトの小作人〔バス〕

マリー (Marie)，トーマスの妻〔ソプラノ〕

リースヒェン (Lieschen)， トーマスの娘〔ソプラノ〕

ズースヒェン (Suschen)，リースヒェンの妹〔ソプラノ〕

ペーター (Peter)，若い農夫〔バス〕

ウルシェル (Urschel)〔ソプラノ〕

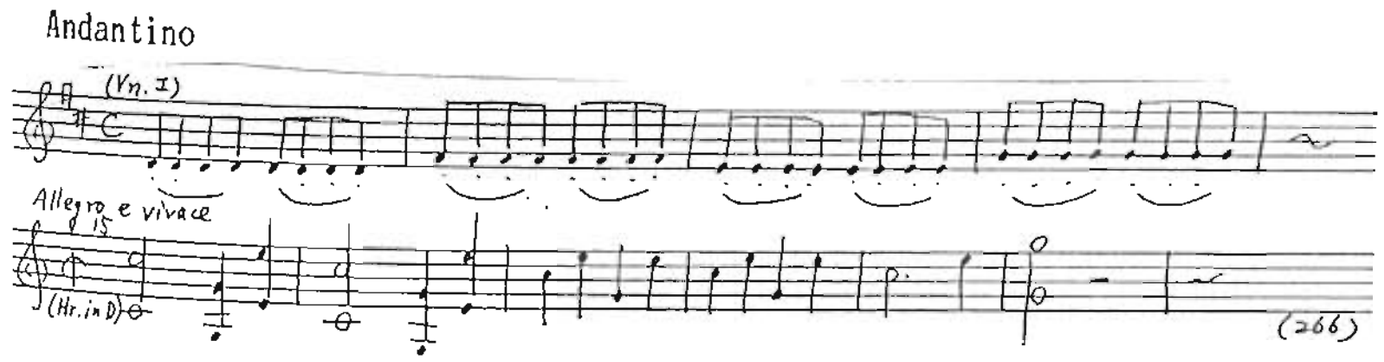
ツァハリアス (Zacharias)，リントフォルトの年老いた召使

農民〔ソプラノ・アルト・テノール・バス〕

合唱〔ソプラノ・アルト・テノール・バス〕

音楽隊〔テノール・バス〕

序曲 (Str, 2Fl, 2Ob, 2Kl, 2Fg, 2Hr, 2Tp)　楽譜資料Ａ２



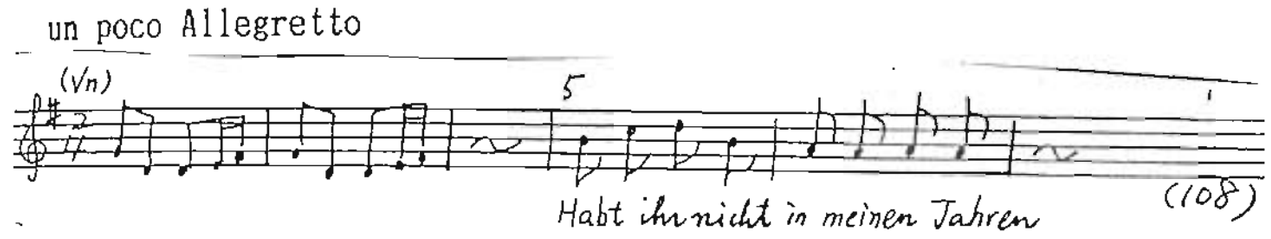
第１幕

〔No.1〕合唱（ソプラノ・アルト・テノール・バス，Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr）

un poco Allegretto　　楽譜資料Ａ３

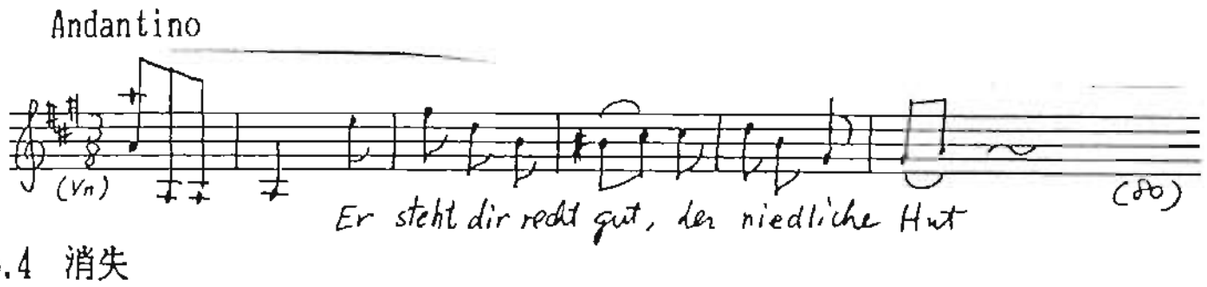
〔No.2〕アリア（リースヒェン，Str，2Ob，2Hr）　楽譜資料Ａ１

un poco Allegretto



〔No.3〕アリア（リースヒェン，Str，2Fl）　楽譜資料Ａ１

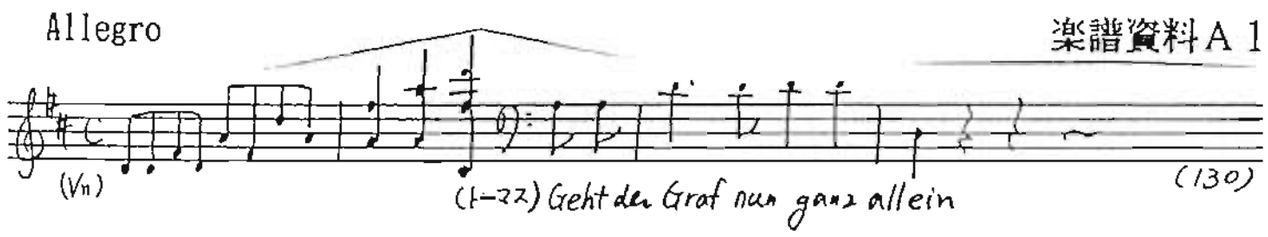
Andantino



No.4　消失

〔No.5〕三重唱（リースヒェン，マリー，トーマス，Str，2Ob，2Fg，2Hr）

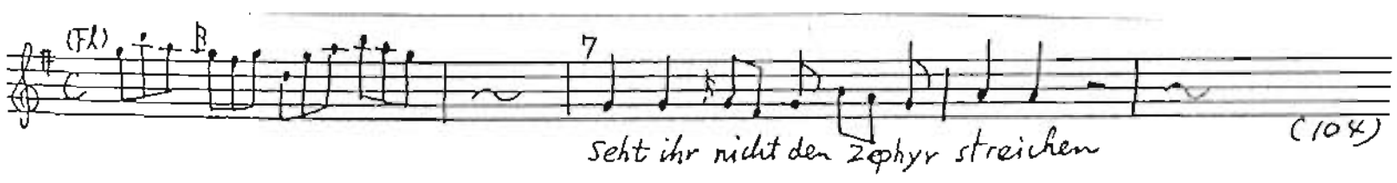
Allegro　　楽譜資料Ａ１



No.6　消失

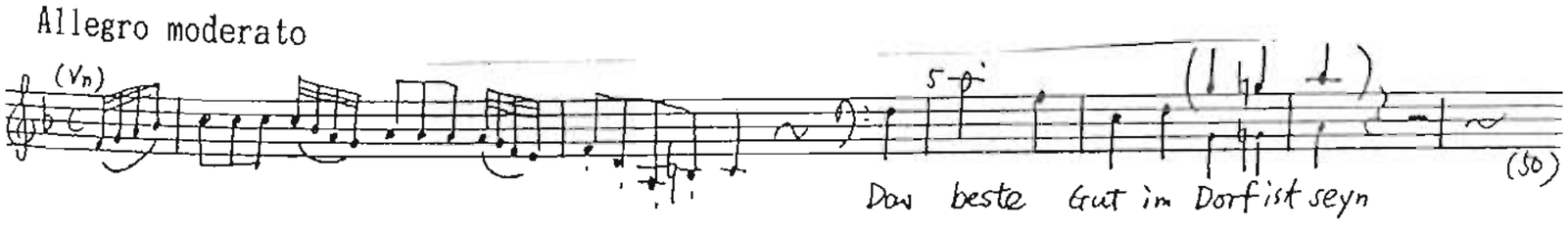
No.7　アリア（アマーリア，Str，2Fl）　楽譜資料Ａ１

Allegro moderato



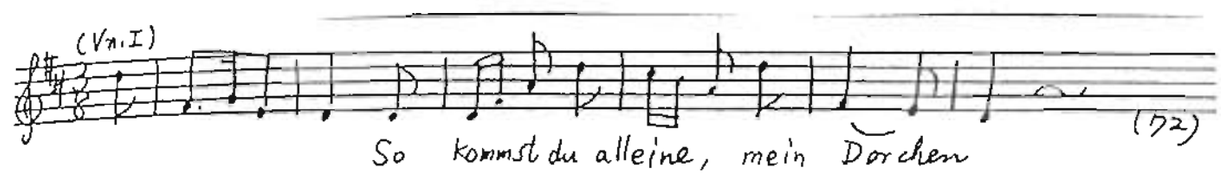
No.8　アリア（トーマス，Str，2Ob，2Hr）　楽譜資料Ａ１

Allegro moderato



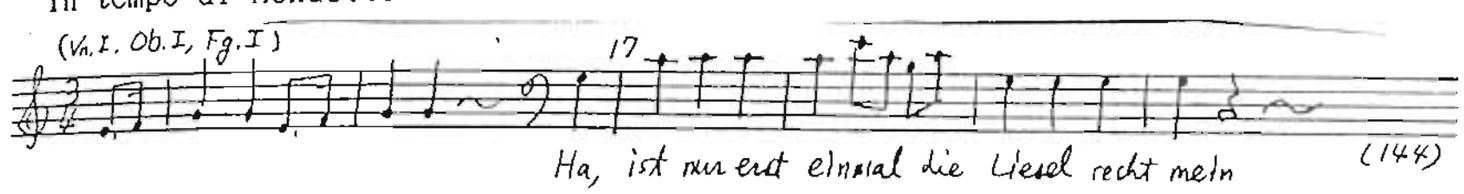
No.9　アリア（アマーリア，Str，2Ob，2Hr）　楽譜資料Ａ１

Andantino



No.10 アリア（ペーター，Str，2Ob，2Fg，2Hr，2Tp） 楽譜資料Ａ１

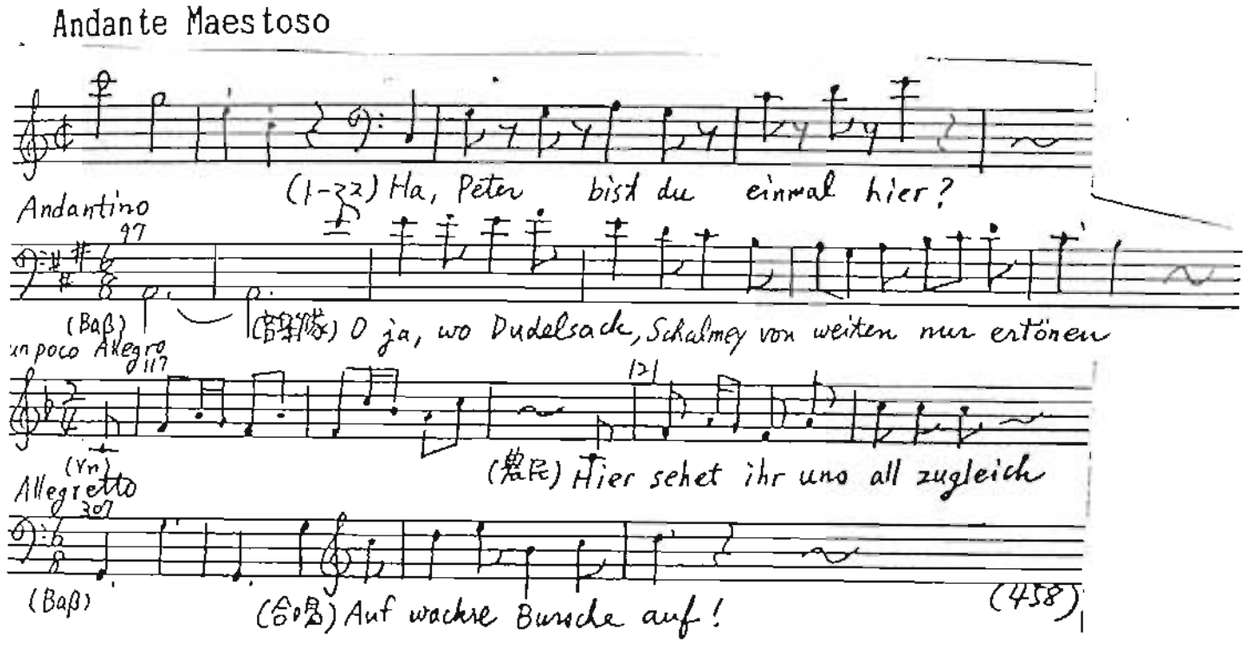
in tempo di Menuetto



No.11 消失

No.12 フィナーレ（トーマス，ペーター，アマーリア，ウルシェル，音楽隊，農民，ズースヒェン，リースヒェン，Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr，2Tp） 楽譜資料Ａ１

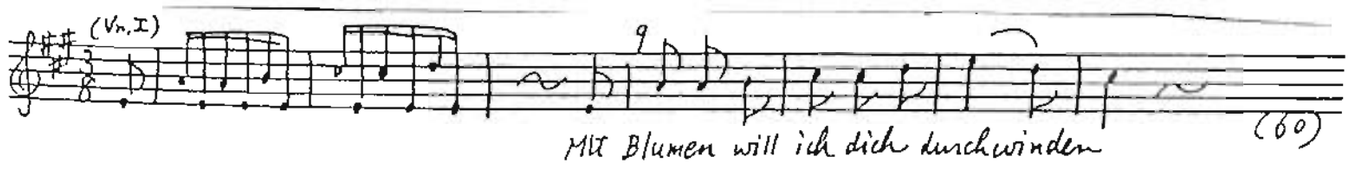
Andante Maestoso



第２幕

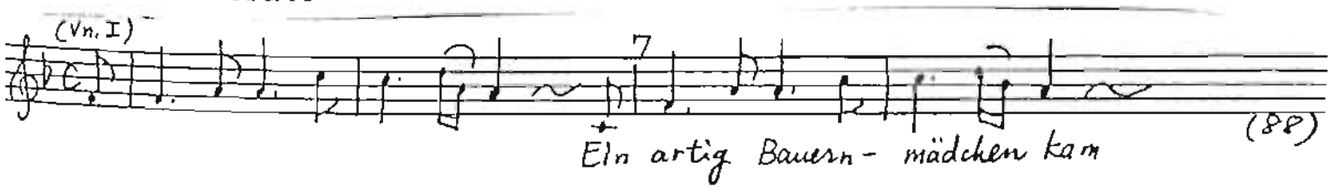
No.13 アリア（リースヒェン，Str，2Fl，2Hr） 楽譜資料Ａ１

速度表示なし〔Mittelmäßig〕



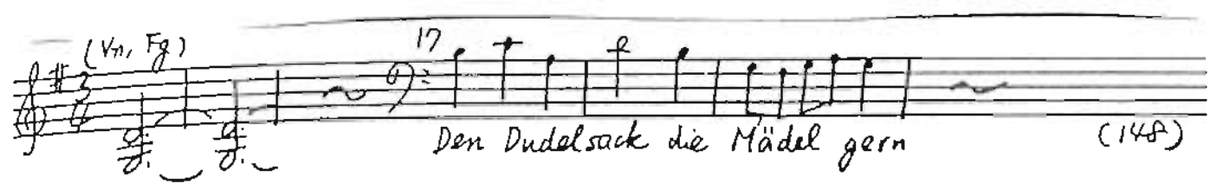
No.14 ロマンツェ（アマーリア，Str，2Fl，2Hr） 楽譜資料Ａ１

Allegro moderato

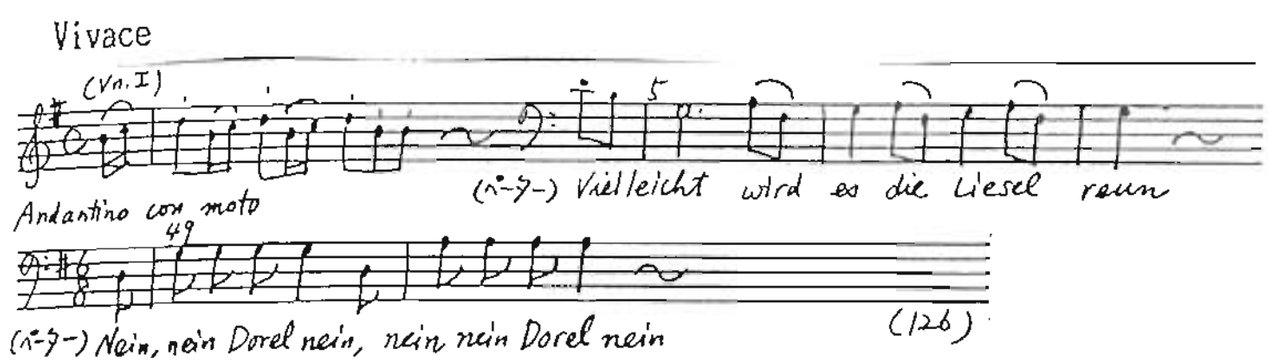


No.15 アリア（ペーター，Str，1Ob，2Fg，2Hr） 楽譜資料Ａ１

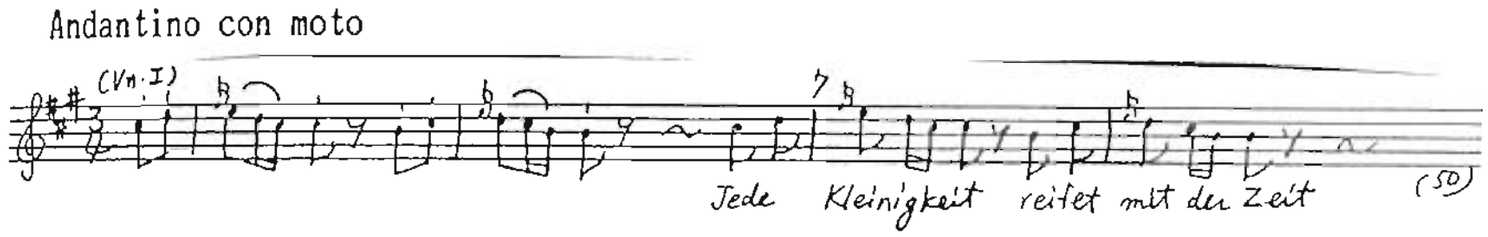
un poco Allegretto



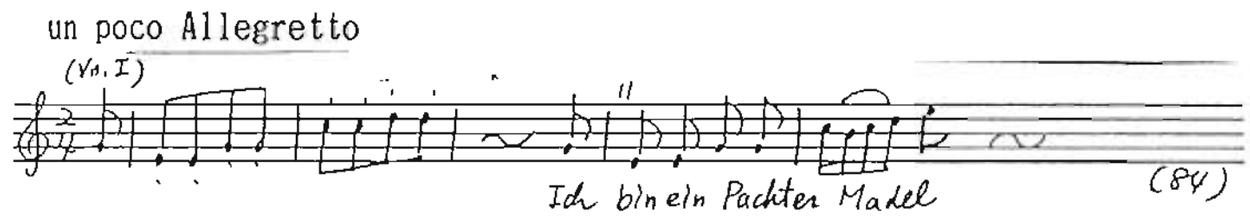
No.16 二重唱（アマーリア，ペーター，Str，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１



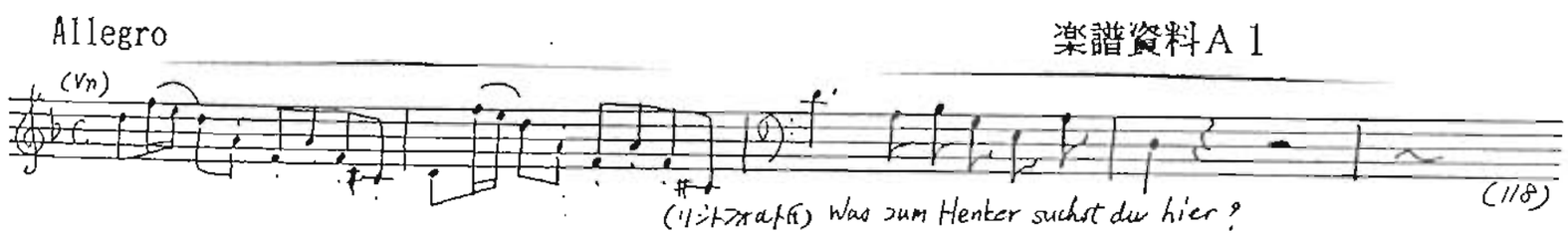
No.17 アリア（ズースヒェン，最後にリースヒェンと交替，Str，2Fl）　楽譜資料Ａ１



No.18 アリア（リースヒェン，Str，1Fl，2Ob，2Hr）　楽譜資料Ａ１

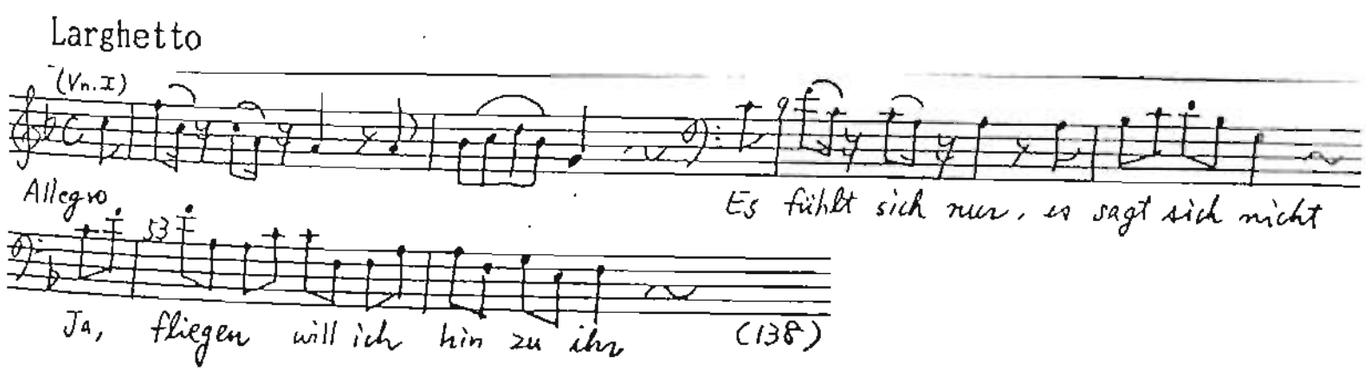


No.19 三重唱（アマーリア，リントフォルト氏，ペーター，Str，2Ob，2Fg，2Hr）

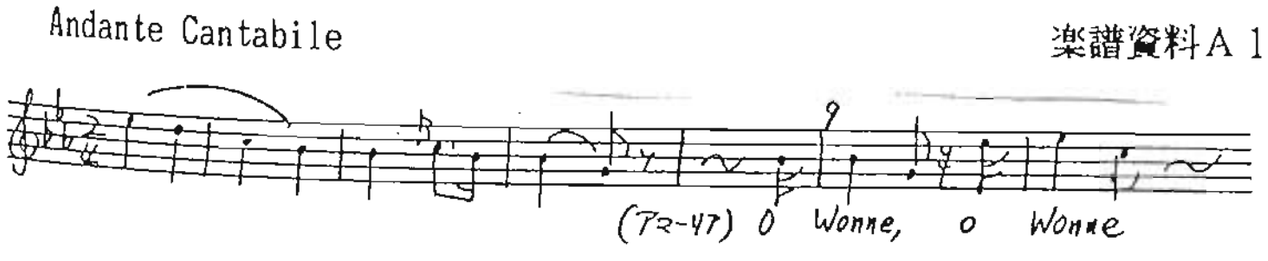


楽譜資料Ａ１

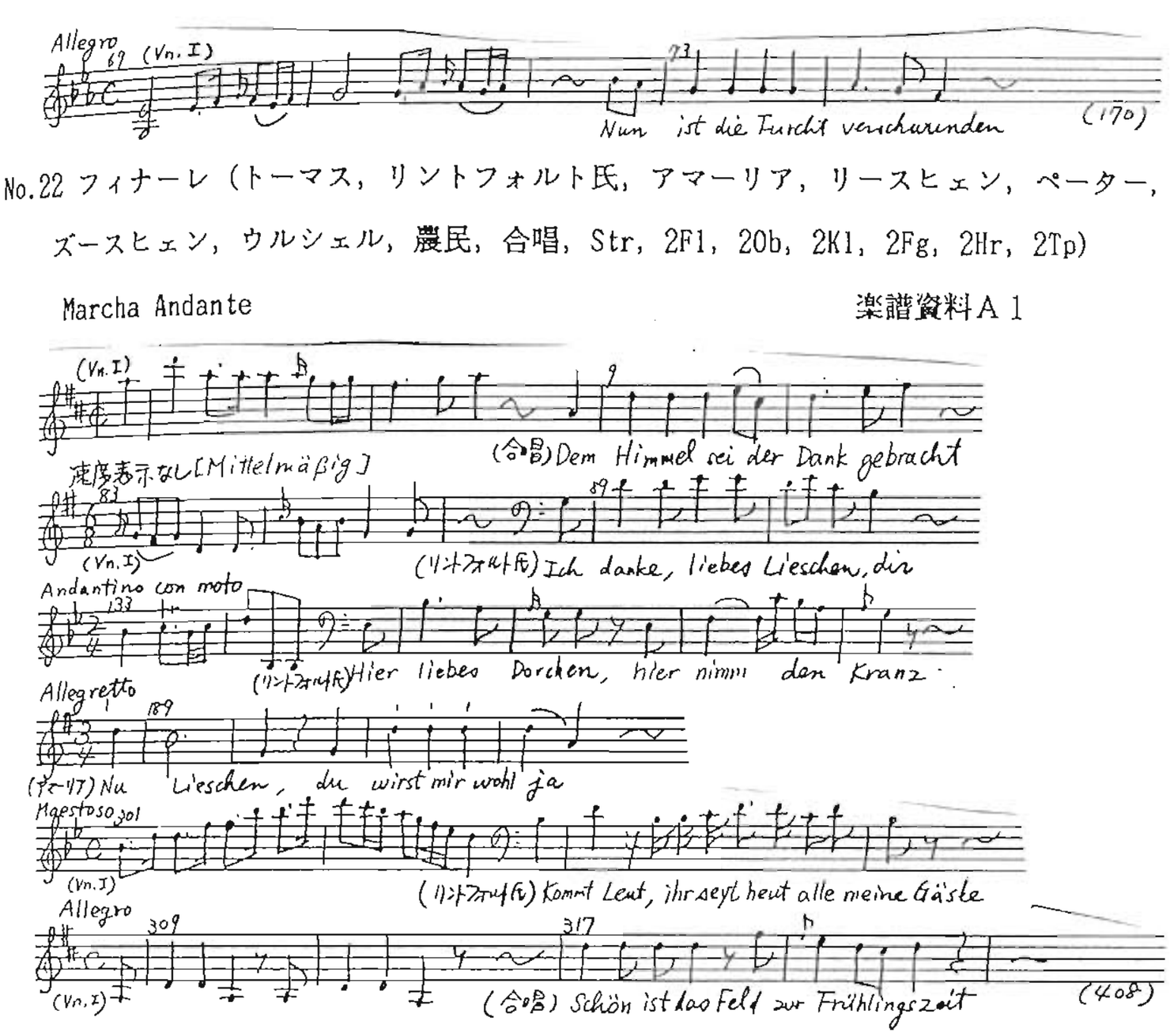
No.20 アリア（リントフォルト氏，Str，2Ob，2Hr）　楽譜資料Ａ１



No.21 二重唱（アマーリア，リントフォルト氏，Str，2Fl，2Kl，2Fg，2Hr）

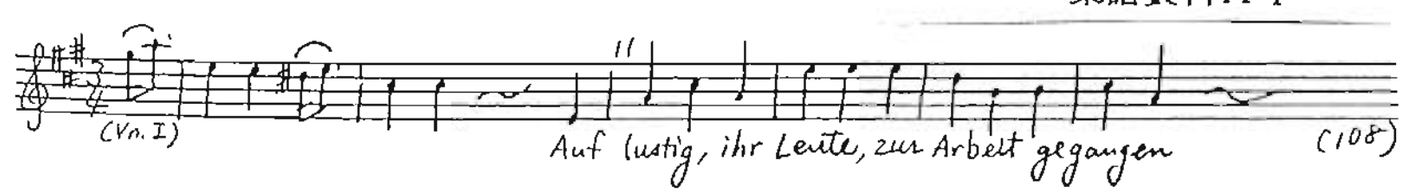


楽譜資料Ａ１



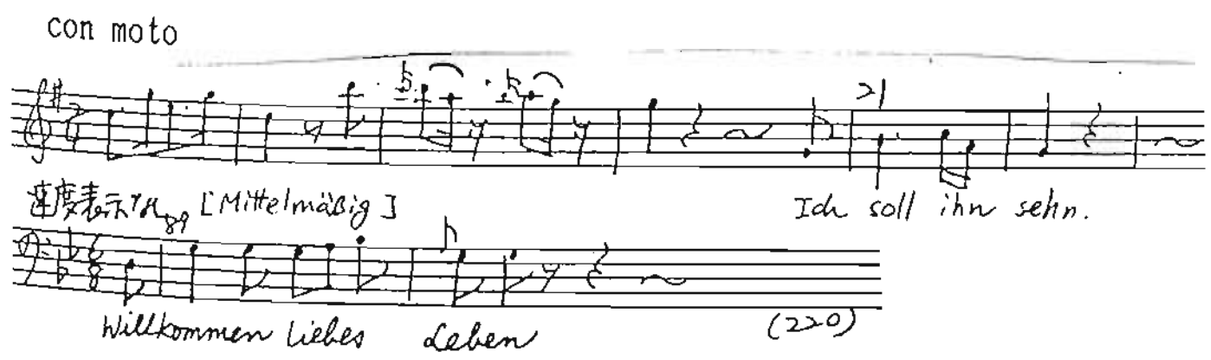
曲番号不明　合唱「さあ，楽しく仕事に向かい」("Auf, lustig ihr Leute zur Arbeit gegangen")（ソプラノ・アルト・テノール・バス，Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr）

un poco Allegretto　　楽譜資料Ａ４



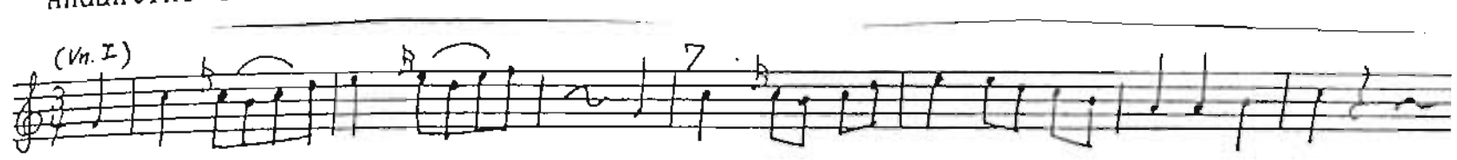
問題のある曲

No.1　二重唱（ヤコブ，レースヒェン，楽器編成不明）楽譜資料＊17



No.6 二重唱（レースヒェン，ペーター，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料＊18

Andantino con moto



(4) 楽譜資料

A 1　一部欠落した自筆スコア　A-Wgm Aut Schenk 17

タイトルページ，序曲，No.1から６までの間の３曲，及びNo.11 が欠落している。

横長判（縦約23cm×横約32cm），12 段と16段の五線紙で，端は切り揃えられていない。製本されておらず，曲ごとに糸で綴じられてもいない。

各曲の規模に合わせて，必要な数のドッペルボーゲンを組み合わせ，ラーゲが作られている。シェンクは，各曲ごとにラーゲとページ番号を改めている。

第１幕は70枚，第２幕は96枚の五線紙を使用。合計166 枚で，記入ページは 323ページ，空白ページは９ページである。

〔No.2〕の第１ページ，右上の筆者不明の記述“(Erntekranz)”；〔No.3〕の第１ページ，右上の筆者不明の記述“(aus Ärntekranz No.3)”；〔No.5〕の第１ページ，右上の筆者不明の記述“Arntekranz/ No.5”；No.8 の第１ページ，右上の筆者不明の記述(No.2と同様)“Erntekranz”；No.15の第１ページ，左上の筆者不明の記述“15”

用いられている紙はWz#21（16段），Wz#４（12段），およびWz#31（12段）の３種類である。Wz#31が用いられている部分（No.19 の17～20ページ）は，曲の終結部分に当たるため，後から挿入されたものである可能性がある。但し，筆跡の変化は明瞭ではない。

フォリオ数	内容	ページ番号	紙
7	〔No.2〕	1～14	Wz#４
2	〔No.3〕	1は欠，２～４	Wz#４
10	〔No.5〕	1は欠，２～20	Wz#４
5	No.7	1～９	Wz#４
		１ページ空白	
6	No.8	1は欠，２～11	Wz#４
		１ページ空白	

4	No.9	1は欠，2 ～ 7	Wz＃4
		1ページ空白	
8	No.10	1は欠，2 ～14（11が重複）	Wz＃4
		1ページ空白	
8	No.12	1は欠，2 ～16	Wz＃4
20	No.12	17～55	Wz＃21
		1ページ空白	
4	No.13	1，3 が欠，2， 4 ～7	Wz＃4
		1ページ空白	
8	No.14	1は欠，2 ～16	Wz＃4
5	No.15	1は欠，2 ～10	Wz＃4
10	No.16	1は欠，2 ～14（8が重複）	Wz＃4
		16～20	
1(r)		1ページ空白	Wz＃4
(v)	No.15 の断片		
1	No.16	21～22	Wz＃4
3	No.17	1は欠，2 ～ 5	Wz＃4
		1ページ空白	
6	No.18	1は欠，2 ～12	Wz＃4
8	No.19	1は欠，2 ～16	Wz＃4
2		17～20	Wz＃31
10	No.20	1～20	Wz＃4
12	No.21	1～22（5-6 が重複）	Wz＃4
26	No.22	1は欠，2 ～51	Wz＃21
		1ページ空白	

A2 序曲の自筆スコア A-Wgm Aut Schenk 32 (XII 17619)

横長判（縦22.7cm×横30.5cm)， 12段の五線紙Wz＃4で，端は切り揃えられている。大理石模様の厚紙表紙を付けて1冊に製本されている。厚紙表紙のタイトルはフックスの筆跡で，“Ouverture D#/ von Joh. Schenk”と記されている。

製本されているが，綴じられた上下の部分から紙の組み合わせ方を知ることが可能である。全体は二つのラーゲより成り，第１ラーゲではドッペルボーゲン四つ，第２ラーゲでがドッペルボーゲン三つが組み合わせられている。よって全体は28ページで，f.1vより，自筆でページ番号 1～27が記入されている。

タイトルページには，右上にウィーン楽友協会の所蔵番号“ XII 17619”が書かれ，中央上寄りにフックスの筆跡で“Ouverture der Oper”， その下に自筆で“Der Arntekrantz”，さらにフックスの筆跡で“von Joh. Schenk// Partitura Autographa.”と記されている。右下には自筆で“1791”と記入されている。

Ａ３　No.1（合唱）の自筆スコア　A-Wgm Aut Schenk 17　（V 17633）

横長判（縦22.3cm×横31.3cm)， 16段の五線紙Wz＃21で，端は切り揃えられている。大理石模様の厚紙表紙を付けて１冊に製本されている。厚紙表紙のタイトルは，“Chor/ aus der Oper/ Der Erntekranz/ von/ Joh. Schenk/ Part. Autogr.”で，右側に青いボールペンでウィーン楽友協会の所蔵番号“⑰”が記入されている。

製本されているが，綴じられた上下の部分から紙の組み合わせ方を知ることが可能である。ドッペルボーゲン四つが一つのラーゲに組み合わされており，よって全体は16ページで，f.1vより自筆でページ番号 2～16が記入されている。

第１ページ上端には自筆で“No.1 un poco Allegretto Chor”と記され，続いて他の手で“aus der Oper: Der Erntekranz/ von Joh. Schenk. V.17633”と記されている。

歌詞は，下記の台本ａ１～ａ４のNo.4（トーマスのアリア）の歌詞と一致する。これらの台本では，No.2～5 の各曲が歌われる場面はすべてトーマスの家の中であり，よってNo.4も，トーマスが家の中で一人で歌うアリアとなっている。楽譜資料Ａ３は，同じ歌詞を用いた合唱曲であるが，これを同様に家の中で歌うには設定に無理がある。むしろ，シェンクがこの楽譜の冒頭に記しているとおり，この合唱は，No.1として作曲された可能性がある。朝の明るい気分を歌う内容は，冒頭曲になりうる内容である。また，この曲の拍子(6/8) は，序曲の自筆譜Ａ２の最後に書かれた第１曲の拍子(6/8) と一致する。

Ａ４　曲番号不明の合唱曲「さあ，楽しく仕事に向かい」の自筆スコア

A-Wgm Aut Schenk 17（V 17620）

横長判（縦22.3cm×横31.3cm），16段の五線紙Wz＃21で，端は切り揃えられている。大

理石模様の厚紙表紙を付けて１冊に製本されている。厚紙表紙のタイトルは，“Chor/ von der Oper/ Der Erntekranz/ Part./ Johann Schenk/ Autogr.”と記されている。

製本されており，紙の組み合わせ方は不明である。合計６枚，12ページで，f.3 の両面と最後のページ(f.6v)は空白である。記入ページには，自筆でページ番号(1-9) が記入されている。

第１ページ上端には自筆で“un poco Allegretto Chor”と記した後に，楽譜資料Ａ３と同様の他者の筆跡で“aus der Oper: Der Erntekranz/ von Joh. Schenk. V. 17620.”と記されている。

この楽譜には，曲の番号が書き込まれていないため，作品のどの部分で歌われる合唱曲であるのか明らかではない。しかし，「早く仕事に向かい，終わったら皆で楽しい夕べを過ごそう」という歌詞内容は，No.12(第１幕フィナーレ）の末尾の歌詞と共通性をもつため，No.12 の末尾のさしかえ，或いは，No.12 を導入するためのNo.11(上記自筆譜Ａ１における消失部分）である可能性がある。

以下の楽譜資料＊17と＊18は，いずれも上記の自筆譜Ａ１に付随して，Ａ１と同じ所蔵番号でウィーン楽友協会に現存している。1921年に，シェンクのジングシュピールの楽譜資料を調査したローゼンフェルト＝レーマーは，楽譜資料＊17を一方では帰属不明曲とし(Rosenfeld-Roemer 1921: 36)，また別の箇所では#7「収穫祭の冠」（1791年）の第１曲(Rosenfeld-Roemer 1921: 76) としている。また，楽譜資料＊18については，#7「収穫祭の冠」（1791年）の第６曲としている。(Rosenfeld-Roemer 1921: 76)

＊17 No.1（ヤコプとレースヒェンの二重唱）の自筆スケッチ A-Wgm Aut Schenk 17

横長判（縦約23cm×横約32cm)，12 段の五線紙Wz＃18で，端は切り揃えられていない。ドッペルボーゲン二つの真中に単葉１枚が挟まれている。製本されておらず，糸で綴じられてもいない。合計10ページのうち，最後のページは空白，f.2rより自筆でページ番号３～９が記入されている。

＊18 No.6（レースヒェンとペーターの二重唱）の自筆スコアの断片

A-Wgm Aut Schenk 17

横長判（縦約23cm×横約32cm)，12 段の五線紙Wz＃29で，端は切り揃えられていない。

ページ番号１～２，15～16が記入された単葉２枚。歌詞は記入されていない。

(5) 台本

ゾンライトナーとドイチュは，この作品のタイトルを「収穫祭の冠，または刈り入れ祭」("Der Erntekranz oder Das Schnitterfest")，全２幕とし，C.F.ヴァイセの原作をマイヤー (Mayer)が編作した台本であると指摘している。(Sonnleithner 1873: Bd.2, Deutsch 1937: 33)

シェンクが作曲した台本は現存していない。但し，以下の４種類の台本は，歌詞の一部がシェンクの作曲したものと一致している。

ｂ１　類似台本

Der/ Ärndtekranz// Eine/ komische Oper/ in drey Aufzügen// Leipzig,/ in der Dyckishen Buchhandlung,/ 1771.

214 ページ

A-Wn-D 392.620-A.35 (Deutsche Schaubühne Bd.35)

ｂ２　類似台本

Der/ Ärndtekranz// Eine/ komische Oper,/ in drey Aufzügen// Zweyte verbesserte Ausgabe.// Leipzig,/ in der Dyckischen Buchhandlung,/ 1772.

216 ページ

A-Wn-M 868.219-A.M.TB

ｂ３　類似台本

Der/ Ärndtekranz./ Eine/ komische Oper,/ in drey Aufzügen.

Theater der Deutschen 11.Teil. S.293～450. Königsberg und Leipzig, bey Johann Jacob Kanter, 1772.

A-Wn-D 25407-B.11

ｂ４　類似台本

Der Ärntekranz// Eine/ komische Oper in drey Aufzügen.

Komische Opern von C.F.Weiße. Ⅲ. Teil (Die Jagd. Der Ärntekranz). S.149～290

Leipzig 1777, im Verlage der Dykischen Buchhandlung

A-Wn-Th 629.009-A.Th.3; A-Wn-D 1436-A

b 5 類似台本

Die/ Weinlese/ Ein Singspiel/ in zwei Aufzügen./ Nach dem Erndtekranz des Herrn Weiße,/ für die Mannheimer National=Schau=/ bühne eingerichtet/ von Meyer, / Mitgliede dieses Theaters.// Die Composition ist von Herrn Becke,/ Hauptmann eines schwäbischen Dragoner=/ Regiments.// Mannheim, bei C.F.Schwan, kurfürstl. Hofbuchändler/ 1783.

112 ページ（最後の２ページはページ番号なし）

A-Wn-D 392.620-A.253; U-Wc Schatz-Coll. 679

この５種類の台本のうち，ｂ１～ｂ３は内容が一致している。すなわち，３幕構成（第１幕＝９場；第２幕＝10場；第３幕＝11場）で，38曲が含まれている。台本ｂ４は，その編作で，第３幕が13場に拡大され，三重唱１曲が台詞に置き換えられている。その他の37曲では，歌詞に多少の変更がある。これに対して，台本ｂ５には，さらに大幅な変更が加えられている。全体は，２幕構成（第１幕＝８場；第２幕＝12場）で，25曲に縮小されている。曲の内容は，単に削除，歌詞の変更が加えられているのみならず，新しい曲が付加されたり，曲順が入れ換えられたり，レチタティーヴォが付加されたりしている。

以上，台本ｂ１～ｂ５とシェンクの自筆譜に見られる歌詞とを比べると，ｂ１～ｂ５のいずれも，シェンクが作曲した歌詞とは完全には一致しない。台本ｂ５は，ゾンライトナーとドイチュがシェンクの作曲した台本について指摘しているのと同様に，２幕構成である。しかし，台本ｂ５とシェンクの自筆譜の歌詞とを比較すると，省略せずに残された曲に相違があり，両者は同系統の編作とは考えられない。台本ｂ５の編作者ヴィルヘルム・クリスティアン・ディートリッヒ・マイヤー（Wilhelm Christian Dietrich Meyer, ? - 1783）は，台本の後書きによれば，1767年以降ハンブルクとハノーファーで，1774年以降ゴータで，さらに1779年以降マンハイムで俳優として活動し，1783年９月２日，台本ｂ５の出版準備中に腐敗熱（破傷風）のためにこの世を去った。この経歴の範囲内では，この人物が，1791年にウィーンで初演されたシェンクの作品のための台本を編作した可能性はきわめて小さい。よって，この点からも，シェンクの作曲した台本を編作したマイヤー

(Mayer)と，台本ｂ５の編作者W.C.D.マイヤー（Meyer)とは別人と考えられる。

(6) 作曲と上演に関するドキュメント

シェンクの自伝，及び『1794年のウィーン演劇年報』における記述については，#5「思いがけない海の祝祭」（1789年）の本項を参照せよ。

＃8 “Ａｃｈｍｅｔ　ｕｎｄ　Ａｌｍａｎｚｉｎｅ”

「アッハメットとアルマンツィーネ」

（１７９５年）

(1) 作曲年と根拠：1795年（自筆譜Ａ１のタイトルページに記入されている）

(2) 上演記録

1795年７月17日にケルントナートア劇場で初演。初演のちらしには，以下のように記されている。「本日，1795年７月17日（金曜日）ケルントナートア劇場において，『アッハメットとアルマンツィーネ』を初演。フランス語の原作に基づく，２幕のジングシュピール。...(中略)...ゾリマン＝ランゲ氏（Hr. Lange），　アムラーキ＝ザール氏，アッハメット＝シュルツ氏（Hr. Schulz），　アタリーデ＝ガスマン嬢（妹；Mlle. Gaßmann die jüngere），アルマンツィーネ＝ヴィルマン嬢（Mlle. Willmann），　ツェリカ＝ガスマン嬢（姉；Mlle. Gaßmann die ältere），　アリ・キスララーガ＝ダウアー氏，オスミン＝ヴァイトマン氏。...(中略)...音楽は，カール・アウアースペルク侯爵家の音楽家シェンク氏の作曲による。....」(A-Wn-Th 773.042-D.Th.)　『両宮廷劇場出納簿』(“Kassabuch beider Hoftheater”）によれば，この作品は，同年内にケルントナー劇場で４回（７月19日，21日，26日，９月24日）再演された。(A-Wn-Th M 4000 Th. Bd.2)

(3) 作品の構成と主題

登場人物：　ゾリマン（Soliman），サルタン〔バス〕

アムラーキ（Amulaki），大臣〔バス〕

アッハメット（Achmet），　大臣の息子〔テノール〕

アタリーデ（Attalide），　大臣の娘〔ソプラノ〕

アルマンツィーネ（Almanzine），奴隷〔ソプラノ〕

ツェリカ（Zelika），　奴隷〔ソプラノ〕

アリ・キスララーガ（Aly Kislaraga），サルタンの召使〔テノール〕

オスミン（Osmin），大臣の会計主任〔テノール〕

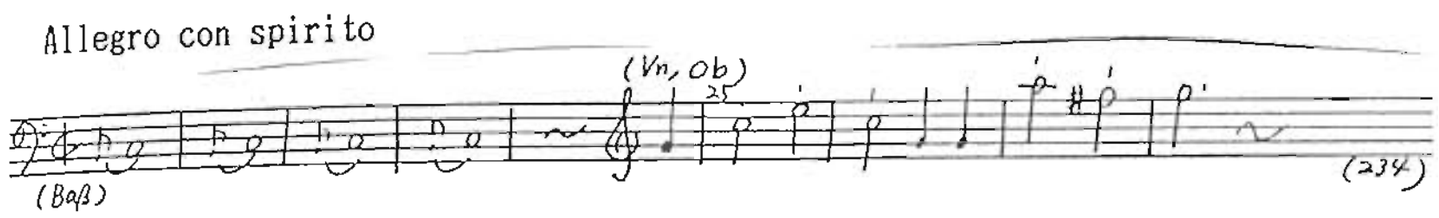
サルタンの妃達／奴隷／親衛兵〔ソプラノ・アルト・テノール・バス〕

黒人

序曲 (Str, 1Pik, 2Ob, 2Kl, 2Fg, 2Hr, 2Tp, Pk, シンバル, 大太鼓, トライアングル)

楽譜資料Ａ１，Ｂ１

Allegro con spirito



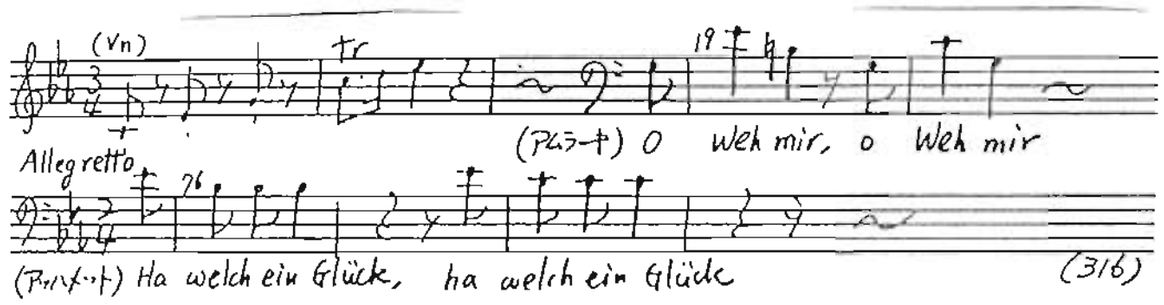
第１幕

第１場（大臣の屋敷の庭のあずまや：アムラーキ，アッハメット，オスミン）

No.1 三重唱（アムラーキ，アッハメット，オスミン，Str，2Kl，2Fg，2Hr）

楽譜資料Ａ１，Ｂ１

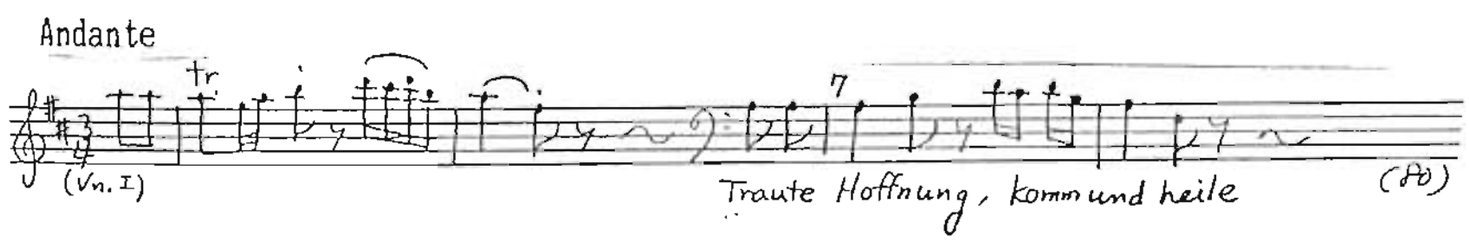
Andante



第２場（アムラーキ，アッハメット）

No.2 アリア（アムラーキ，Str，2Fl，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１

Andante



第３場（アムラーキ，アッハメット，オスミン）

第４場（アムラーキ，アッハメット）

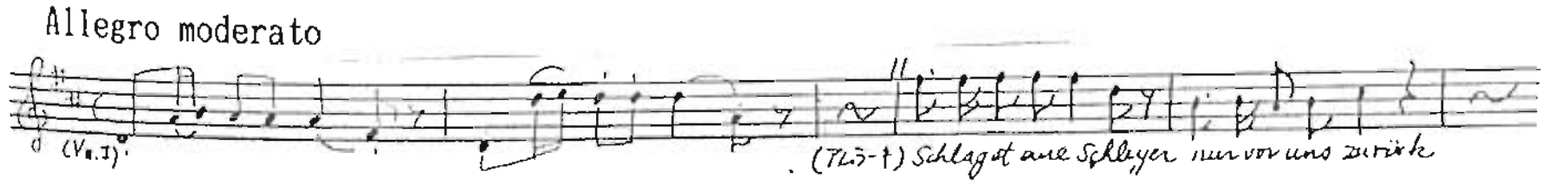
第５場（大臣の屋敷の観音開きの扉のある広間：オスミン，アルマンツィーネ，ツェリカ）

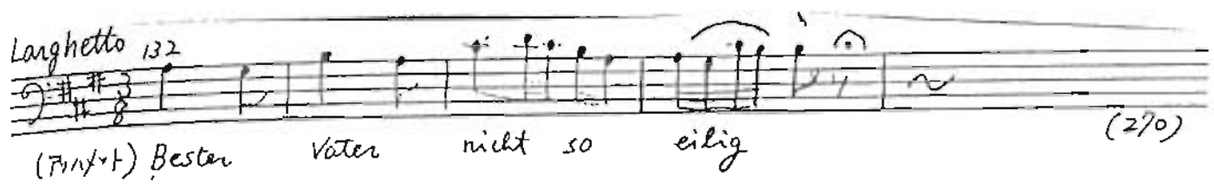
第６場（アムラーキ，アッハメット，前場の人々）

No.3 五重唱（アムラーキ，アッハメット，オスミン，アルマンツィーネ，ツェリカ，

Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１

Allegro moderato





第7場（アッハメットを除く前場の人々）

第8場（アルマンツィーネ）

No.4 アリア（アルマンツィーネ，Str，20b）　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１

un poco Adagio con espressione

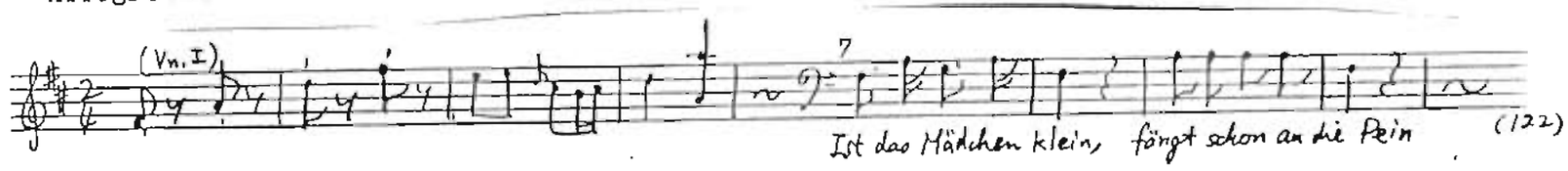
第9場（アルマンツィーネ，アムラーキ）

第10場（オスミン，前場の人々）

第11場（オスミン）

No.5（オスミン，Str，2Pik，20b，2Hr，シンバル，大太鼓，トライアングル）

Allegretto　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１



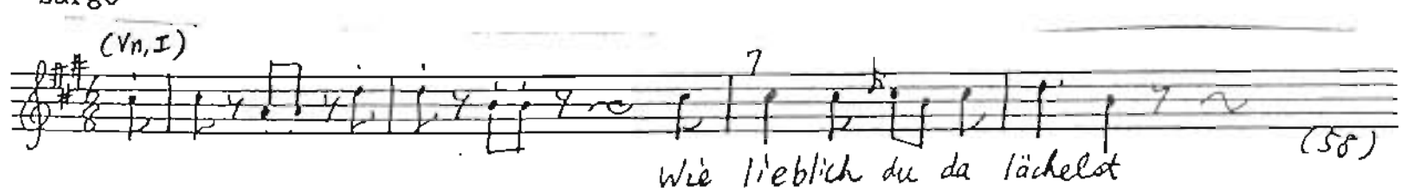
第12場（アタリーデ，アルマンツィーネ）

第13場（アムラーキ，前場の人々）

第14場（アタリーデ）

No.6 カヴァティーナ（アタリーデ，Str，2Kl）　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１

Largo

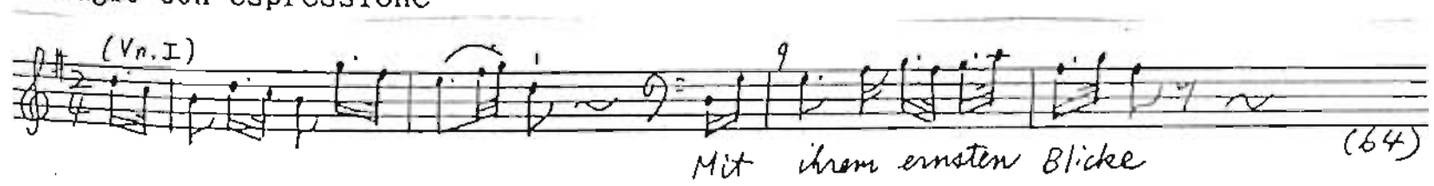


第15場（大臣の屋敷の庭のあずまや：オスミン）

第16場（アッハメット）

No.7 アリア（アッハメット，Str，2Fl，2Hr）　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１

Adagio con espressione



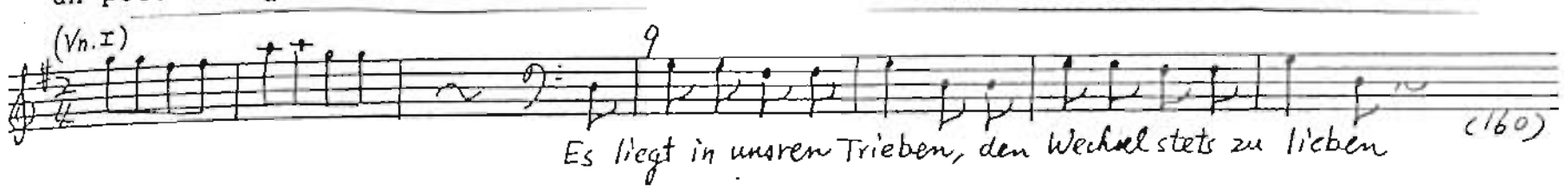
第17場（オスミン）

第18場（アッハメット，オスミン）

第19場（後宮の入口の広間：アリ）

No.8　アリア（アリ，Str. 1Pik，2Ob，2Hr，トライアングル）

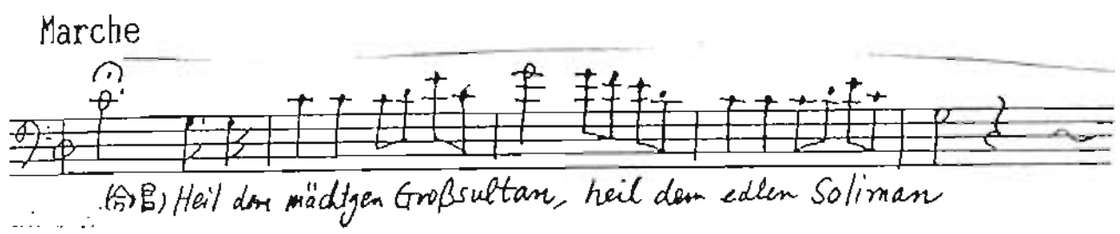
楽譜資料Ａ１，Ｂ１



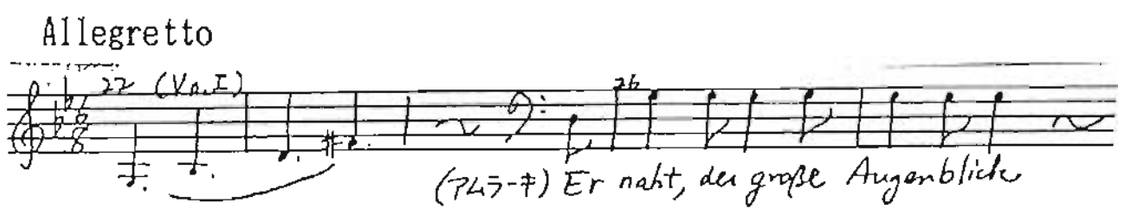
第20場（アリ，黒人数人）

No.9　フィナーレ（編成は場ごとに示す）　　楽譜資料Ａ１，Ａ２，Ｂ１

第21場（嫁入り行列〔テノール２部・バス，アムラーキ，アッハメット，オスミン，見張りの者達，Str，2Pik，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr，2Tp，シンバル，大太鼓，トライアングル）

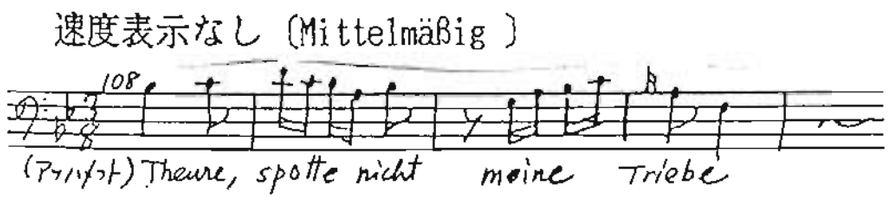


第22場（アルマンツィーネ，アムラーキ，アッハメット，オスミン，Str，2Fl，2Fg，2Hr）

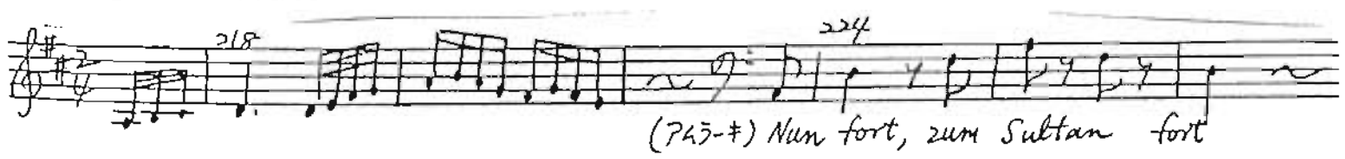


第23場（アリ，前場の人々）

第24場（アルマンツィーネ，アッハメット，オスミン，Str，1Fl，2Kl，2Fg）

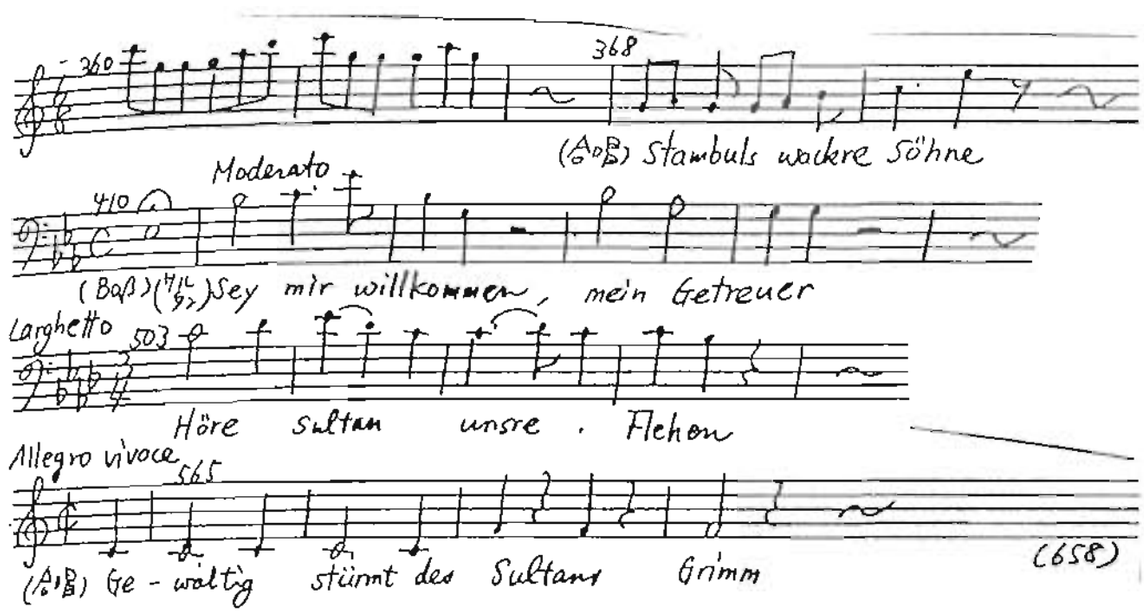


第25場（アムラーキ，前場の人々，Str，2Ob，2Hr）



第26場（サルタンの屋敷の豪華な大広間：サルタン，サルタンの妃達，見張りの者達，前場の人々，合唱〔ソプラノ・アルト・テノール・バス〕，Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr，2Tp，Pk，　シンバル，大太鼓，トライアングル）

Allegretto

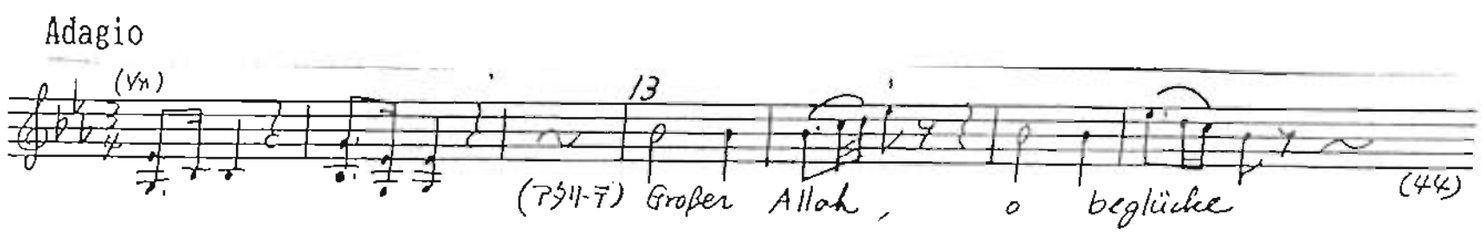


第２幕

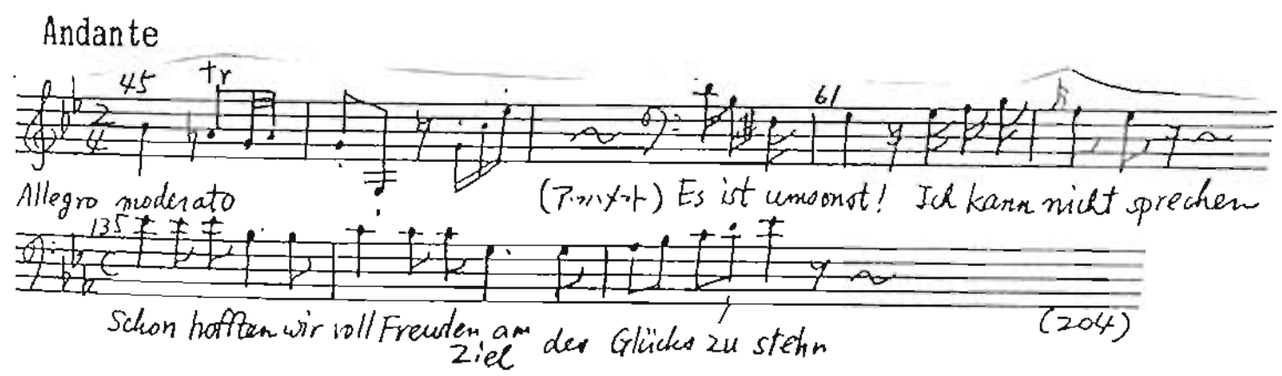
No.10 アリアと三重唱（アタリーデ，のちにアムラーキとアッハメットが加わる）

楽譜資料Ａ１，Ｂ１

第１場（アタリーデの小部屋：アタリーデ，Str，2Kl，2Fg，2Hr）



第２場（アタリーデ，アムラーキ，アッハメット，Str，2Fl，2Kl，2Fg，2Hr）

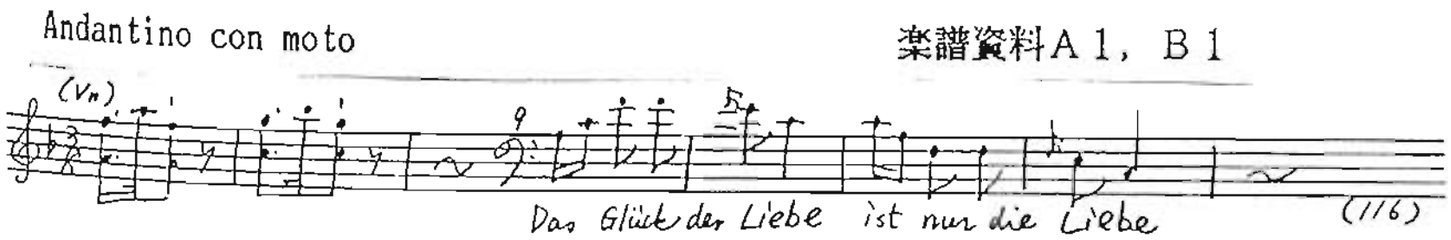


第３場（オスミン，前場の人々）

第４場（オスミン，アッハメット，アタリーデ）

第５場（オスミン，アッハメット）

No.11 アリア（アッハメット，Str，2Fl）



楽譜資料Ａ１，Ｂ１

第６場（アッハメット）

第7場（観音開きの扉のある広間：オスミン）

第8場（アムラーキ，アタリーデ）

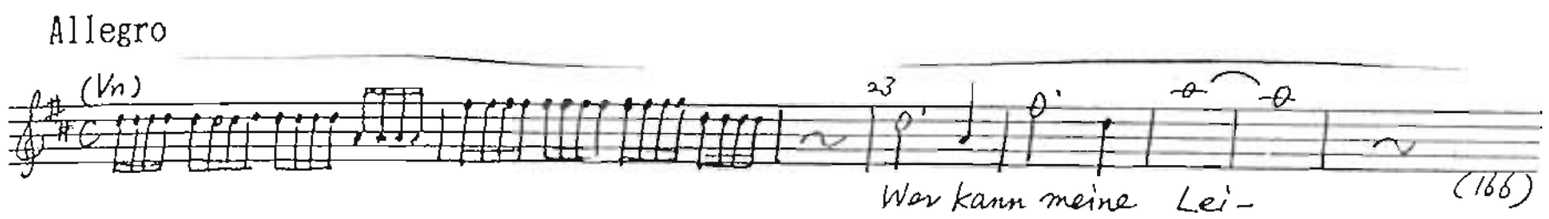
第9場（オスミン，前場の人々）

第10場（アムラーキ，アタリーデ）

第11場（オスミン，前場の人々）

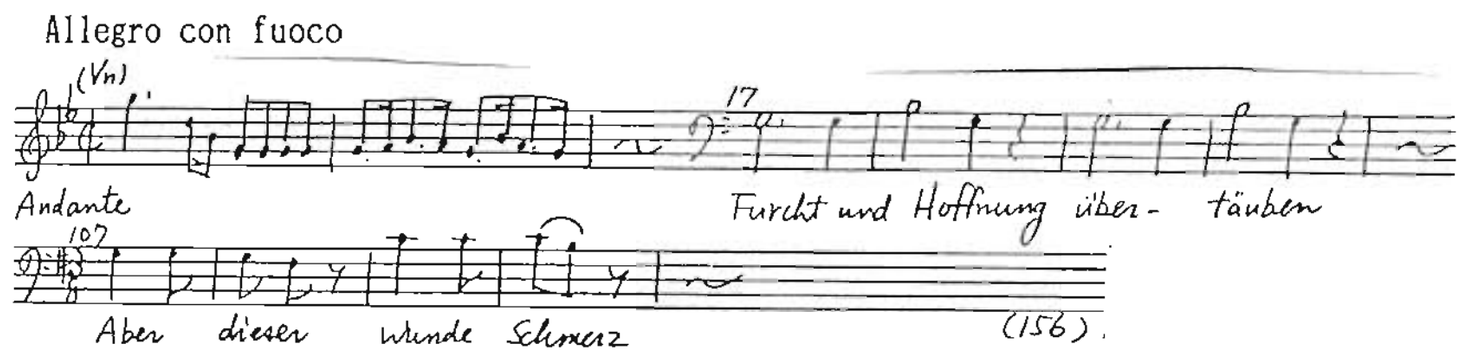
第12場（アムラーキ，アタリーデ）

No.12 アリア（アタリーデ，Str，2Ob，2Hr）　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１



第13場（アムラーキ）

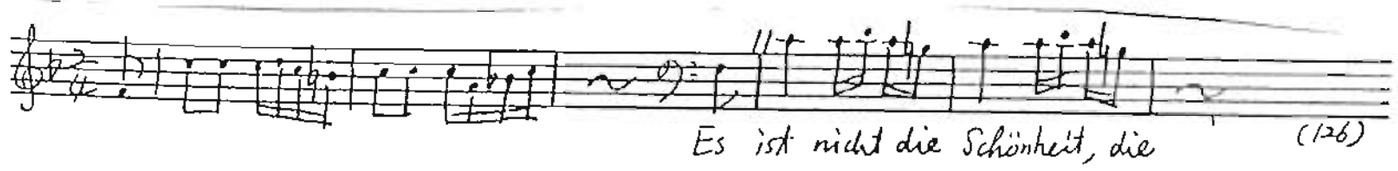
No.13 アリア（アムラーキ，Str，2Fl，2Ob，2Fg）　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１



第14場（後宮の小部屋：サルタン，アリ）

No.14 アリア（アリ，Str，1Pik，2Ob，2Fg，2Hr，シンバル，大太鼓，トライアングル）

un poco Allegretto　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１

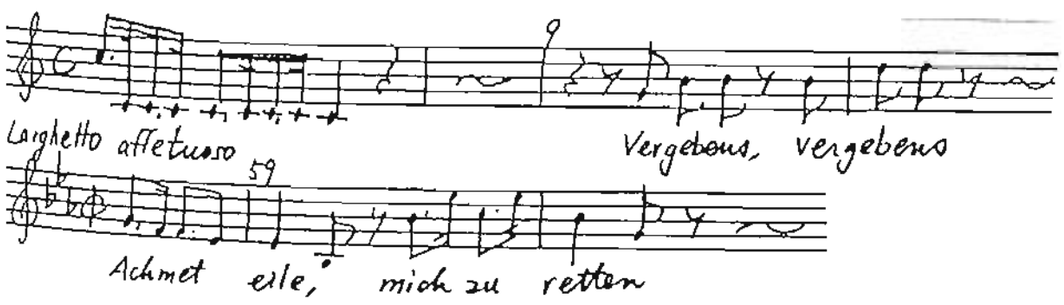


第15場（サルタン）

第16場（トルコ風の豪華な調度のある小部屋付きの部屋：アルマンツィーネ）

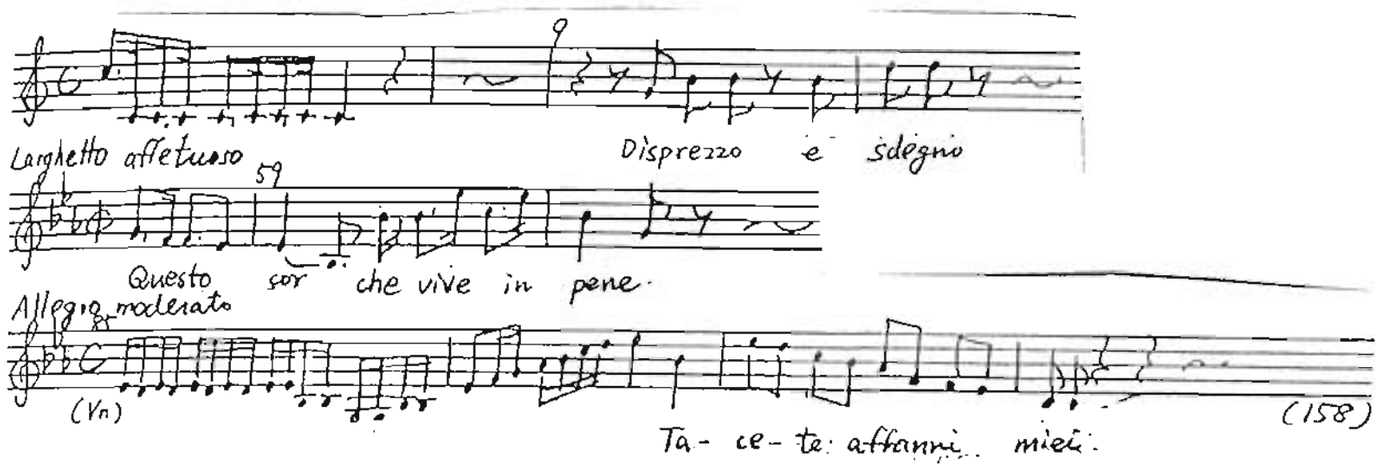
No. 15〔第１稿〕レチタティーヴォとアリア（アルマンツィーネ，Str，2Ob，2Fg）

Moderato　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｃ１，Ｃ２



No. 15〔第2稿〕レチタティーヴォとアリア（アルマンツィーネ，Str，20b，2Fg）

Moderato　　楽譜資料Ａ１

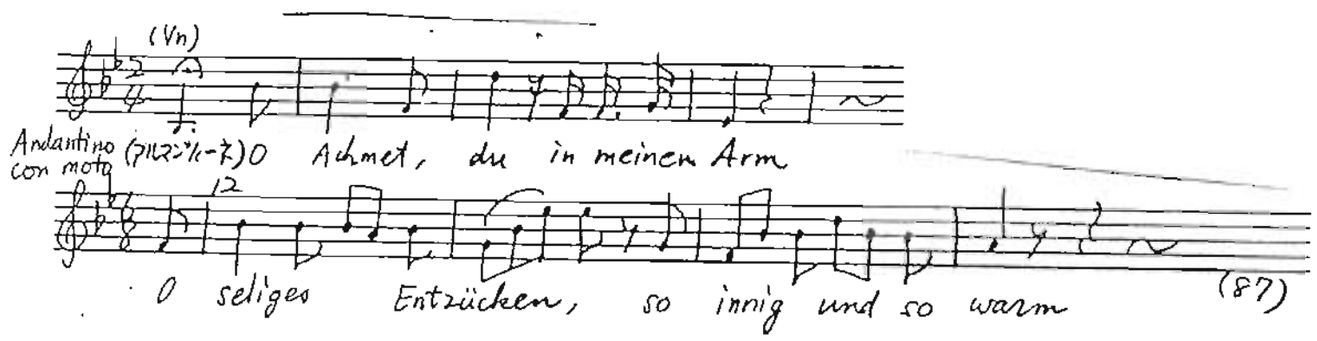


第17場（アッハメット，アリ）

第18場（アルマンツィーネ，アッハメット）

No.16 二重唱（アルマンツィーネ，アッハメット，Str，2Fl，2Kl，2Hr）

Larghetto　　楽譜資料Ａ１，Ａ３，Ｂ１



第19場（サルタン，アルマンツィーネ）

第20場（アルマンツィーネ，アッハメット）

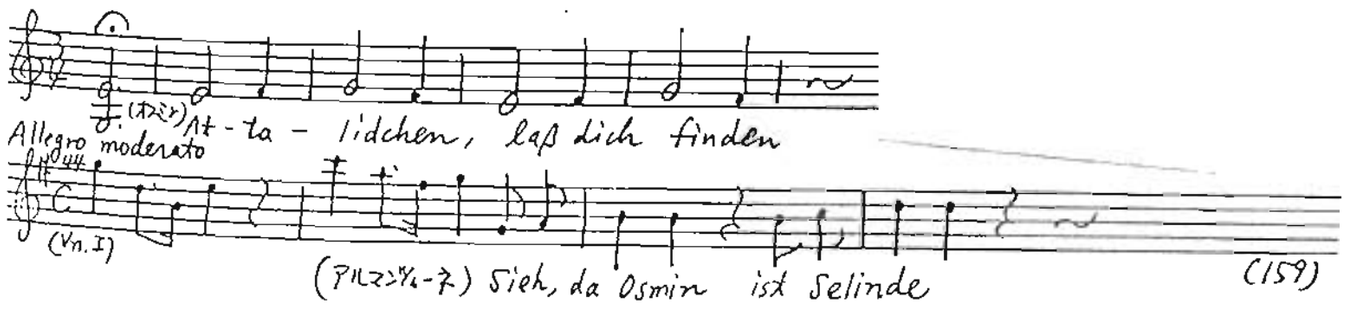
第21場（アリ，アルマンツィーネ）

第22場（アルマンツィーネ，アッハメット，オスミン）

No. 17〔第1稿〕三重唱（アルマンツィーネ，アッハメット，オスミン，Str，20b，2Fg，2Hr）

楽譜資料Ａ１，Ｂ１

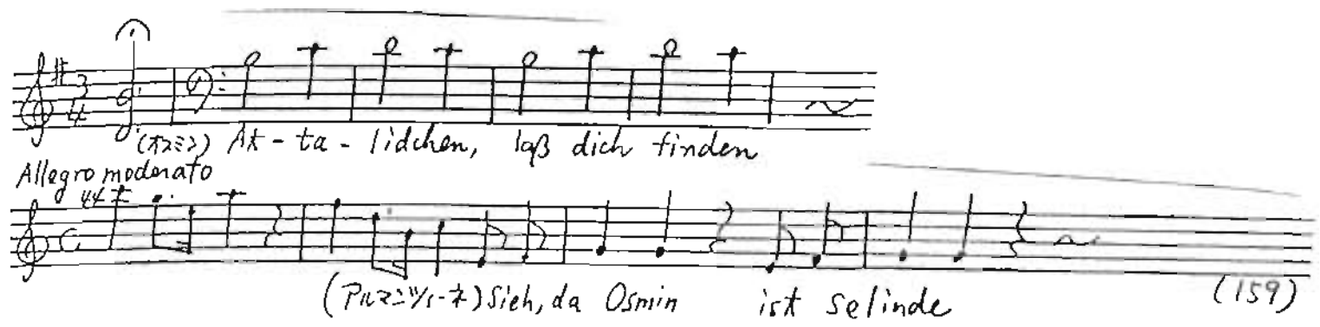
Andante



No. 17〔第2稿〕三重唱（アルマンツィーネ，アッハメット，オスミン Str，2Fl，20b，

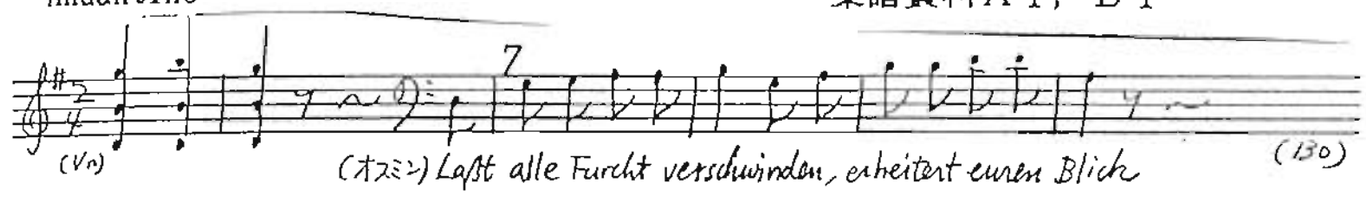
2Fg, 2Hr)　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１

Andante



No.18　三重唱（アルマンツィーネ，アッハメット，オスミン Str，2Fl，2Fg，2Hr）

Andantino　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１



第23場（アリ，前場の人々）

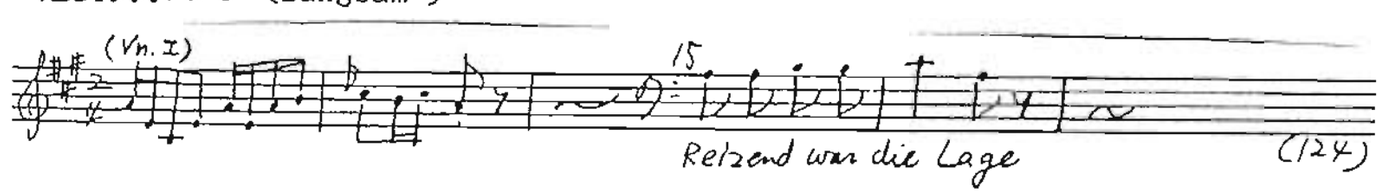
第24場（アルマンツィーネ，アッハメット，オスミン）

第25場（後宮の庭，海の展望：サルタン，アリ）

第26場（アルマンツィーネ，アッハメット，オスミン，前場の人々）

No. 19　アリア（オスミン，Str，2Fl，2Hr）　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１

速度表示なし〔Langsam 〕



第27場（アリ，前場の人々）

第28場（サルタン，アムラーキ）

第29場（アリ，前場の人々）

第30場（サルタン，アムラーキ）

第31場（サルタン）

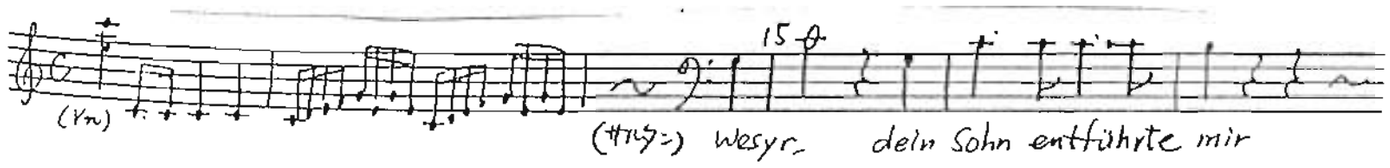
第32場（後宮の入口の広間：アリ，オスミン）

第33場（サルタン，前場の人々）

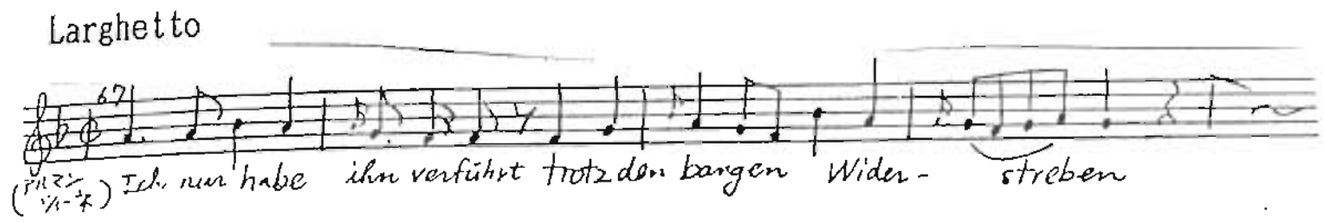
No.20 フィナーレ（編成は場ごとに示す）

第34場（サルタンの屋敷の豪華な広間，明るい照明：サルタン，サルタンの妃達，見張りの者達，アムラーキ，Str，2Ob，2Fg，2Hr，2Tp，Pk）

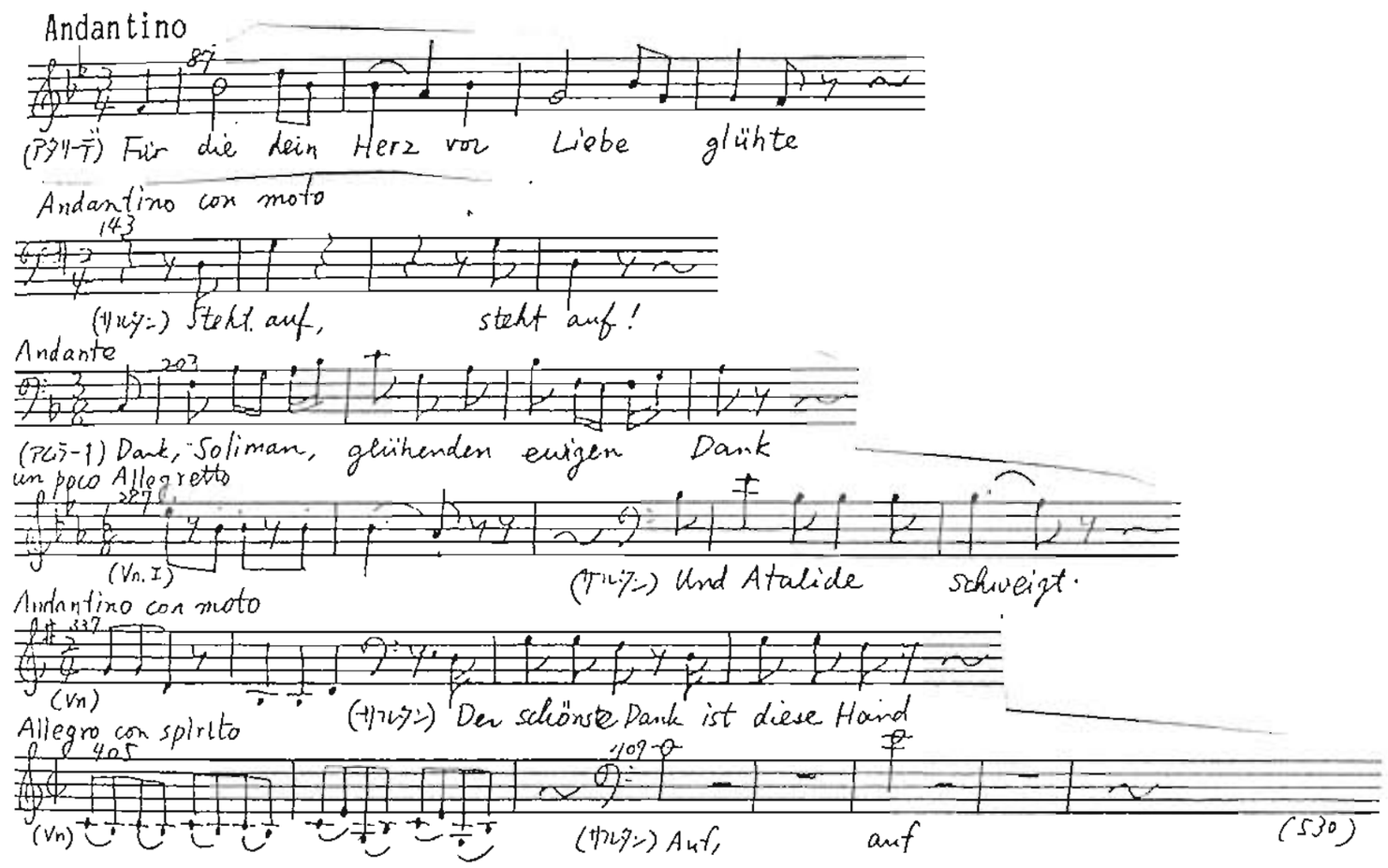
Allegro moderato



第35場（アッハメット，アルマンツィーネ，前場の人々，Str，2Ob，2Fg）



第36場（アムラーキ，アタリーデ，前場の人々，合唱〔ソプラノ・アルト・テノール・バス，Str，1Pik，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr，2Tp，Pk，シンバル，大太鼓，トライアングル）



問題のある曲

曲番号不明　アリア「愛は常にミルテの王冠を飾り」（"Liebe, die sonst stets mit Myrthe krönt"）（女声独唱，ピアノ）　　楽譜資料＊19

(4) 楽譜資料

A 1　作品全体のTeilautograph　(筆写譜が混じった自筆譜)

A-Wgm Aut Schenk 14 (IV 17616)

第2幕 No.15〔第2稿〕の楽譜16枚(f.241～256)は，筆写譜である。

横長判（縦約23cm×横約32cm)，10 段，12段，及び16段の五線紙で，端は切り揃えられていない。筆写譜の部分は，横長判（縦約22cm×横約30cm)，10段の五線紙で，端が切り揃えられている。全体は，大理石模様の厚紙表紙で1冊に製本されている。厚紙表紙のタイトルは，“Achmet und Almanzine/ Singspiel 1795”であり，青いボールペンで，ウィーン楽友協会の所蔵番号“⑭”が付記されている。

製本されているが，綴じられた上下の部分から，紙の組み合わせ方を知ることが可能である。各曲の規模に合わせて，必要なドッペルボーゲンを組み合わせ，ラーゲが作られている。シェンクは，各曲ごとにラーゲとページ番号を改めている。

第1幕は 166枚，第2幕は 200枚の五線紙を使用。合計 366枚で，記入ページは 723ページ，空白ページは 9ページ(f.42v，78v，85v，119r，166v，186v，214v，256v，285r)である。

タイトルページには，自筆で“Achmet und Almanzine”と書いた下に，アロイス・フックスの筆跡で “Singspiel in 2 Akten/ Musik von Johann Schenk/ Partitura Autographa”と記され，その下に筆者不明の薄いインクで“Erster Aufzug”と書かれている。右上にフックスの筆跡でウィーン楽友協会の所蔵番号“Ⅳ 17616”，右下には，おそらく自筆で“1795”と記入されている。

用いられている五線紙は，Wz#21（16段と12段)，Wz#18（12段と10段)，Wz#36（12段と10段)，Wz# 6（12段と10段)，Wz# 4（12段；以下同じ)，Wz#42，Wz#22，Wz#8の8種類である。同一のラーゲの中で異なる紙が混合して用いられている部分が随所にあるが，その中で，筆跡の変化と音楽的観点から明らかに後からさしかえられた部分と考えられるのは，下の表中に＊印を付けた部分である。

筆写譜の部分(f.241-256）では，Wz#18（10段）のほかに，自筆部分にはない2種類の紙が用いられている。

ラーゲ	フォリオ	内容	ページ番号	紙
1-2	1r	タイトル		Wz#18
	1v ～14	序曲	1は欠，2～27	

3-4	15 ～30	No.1	1は欠， 2～32	Wz#21
5	31 ～33		33～38	Wz#21
	34 ～35		39～42	Wz#36
	36 ～38		43～48	Wz#21
6	39 ～42r		49～55	Wz#21
	42v	空白		
7	43 ～49	No.2	1は欠， 2～14	Wz#18
	50		15～16	Wz#36
8-11	51 ～78r	No.3	1は欠， 2～55	Wz#21
	78v	空白		
12	79 ～85r	No.4	1は欠， 2～13	Wz#36
	85v	空白		
13	86 ～95	No.5	1は欠， 2～20	Wz#42
14	96 ～98	No.8 〔No.6〕	1は欠， 2～ 6	Wz#21
15	99 ～104	No.9 〔No.7〕	1は欠， 2～12	Wz#18
16	105 ～112	No.8	1は欠， 2～16	Wz#36
17	113 ～115		17～22	Wz#36
	116		23～24	*Wz# 6
18	117 ～118	No.10 〔No.9〕	1は欠， 2～ 4	*Wz# 8
19	119r	空白		*Wz# 4
	119v ～120		ページ4 が3回	
20	121 ～127		5～18	Wz#21
21	128		19～20	Wz#21
	129 ～132		21～28	Wz#36
	133		29～30	Wz#21
	134		31～32	*Wz# 4
22-23	135 ～144		33～52	Wz#36
24-27	145 ～ 166r		53～95	Wz#21
	166v	空白		
	167r	第2幕タイトル		Wz#21

28	167v ～170	No.11 〔No.10 〕	1は欠，	2～ 7	
	171			8， 9は欠	*Wz＃6
	172 ～175			8～15	Wz#21
	176 ～178			16～21	Wz#21
	179 ～180			22 ～24，26	Wz＃4
29	181			26 ，27	Wz#21
	182 ～183			28～31	Wz＃4
	184 ～ 186r			32～36	Wz#21
	186v	空白			
30-31	187 ～196	No.11	1は欠，	2～20	Wz＃36
32-34	197 ～ 214r	No.12	1は欠，	2～35	Wz＃36
	214v	空白			
35	215 ～222	No.14 〔No.13 〕	1は欠，	2～16	Wz＃6
	223 ～224			17～20	Wz＃6
36	225 ～227			22～27	Wz#18
	228 ～229			28～31	Wz＃6
37-38	230 ～240	No.14	1は欠，	2～22	Wz#18
	241 ～242	No.15 〔第２稿〕(Ms)		(1～ 4)	Wz#18
39	243 ～244			(5～ 8)	
	245 ～246			(9～12)	Wz#18
40-41	247 ～ 256r			(13～31)	
	256v	空白			
42-44	257 ～276	No.15 〔第１稿〕	1は欠，	2～40	Wz＃36
	277 ～284	No.16	1は欠，	2～16	Wz#18
45	285r	空白			*Wz＃36
	285v ～286			16～18	
	287	No.17 〔第２稿〕	1は欠，	2	Wz#42
46	288	〔No.17 第１稿〕		3～ 4	Wz#42
	289 ～290	〔No.17 第２稿〕		5～ 8	Wz#18
	291 ～294	〔No.17 第１稿〕		9～16	Wz#42

47	295 ～299		17～26	Wz#42
	300 ～302	No.17 〔第１稿〕	1は欠，2，5～8	Wz#42
	303		27～28	Wz#42
	304	No.18	1は欠，　2	Wz#42
48	305		3～ 4	*Wz# 6
	306		5～10，10（重複）～13	Wz#42
	～311		15～16	
	312		17～18	Wz#42
49	313 ～314		19～22	Wz#18
50	315 ～325	No.19	1は欠，　2～22	Wz#36
	326	No.20	1～ 2	Wz#42
	327		3～ 4	Wz#18
	328		5～ 6	Wz# 4
51	329 ～330		7～10	Wz#22
	331		11～12	Wz# 4
	332		13～14	Wz#18
	333		15～16	Wz#42
52-53	334 ～349		17～48	Wz#22
	350		49～50	Wz# 4
54	351 ～353		51/52，53～54	*Wz#18
			55/56，57～58	
	354 ～356		59～64	Wz# 4
55-56	357 ～366		65，67～85	Wz#21

Ａ１における稿と曲番号

① 上の表に示したとおり，Ａ１における曲番号は，同じ番号がだぶったり，欠けたりしている。台本ａ１，ａ２に示された曲順に従うと，Ａ１におけるNo.8(f.96-98)，No.9(f.99-104)，No.10（f.117～166)，No.11（f.167～186)，及びNo.14（f.215～229)は，それぞれ，〔No.6〕，〔No.7〕，〔No.9〕，〔No.10 〕，及び〔No.13 〕である。

② No.15 には二つの稿がある。自筆譜で書かれた〔第１稿〕(f.257-276) に対し，筆写譜で伝わる〔第２稿〕(f.241-256) は歌詞がイタリア語である。

⑧ No.17 には，２つの稿がある。オリジナルの〔第１稿〕は，オーボエを伴い，自筆譜をf.300，288，301 ～302，291～299， 303 の順に並べ直すことによって再現される。この稿では，管楽器のパートが細いペンで書かれている。オスミンの歌唱旋律は，〔第２稿〕の歌唱旋律よりも完全４度高く，“Alto”と指示があり，ファルセットで歌うことが求められている。資料の状態から，後にシェンクは，オスミンの歌唱旋律を完全４度下げ，部分的にオーボエの代わりにフルートを使用した〔第２稿〕を作成した，と推測される。その際，おそらく，必要なページ（1-2， 及び 5-8ページ）だけを新しく書き，〔第１稿〕の中で使えるページ(3-4，及び9-16ページ）と組み合わせたために，現状のように，〔第１稿〕と〔第２稿〕が混合した状態になっているものと思われる。

Ａ２ No.9（第１幕フィナーレ）の中の，アッハメットとアルマンツィーネの二重唱「あぁ愛しい人よ，私の気持ちを嘲らないで」（“Theure, spotte nicht meiner Triebe!”）の自筆ヴォーカル・スコア A-Wgm VI 17697 (Q 9354)

横長判（縦約22.7cm×横約31cm），10 段の五線紙Wz#36で，端は切り揃えられている。ドッペルボーゲン二つの真中に単葉１枚を挟んだものが，表紙なしで糸で綴じられている。タイトルページには，自筆で“Duett/ aus Achmet und Almanzine/ Theure, Spotte nicht/ Meiner Triebe!”と書かれた下に，フックスの筆跡で“von Johann Schenk”と記されている。右下には自筆で“795 ”と記入されている。 記入ページ10ページ（最後のページは空白）。

Ａ３ No.16 （アッハメットとアルマンツィーネの二重唱）の自筆ヴォーカル・スコア A-Wgm VI 17698 (Q 9355)

横長判（縦約22.5cm×横約31.5cm），10 段の五線紙で，端は切り揃えられている。

単葉１枚，ドッペルボーゲン一つ，単葉１枚，ドッペルボーゲン一つの順に紙が重ねられ，表紙なしで糸で綴じられている。合計12ページで，最後の３ページは空白。タイトルページには自筆で“Duett/ aus/ Achmet und Almanzine./ O Achmet, du in meinem Arm?”と書かれた下に，フックスの筆跡で“von/ Johann Schenk”と記され，さらに右下に自筆で“ 795”と記入されている。

用いられている紙: f.1 =すかしなし; f.2 ～4 =Wz#36; f.5 ～9 =Wz#16

Ｂ１　自筆修正入りの，プロンプター用手書き台本付きの筆写スコア　A-Wn-M K.T.5

横長判（縦約23cm×横約31.5cm），10段，12段，及び16段の五線紙で，端を切り揃えられていない。ボール紙で表紙をつけた５分冊が，さらにボール紙の表紙の中にひとまとめにされている。第１分冊は 113枚，第２分冊は126 枚，第３分冊は56枚，第４分冊は 104枚，第５分冊は74枚の五線紙を含む。合計 473枚で，記入ページは 926ページ，空白ページは20ページ(f.20v，51v，62v，93v，100v，113v，141v，166v，239v，295v，331v，343v，344v，364v，383v，397r，399v，413r，414r，473v.)である。ページ番号はなく，各ラーゲ第１ページの左上に，番号3 ～21（１と２は欠），及び1/2 ～21/2が記入されている。

用いられている紙は，Wz＃６を含む合計10種類である。このうち，Wz＃６は，楽譜資料Ａ１で用いられているものと同一である。

Ｂ１における稿と曲番号

① この筆写譜でNo.6と番号付けされているアタリーデのアリアは，楽譜資料Ａ１のNo.12 と内容が一致する。各ラーゲの第１ページに記された番号からみても，この楽譜はもともとNo.11 と13の間にあったものと考えられる。No.12 という番号が消されて６に変えられ，No.6のStichwort(音楽の開始のきっかけとなる台詞）が書き込まれているのは，おそらく上演の過程で，No.6の代わりにNo.12 を演奏したためであろう。この曲のコロラトゥーラ部分には，自筆による修正がみられる。② No.17 は，楽譜資料Ａ１における二つの稿が両方とも完全な形で筆写され，〔第１稿〕，〔第２稿〕の順に並べられている。

Ｂ１におけるコピスト

この筆写譜には，９種類の筆跡を認めることができる。そのうち，自筆による修正の入った〔No.12 〕を筆写したのはKp#31である。また，自筆譜と同じWz＃６の紙を用いて筆写しているのは，Kp#31，Kp＃４，Kp＃５，Kp＃６，Kp#12，Kp#15の６人である。

楽譜資料Ｂ１の内容は，基本的にＡ１に忠実であり，Ａ１において後に抹消されている部分は，この筆写譜においても抹消されている(No.9，15，16，19，20)。また，自筆譜において，別の紙を挿入して付け加られている部分は，この筆写譜では，一度筆写してから修正を加えている(No.16，18）。但し，以下の５点においては，自筆譜との間に相違がみられる。① No.12 のコロラトゥーラ音型（自筆による訂正），② No.9の冒頭（１小節付加），③ No.9の"un poco Adagio"部分（クラリネットの代わりにオーボエ），④ No.

9 の"Allegro vivace"部分（前奏２小節付加），及び⑤ No.19の終結部分（新しい終結フレーズを付加）。スコヴァティ・コピスト（Kp#31）が筆写に加わっていることから，この筆写譜は，宮廷劇場付きコピスト，スコヴァティのグループによって作成されたものである可能性がある。

Ｃ１　No.15〔第１稿〕（アルマンツィーネのレチタティーヴォとアリア）の印刷ヴォーカル・スコアとパート譜

J. SCHENCK/ Arie〔Sopran: "Achmet, eile mich zu retten"/ aus der Oper: "Achmet und Almancine"〕Arien und Duetten/ aus den neuesten/ Deutsen Opern./ No. 2/ Die Singstimme in einem Klavierauszug. Die Begleitung des Orchesters in einzelnen Stimmen.

André, Pl. Nr.1003, 1.20fl.〔RISM S 1462 〕

1797年 3月14日，及び1797年 4月 7日に広告が出され（Mattäus 1973: 323），また，ウィーンの楽譜印刷・販売業者，ヨハン・トレーク（Johann Traeg, 1747-1805)の1799年の販売目録の 217ページに掲載された。(Weinmann 1973: Sp.217)　カール・ハインツ・シュラーガーによれば，H-Gcに１冊伝承している。(Schlager 1978: 378)

Ｃ２　No.15〔第１稿〕（アルマンツィーネのレチタティーヴォとアリア）の筆写ヴォーカル・スコアとパート譜　D-BFb（但し現在はD-MÜu S-che 53で閲覧可能)

横長判（寸法不明），９段と10段の五線紙で，端を切り揃えてある。厚紙表紙で１冊に製本されている。表紙のタイトル "Rondo/ Achmet, eile mich zu retten/ Due Violini/ Due Oboe/ Due Corni/ Due Fagotti,/ Viola/ et/ Basso Dell Sig: Schenck"（下に，D-MÜu の所蔵番号）"S/ che 53"

タイトルページの記述（f.1r）"Rondo.// Achmet, eile mich zu retten// Violino Primo/ Violino Secondo/ oboe Primo/ oboe secondo/ corno Primo/ corno Secondo/ Fagotto Primo/ Fagotto Secondo/ Viola et Basso// Del Sigl Schenk"

この筆写譜は，おそらくＣ１を筆写したものと推測される。歌唱パートには３箇所の音の間違いがある。これは，Ｃ１における同じ間違いを継承したものである可能性がある。

問題のある曲

＊19　曲番不明　女声独唱「愛は常にミルテの王冠を飾り」の筆写ヴォーカル・スコア

D-LÜh Mus P 1456

楽譜集 "Lieder für eine Singstimme mit Pianoforte von Karl Eckert, Karl Bohm, Franz Abt, u.a."の36ページに所収。楽譜の上方には "Aus Achmet u. Zenide" と記され，右上には，別の筆跡で "〔Johann Schenk 〕" と記入されている。

(5) 台本

a 1　おそらく初演の際に出版された台本

Achmet, und Almanzine.// Ein Singspiel/ in/ zwey Aufzügen./ Nach dem Französischen/ der Herrn/ Le Sage und d'Ormeville.// Aufgeführt/ auf den k.k. Hoftheatern/ in Wien// Mit von Kurtzbekischen Schriften/ 1795.

100ページ

A-Wn-D 3347-A; A-Wn-Th 845.000-A.Th.3; A-Wn-Th 698.427-A.Th.267; A-Wn-M 440.778-A.M.22.TB; A-Wn-M 641.437-A.M.7.TB; A-Wgm 2081 Textbücher U-Wc　Schatz-Coll. 9591

a 2　プロンプター用手書き台本

Achmet und Almanzine// Ein Singspiel in 2. Aufzügen./ nach dem Französischen des Herrn/ Le Sage// Zum Soufflion

ページ番号なし，104 枚

A-Wn-M　SM 32111

内容はａ１と同一。おそらく，ウィーンでの上演に用いられたものと思われる。

(6) 作曲と上演に関するドキュメント

シェンクの自伝には，この作品の作曲に関して次のような記述がある。

「この年〔1794年〕，ブラウン男爵（Herr Baron von Braun）が両宮廷劇場の監督を引き受けた。その監督下で，私はオペラ『アッハメットとアルマンツィーネ』を作曲した。この作品は，1795年８月17日[1] にケルントナートア劇場で上演された。」(Schenk, J.B. 1830)　しかし，自伝に記された初演日は，上記(2) に挙げたちらしの記述からみて，おそらく誤りと推測される。

1794年 8月 1日から1795年 7月末日までの『オーストリア・ハンガリー帝国最高劇場管理部会計報告』には，この作品の作曲報酬としてシェンクに 225グルデン，また同時に台本作成の報酬90グルデンが支払われたことが，次のように記録されている。

「第 320号　ドイツ語オペラ『アッハメットとアルマンツィーネ』の作曲に対し，シェンクに / 225.-〔グルデン〕 /　同様に，台本作成に対し / 90.- 〔グルデン〕」

(A-Wsta Hoftheater Sonderreihe 29: 107)

同じ作曲報酬の支払い記録は，『両宮廷劇場出納簿』にも見られる。同出納簿には，1795年中に行われたこの作品の５回の上演による１回ごとの収入額も記録されている。

「No.50 180　1795年７月17日『アッハメットとアルマンツィーネ』 893.18 〔グルデン〕
No.51 181　1795年７月19日『アッハメットとアルマンツィーネ』 653.40 〔グルデン〕
183　1795年７月21日『アッハメットとアルマンツィーネ』 246.8 〔グルデン〕
No.52 186　1795年７月26日『アッハメットとアルマンツィーネ』 309.04 〔グルデン〕
No.8　23　1795年９月24日『アッハメットとアルマンツィーネ』 164.52 〔グルデン〕

(A-Wn-Th M 4000 Th.Bd.2)

注

(1) Schenk, J.B. 1830N: 83では，活字翻刻者は初演の日付を「８月14日」と読み間違えている。

#9 “Der Dorfbarbier”
「村の床屋」（1796年）

(1) 作曲年と根拠：1796年（自筆譜A1のタイトルページに記入されている）

(2) 上演記録

トライチュケによれば，初演は1796年10月30日にケルントナートア劇場で予定され，実際には同年11月6日に行われた。(Treitschke: 1844: 157-158)　また，第2回上演は，1796年11月7日にブルク劇場で予定されていたが，実際には1797年8月22日に行われた。(Treitschke: 1844: 157-158)　初演のちらし（1796年10月30日付）には，配役が次のように記録されている。「村の床屋ルックス＝ヴァインミュラー氏（Hr. Weinmüller），ズースヒェン＝ヴィルマン嬢，教師ルント氏＝フォーゲル氏（Hr. Vogel），ヨーゼフ＝シュルツ氏（Hr. Schulz),アーダム＝バウマン氏（Hr. Baumann），マルガレーテ夫人＝ガスマン嬢（姉），ペーター＝ヴァラシェック氏（Hr. Wallascheck），フィリップ＝コルナー氏（Hr. Korner），トーマス＝ヘラー氏（Hr. Heller).... 」(A-Wn-Th 773.042-D.Th)

ハダモフスキーによれば，1797年8月22日の再演以来1810年まで，この作品は宮廷劇場で毎年，計170回上演された。(Hadamowsky 1966: 30)　劇場総監督部（General-intendanz)の記録によれば，1819年の末までに，計318回上演された。(Haas 1927: VII)

この作品のウィーン以外の都市における初演状況は，以下のとおりである。1798年3月13日　ベルリン（Rosenfeld-Roemer 1921: 87)；1799年1月4日　ハンブルク（Rosenfeld-Roemer 1921: 87)；1799年9月19日　ブレスラウ（Loewenberg 1955: 528)；1800年3月29日　シュレジア地方エルス（Oels）(Loewenberg 1955: 528)；1800年6月30日　ハノーファー(Loewenberg 1955: 528)；1801年11月8日　マンハイム（Rosenfeld-Roemer 1921: 87)；1802年9月23日　ザグレブ（Loewenberg 1955: 528)；1803年11月10日　ポズナニ（Loewenberg 1955: 528)；1804年　シュレスヴィヒ（Loewenberg 1955: 528)；1804年12月2日　コーブルク（D-C1の索引カードによる)；1805年　アイゼンシュタット（Landon 1977: 337)；1808年　ペテルブルク（Loewenberg 1955: 528)；1808年7月4日　ブダペスト（ハンガリー語上演：Loewenberg 1955: 528)；1810年　ワルシャワ（ポーランド語上演：Loewenberg 1955: 528)；1812年1月7日　ブダペスト（ドイツ語上演：Loewenberg 1955: 528)；1812年5月9日　カッセル（Anonymus 1812: Sp.

607); 1812年7月26日　クラウゼンブルク（ハンガリー語上演: Loewenberg 1955: 528); 1816年9月22日　プラハ（Loewenberg 1955: 528); 1817年6月21日　ミュンヘン（D-Mbs の索引カードによる); 1819年10月2日　モスクワ（Loewenberg 1955: 528); 1825年4月20日　アムステルダム（Loewenberg 1955: 528); 1827年4月23日　イェーテボリ（Loewenberg 1955: 528); 1828年5月3日　オスナブリュック（D-DTの索引カードによる); 1831年7月　シュトゥットガルト（Rosenfeld-Roemer 1921: 88); 1831年7月　ワイマール（Rosenfeld-Roemer 1921: 88); 1833年夏　ライプツィッヒ（Rosenfeld-Roemer 1921: 88); 1833年夏　ストラスブール（Rosenfeld-Roemer 1921: 88); 1833年　ケーニヒスベルク（Haas 1927: VII); 1839年12月23日　デットモルト（D-DTの索引カードによる); 1843年　フランクフルト（Rosenfeld-Roemer 1921: 88); 1847年12月15日　ニューヨーク（Loewenberg 1955: 528); 1859年2月29日　プラハ（チェコ語上演: Loewenberg 1955: 528); 1871年8月15日　ピルモント（Pyrmont)(D-DT の索引カードによる); 1891年2月4日　ドレスデン（Rosenfeld-Roemer 1921: 88); 1893年10月27日　ストックホルム（スウェーデン語上演: S-Stの索引カードによる）

(3) 作品の構成と主題

登場人物:　ルックス（Lux), 村の床屋〔バス〕

ズースヒェン（Suschen), ルックスの被後見人〔ソプラノ〕

ルント（Rund),教師〔バス〕

ヨーゼフ（Joseph），小作人の息子〔テノール〕

アーダム（Adam），床屋の召使〔テノール〕

マルガレーテ（Margarethe），鍛冶屋の未亡人〔ソプラノ〕

ペーター（Peter), 仕立屋〔バス〕

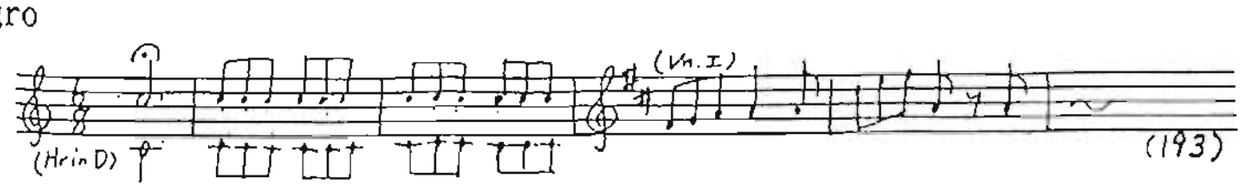
フィリップ（Philipp), 陪審員〔バス〕

トーマス（Thomas）〔バス〕

農民

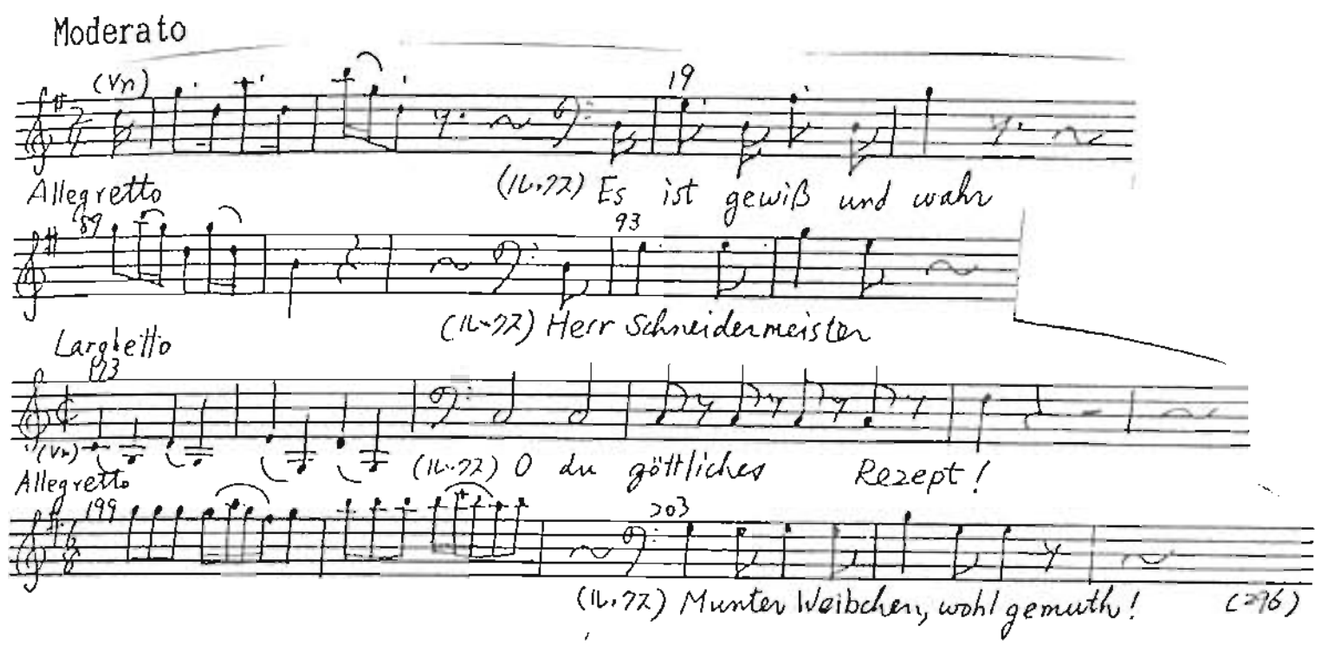
序曲（Str, 2Fl, 2Ob, 2Fg, 2Hr)楽譜資料A 1, B 2

Allegro

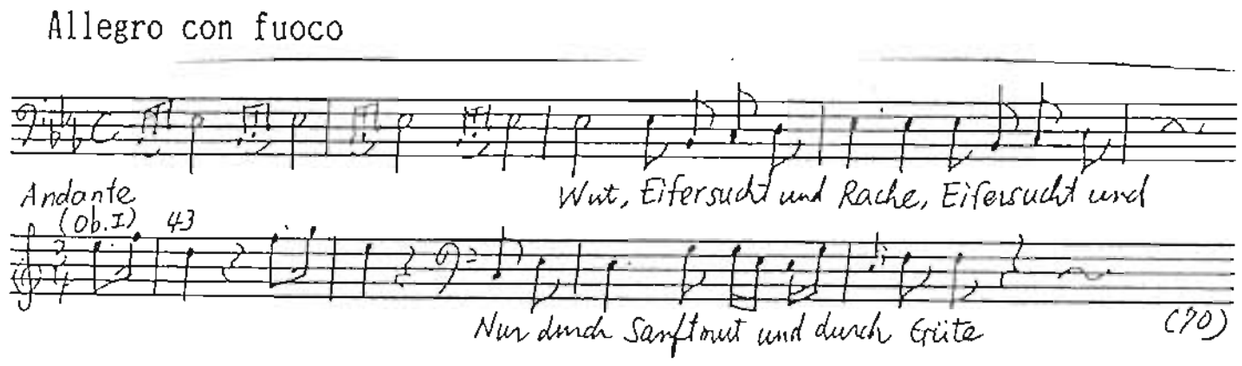


第1場（床屋の室内：アーダム，ルックス，のちにマルガレーテ，ペーター）

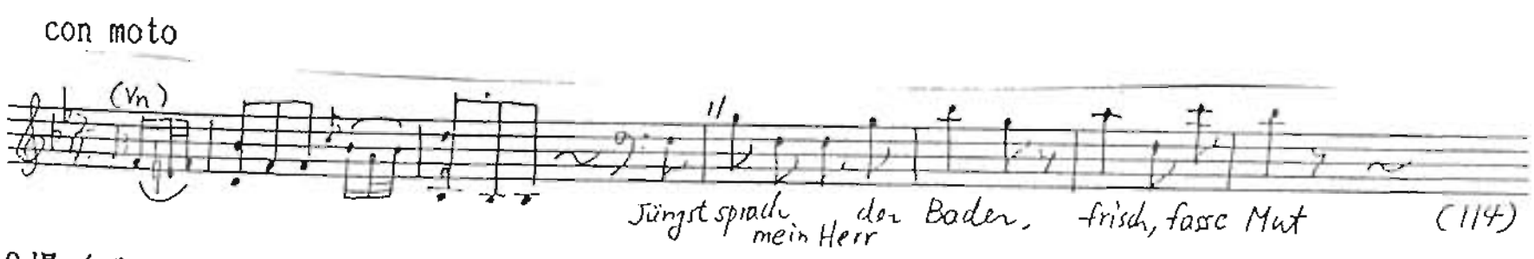
No.1　イントロダクション（マルガレーテ，アーダム，ペーター，ルックス，Str，2Fl，20b，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ２



No.2　アリア（ルックス，Str，20b，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ２

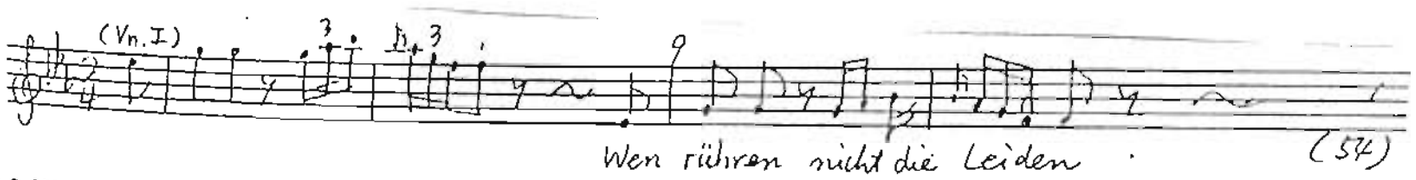


No.3　アリア（アーダム，Str，2Kl，2Fg）　楽譜資料Ａ１，Ｂ２



第2場（ズースヒェン）

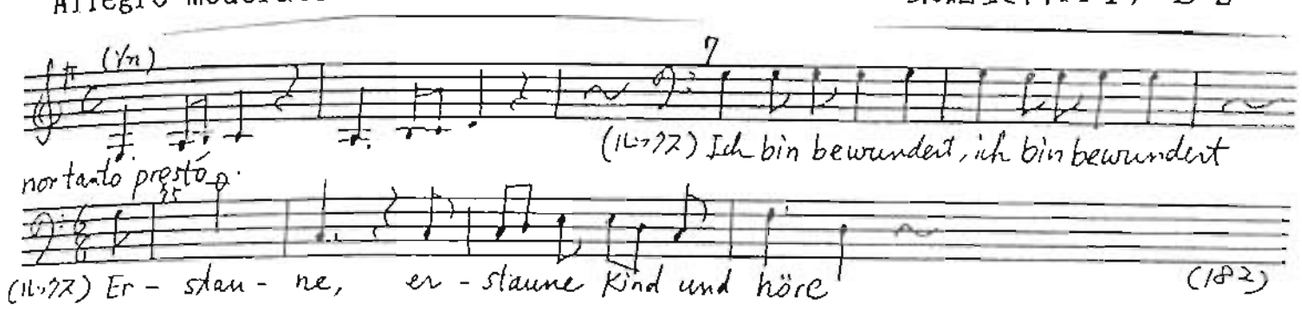
No.4　カヴァティーナ（ズースヒェン，Str，2Kl，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ２



第3場（ルックス，ズースヒェン）

No.5　二重唱（ルックス，ズースヒェン，Str，2Fl，2Fg，2Hr）

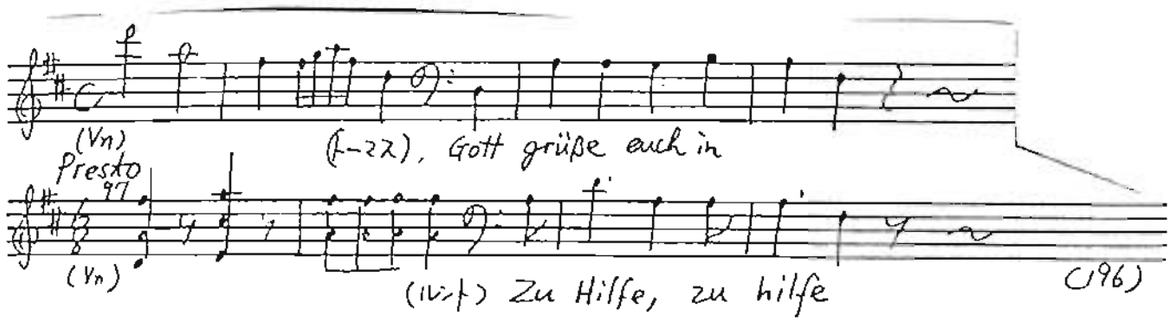
Allegro moderato　　楽譜資料Ａ１，Ｂ２



第4場（ヨーゼフ，ルックス，ズースヒェン，のちにトーマス，フィリップ，アーダム，ルント）

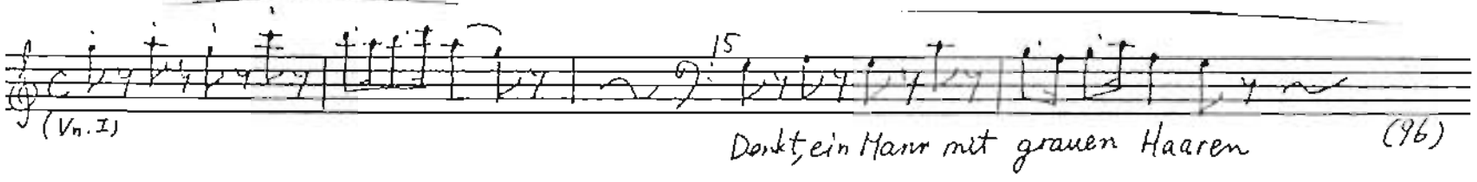
No.6　七重唱（ズースヒェン，ヨーゼフ，ルックス，トーマス，フィリップ，アーダム，ルント，Str，2Ob，2Fg，2Hr）　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２

Allegro moderato



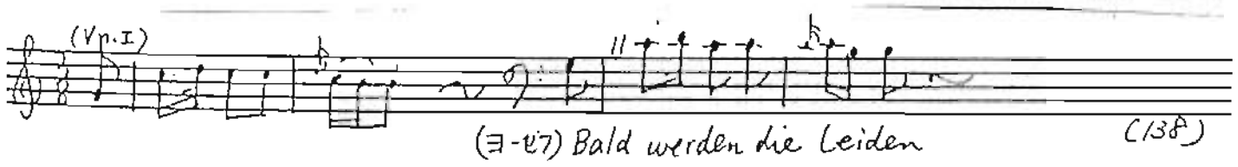
No.7　アリア（ルント，Str，2Ob，2Hr）　楽譜資料Ａ１

Allegro moderato



No.8　三重唱（ズースヒェン，ヨーゼフ，ルント，Str，2Fl，2Kl，2Fg，2Hr）

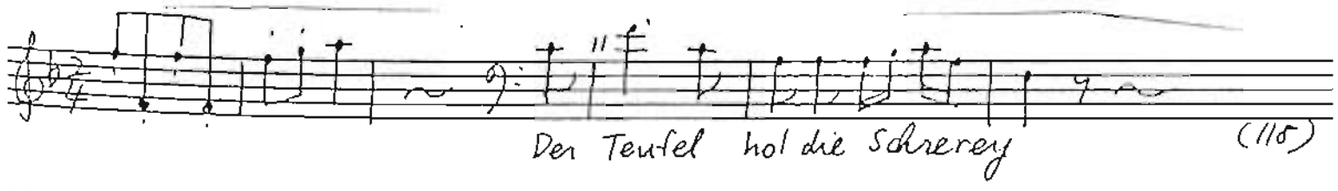
Andante　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２



第5場（ルックス，ズースヒェン，ヨーゼフ，ルント，のちにフィリップ，トーマス，アーダム，農民が加わる）

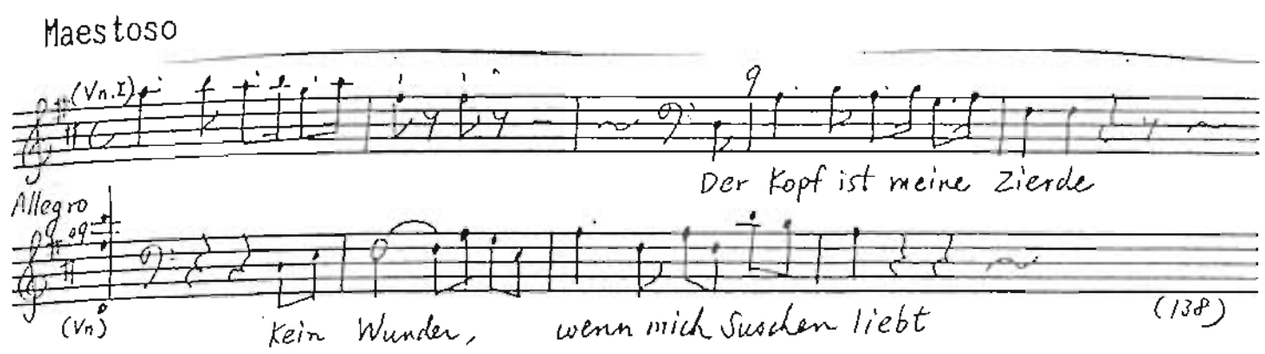
No.9　アリア（アーダム，Str，2Fl，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２

Presto



第6場（マルガレーテ，ルックス，ズースヒェン，ルンド，アーダム）

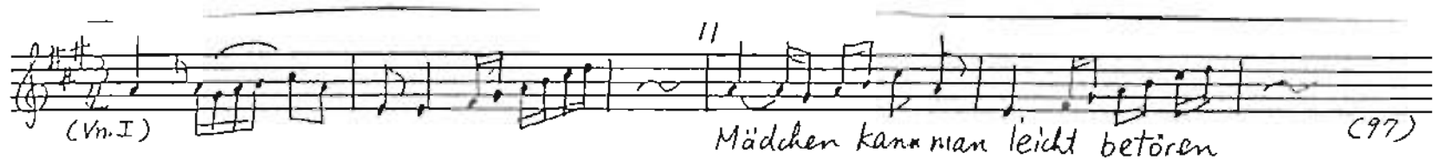
No. 10〔第1稿〕アリア（ルックス，Str，2Ob，2Hr）　楽譜資料Ａ１



No. 10〔第2稿〕アリア（ルックス，Str，2Ob，2Hr） 楽譜資料A 1，B 1，B 2

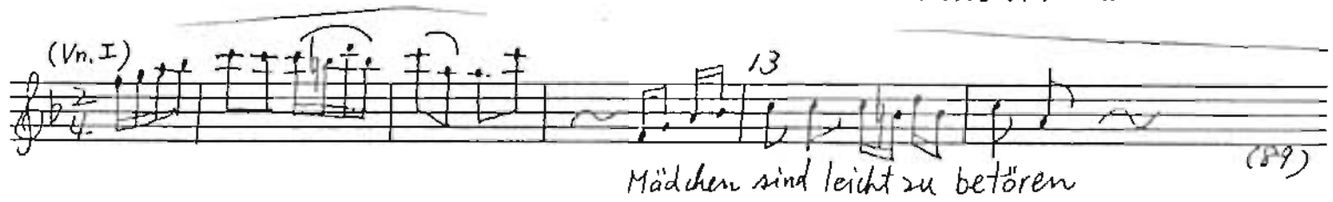
No. 11〔第1稿〕アリア（ズースヒェン，Str，1Fl，1Kl，2Hr）

Allegretto, alla Polacca 楽譜資料A 1，B 1，B 2，B 3



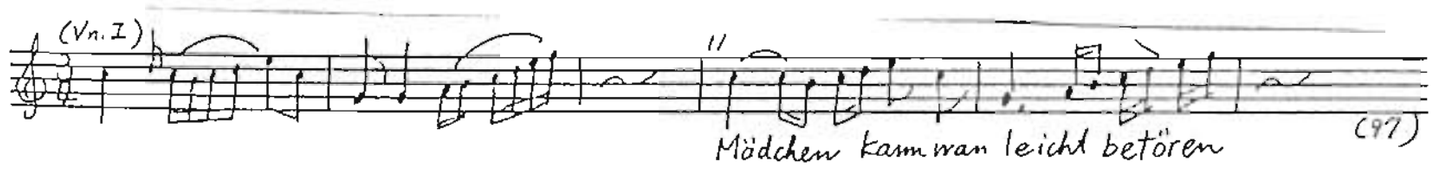
No. 11〔第2稿〕アリア（ズースヒェン，Str，2Fl，2Hr）

Andantino con moto 楽譜資料A 1



No. 11〔第3稿〕アリア（ズースヒェン，Str，1Fl，1Ob，1Fg，2Hr）

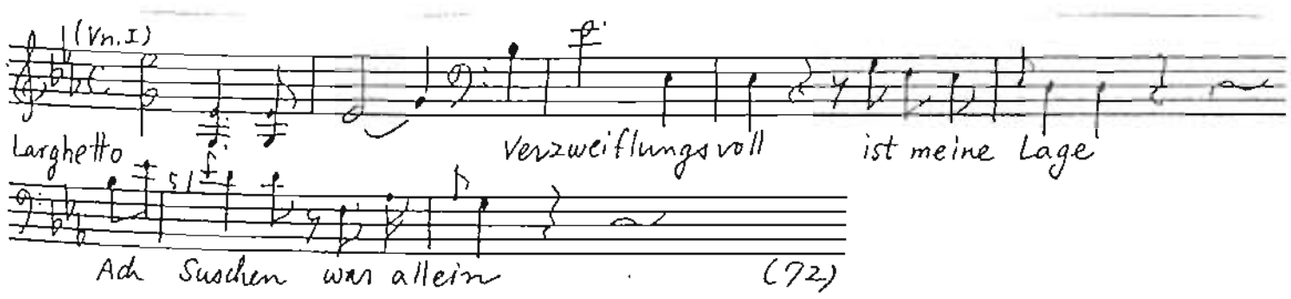
Allegretto, alla Polacca 楽譜資料A 1



第7場（ヨーゼフ，ルックス，ズースヒェン）

No.12 アリア（ヨーゼフ，Str，2Kl，2Fg，2Hr） 楽譜資料A 1，B 2

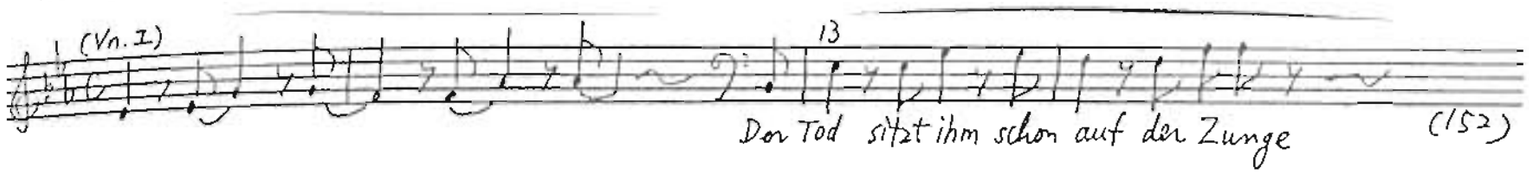
Allegro molto



第8場（ルント，ヨーゼフ，ルックス，ズースヒェン，のちにアーダムが加わる）

No.13 二重唱（ヨーゼフ，ルックス，Str，2Ob，2Fg，2Hr）

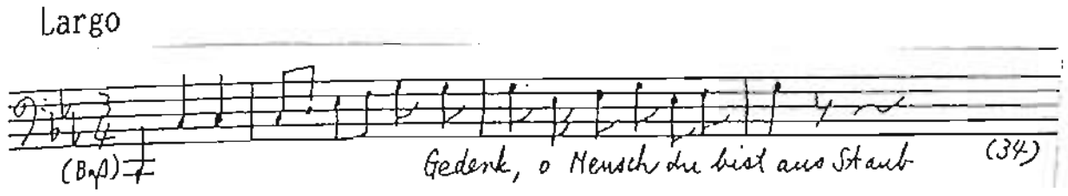
Allegro　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２



第９場（アーダム，フィリップ，トーマス，ヨーゼフ，ルックス，ズースヒェン，ルント）

No.14 アリア（ルント，2Kl，2Fg，2Hr，2Tp）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２

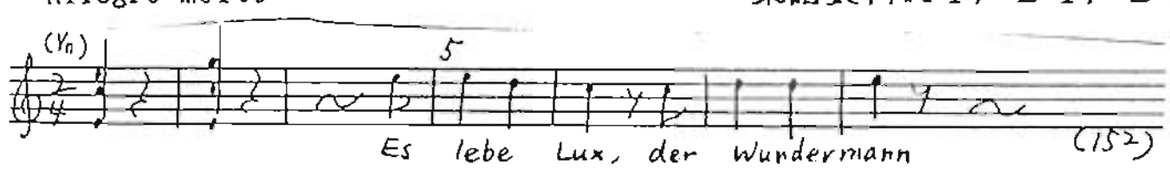
Largo



第10場（アーダム，ヨーゼフ，ルックス，ズースヒェン，ルント，のちにマルガレーテ，フィリップ，トーマス，ペーターが加わる）

No.15 アンサンブル（アーダム，ヨーゼフ，ルックス，ズースヒェン，ルント，マルガレーテ，フィリップ，トーマス，ペーター，Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr）

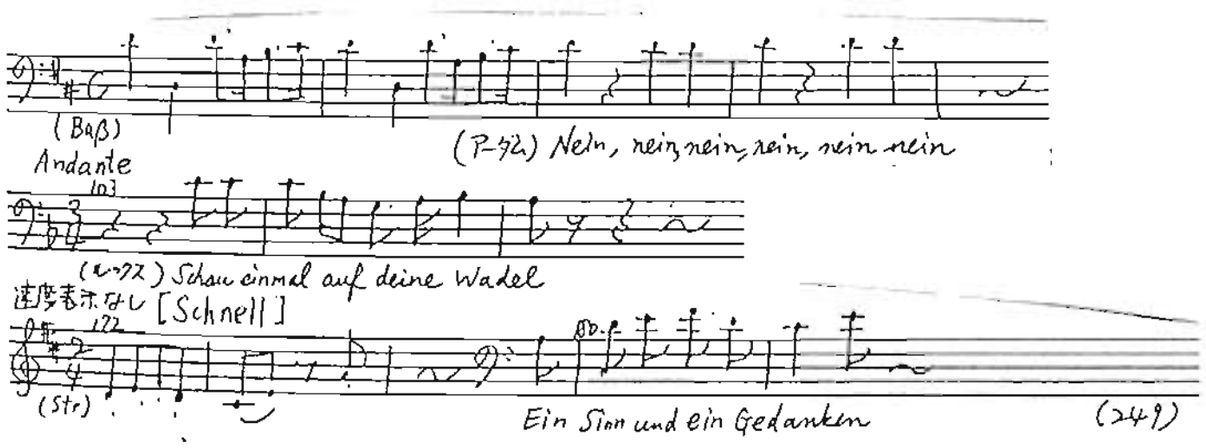
Allegro molto　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１，Ｂ２



後に付加された二重唱「俺はもう出ていく」（“Nein, ich geh itzt aus dem Haus”）

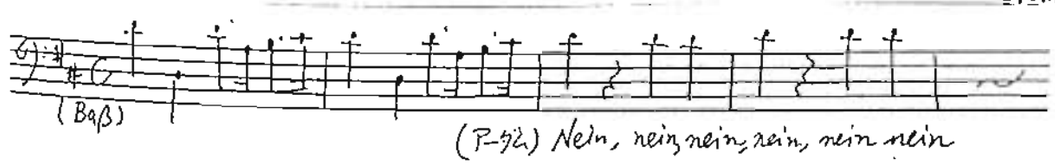
〔第１稿〕（アーダム，ルックス，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）

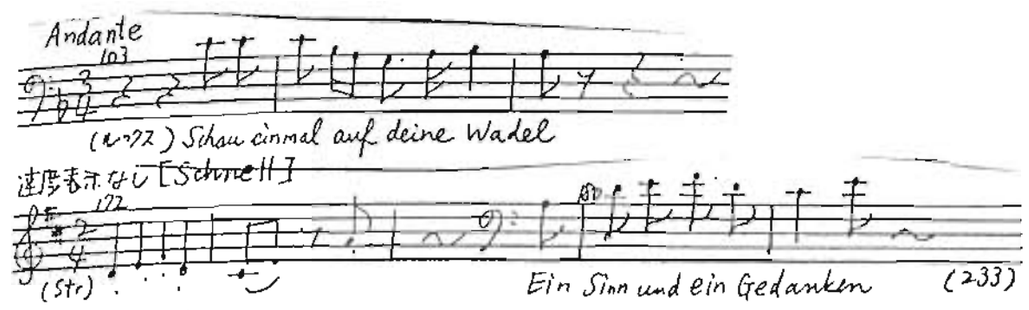
Allegro con brio　　楽譜資料Ａ１



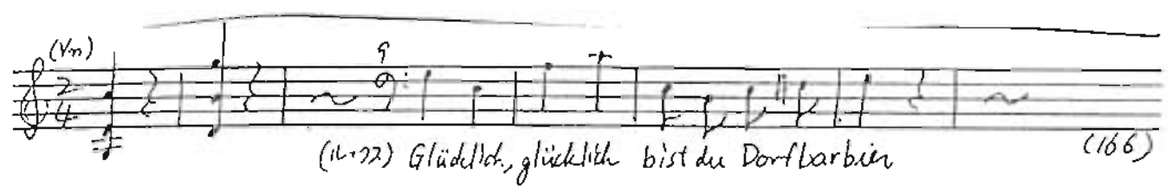
後に付加された二重唱「俺はもう出ていく」〔第２稿〕（アーダム，ルックス，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）

Allegro con brio　　楽譜資料Ａ２





200 回上演に際する終曲アンサンブル「幸せな村の床屋よ」("Glücklich bist du Dorf-barbier" (アーダム，ヨーゼフ，ルックス，ズースヒェン，ルント，マルガレーテ，フィリップ，トーマス，ペーター，Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr，2Tp，Pk)



(4) 楽譜資料

A 1　作品全体のTeilautograph　(筆写譜が混じった自筆譜)

A-Wgm Aut Schenk 15　(IV 17610)

No.14 の楽譜 4 枚(f.205～208)は，筆写譜である。

横長判 (縦約22.4cm×横約30.5cm)，10段，12段，及び16段の五線紙で，端は切り揃えられている。大理石模様の厚紙表紙で 1 冊に製本されている。厚紙表紙のタイトルは，"Der Dorfbarbier/1796"で，"253 Bl. m. N."というメモと，ウィーン楽友協会の所蔵番号"⑮"が付記されている。

製本されているが，綴じられた上下の部分から，紙の組み合わせ方を知ることが可能である。各曲の規模に合わせて，必要な数のドッペルボーゲンを組み合わせてラーゲが作られている。シェンクは，曲ごとにラーゲとページ番号を改めている。

合計 251枚で，記入ページ 495ページ，空白ページは 7ページ (f.52v，62v，98v，147v，167v，240v，251v) である。

タイトルページの自筆の記述 "Der/ Dorfbarbier/ ein / Singspiel/ in/ einen Aufzugen" (フックスの筆跡で) "Partitura Autographa" (右上に，ウィーン楽友協会の所蔵番号) "IV 17610" (左下に自筆で) "In Musik gesetzt von Joh: Schenk" (右下に，おそらく自筆で) "1796"

f.216rには，自筆で"Duetto"と題した後に，フックスの筆跡で"zum Dorfbarbier. ad No: 17610/ IV"と記され，さらに下端に，フックスの筆跡で「後に付け加えて作曲」

("* Später hinzukomponirt") と注記されている。

f.241rにも，自筆で" Schluß = Chor" と記した後に，フックスの筆跡で "zum Dorfbarbier v. Schenk. ad. Num. 17610 IV" と注記されている。

用いられている紙は，Wz#26（16段），Wz#38（16段と12段），Wz#18とWz#22とWz#39（いずれも12段），及びWz#16，Wz#36，Wz#32，Wz#23（いずれも10段）の9種類である。第27，31，34，及び第36-38 ラーゲでは，それぞれ2種類の紙が混合して用いられている。しかし，筆跡の変化や音楽的内容からみて，いずれも後からのさしかえによるものとは断定しがたい。これに対して，第26ラーゲにおける照合不能な2枚(f.167-168) は，明らかに後から付加されたものである。

筆写譜の部分（第32ラーゲ； No.14）には，自筆部分とは異なる紙Wz#27が用いられている。

ラーゲ	フォリオ	内容	ページ番号	紙
1-2	1r	タイトル		Wz#16
	1v ～17	序曲	1は欠， 2～33	
3-5	18～43	No.1	1～52	Wz#18
6-7	44～52r	No.2	1は欠， 2～17	Wz#16
	52v	空白		
8-9	53～62r	No.3	1は欠， 2～19	Wz#36
	62v	空白		
10	63～69	No.4	1は欠， 2～14	Wz#36
11-12	70～82	No.5	1～26	Wz#18
13-14	83～98r	No.6	1～31	Wz#26
	98v	空白		
15-16	99～109	No.7	1は欠， 2～22	Wz#36
17-18	110 ～118	No.8	1は欠， 2～18	Wz#22
19-20	119 ～128	No.9	1は欠， 2～20	Wz#36
21	129 ～137	No.10 〔第1稿〕	1は欠， 2～18	Wz#36
22	138 ～139		19～22	Wz#16
23	140 ～ 147r	No.10 〔第2稿〕	1は欠， 2～15	Wz#16
	147v	空白		

24-25	148 ～159	No.11 〔第１稿〕	1は欠，	2～24	Wz#16
26	160 ～166	No.11 〔第２稿〕	1は欠，	2～14	Wz#16
	167r	空白			照合不能
	167v～168			14～16（重複）	
	169 ～170			15～18	Wz#16
27	171 ～172	No.11 〔第３稿〕	1は欠，	2～ 4	Wz#32
	173 ～176			5～12	Wz#23
	177 ～178			13～16	Wz#32
28	179 ～182			17～24	Wz#32
29	183 ～190	No.12	1は欠，	2～16	Wz#36
30	191 ～198	No.13	1は欠，	2～16	Wz#18
31	199 ～200			17～20	Wz#18
	201 ～202			21～24	Wz#22
	203 ～204			25～28	Wz#18
32	205 ～208	No.14 (Ms)		(1～8)	Wz#27
33	209 ～215	No.15	1は欠，	2～14	Wz#26
34	216	後に付加された二重唱	1は欠，	2	Wz#39
	217 ～218			3～ 6	Wz#38
	219			7～ 8	Wz#39
35	220 ～223			9～16	Wz#39
36	224 ～225			17～20	Wz#39
	226 ～227			21～24	Wz#38
37	228			25～26	Wz#39
	229 ～230			27～30	Wz#38
	231			31～32	Wz#39
38	232 ～233			33～36	Wz#38
	234 ～235			37～40	Wz#39
39	236 ～240r			41～49	Wz#39
	240v	空白			
40-42	241 ～251r	後に付加された合唱	1は欠，	2～21	Wz#38

〔アンサンブル〕〔第１稿〕

251v　　空白

Ａ１における稿

① No.10 には，音楽の異なる２つの稿がある。両方共，前後の曲と同じ紙，Wz#36とWz#16が用いられているため，どちらがより早く作られたのかはわからない。

② No.11 には３つの稿がある。〔第１稿〕と〔第２稿〕は異なる音楽で，いずれも同じ紙Wz#16が用いられているため，どちらが早く作られたのかはわからない。〔第３稿〕は〔第１稿〕をC-dur に移調した稿で，他の部分には使われていない紙，Wz#32とWz#23に記されているため，おそらく後に作られたものと考えられる。

③ フックスが注記しているとおり，第34ラーゲ以降の二重唱と合唱〔アンサンブル〕は，後から付加されたものである。歌詞によれば，合唱〔アンサンブル〕は，200回目の上演のために作曲された[1]。

Ａ１におけるコピスト

筆写譜の部分の筆跡は，Kp#16の筆跡である。

Ａ２　後に付加された二重唱「もう俺は出ていく」〔第２稿〕の自筆スコア

A-Wgm Aut Schenk 15　VI 17635 (Q 3529)

横長判（縦約22cm×横約31cm），12段の五線紙Wz#38で，端を切り揃えてある。六つのラーゲに組み合わせた23枚の紙が，表紙なしで糸で綴じられている。

第１ページには，自筆で“Duett” と記した後に，フックスの筆跡で“zum Dorf-barbier v. Schenk.”と記されている。ウィーン楽友協会の所蔵番号“Cat.VI 17635 ad No.17610/IV”は，後に抹消されている。

この楽譜は，楽譜資料Ａ１に含まれている，後に付加された二重唱と比較すると，楽器法，音型に多少の相違があり，途中の１フレーズ(S.38 T.3-43) が短縮されている。記譜の状態から，どちらが先に書かれたかを判断するのは難しいため，ここでは便宜的に，Ａ１に含まれている稿を〔第１稿〕，Ａ２を〔第２稿〕とした。

Ｂ１　自筆の書き込み入りの筆写スコア。プロンプター用手書き台本付き

A-Wn-M S.m.8414

序曲，No.1～5，7，及び12が欠落している。

横長判（縦約23.2cm×横約31cm），10段，12段，及び16段の五線紙で，端を切り揃えてある。厚紙表紙をつけて２冊に製本されている。厚紙表紙のタイトルは“Der Dorfbarbier/ II”と“Der Dorfbarbier III”であり，明らかにもとは全３冊より成り，そのうちの第１分冊が消失したものと考えられる。

第２分冊(No.6，8，9)は53枚（台本部分を除く）で，記入ページ 103ページ，空白ページ 3ページ(f.23v，30v，53v）。第３分冊(No.10〔第２稿〕，11〔第１稿〕，13，15）は50枚（台本部分を除く）で，記入ページ95ページ，空白ページ 5ページ(f.63v，87r，95v，98v，113v)。手書き台本を含めて，フォリオ番号が 1から137 まで通して記入されている(本来 135までのはずであるが，f.121 と125 の間で数え間違いがある）。

複数の箇所にシェンクの自筆の書き込み(più moto，cres:，pp: 等）がみられる。

Wz#27を含む５種類の紙が用いられている。Wz#27は，楽譜資料Ａ１の筆写譜の部分に用いられている紙である。

７種類の筆跡が認められる。このうち，自筆訂正の入っている曲(Nos.6，9，10 ，13，15）を筆写しているのは，それぞれ，Kp#１，Kp#15，Kp#２，Kp#７，Kp#８である。このうちKp#15は，#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）の筆写譜Ｂ１において，同作品のTeilautograph Ａ１と同じ紙を用いて筆写している人物である。さらに，この筆写譜でNo.11 とNo.14 を筆写しているKp#16は，本作品のTeilautograph(上述の楽譜資料Ａ１）の筆写譜の部分を作成している。また，この筆写譜に付随しているプロンプター用手書き台本の筆跡は，Kp#17のものである。

自筆譜において複数の稿がある曲について，この筆写譜ではNo.10 〔第２稿〕とNo.11〔第１稿〕が筆写されている。

Ｂ２　自筆の書き込み入りの筆写スコア　D-B Mus. ms. 19800

各曲の間にはさまれているStichwort-Zetteln （音楽の開始のきっかけとなる台詞を書いた紙片）は，明らかに後に付加されたものである。No.7が欠落しており，Nos.8-15がNos.7-14と番号付けされている。

横長判，10段，12段，及び16段の五線紙で，端を切り揃えてある。厚紙表紙で１冊に製本されている。表紙のタイトルは，“Der Dorfbarbier”。各ページの端には数種類のページ番号が記入されている。

タイトルページの記述（f.1r）“Der/ Dorfbarbier/ Ein komisches Singspiel/ in

einem Aufzug// Die Musik ist von H ^nn Schenk// In Wien zu haben bey Sukowatij am Peters Platz N ^ro 614 im Hof im dritten Stock." この記述によれば，この筆写譜は，宮廷劇場コピスト，ヴェンツェル・スコヴァティ（Bartha, Somfai 1960: 425-427）のグループによるもので，２種類の筆跡を認めることができる。この筆跡は，同じスコヴァティ・グループによる#4「暗中模索」（1787年）の筆写譜Ｂ１にみられる14種類の筆跡とは一致しないため，ここで新しくスコヴァティ・コピストNo.45 及び46（Kp#45, Kp#46）と番号付けする。

序曲とNo.2に自筆の書き込みが見られる。これは，Kp#45が筆写した部分にあたる。

稿: No.10 〔第２稿〕とNo.11 〔第１稿〕が筆写されている。

Ｂ３　自筆の書き込み入りのNo.11 〔第１稿〕（ズースヒェンのアリア）の筆写ヴォーカル・スコア　A-Wgm VI 17699 (Q 9356)

横長判（縦22.6cm×横31cm），10 段の五線紙で，端を切り揃えてある。ドッペルボーゲン三つが一つのラーゲに組まれ（最後のページは空白），表紙なしで綴じられている。

タイトルページの記述 "Der/ Dorfbarbier/ Arie/ /:Mädchen kann man leicht bethören:/"（左下に）"Von H ^rn Schenk."

f.3vに，自筆による歌詞の付加がみられる。

Ｃ１　アントン・ディアベッリ(Anton Diabelli, 1781-1858) [2] の自筆によるスコア

A-Wn-M　Mus.Hs.35828

No.4と 7が欠落している。

横長判（縦約23cm×横約32cm），12段，14段，及び16段の五線紙で，端を切り揃えていない。ラーゲに組み合わせていない93枚の紙が，表紙なしで糸で綴じられている。記入ページ182 ページ，空白ページ 4ページ(f.24v, 73v, 83v, 93v)。

最後の記述（f.93r): Fine Diabelli mpria.

稿: No.10 〔第２稿〕とNo.11 〔第１稿〕が筆写されている。

Ｃ２　筆写スコア　A-Wst　4155M

No.7が欠落し，Nos.8-15はNos.7-14と番号付けされている。

横長判（Haas 1927: 173によれば縦20.0cm×横29.0cm），12段の五線紙で，端は切り揃

えられている。 170 枚の紙（記入ページ 339ページ，最後のページのみ空白）が，表紙をつけて1冊に製本されている。ページ番号 1～339 が記入されている。

タイトルページの記述は，“Der/ DorfBarbier/ Oper/ in 1 Act.(右下に) Del Sig. Schenk”で，全体が1人のコピストによって筆写されている。

稿: No.10 〔第1稿〕とNo.11 〔第1稿〕が筆写されている。

C3 筆写スコア U-Wc M1500 S315 D5 MUSIC 3673 ITEM2

No.4, 7, 10, 12 が欠落し，Nos.5, 6, 8, 9, 11〔第1稿〕, 13, 14, 15は Nos.4-11と番号付けされている。

横長判の五線紙 162枚。記入ページ 322ページ，空白ページは 2ページ(f.150v, 162v)で，端を切り揃えてある。

タイトルページの記述は，“Der Dorfbarbier/ Ein/ Singspiel in einem Aufzug/ von/ Hrn Weidtmann/ Die Musik ist/ von/ Johann Schenk.”で，全体が1人のコピストによって筆写されている。

稿: No.11 〔第1稿〕が筆写されている。

C4 筆写スコア A-Wn-M O.A.68

No.7が欠落し，Nos.8-15はNos.7-14と番号付けされている。No.9〔No.10 第1稿〕とNo.10 〔No.11 第1稿〕の間に，#12 「桶屋」 (1802年) のNo.3 (ハンヒェンのアリア)の楽譜が挿入されている。

横長判（縦約23.5cm×横約31.5cm），10段，12段，及び16段の五線紙で，端は切り揃えられていない。厚紙表紙をつけて2冊に製本されている。

第1分冊（第1幕）は 130枚，第2分冊（第2幕 = No.7 〔8 〕以降）は102 枚で，合計 232枚。記入ページは 456ページ，Stichwort のみ記入したページが 5ページ(f.66v, 108v, 142v, 156v, 196v)， 空白ページは 3ページ (f.22v, 232r, 232v)である。

挿入されている#12 「桶屋」 (1802年) のNo.3の楽譜(5枚) の紙は，かなり新しく，後から付加されたものと思われる。

タイトルページの記述は，“Der Dorfbarbier/ Ein komisches Singspiel/ in zween Aufzügen// Die Musik ist von Herrn Schenk./ Atto Primo.”

稿: No.10 〔第1稿〕とNo.11 〔第1稿〕が筆写されている。

C5　筆写スコア　D-Hs M A/438

No.7とNo.12 が欠落している。Nos.8-11はNos.7-10と番号付けされ，Nos.13-15 はNos.11-13 と番号付けされている。

横長判，12段の紙で，端は切り揃えられている。136 枚（全ページ記入，ページ番号 1～272 ）が，表紙をつけて１冊に製本されている。タイトルページの記述“M A/438 〔= 所蔵番号〕/ Der/ Dorfbarbier/ Singspiel in zweij Akts./ In Musik gesetzt von Joh.〔ann 〕 Schenk./ 〔um 1800 〕”

全体が１人のコピストによって筆写されている。

稿: No.10 〔第２稿〕とNo.11 〔第１稿〕が筆写されている。

C6　筆写スコア　D-Cl　TB Op 142

縦長判のスコア。No.7が欠落し，Nos.8-15はNos.7-14と番号付けされている。

タイトルページの記述“142 〔= 所蔵番号〕/ Der/ Dorf=Barbier/ ein komisches Singspiel/ in 2 Aufzügen./ Musik/ von Herrn Schenk.〔後の付加〕(lebte 1761-1836)/ 77 Jahre Alt/〔？〕.

全体が１人のコピストによって筆写されている。

稿: No.10 〔第１稿〕とNo.11 〔第１稿〕が筆写されている。

D-Clの索引カードの記述によれば，この筆写譜は1804年頃作成された。

C7　Stichwort-Zetteln 付きの筆写スコア　D-Mbs　St.th.370 (1)

No.7とNo.12 が欠落している。Nos.8-11はNos.7-10と番号付けされ，Nos.13-15 はNos.11-13 と番号付けされている。

横長判，12段と16段の五線紙で，端を切り揃えてある。159 枚が，厚紙表紙をつけて１冊に製本されている。記入ページ 316ページ，空白ページは 2ページ(f.151v，159v)。その他に，f.106 と107 の間に２つ折りの紙１枚，f.125 と126 の間に単葉１枚，f.151 と152 の間に単葉４枚が後から挿入されている。

タイトルページの記述“Bibl. No.370〔= 所蔵番号〕/Der Dorfbarbier/ oder/ Die Schinkenkur/ Komische Oper in 2 Ackten/ Musik von/ Schenk.”

後に付加された部分以外は，全体が１人のコピストによって筆写されている。

稿: No.10 〔第2稿〕とNo.11 〔第1稿〕が筆写されている。

D-Mbs の索引カードの記述によれば，この筆写譜は1830年頃に作成された。

C8 筆写スコア D-Dlb Mus.4081-F-5

(筆者未確認)

C9 筆写スコア D-Dlb Mus.4081-F-3

(筆者未確認)

その他の資料については，以下に，種類別に記述することとする。

筆写パート譜

D-Cl TB Op 142

No.7が欠落している。

D-Clの索引カードによれば，1828年，1871年[3]，及び1893年頃に作成された[25]。

稿: No.10 〔第1稿〕とNo.11 〔第1稿〕が筆写されている。

D-DT Mus-n 211

No.7とNo.12 が欠落している。

D-DTの索引カードによれば，1820-1830 年頃と1839年頃に作成された。

稿: No.10 〔第2稿〕とNo.11 〔第1稿〕が筆写されている。

D-Mbs St.th. 370 (4)

No.7とNo.12 が欠落している。

D-Mbs の索引カードによれば，1826年頃と1922年に作成された。

稿: No.10 〔第2稿〕とNo.11 〔第1稿〕が筆写されている。

S-St Kungl. theatern Operetter B 31

1893年頃のパート譜。No.7と12が欠落している。

稿: No.10 〔第2稿〕とNo.11 〔第1稿〕が筆写されている。

S-Stの指揮者用楽譜（後述）と同じコピストによる。No.2の歌詞はTeilautograph A 1

のNo.2と一致するが，音楽は異なっている。Va，Fg.I，Fg.II のパートには，ストックホルムにおける初演の日付け（1893年10月27日）が記入されている。

指揮者用楽譜

D-DT Mus-n 211

No.7とNo.12 が欠落。残りの12曲は，Nos.1-13と番号付けされている。

タイトルページの記述“Dorfbarbier/〔後の付加〕von Jos: Weidmann/〔続き〕ein Singspiel in einen Act./ aus dem K:K:Hoftheater// In die Musik gesetzt von Johann Schenk: 1793 〔! 〕”

稿: No.10 〔第２稿〕とNo.11 〔第１稿〕が筆写されている。

どの曲も，歌唱パートとヴァイオリン１声部（低音パートなし）の編成で書かれている。

S-St Kungl. teatern Operetter B 31

No.7とNo.12 が欠落。残りの12曲は，Nos.1-13と番号付けされている。

タイトルページ上端の記述: Detta partitur ej anvandbart till nya stammarna// Der Dorfbarbier/ in 2 Acten/ von/ Schenk.

稿: No.10 〔第２稿〕とNo.11 〔第３稿〕が筆写されている。

どの曲も，歌唱パートと弦楽器（低音パートを含む）の編成で書かれている。No.2は，S-Stのパート譜にみられるのと同じ稿が筆写されている。

作品全体のヴォーカル・スコア

A-Wn-M S.m.23168

No.7が欠落している。“Die Oper/ DER DORFBARBIER/ vom Schenk/ Im Clavier = Auszuge.”というタイトルの厚紙表紙をつけて，１冊に製本されている。

タイトルページの記述“Der/ Dorfbarbier/ Eine Oper in 1. Akt./ Vollständig im Klavier = / = Auszuge.// (左下) vom Schenk”

稿: No.10 〔第２稿〕とNo.11 〔第１稿〕が筆写されている。

歌唱パートとピアノ用。

A-Wn-M S.m.8415

タイトルページからNo.1の途中まで，及びNo.7とNo.12 が欠落している。“Der Dorfbarbier/ Klavier Auszug” というタイトルの厚紙表紙をつけて，1冊に製本されている。

稿: No.10 〔第2稿〕とNo.11 〔第1稿〕が筆写されている。

歌唱パートと低音パート用。

A-Wgm IV 7182 (Q 2006)

序曲，Nos.1-3，5，6，8，9，11 〔第1稿〕，13-15 のヴォーカル・スコア。全体は製本されていない。

各曲のタイトルページの記述 “Der Dorfbarbier/ Ouverture 〔etc.〕 // Von Herrn Johann Schenk./ Wien in dem Kaiserl: Königl: Hof=Theater=Musick=Verlag.” 各曲のタイトルページの左上には，次の番号が記入されている: 序曲 = No.153; No.1 = No.164; No.2 = No.202; No.3 = 番号なし; No.5 = No.203; No.6 = 225; No.8 = 224; No.9 = 223; No.11' = 226; No.13 = 番号なし; No.14 = 番号なし; No.15 = 227.

A-Wgm IV 7182 (Q 2007)

“Der Dorfbarbier,/ Singspiel/ von Joh. Schenk”というタイトルの厚紙表紙をつけて，1冊に製本されている。

タイトルページの記述 “Der Dorfbarbier,/ ein Singspiel/ in einem Aufzuge,/ bearbeitet von Jos. Weidmann, K. K. Hofschauspieler/ In Musik gesetzt/ von/ Johnn Schenk. /:1796:/ // Klavierauszug/ von Leop. Edlen v. Sonnleithner.// /: 1833:/”

稿: No.10 とNo.11 の両方とも，〔第1稿〕と〔第2稿〕の二つが筆写されている。

序曲は4手用。他の曲は，歌唱パートとピアノ用。

作品の一部のヴォーカル・スコア

No.8 (ズースヒェン，ヨーゼフ，ルントの三重唱) のヴォーカル・スコア

A-WgmIV 17700 (Q 9357)

横長判 (縦22.1cm×横31.1cm)，10 段の五線紙で，端を切り揃えてある。8枚の紙 (最後のページは空白) が表紙なしで綴じられている。

タイトルページの記述“Terzetto”（フックスの筆跡で）“:aus dem Dorf-barbier:/〔続き〕per il/ Clavi Cembalo/ /:Bald werden die Leiden;”（左下）“Del Sigre Schenk”

No.8（ズースヒェン，ヨーゼフ，ルントの三重唱）のヴォーカル・スコア

A-Wgm VI 17700 (Q 9358)

横長判（縦22.6cm×横30.9cm），10 段の五線紙で，端を切り揃えてある。8枚の紙（最後のページは空白）が表紙なしで綴じられている。

タイトルページの記述“Terzetto/ per il/ Clavi Cembalo/ /:Bald werden die Leiden:/（左下）Del Sigre Schenk”

上記の筆写譜と記譜の特徴(ad libitum, Colla parte, a Tempo 等の書き方）が類似している。

Nos.3, 4, 11〔第1稿〕，9，2のヴォーカル・スコア D-B Mus. ms. 19800/5

縦長判で1冊に製本されている。

タイトルページの記述“Arie/ aus der Oper: der Dorfbarbier:/ Jüngst sprach mein Herr der Bader/ von/ Schenck”

出版譜Meyn版の内容と一致するため，この筆写譜はMeyn版から筆写された可能性がある。

編曲版の筆写譜

No.11〔第1稿〕のハルモニームジーク用楽譜 D-Rtt Sammelband 17

アントン・シュナイダー（Anton Schneider，生没年不明）により，Fl，2Ob，4Kl，2Fg，2Hr，Tp，Tb，及びセルペント(Serpent）用に編曲されたもの。“Polonoise (B-dur) Aus der Oper, Der Dorfbarbier”というタイトルで，シュナイダー編の”Harmonie Music”(1813 年）に所収（Nr.167）されている。

序曲のハルモニームジーク用楽譜 D-Rtt Sammelband 25

アントン・シュナイダーにより，Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr，Tp，Tb，2Va，Baß用に編曲されたもの。シュナイダー編のハルモニー曲集(“Sammlung von Harmoniestücken v.

Schneider", 1824年) に所収 (Nr.35)されている。

出版譜

Meyn版 〔RISM S1458〕

"Ouverture und Favoritgesänge/ aus/ der Komische Oper/ Der Dorfbarbier/ in Musik gesetzt/ von Schenck./ im Clavierauszuge// HAMBURG/ in der Meynschen Musik-handlung" 38ページ。

序曲, Nos.4, 9, 8, 14, 3, 11〔第1稿〕, 2のヴォーカル・スコア。1799年 5月の"Allgemeine Musikalische Zeitung" 付録の"Intelligenz-Blatt" に広告が掲載されている。ゲルバーの『新・歴史的伝記的音楽家事典』によれば, 出版年は1798年である。(Gerber 1813/14: Sp.50)

D-LEm PM 4548; US-Wc

Meyn版 〔RISM S 1459 〕

"Ouverture, aus der Oper: Der Dorfbarbier" 8ページ。

序曲のピアノ用楽譜。1799年 5月の"Allgemeine Musikalische Zeitung" 付録の"Intelligenz-Blatt" に広告が掲載されている。この楽譜は, おそらく, 上記のMeyn版のうち序曲の部分のみを抜き刷りしたものと思われる。

S-Skma PA-R

Rellstab版 〔RISM S 1460 〕

"Aus dem Dorfbarbier./ Berlin, bey Rellstab, 4〔?〕Groschen." 8 ページ。

No.11 〔第1稿〕(ズースヒェンのアリア) のヴォーカル・スコア。ピアノ・パートの内容は, 上記Meyn版 〔RISM S1458〕 のNo.11 〔第1稿〕と一致している。

S-Skma T-SP

Böhme 版 〔RISM S 1461 〕

"POLONAISE/ Mädchen kann man leicht bethören etc./ aus der Oper:/ DER DORF-BARBIER/ in Musik gesetzt/ von C. D. STEGMANN/— Clavierauszug—/ Hamburg,/ Bey Ioh. Aug. Böhme." 4ページ。

No.11 〔第1稿〕（ズースヒェンのアリア）のヴォーカル・スコア。ピアノ・パートの内容は，上記Meyn版〔RISM S1458〕及びRellstab版と一致しているが，作曲家の名前が異なり，また1箇所，音の間違いがある。

S-Skma T-SP

Reclam版

"Elegante und wohlfeilste/ Opern = Bibliothek.// Siebenter Band:/ Der Dorfbarbier.// Komische Oper in 2 Akten/ von/ Johann Schenk.// Vollständiger Klavierauszug mit deutschem Text.// Leipzig./ Druck und Verlag von Philipp Reclam jun." 76ページ。

作品全体のヴォーカル・スコア。出版年は記載されていない。A-Wgm，D-Cl，D-DT の索引カードによれば，1856年に出版された。序曲，Nos.1 ～6，Nos.8～15の他，No.7として典拠不明の曲（ズースヒェンとヨーゼフの二重唱「私が目覚めた時」"Wenn ich wache"）が含まれている。

稿: No. 10〔第2稿〕とNo.11 〔第1稿〕が筆写されている。

Auftritt（場）の分け方とStichwort （音楽の開始のきっかけとなる台詞）は，伝承されている台本のどれとも一致しない。

D-Mbs St.th.370(2); A-Wgm IV 7182 Q 20968; A-Wgm IV 7182 Q 20969;

D-Cl TB Op.142; D-DT Mus-n 211

Senff 版

"Der Dorfbarbier./ Komische Oper in einen Act/ Text von Joseph Weidemann./ Musik/ von/ Johann Schenk.// Clavierauszug mit Text und Vollständigem Dialog.// Nach der Partitur berichtigt und neu bearbeitet/ von/ Richard Kleinmichel.// In - dieser Ausgabe Eigenthum des Verlegers für alle Länder./ Leipzig, Verlag von Bartholf Senff./ 2084. 90ページ。

作品全体のヴォーカル・スコア。出版年は記載されていない。ローゼンフェルト＝レーマーによれば1880年頃（Rosenfeld-Roemer 1921: 37），D-Cl の索引カードによれば1888年頃に出版された。

No.7が欠落し，Nos.8-15はNos.7-14と番号付けされている。

稿: No. 10〔第２稿〕とNo.11 〔第１稿〕が筆写されている。No.10 の〔第１稿〕は歌われることが少ないと注記されている。

台詞は，台本ａ１（後述）と一致する。

A-Wgm IV 7182 H 23254; A-Wgm IV 7182 H 23255; D-Cl TB Op.142

Universal 版 (Pl.Nr.3190)

明らかに，Senff 版の内容をそのまま踏襲している。出版年不明。

D-Mbs St.th.370(3)

DTÖ 第66巻

"Der Dorfbarbier" Hrsg. v. Robert Haas, Wien: Österreichischer Bundesverlag, 1927. R: Graz: Akademische Druck- und Verlagsanstalt, 1960

ハースの校訂による作品全体のスコア。Ａ１とＣ２，Ｃ４に基づいて校訂されている。

以上の楽譜資料において注目すべき点は，以下の三点である。

① No.10 の稿

No.11 については，多くの筆写譜で〔第１稿〕が筆写されているのに対して，No.10 の場合には，すでに自筆譜に近いＢ１〔第２稿〕とＢ２〔第１稿〕において，採用されている稿が異なっている。よって，どちらがオリジナルの稿であるかは断定できない。

② No.7とNo.12 の省略

No.7は，Ｂ１とＣ１を除くすべての筆写譜で省略されている。また，No.12 は，Ｃ３，Ｃ５，Ｃ７で省略されている。

③ 幕の構成

Ａ１のタイトルページの記述から，作曲当時，この作品は１幕構成であったことがわかる。しかし，Ｃ４～Ｃ７のタイトルページには，２幕（in 2 Akten）と明記されている。これらの筆写譜は，自筆譜から遠い位置にある可能性がある。

(5) 台本

ａ１ 1801年以前の配役が書き込まれた手書き台本

Der/ Dorfbarbier// Ein komisches Singspiel/ in einen Aufzug,// Die Musik

ist von Herrn/ Schenk

手稿。49枚。

A-Wn-H Ser.n.13103

登場人物の欄には，他と同じインクで，上演時の歌手の名前が書き込まれている。そのうち，ズースヒェン役の女性歌手カルヴァーニ夫人（Mad.^{m} Calvani）とは，この作品の初演で同じ役を歌ったカロリーネ・ヴィルマン（Karoline Willmann, 1775-1802）と同一人物で，ガルヴァーニ（Galvani）氏と結婚したのち，1801年まで宮廷劇場のメンバーであった。(Sonnleithner 1873: Bd.1)　よってこの台本は，1796年から1801年までの間に作成されたと考えられる。

稿: No.10〔第１稿〕とNo.11〔第２稿〕が筆写されている。

ａ２　筆写譜Ｂ１に付随するプロンプター用手書き台本（不完全）

コピストはKp#17である。

ａ３　ａ２と同じコピストNo.17 による手書き台本

Der/ Dorfbarbier/ Ein Singspiel in 1 Aufzuge./ Von/ Herrn Joseph Weidmann/ K.K.Hofschauspieler/ Die/ Musik ist von H. Schenk.

116 ページ（110 ページまでページ番号つき）

A-Wn-M S.m.32800

ａ２と同じKp#17による台本で，No.4, 7, 10, 12 の歌詞は省略されている。この台本に書き込まれている配役は，1817～1821年の宮廷劇場メンバーと一致する。(Sonnleithner 1873: Bd.1)　厚紙表紙の裏に，1829年４月11日に俳優ハーゼンフート（Haasenhut, 生没年不明）がウィーンに客演したことが記され，最後のページには1829年5月26日という上演日が記されている。

稿: No.11〔第２稿〕が筆写されている。

ａ４　1801年の印刷台本

Der/ Dorfbarbier./ Ein komisches Singspiel/ in einem Aufzuge./ Bearbeitet von Herrn Joseph Weidmann,/ k. k. Hofschauspieler./ Die Musik ist von Herrn Schenk.// Für/ das k. k. Hoftheater.// Wien,/ auf Kosten und im Verlag bey Joh.

/Baptist Wallishausser.// 1801.　　54 ページ。

A-Wn-Th 621.667-B.Th; A-Wst A.24678; A-Wst A.23670

稿: No.10 〔第２稿〕とNo.11 〔第２稿〕が印刷されている。

a 5　1805年の印刷台本

Der/ Dorfbarbier./ Eine komische Oper/ in einem Aufzuge.// Bearbeitet/ von/Herrn Joseph Weidmann/ k. k. Hofschauspieler.// Die Musik ist von Herrn Schenk.// Aufgeführt auf dem Hochfürstl. Esterhazyschen/ Theater in Eisenstadt. //

Eisenstadt, 1805/ Gedruckt von J. L. Stotz, Hochfürstl. Buchdrucker.

47ページ（＋空白ページ 1ページ）

A-Wst A.12349

No.7と12の歌詞は省略されている。おそらく，1805年 9月13日から10月12日までの間に，エステルハーザでシェンクのオペラ作品が３作上演された時に作成されたものと思われる。(Landon 1977: 337)

稿: No.10 〔第２稿〕とNo.11 〔第２稿〕が印刷されている。

a 6　1809年の印刷台本

ａ４と同様のタイトル，　Wien: Wallishausser, 1809.　54ページ。

A-Wn-M　3358 A.M.TB; A-Wst A.144.024

稿: No.10 〔第２稿〕とNo.11 〔第２稿〕が印刷されている。

a 7　1820年の印刷台本

ａ４と同様のタイトル，　Wien: Wallishausser, 1820　58ページ。

A-Wn-Th　621.668-A.Th.; A-Wn-D　249.479-A; A-Wst　A.102.704

A-Wgm　1761 Tb; U-Wc Schatz-Coll. 9593.

稿: No.10 〔第２稿〕とNo.11 〔第２稿〕が印刷されている。

b 1　シェンクが作曲したジングシュピールの原作（喜劇）の台本

Der/ Dorfbarbier./ Ein Originallustspiel/ in einem Aufzug.// Aut prodesse

Volunt, aut delectare Poetae.// Aufgeführt auf dem k. k. Nat. Hoftheater.// Wien, 1785./ Verlegt bey Friedrich August Hartmann, und/ zu finden beym Logen-meister beyder/ k. k. Theater.　39ページ（＋空白ページ 1ページ）

A-Wn-Th 629.305-A.Th.

その他，以下の歌詞集が伝承されている。

c 1 Gesänge/ aus der/ Oper:/ Der Dorfbarbier,/ in zwey Aufzügen.// Die Musik ist von Schenk.// Hamburg,/ gedruckt bey Peter Christian Heinrich Rabe./ 1799.

23ページ（＋空白ページ 1ページ）

U-Wc Schatz-Coll. 9592.

No.7が欠落し，Nos.8-15は第２幕のNos.7-14と番号付けされている。

稿: No.10 〔第１稿〕とNo.11 〔第２稿〕が印刷されている。

c 2 Der/ Dorfbarbier.// Komische Oper in 2 Acten.// Musik von Schenck.// Text der Gesänge.// Leipzig./ Druck und Commissionsverlag von Fischer und Kürsten.

16ページ。出版年は記載されていない。

A-Wn-M 987.724-A.M.TB; A-Wst A 68024

No.7が欠落し，Nos.8-15は第２幕とされている。

稿: No.10 〔第１稿〕とNo.11 〔第１稿〕が印刷されている。

c 3 Der Dorfbarbier./ Komische Oper in einem Akt./ Musik von/ Johann Schenk./ Text der Gesänge.// Klavierauszug mit Text und vollständigem Dialog./ Preis: 4 Mk. no. Gebunden 5 Mk. no./ Aufführungsrecht vorbehalten./ In dieser Ausgabe Eigentum des Verlegers für alle Länder./ UNIVERSAL-EDITION/ 2566. 15ページ。

出版年は記載されていない。

A-Wst A 120799

No.7が欠落し，Nos.8-15はNos.7-14と番号付けされている。

稿: No.10 〔第２稿〕とNo.11 〔第１稿〕が印刷されている。

c 4 Johann Schenk/ Der Dorfbarbier// Universal-Edition./ Nr.3203 〔nach 28.

Februar 1913〕　15ページ。

A-Wn-D　832.355-B

No.7が欠落し，Nos.8-15はNos.7-14と番号付けされている。

稿: No.10 〔第２稿〕とNo.11 〔第１稿〕が印刷されている。

台本において注目すべき点は，以下の四点である。

① Auftritt（場）の構成

Auftritt（場）の構成の点から見ると，現存する台本には大きく二つの系統がある。シェンクの作曲した台本の原作ｂ１（１幕，全９場）とより近い構成をもつのは，台本ａ１（1幕，全10場）である。ａ１は，書き込まれている歌手名から1801年以前という早い時期の成立が推測される。同一のコピストによる二つのプロンプター用手書き台本，ａ２とａ３も，Auftrittの構成がａ１と共通しているため，ａ１と同じ系統で作成されたと考えられる。但し，ａ２とａ３では台詞の変更と短縮がみられ，ａ３においてはNo.4，7，10，12 の歌詞が省略されている。ａ３に名前が書き込まれている歌手は，ａ１に書き込まれている歌手よりも遅い時期（1817～1821年）に活動した。

一方，台本ａ４～ａ７は全体が20場で構成されており，上述の台本とは別の系統をなす。このうち，ウィーンのWallishaußerから出版されたａ４，ａ６，ａ７は，細かい台詞の変更を除くとほぼ同じ内容である。この３種類の台本は，ウィーンの宮廷劇場での上演のために出版されたものであり，いわば「定本」のような存在であるが，初演から５年以上を経てから出版されたものなので，初演時の台本とは内容が異なっている可能性がある。他方，ａ５は，おそらくエステルハーザでの上演のためにａ４を典拠として作られたもので，No.7とNo.12 の歌詞が省略されている。

② No.11 の稿

①で述べた台本の二つの伝承系統においても，また早い時期に出された歌詞集ｃ１（1799年）においても，No.11 の稿は〔第２稿〕が採用されている。これに対して，楽譜資料においては，ほとんどが〔第１稿〕を伝承している。この状況から，実際には，〔第１稿〕の音楽が流布していたと考えられるが，どちらの稿がより早く作られたかについては，結論を導き得ない。

③ No.7とNo.12 の省略

台本ａ１，ａ４，ａ６，ａ７においては，歌詞の省略はない。しかし，台本ａ３，ａ５，

歌詞集ｃ１～ｃ４においてはNo.7，また時にはNo.12 が省略されていることからみて，この2曲は実際の上演の際に省略されることが多かったものと推測される。この状況は，楽譜の伝承が示している状況と一致する。

④ 幕の構成

ウィーンで出版された台本と歌詞集は，すべて１幕構成となっている。これに対して，ハンブルク，或いはライプツィッヒで出版された歌詞集ｃ１とｃ２は，２幕構成となっている。この状況は，楽譜の伝承においてみられる状況と一致している。

(6) 作曲と上演に関するドキュメント

シェンクの自伝には，この作品の作曲について，次のような記述がある。

「〔17〕96年[4] にオペレッタ「村の床屋」を作曲した。この曲は，11月６日に上演された。」(Schenk, J.B. 1830: 15)

1796年 8月 1日から1797年 7月末日までの『オーストリア・ハンガリー帝国最高劇場管理部会計報告』には，この作品の作曲報酬としてシェンクに 112グルデンが支払われたことが，次のように記録されている。「第 200号　ドイツ語オペラ『村の床屋』の音楽作曲に対し，ヨハン・シェンクに / 112.-〔グルデン〕」(A-Wsta Hoftheater Sonderreihe 30/31: 87)

シェンクの自伝の記述と同様に，1789年から1797年までの『両宮廷劇場出納簿』には，1796年11月 6日の初演における収入額が記録されている。「第15号 34，11月６日『つんぼの恋人』と『村の床屋』　493.32〔グルデン〕」(A-Wn-Th M 4000 Th)

注

(1)　合唱曲〔アンサンブル〕は第 200回目の上演のために作曲された。Haas 1927:Ⅶ では，様式的な類似を根拠として，二重唱も同じ機会に作曲された可能性を示唆している。ヴェルナー・ボレールトは，二重唱と合唱の作曲年を1816年と記されている。(Bollert 1961: Col.1634)　この年代は，おそらく，Haas 1927:　Ⅶに示された上演回数に基づくものと思われる。しかし，Hadamowsky 1966: 30 によればすでに1810年に上演回数が 170回に達しているため，200 回目の上演は1816年よりも早い可能性がある。

(2)　ディアベッリは，1809年に，「村の床屋」の続編として「窮地に陥ったアーダム」

("Adam in der Klemme")を作曲した。(スコア: A-Wn-M K.T.116; 手書き台本: A-Wn-H Ser.n.1145)

(3) 索引カードには, 1872年と書かれている。しかし, ペーターとズースヒェンのパート譜の最後に書き込まれた年代は, 明らかに"71"である。

(4) 自伝の印刷稿 (Schenk, J.B. 1830N: 83) に記されている初演年 "98" は, 活字翻刻者の読み間違い, 或いは印刷ミスによるもので, 自伝の手稿 (Schenk, J.B. 1830: 4) には "96" と記されている。

#10 “Pantomime und Singspiel für Namenstag der Kaiserin Maria Theresia”

「皇后マリア・テレージアの命名祝日のためのパントマイムとジングシュピール」（1798年）

(1) 作曲年と根拠：1798年（自筆譜Ａ１のタイトルページに記入されている）

(2) 上演記録

シェンクの自伝（Schenk, J.B. 1830N: 83-84），及びアロイス・フックスが自筆譜Ａ１に加えた書き込みによれば，1798年10月15日にラクセンブルクの離宮で初演された。

(3) 作品の構成と主題

<u>パントマイム部分</u>

登場人物：　パンタロン（Pantalon），村の床屋

ピロ（Pirro），その下僕

軽騎兵の曹長

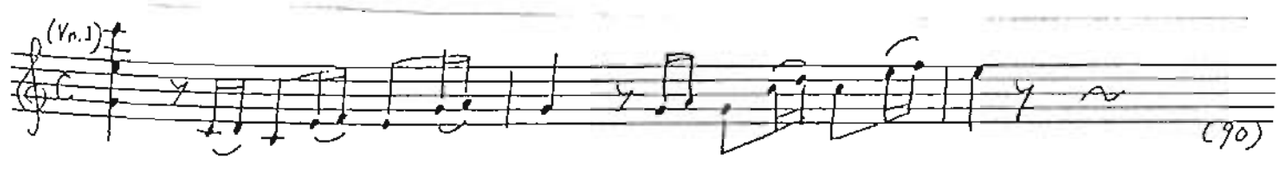
赤ん坊

幽霊

老女

序曲（Str, 2Ob, 2Fg, 2Hr, 2Tp, Pk）　楽譜資料Ａ１，Ｃ１，Ｃ４

Allegro con spirito



<u>第１幕</u>

第1場

No.1 (Str, 2Ob, 2Fg, 2Hr: 以後同)　楽譜資料A 1, C 1, C 4

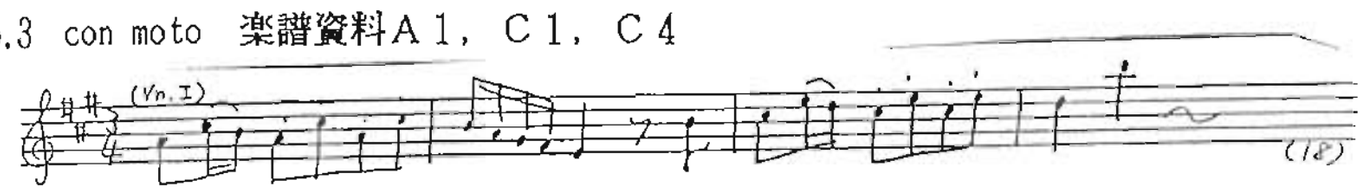
Moderato

第2場

No.2 Andantino con moto　楽譜資料A 1, C 1, C 4

第3場

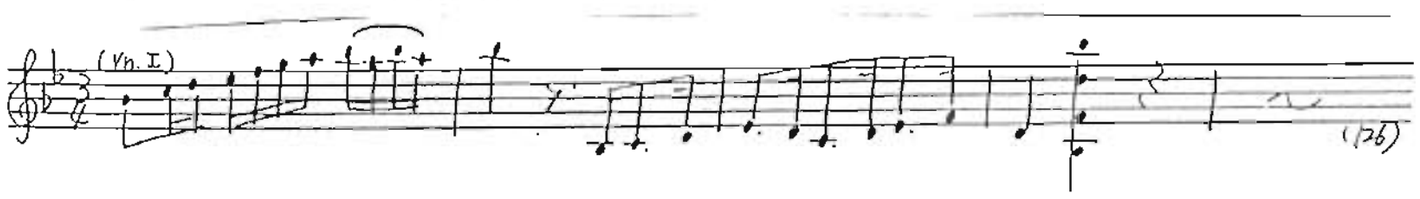
No.3 con moto　楽譜資料A 1, C 1, C 4



第4場

No.4 Allegretto　楽譜資料A 1, C 1, C 4

No.5 Allegro moderato　楽譜資料A 1, C 1, C 4



No.6 Allegretto　楽譜資料A 1, C 1, C 4

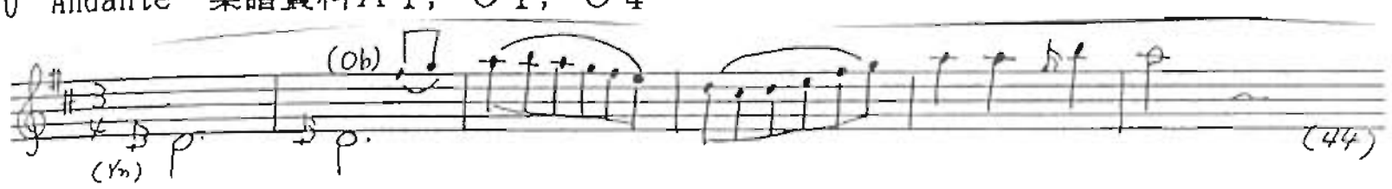
No.7 Allegro　楽譜資料A 1, C 1, C 4

No.8 Moderato　楽譜資料A 1, C 1, C 4

第２幕

No.9 Moderato 楽譜資料Ａ１，Ｃ１，Ｃ４

No.10 Andante 楽譜資料Ａ１，Ｃ１，Ｃ４



No.11 Allegretto 楽譜資料Ａ１，Ｃ１，Ｃ４

No.12 Presto 楽譜資料Ａ１，Ｃ１，Ｃ４

No.13 Andantino con moto 楽譜資料Ａ１，Ｃ１，Ｃ４

第３幕

第１場

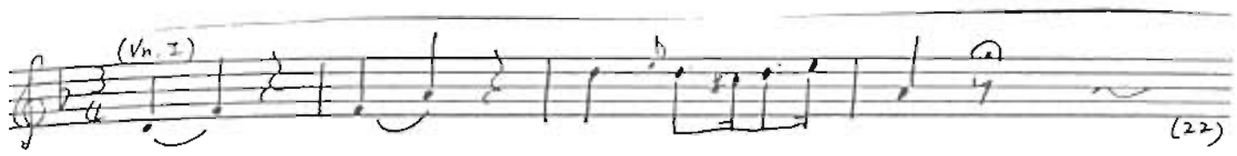
No.14 Moderato 楽譜資料Ａ１，Ｃ１，Ｃ４

第２場

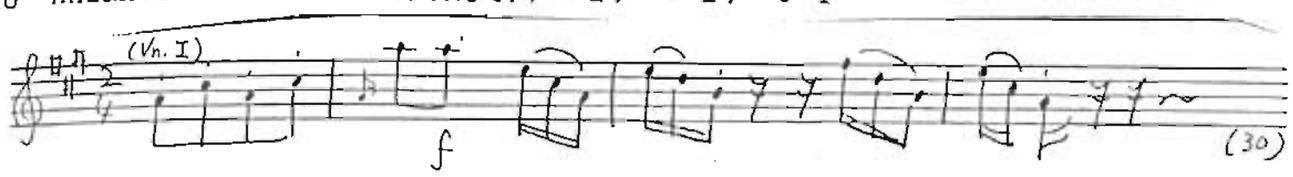
No.15 Larghetto 楽譜資料Ａ１，Ｃ１，Ｃ４

No.16 un poco Allegretto 楽譜資料Ａ１，Ｃ１，Ｃ４

No.17 Tempo di Menuetto 楽譜資料Ａ１，Ｃ１，Ｃ４

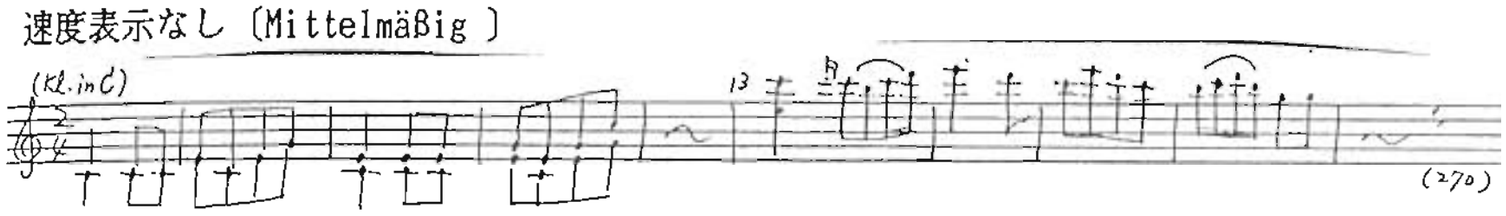


No.18 Andantino con moto 楽譜資料Ａ１，Ｃ１，Ｃ４



"Entre della Contradance" と "Contradance mit 6 Trios und Coda" (Str, 2Ob, 2Fg, 2Hr, 2Tp, Pk)　楽譜資料Ａ１，Ｃ１，Ｃ４

速度表示なし〔Mittelmäßig〕



ジングシュピール部分

登場人物:　裁判官〔テノール〕

村人〔ソプラノ・アルト・テノール・バス〕

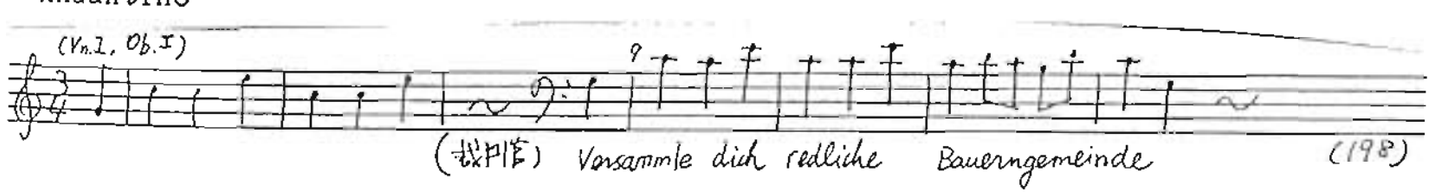
軽騎兵の曹長〔テノール〕

曲番不明　合唱「領主夫人テレージアの命名祝日に際する村人の祝いの言葉」

("Glückwunsch einer Dorfsgemeinde am Nahmens Tage ihrer Gutsfrau Theresia")

(裁判官と村人達，Str，2Ob，2Fg，2Hr，2Tp，Pk)　楽譜資料Ｃ２，Ｃ３，Ｃ４

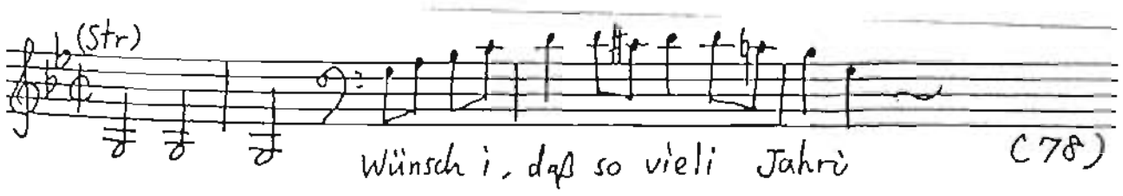
Andantino



曲番不明　アリア「何年も前から望んでいた」("Wünsch i, daß so vieli Jahri")

(軽騎兵の曹長，Str，1Fg)　楽譜資料Ｃ３，Ｃ４

Moderato



(4) 楽譜資料

A1　パントマイムの付随音楽の自筆スコア　A-Wgm　Aut Schenk 21 (XIV 17630)

横長判（縦約23.5cm×横約32cm），10段の五線紙で，端は切り揃えられていない。大理石模様の厚紙表紙で1冊に製本されている。表紙のタイトルは“Pantomime/ zum Namenstag der Kaiserin/ Maria Theresia/ 1798”で，青いボールペンでウィーン楽友協会の所蔵番号“㉑”が付記されている。

基本的に，ドッペルボーゲン四つを組み合わせて一つのラーゲが作られている。よって1ラーゲは16ページ分ある。シェンクは，曲ごとにラーゲとページ番号を改めず，同じラーゲに続けて次の曲を書いている。

合計 124枚で，記入ページ 247ページ，空白ページは 1ページ(f.124v)である。

序曲の部分では，ページ番号が 2から23まで記入されている（第1ページは番号なし）。その他の曲は，ページ番号が1から 223まで通してふられている。

タイトルページの記述：（フックスの筆跡で）“Pantomime/ für S. Majestät den Kaiser componirt/ zur Feyer des A.H.Namensfestes Ihro Majestät der Kaiserin Maria Theresia, und aufgeführt/ am 15. Oktober 1798 zu Laxenburg./ von/ Johann Schenk./ Partitura Autographa”（右上に，所蔵番号）“XIV 17630”（右下に自筆で）“den 7ten Oktob:/ 798”

用いられている紙は，Wz#37，Wz#27，Wz#16の3種類である。これらは，同一のラーゲの中で混合して用いられている場合もあるが，筆跡の変化と音楽的内容からみて，後のさしかえによるものとは考えられない。

ラーゲ	フォリオ	内容	ページ番号	紙
	1r	タイトル		Wz#37
	1v ～12	序曲	1は欠，2～23	
	13～16	No.1	1～ 8	Wz#27
	17～19	No.2	9～14	Wz#27
	20～24	No.3，4	15～22	Wz#27
	24～28	No.5	23～32	Wz#27
	29～38	No.5（続き），6	33～52	Wz#16
	39～44	No.7，8	53～64	Wz#16
┌	45		65～66	Wz#27

46～48		67～72	Wz#16
49～51	No.9	73～78	Wz#16
52		79～80	Wz#27
53～60	No.9（続き），10，11	81～96	Wz#27
61～62	No.12	97～100	Wz#27
63～66		101～108	Wz#27
67～68	No.12 （続き），13	109～112	Wz#27
69～100	No.13 （続き），14，15，16，17，18	113～176	Wz#27
101	No.18 （続き）	177～178	Wz#37
102	Entre de la Contradance	179～180	Wz#27
103～106	Contradance	181～188	Wz#37
107		189～190	Wz#27
108		191～192	Wz#37
109～124r		193～223	Wz#37
124v	空白		

C1　パントマイムの付随音楽の筆写パート譜　　A-Wn-M　S.m.10208

縦長判（縦31.1cm×横22.3cm），10段の五線紙で，端は切り揃えられている。パートごとに糸で綴じ，全体をボール紙でまとめてある。

タイトルページの記述 "Pantomima/ Der Dorfbarbier/ a/ 2. Vioilini primi unis:/ 2. Violini secondi unis./ 1. Viola/ 2. Bassi/ 2. Fagotti/ 2. Oboe/ 2. Corni/ 2. Clarini e Timapani/ Musica Del Sig. Schenk/ Parti 16.

Vn.I No.1 のパートには，舞台上の動きの指示が記入されている。

この筆写譜には２種類の筆跡が認められる。そのうち，Vn.I No.1，Vn.I No.2，Baß，Ob.I，Fg.I，Fg.II(No.10 以降)，Hr.I，Hr.Ⅱ(No.9 以降)，Kl.I，及びPkのパートの筆跡は，Kp#14の筆跡と照合できる。

C2　合唱「領主夫人テレージアの命名祝日に際する村人の祝いの言葉」の筆写スコア
A-Wn-M　S.m.10209

横長判（縦22.5cm×横31cm），12 段の五線紙で，端は切り揃えられている。厚紙表紙で1冊に製本されている。

タイトルページの記述 "Glückwunsch einer Dorfsgemeinde am Nahmens Tage ihrer Gutsfrau/ Theresia/ Musick von H.Schenk"

タイトルページと歌詞はKp#14の筆跡，楽譜部分はKp#16の筆跡である。

C3　合唱「領主夫人テレージアの命名祝日に際する村人の祝いの言葉」と軽騎兵の曹長のアリアの筆写パート譜　A-Wn-M　S.m.10210

縦長判（縦31.1cm×横22.3cm），　10段の五線紙で，端は切り揃えられている。パートごとに糸で綴じ，全体をボール紙でまとめてある。

ボール紙表紙の記述 "Zur Comedie/ Chor und Arie/ a/ 4 Voci/ 2. Violini/ 2. Oboe/ 2. Corni/ 2. Clarini e Timmpani/ 2 Fagotti/ Viola e Basso// Music von H. Schenk"（右下に）"Parti 25"

Kp#14の筆跡による。

アリアの第1ページには，Stichwort "Ja, ja, laß er sich hören" が記入されている。

C4　パントマイムの付随音楽，及び上記合唱とアリアのヴォーカル・スコア

A-Wn-M　S.m.10207

横長判（縦21.8cm×横30.5cm），　8段の五線紙で，端は切り揃えて金色に塗られている。ピンク色の布張り表紙で1冊に製本されている。

タイトルページの記述（飾り文字で）"Musica/ Della Pantomima intitolata/ Il Pantalone da Barbiere villanesco/ Composta, e ridotta ad uso di Cembalo, o Pianoforte/ Dedicata/ a/ S: M: L'Imperatrice/ Maria Teresa de Bourbon/ Regina d'Ongheria e Boemia Arciduchessa d'Austria S. S.// Dall'umilissimo e rispettosissimo Servitore Giov: Schenk Maestro di Musica."

No.12 ～Trio，及びアリアの部分はKp#14の筆跡である。

(5) 台本

伝承していない。楽譜資料C1のVn.I No.1 パートに記された，舞台上の動きに関するメモが，この作品の登場人物とストーリーを知る唯一の手掛かりである。

(6) 作曲と上演に関するドキュメント

シェンクの自伝には，この作品の作曲について次のように記されている。

「〔17〕98年には，皇后マリア・テレージアの命名祝日のために，小さなジングシュピールとそれに関連したパントマイムを作曲する栄誉を，皇帝陛下から賜った。この作品は，10月15日にラクセンブルクの離宮で上演された。」（Schenk，J.B. 1830N: 83-84）

#１１　“Ｄｉｅ　Ｊａｇｄ”

「狩」（１７９９年）

(1) 作曲年と根拠：1799年５月７日以前（シェンクの自伝と初演のちらしに記された初演日）　改訂版は，1834年頃（Teilautograph Ａ１に記された年月日）

(2) 上演記録

1799年５月７日にケルントナートア劇場で初演。初演のちらしには，以下のように記されている。「本日，1799年５月７日，火曜日，ケルントナートア劇場において，ドイツ宮廷歌劇団により『狩』を初演。コッレ（Colle)とヴァイセの原作に基づく，２幕のジングシュピール。配役：　王＝ザール氏，ライプニッツ伯爵＝シュテンゲル氏（Hr. Stengel)，リーベンシュタイン伯爵＝オーマン氏（Hr. Ohmann)，裁判官ミヒェル・ブロンナー＝ヴァインミュラー氏，マルテ＝ガスマン嬢（姉)，アントン＝マンドル氏（Hr. Mandl)，レースヒェン＝アッシャー夫人（Mad. Ascher)，ペーター＝リッペルト氏（Hr. Lippert)，ハンヒェン＝ガルヴァーニ夫人，ゼバスティアン・ヴァラー＝コルナー氏,...音楽はシェンク氏による。」(A-Wn-Th 773.042-D.Th)

ハダモフスキーによれば，この作品は，初演後同劇場において，同年内に４回（５月20日，６月３日，11月18日，12月10日）再演された。(Hadamowsky 1966: 67)

(3) 作品の構成と主題

登場人物：　王〔バス〕

ライプニッツ（Reibnitz）伯爵，森林監督官〔バス〕

リーベンシュタイン（Liebenstein)伯爵，〔バス〕

ミヒェル・ブロンナー（Michel Bronner)(1834年版ではヤコプ Jakob)，村の裁判官〔バス〕

マルテ（Marthe)，ミヒェルの妻〔ソプラノ〕

アントン（Anton)，ミヒェルの息子〔テノール〕

レースヒェン（Röschen)，ミヒェルの娘〔ソプラノ〕

ペーター（Peter)，若い農夫〔テノール〕

ハンヒェン（Hannchen)，村の小作人の遺児〔ソプラノ〕

ゼバスティアン・ヴァラー（Sebastian Waller），農民

山林官，及び狩人達

王の従者

農民多数〔ソプラノ・アルト・テノール・バス〕

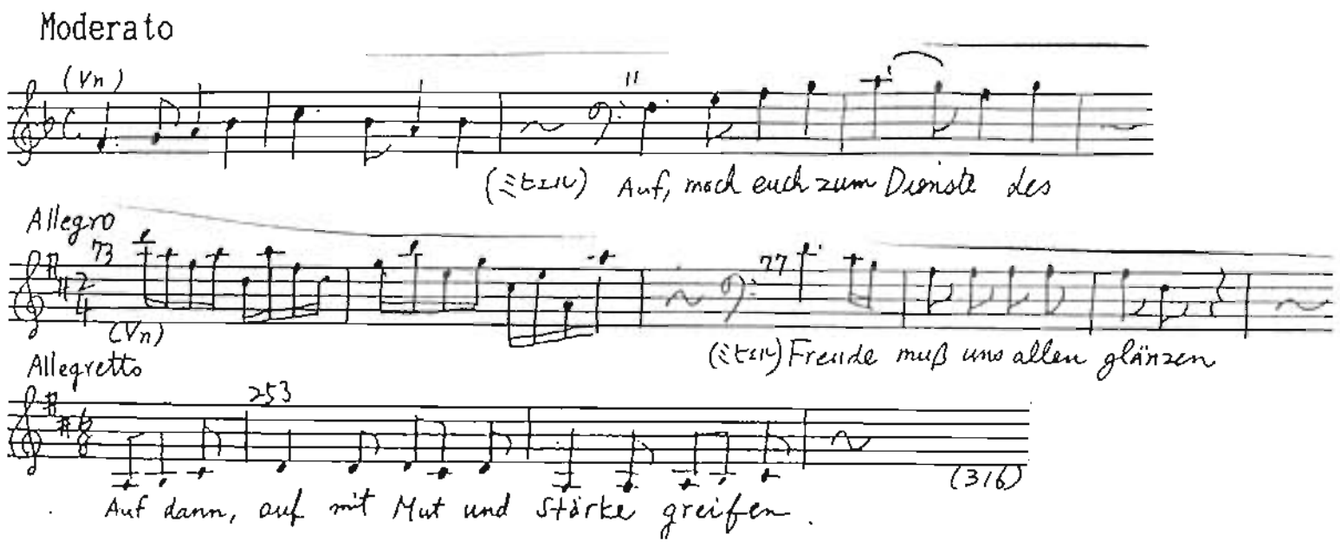
密猟者

序曲　消失

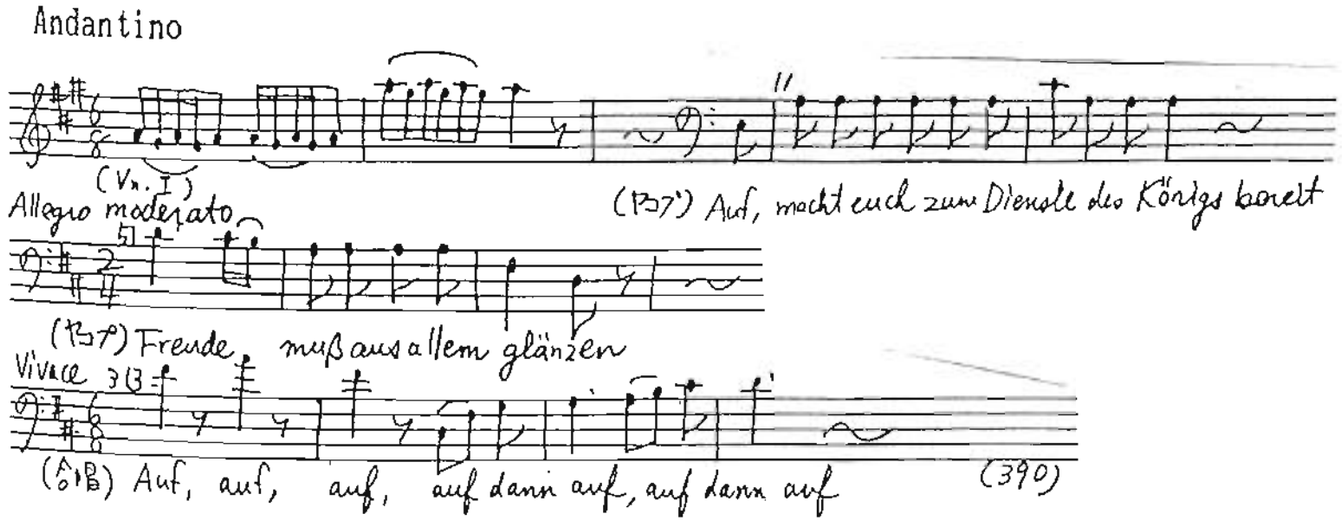
第1幕

第1場（ミヒェルの家の前：ミヒェル，農民）

No.1〔1799年版〕イントロダクション（ミヒェル，農民〔テノール2部・バス〕，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr，2Tp）　楽譜資料A 1



No.1〔1834年版〕イントロダクション（ヤコプ，農民〔テノール2部・バス〕，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr，2Tp，Alt-Tb，Tenor-Tb，Baß-Tb）　楽譜資料A 1



第2場（ミヒェル，のちにマルテとレースヒェン）

第3場（マルテ，レースヒェン）

第4場（マルテ，レースヒェン，ペーター）

No.2〔1799年版〕アリア（ペーター）消失

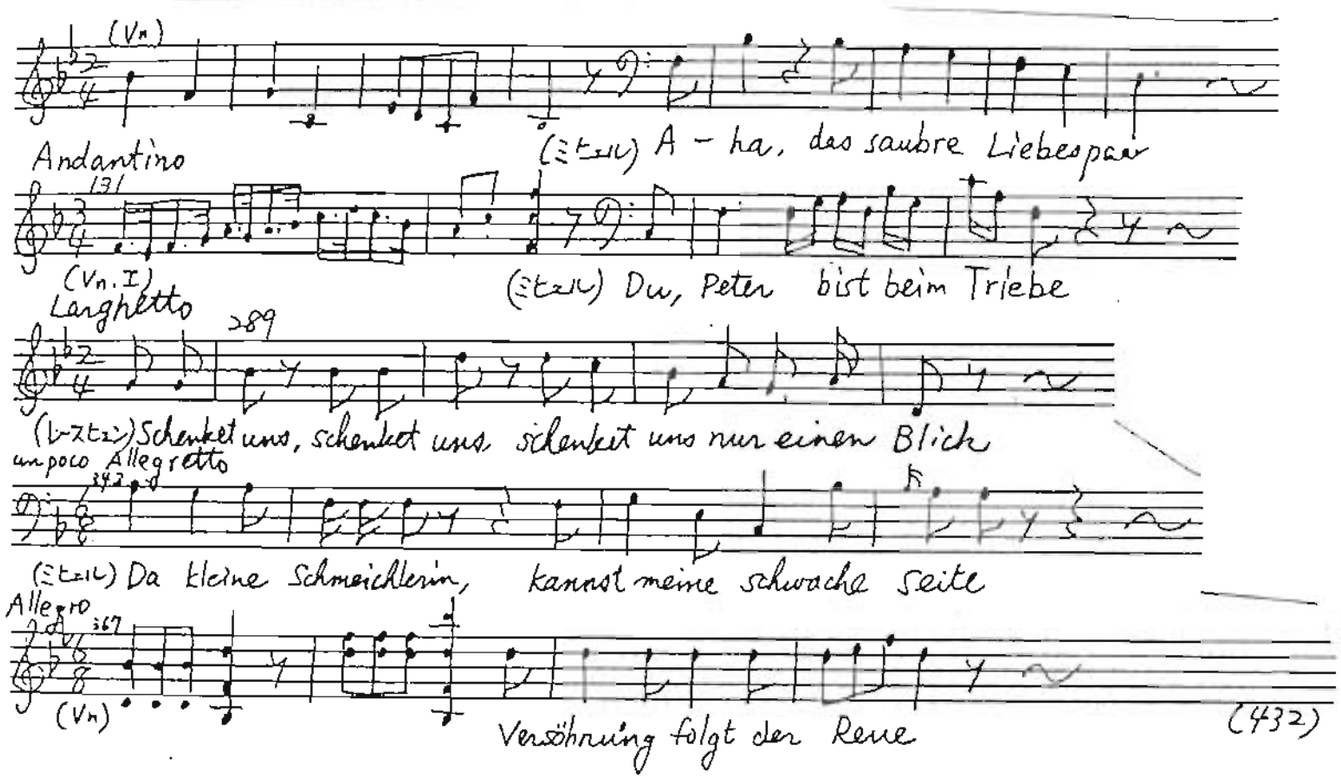
No.2〔1834年版〕アリア（ペーター，Str，2Fl，2Kl，2Hr）　楽譜資料Ａ１

速度表示なし〔Mittelmäßig〕

第5場（マルテ，レースヒェン，ペーター，ミヒェル／ヤコプ）

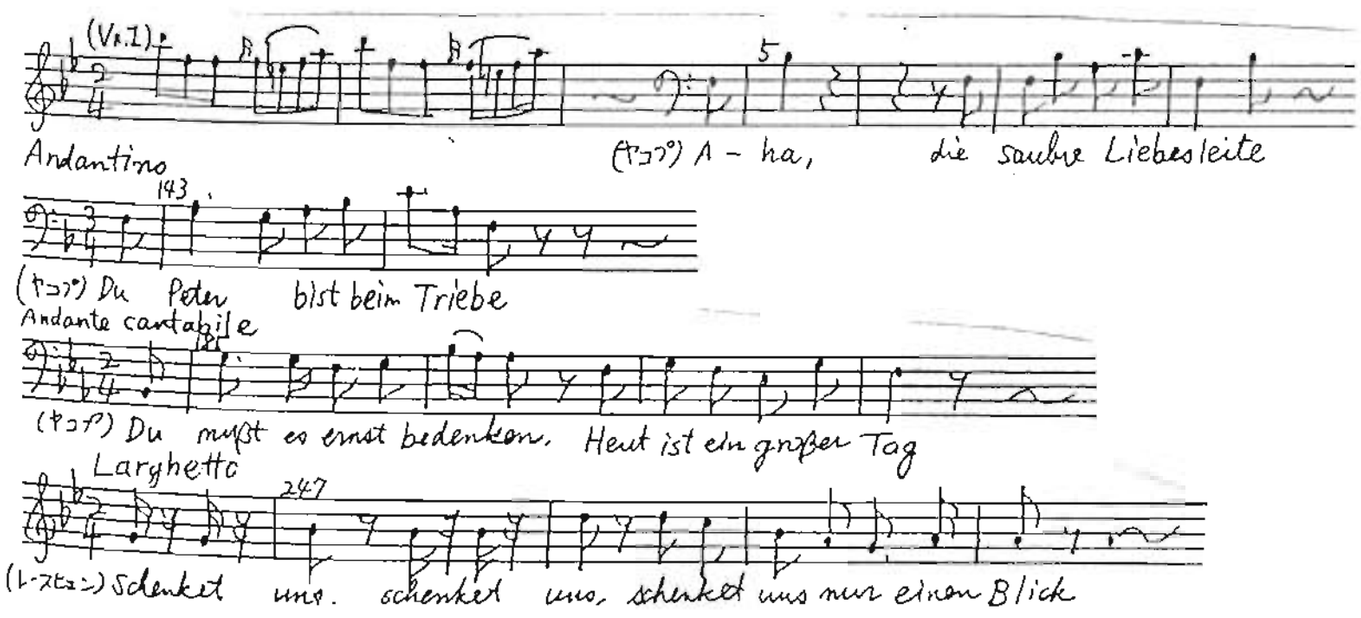
No.3〔1799年版〕四重唱（レースヒェン，マルテ，ペーター，ミヒェル，Str，2Fl，2Kl，2Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１

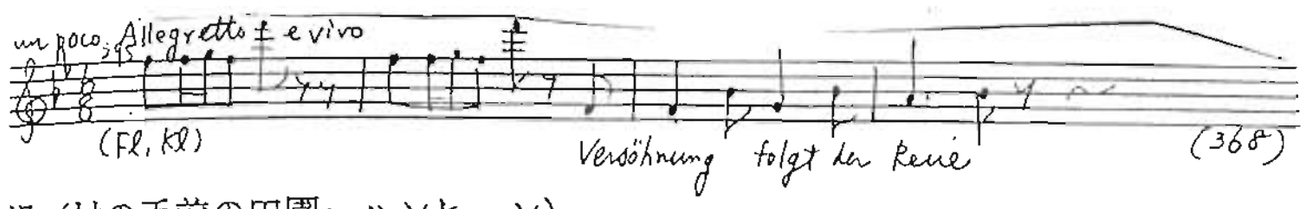
Allegro con moto



No.3〔1834年版〕四重唱（レースヒェン，マルテ，ペーター，ヤコプ，Str，2Fl，2Kl，2Fg，2Hr，2Tp）　楽譜資料Ａ１

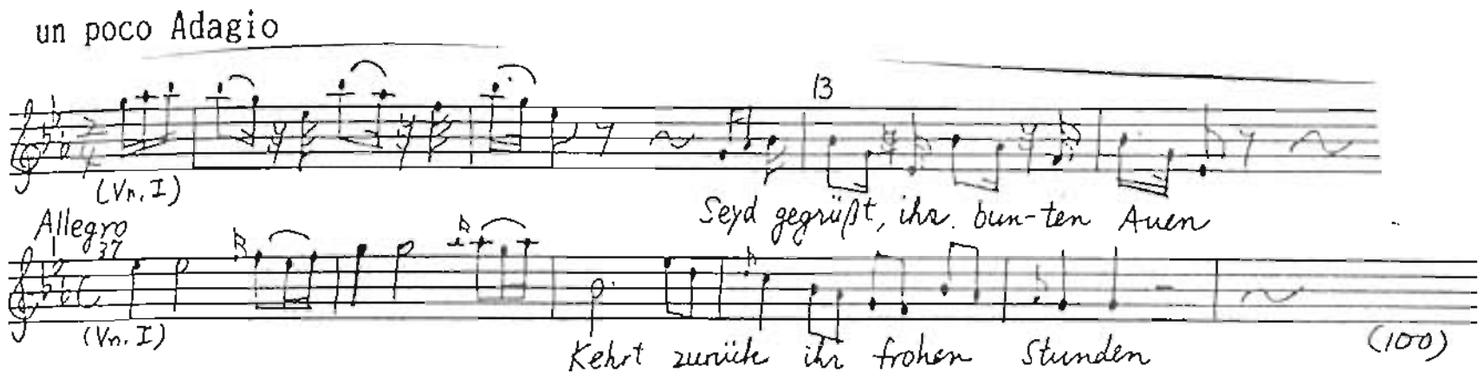
Andantino



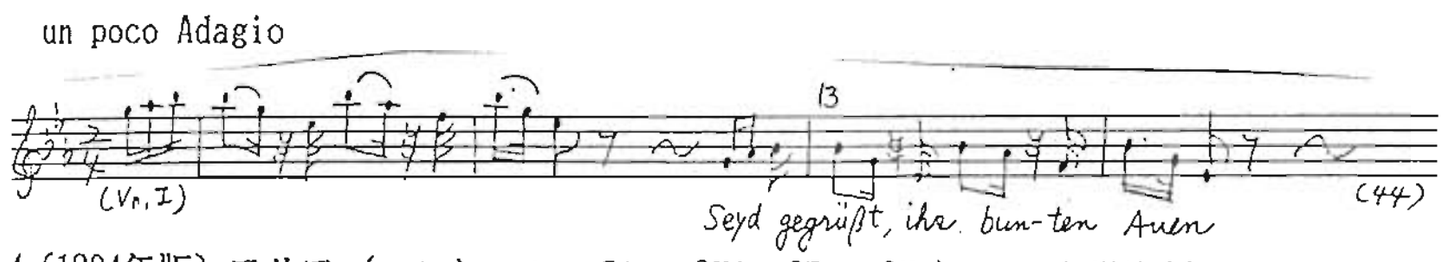


第6場（村の手前の田園：ハンヒェン）

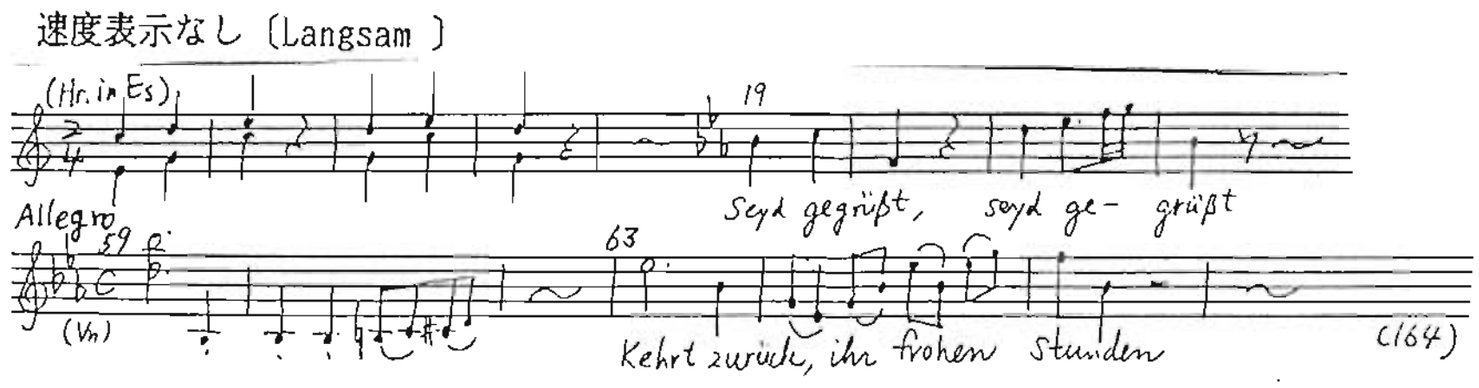
No.4〔1799年版〕アリア〔第1稿〕（ハンヒェン，Str，2Ob，2Hr）　楽譜資料A 1



No.4〔1799年版〕アリア〔第2稿〕（ハンヒェン，Str，2Ob，2Hr）　楽譜資料A 1



No.4〔1834年版〕アリア（ハンヒェン，Str，2Kl，2Fg，2Hr）　楽譜資料A 1

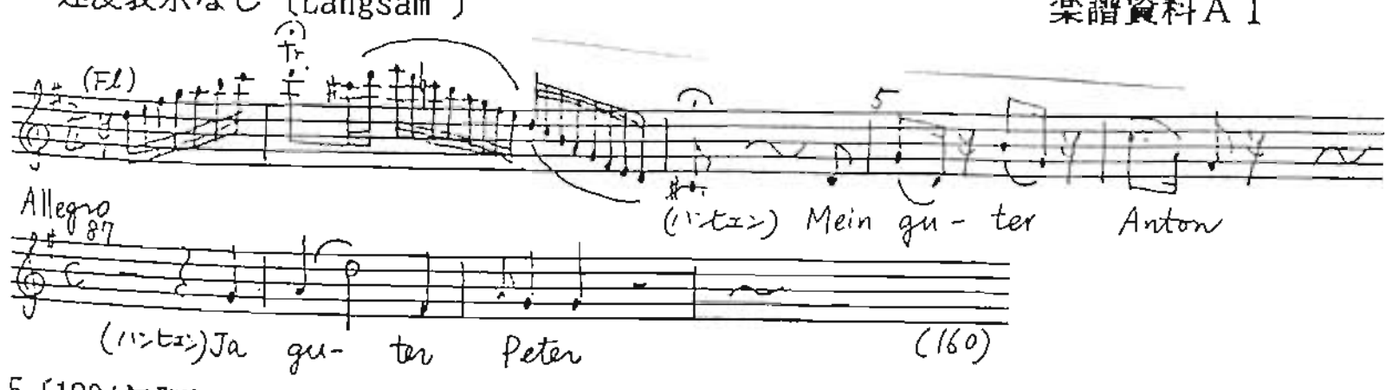


第7場（ハンヒェン，ペーター）

No.5〔1799年版〕二重唱（ハンヒェン，ペーター）　消失

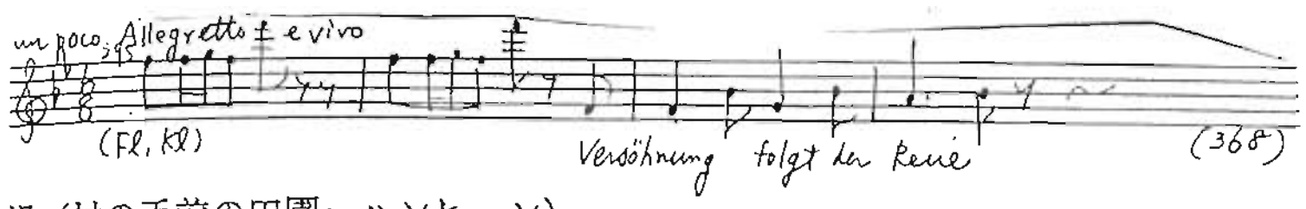
No.5〔1834年版〕二重唱〔第1稿〕（ハンヒェン，ペーター，Str，1Fl，2Ob，2Hr）

速度表示なし〔Langsam〕　楽譜資料A 1



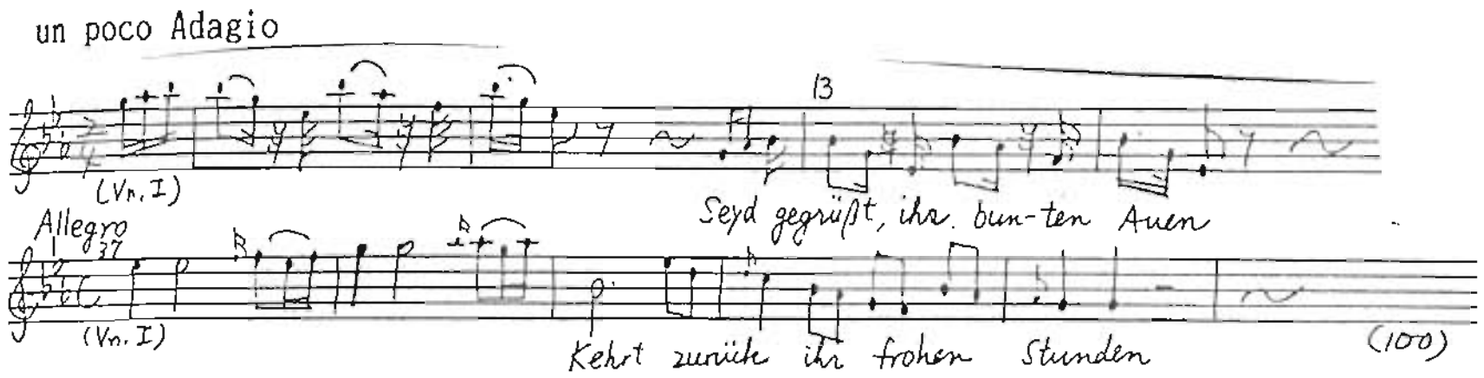
No.5〔1834年版〕二重唱〔第2稿〕（ハンヒェン，ペーター，Str，1Fl，2Ob，2Hr）

速度表示なし〔Langsam〕　楽譜資料A 2

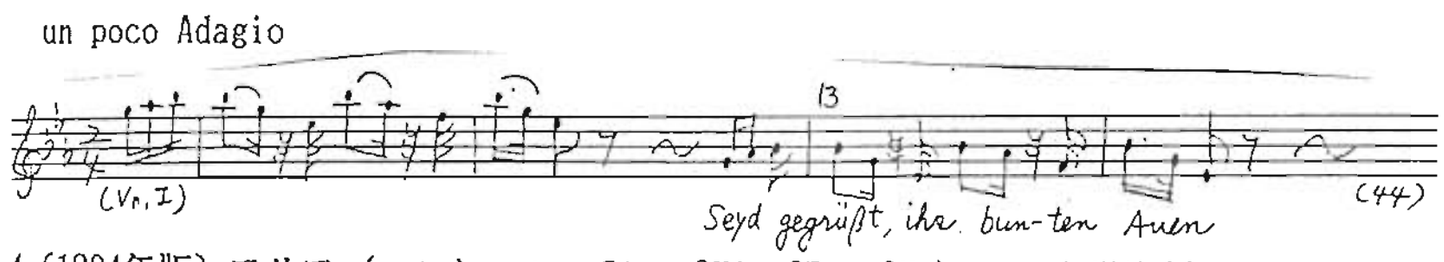


第6場（村の手前の田園：ハンヒェン）

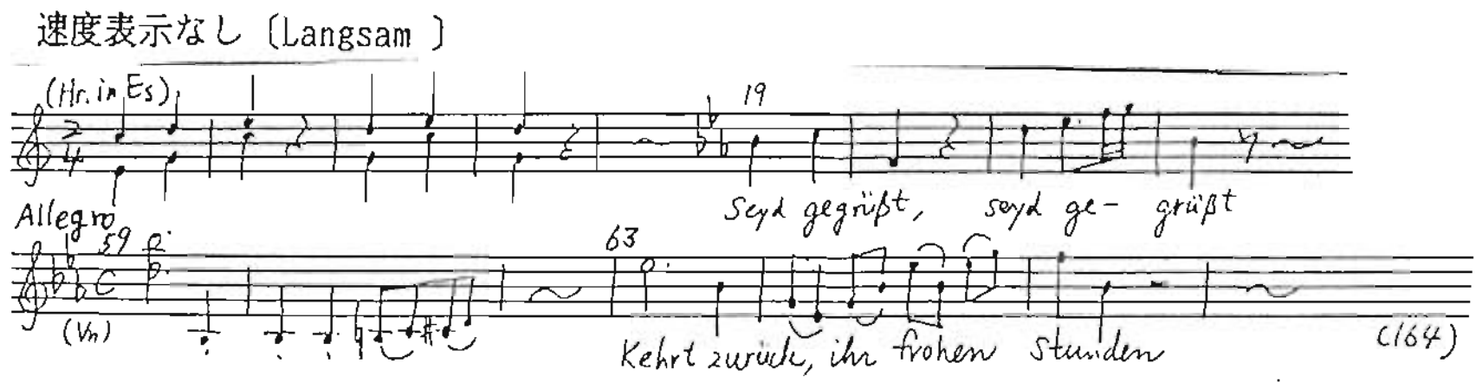
No.4〔1799年版〕アリア〔第1稿〕（ハンヒェン，Str，2Ob，2Hr）　楽譜資料A 1



No.4〔1799年版〕アリア〔第2稿〕（ハンヒェン，Str，2Ob，2Hr）　楽譜資料A 1



No.4〔1834年版〕アリア（ハンヒェン，Str，2Kl，2Fg，2Hr）　楽譜資料A 1

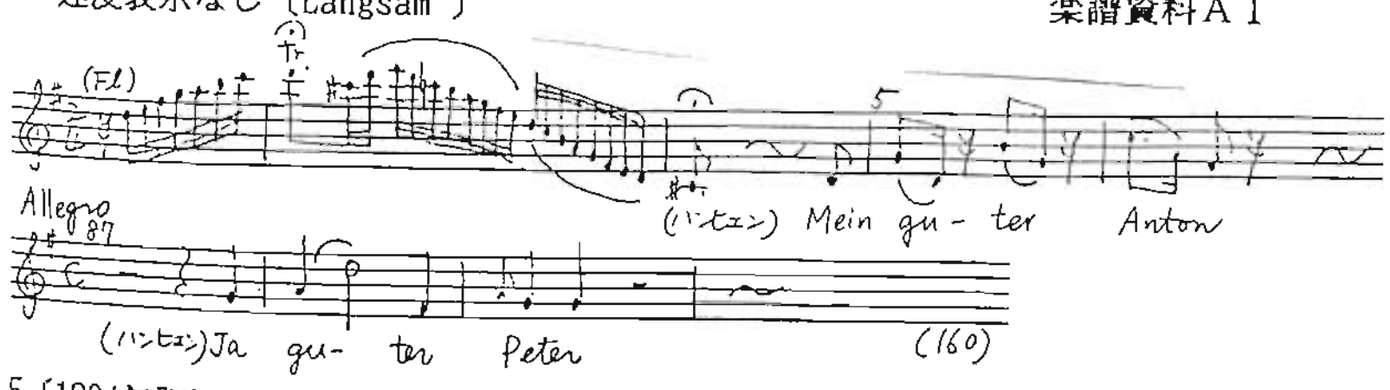


第7場（ハンヒェン，ペーター）

No.5〔1799年版〕二重唱（ハンヒェン，ペーター）　消失

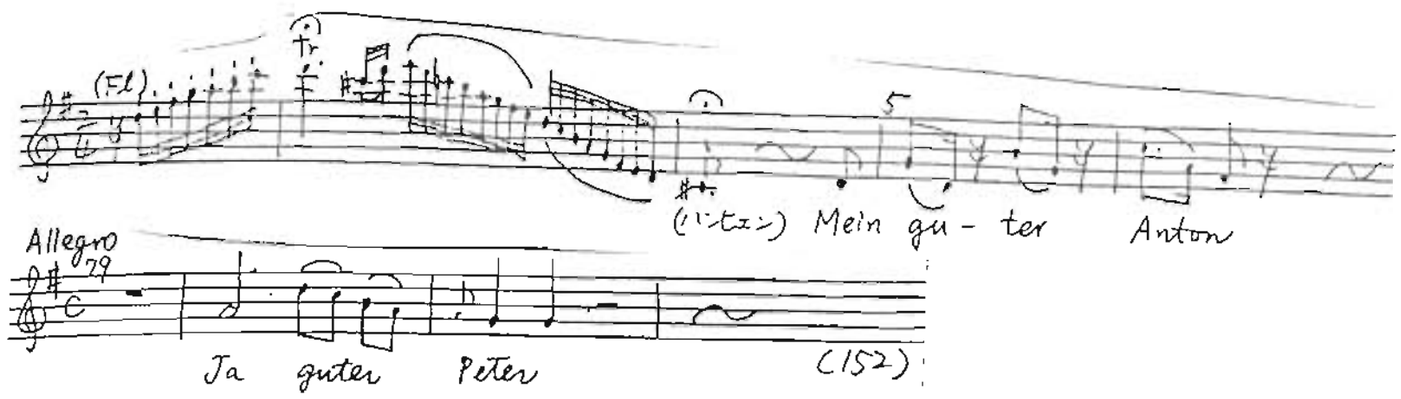
No.5〔1834年版〕二重唱〔第1稿〕（ハンヒェン，ペーター，Str，1Fl，2Ob，2Hr）

速度表示なし〔Langsam〕　楽譜資料A 1



No.5〔1834年版〕二重唱〔第2稿〕（ハンヒェン，ペーター，Str，1Fl，2Ob，2Hr）

速度表示なし〔Langsam〕　楽譜資料A 2



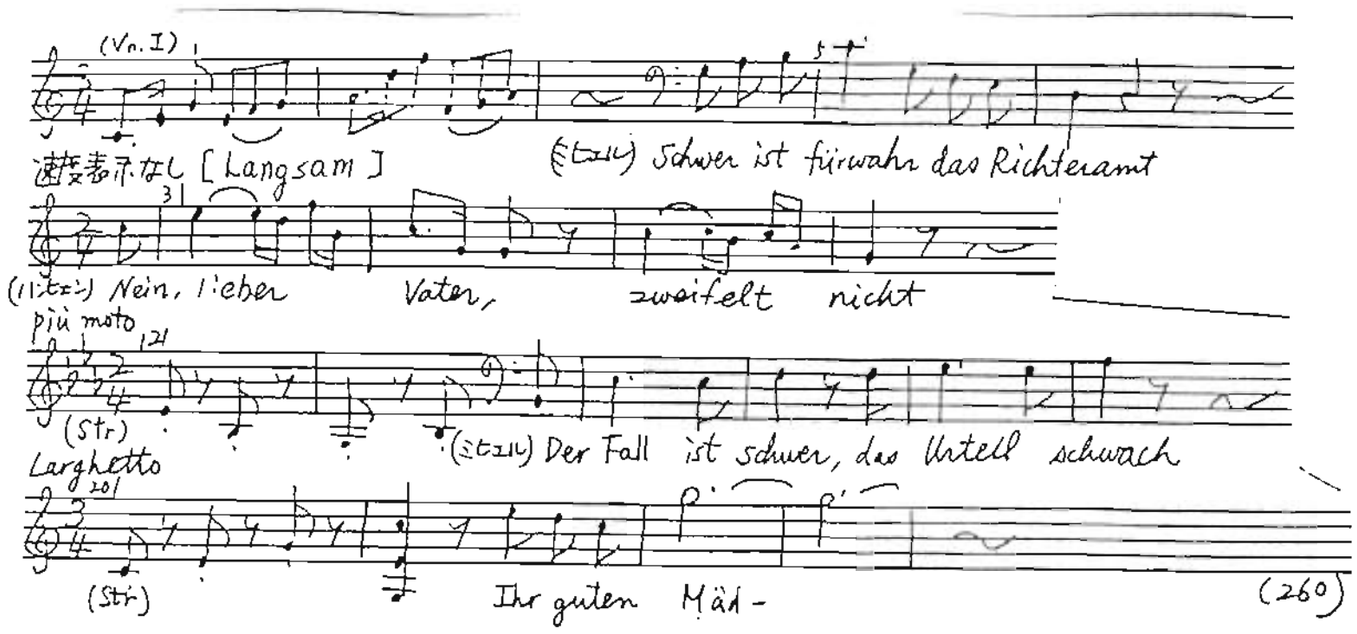
第8場（ミヒェル，ヴァラー，農民達）

第9場（ミヒェル，のちにマルテ，レースヒェン，ペーター，ハンヒェン）

No.6〔1799年版〕五重唱（ハンヒェン，レースヒェン，マルテ，ペーター，ミヒェル，

Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　　楽譜資料Ａ１

Andante



〔No.6? 1834年版〕四重唱〔第１稿〕（ハンヒェン，レースヒェン，ペーター，ヤコブ，

Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　　楽譜資料Ａ１

速度表示なし〔Mittelmäßig 〕

〔No.6? 1834年版〕四重唱〔第２稿〕（ハンヒェン，レースヒェン，ペーター，ヤコブ，

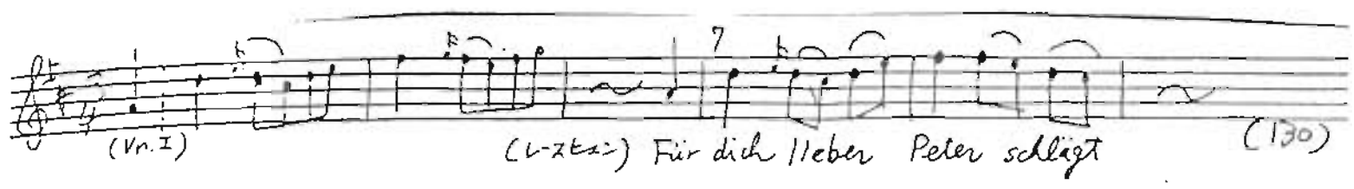
Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　　楽譜資料Ａ１

速度表示なし〔Mittelmäßig 〕

第10場（レースヒェン，ペーター）

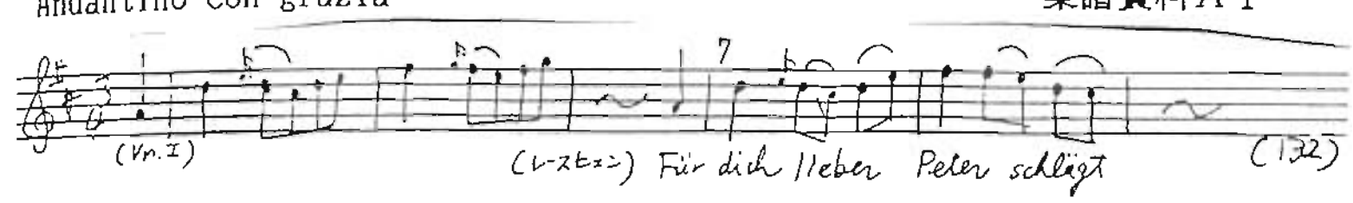
No.7〔1834年版〕二重唱〔第１稿〕（レースヒェン，ペーター，Str，2Fl，2Fg，2Hr）

Andantino con grazia　　楽譜資料Ａ２



No.7〔1834年版〕二重唱〔第２稿〕（レースヒェン，ペーター，Str，2Fl，1Fg，2Hr）

Andantino con grazia　　楽譜資料Ａ１

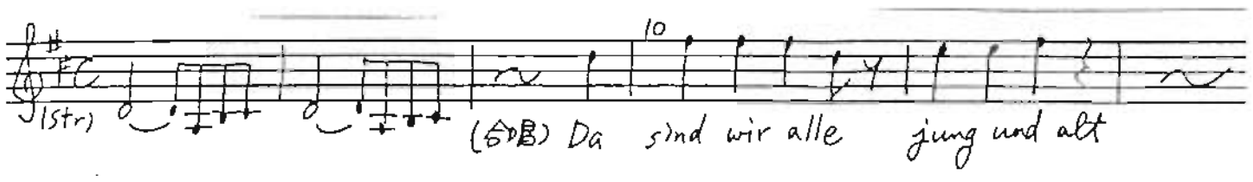


第11場（ミヒェルの家の前の建物：ミヒェル，のちにマルテ）

No.8〔1799年版〕フィナーレ（編成は場ごとに示す）　　楽譜資料Ａ１

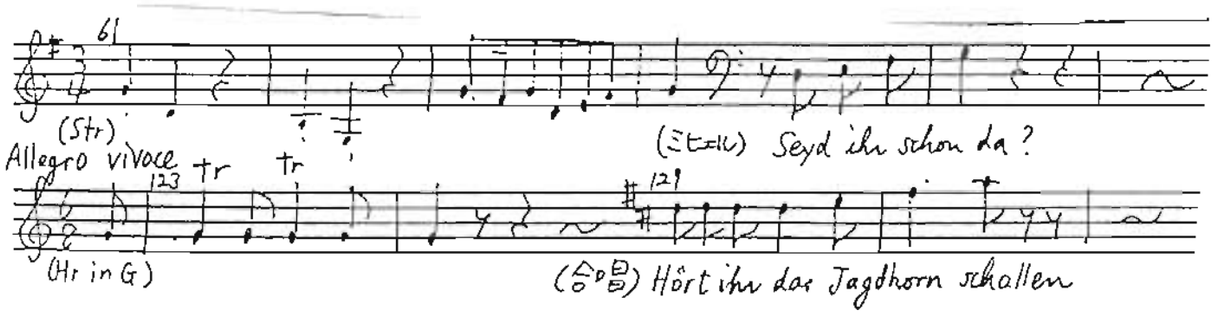
第12場（ペーター，マルテ，農民達〔ソプラノ・アルト・テノール・バス〕，Str，2Fl，20b，2Kl，2Fg，2Hr，2Tp）

Allegro



第13場（ペーター，マルテ，農民達〔ソプラノ・アルト・テノール・バス〕，ミヒェル，Str，2Fl，20b，2Kl，2Fg，2Hr，2Tp）

Moderato

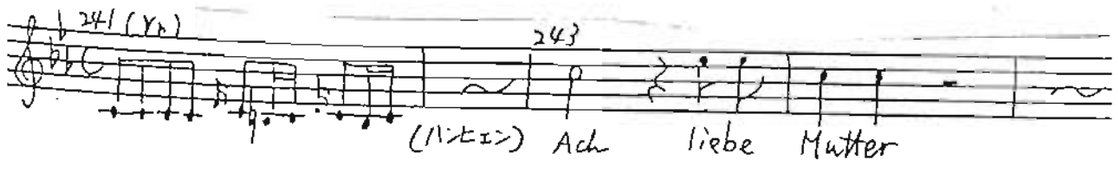


第14場（マルテ，レースヒェン，Str，2Fl，2Fg）

Andantino con moto

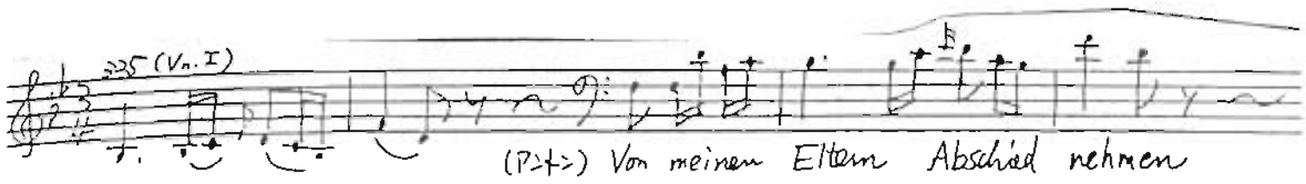
第15場（マルテ，レースヒェン，ハンヒェン，Str，2Kl，2Fg）

Allegro agitato



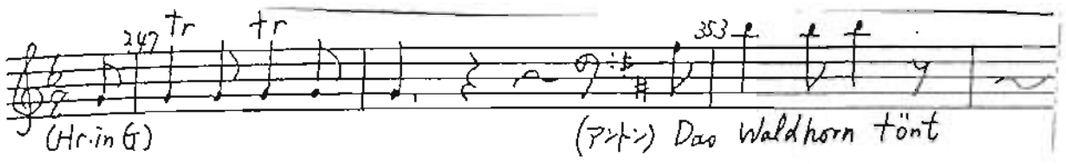
第16場（森：アントン，Str，1Kl）

Larghetto



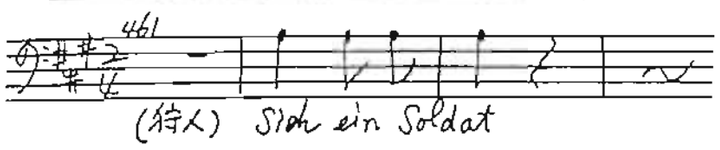
第17場（アントン，狩人／農民〔ソプラノ・アルト・テノール・バス〕，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr．2Tp）

Allegro



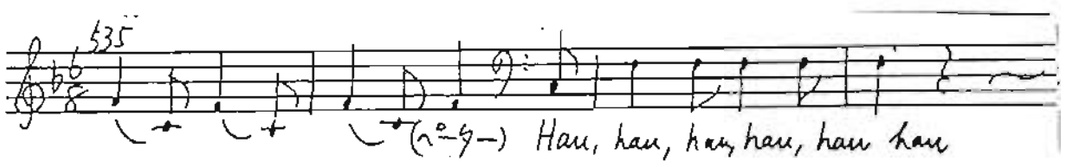
第18場（アントン，狩人４人〔テノール２，バス２〕，Str，2Fl，2Ob）

Allegro non molto



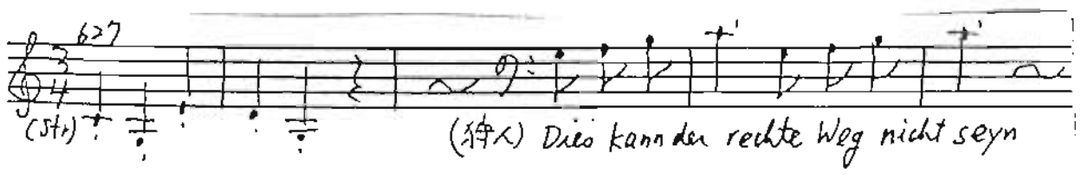
第19，20場（ペーター，農民数人，のちにマルテ，レースヒェン，ハンヒェンが加わる，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）

Allegro



第21場（ペーター，農民数人，マルテ，レースヒェン，ハンヒェン，狩人４人〔テノール２，バス２〕，アントン，Str，2Ob，2Fg）

Moderato

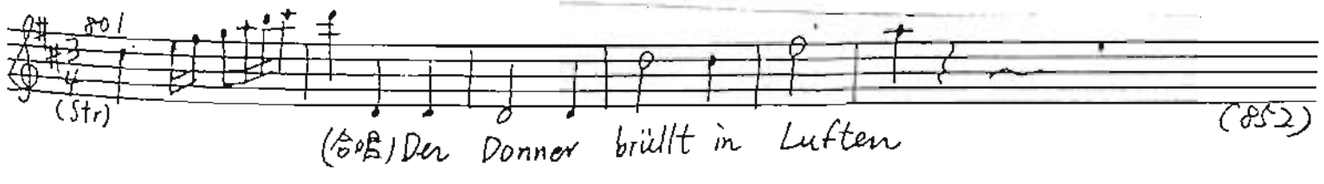


第22場（前場の人々，ミヒェル，農民多数〔ソプラノ・アルト・テノール・バス〕，Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr，2Tp，Pk）

La Tempesta. Allegro con fuoco

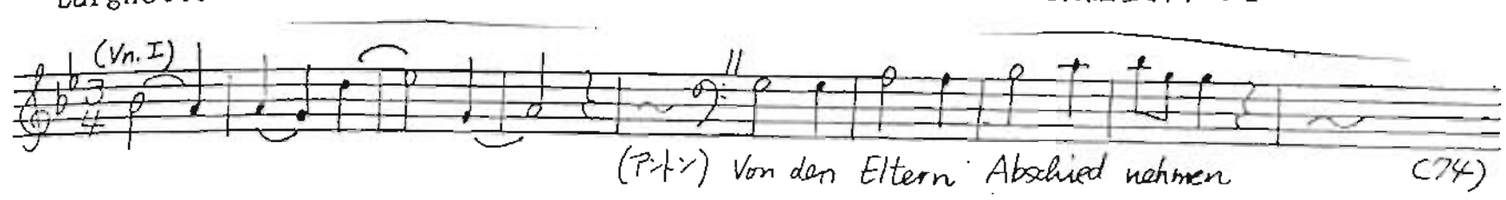
第23場（前場の人々，ライプニッツ伯爵と狩人達，Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr，2Tp，Pk）

Presto



No.8〔1834年版〕フィナーレ（第16，17場）　（アントン，Str，2Ob，2Fg，2Hr）

Larghetto　　楽譜資料Ａ１



第２幕

第１場（森：王）

No.9　レチタティーヴォとアリア（王）　消失

第２場（王，密猟者２人）

第３場（王，ミヒェル）

第４場（王，ミヒェル，ペーター）

第５場（王，ミヒェル）

No.10 二重唱（王，ミヒェル）　消失

第６場（ミヒェルの家の部屋：アントン，のちにハンヒェン）

No.11 二重唱（ハンヒェン，アントン）　消失

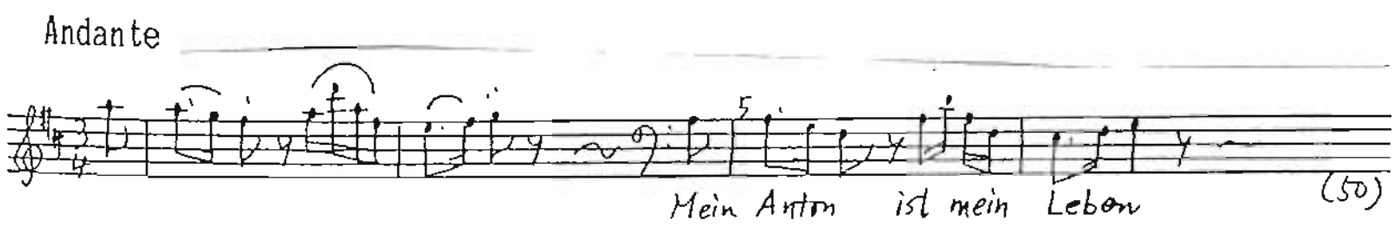
第７場（ミヒェルの家の大きな部屋：マルテ，レースヒェン）

第８場（前場の人々，ミヒェル，のちに王）

第９場（前場の人々，アントン）

第10場（王，ミヒェル）

No.12 アリア〔おそらく1799年版〕（ミヒェル，楽器編成不明）　　楽譜資料Ｃ１



第11場（王，のちにレースヒェン）

No.13 アリア（レースヒェン）　消失

第12場（王，ミヒェル，アントン，ハンヒェン）

第13場（前場の人々，レースヒェン）

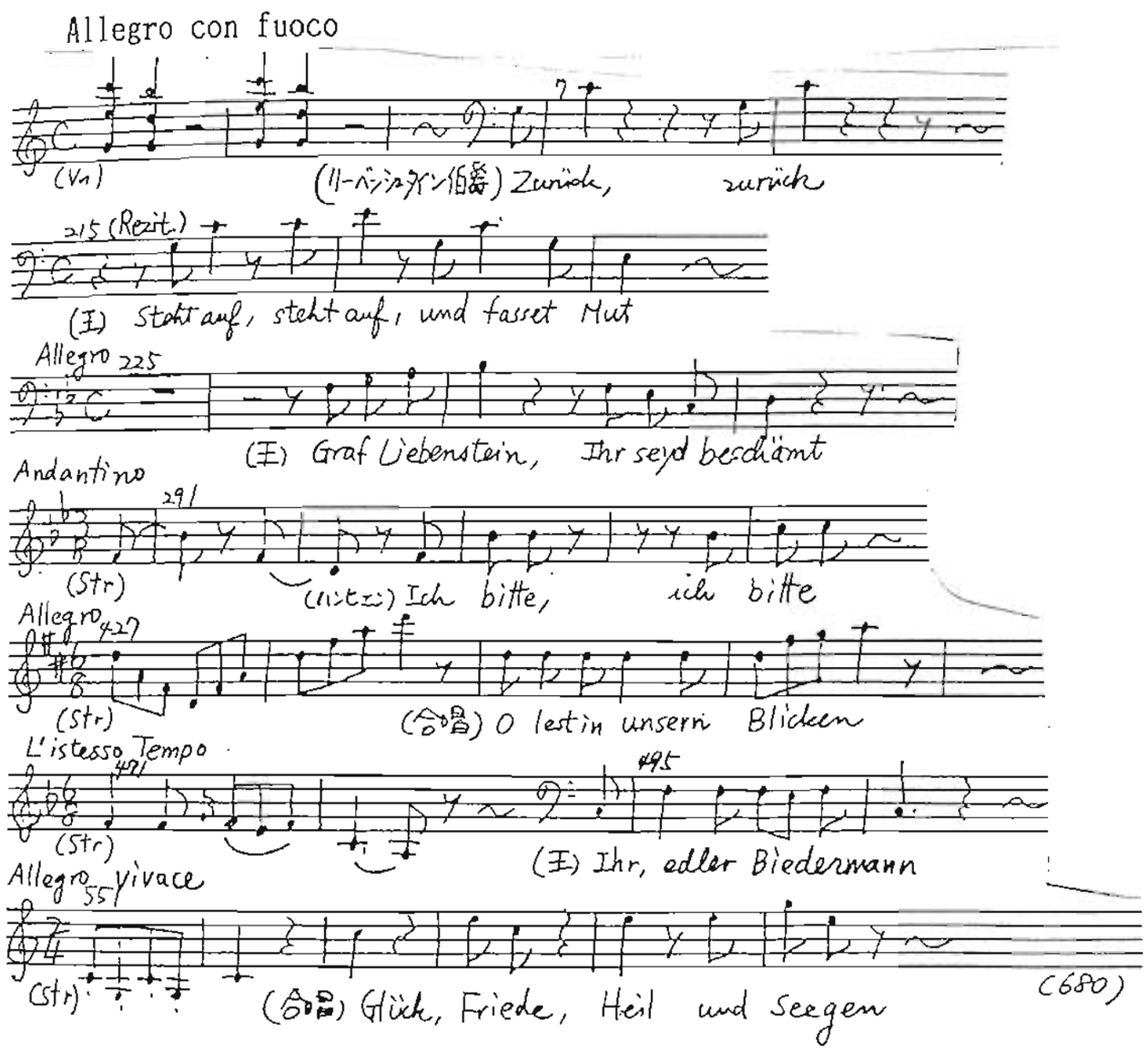
第14場（前場の人々，マルテ）

No.14　Trinklied（杯の歌）（ミヒェル，レースヒェン，ハンヒェン，マルテ，アントン）

消失

第15場（前場の人々，ライプニッツ伯爵，リーベンシュタイン伯爵，ペーター，農民数人）

No.15 〔1799年版〕フィナーレ（王，ミヒェル，レースヒェン，ハンヒェン，マルテ，アントン，ライプニッツ伯爵，リーベンシュタイン伯爵，ペーター，農民〔ソプラノ・アルト・テノール・バス〕，Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr，2Tp，Pk）



(4) 楽譜資料

A 1　不完全なTeilautograph　（筆写譜が混じった自筆譜）　A-Wgm Aut Schenk 9

自筆部分は，筆跡の上からみて，明らかに２つの時期に書かれたものである。初演記録と，Ａ１に書き込まれた年代から，書かれた時期は，1799年と1834年頃であると考えられる。ここでは，それぞれを〔1799年版〕，〔1834年版〕と呼ぶ。それに付随して，作品の一部の筆写譜が伝承している。この筆写譜には，一箇所，自筆の修正がみられる。

横長判（縦約23cm×横約32cm），16 段，12段，及び10段の五線紙で，端は切り揃えられていない。全体は製本されておらず，部分的に白糸，または撚り糸で綴じられている。

①　〔1799年版〕の自筆譜：No.4〔第１稿〕，No.4〔第２稿〕，〔No.8〕（一部）＝61枚（記入ページ 119ページ，空白ページ 3ページ）

No.4〔第1稿〕の第1ページ，右上に筆者不明の記述“2. Fassung”，No.4〔第2稿〕の第1ページ，右上に筆者不明の記述“1. Fassung”がある。

用いられている紙は，Wz#28（16段），Wz#23（以下10段），Wz#32，Wz#16の4種類である。このうち，Wz#16は，No.4〔第1稿〕のコロラトゥーラ部分にのみ用いられているため，後から加えたものである可能性がある。

② 〔1799年版〕の筆写譜：〔No.1〕，〔No.3〕，〔No.6〕，〔No.8〕（一部），〔No.15〕= 223枚（記入ページ 443ページ，空白ページ 3ページ） 以上の5曲は曲番号が記入されていないが，台本a 1との比較により，上記のように曲番号を判断することができる。

以下の箇所にフックスの書き込みがある。〔No.1〕の第1ページ“von der Oper “die Jagd“ von Joh. Schenk./ Abschrift/ 17622 Ⅳ/ cat”〔= 所蔵番号〕；〔No.8〕の第1ページ“von der Oper “die Jagd”，Musik von Schenk”；〔No.15〕の第1ページ“von der Oper“die Jagd“ von Joh. Schenk” その他に，以下の箇所に筆者不明の書き込みがある。〔No.1〕の第1ページ，左上“No.2”；〔No.3〕の第1ページ，左上“No.3”；〔No.6〕の第1ページ，左上“9”

用いられている紙は，Wz#26（16段）とWz#27（12段）を含む4種類である。

この筆写譜には，2種類の筆跡が認められる。Kp#14が〔No.8〕のS.17-52を筆写し，残りの部分は，Kp#3の筆跡である。Kp#3が筆写した〔No.15〕には，自筆による訂正が含まれている。

以上，①と②の状態は，以下の表に示すとおりである。

〔1799年版〕（自筆譜と筆写譜）

フォリオ数	ラーゲ数	内容		ページ番号	紙
34	4	〔No.1〕	(Ms)	欠〔1～67〕	
				1ページ空白	
44	2	〔No.3〕	(Ms)	1，2～32は欠	
	3			欠〔33～87〕	Wz#27
				1ページ空白	
6	1	No.4〔第2稿〕	(Aut)	1は欠，2～11	Wz#23
				1ページ空白	
13	1	No.4〔第1稿〕	(Aut)	1は欠，2～16	Wz#32
				17～20	

	1			21～22	Wz#16
				23～25	Wz#32
				1ページ空白	
32	4	〔No.6〕	(Ms)	1, 2 ～64は欠	
99	3	〔No.8〕	(Ms)	欠〔1～52〕	
	4		(Aut)	65～128	Wz#28
	4		(Ms)	欠〔62ページ分〕	
	1		(Aut)	193 ～211	Wz#28
				1ページ空白	
56	5	〔No.15 〕	(Ms)	1, 2 ～111 は欠	Wz#26
				1ページ空白	

③ 〔1834年版〕の自筆譜: 〔No.1〕, 〔No.2〕, No.3, No.4, No.5〔第2稿〕, 〔No.7 第2稿〕, 〔No.8〕(断片), 四重唱〔No.6? 第1稿〕, 四重唱〔No.6? 第2稿〕= 123枚(記入ページ 234ページ, 空白ページ12ページ) これらのうち, 四重唱以外の曲番号のない4曲は, 台本a 1との比較から, 〔No.1〕, 〔No.2〕, 〔No.7〕, 〔No.8〕と判断することができる。

〔No.1〕の第1ページ右上にはフックスの記述"die Jagd komische Oper./ Ganz neu bearbeitet von weiland/ Johann Evang. Schenk. 17622/ Ⅳ〔= 所蔵番号〕/ Partitura/ Autographa."がある。また, 同ページの左上には筆者不明の記述"No.2"がある。さらに, No.3の冒頭空白ページには, 筆者不明の記述"N.3"がある。No.4の第1ページ右上には, 〔1799年版〕のNo.4の二つの稿における記述と同様の筆跡で, "3. Fassung 1832-1836"と記されている。〔No.7第2稿〕の第1ページ左上には, 筆者不明の記述"7"が, 〔No.8〕の第1ページには筆者不明の記述"Aus Finale I, 2. Fassung"がある。〔No.8〕の楽譜には, 鉛筆で自筆の修正が書き込まれ, 最後に自筆で"den 13. Juny/ vollendet 834."と書き込まれている。四重唱〔No.6? 第1稿〕の第1ページ左上には, 自筆で"N6"と記され, 最後には自筆で"28 Jänner/ vollendet 1834"と記されている。

用いられている紙は, Wz#28とWz#27(いずれも16段), 及びWz#24(16, 12, 10段)の3種類である。〔No.1〕においては, Wz#28とWz#27が, また四重唱〔No.6? 第1稿〕においてはWz#24とWz#27が同一のラーゲの中で混合して用いられている。しかし, 筆跡

の変化の点でも，音楽的観点からも，これは後のさしかえによるものとは考えられない。

なお，〔1834年版〕においては，登場人物ミヒェルがヤコプに変わっている。

〔1834年版〕（自筆譜）

フォリオ数	ラーゲ数	内容	ページ番号	紙
26		〔No.1〕	1は欠， 2～4	Wz#28
	1		5～6	Wz#27
			7～8	Wz#28
	5		9～50	Wz#27
			2ページ空白	
11	2	〔No.2〕	1は欠， 2～21	Wz#24
			1ページ空白	
28		No.3	1ページ	Wz#24
	7		1～53	
			2ページ空白	
13	4	No.4	1は欠， 2～25	Wz#24
			1ページ空白	
14	3	No.5〔第2稿〕	1～26	Wz#24
			2ページ空白	
9	2	〔No.7第2稿〕	1は欠， 2～17	Wz#24
			1ページ空白	
6	2	〔No.8第2稿〕	1は欠， 2～11	Wz#24
			1ページ空白	
8		四重唱〔No.6? 第1稿〕	1～4	Wz#24
			5～6	Wz#27
	1		7～10	Wz#24
			11 ～12	Wz#27
			13 ～15	Wz#24
			1ページ空白	
8	2	四重唱〔No.6? 第2稿〕	1～15	Wz#27
			1ページ空白	

Ａ１における稿と曲番号

① 〔1799年版〕と〔1834年版〕の両方においてNo.2と書き込まれている曲は，台本ａ１によれば，No.1となるべき曲である。なぜ，No.2と番号付けされているのか，その理由は不明である。

② 〔1799年版〕のNo.4には〔第１稿〕と〔第２稿〕がある。〔第１稿〕では最後にAllegro 部分がありコロラトゥーラ音型があるのに対して，〔第２稿〕にはAllegro 部分がなく，その結果，台本にある歌詞の最後の４行が省略されている。〔第１稿〕の第１ページ右上には"2. Fassung"，〔第２稿〕の第１ページ右上には"1. Fassung"という筆者不明の記述があるが，訂正の跡からみて，この注記とは逆の順で作られたものと思われる。

③ 〔1834年版〕に含まれる四重唱には，二つの稿がある。四重唱〔No.6? 第１稿〕は，訂正が多いが，強弱記号等も丁寧に書き込まれている。これに対して，四重唱〔No.6? 第２稿〕は，一見清書のように見えるが，途中から歌詞が書き込まれていない。この四重唱は，#5「思いがけない海の祝祭」（1789年）のNo.18 を基に作られた編曲であるため，音型が原曲に類似している〔第１稿〕が先に作られたものと考えられる。〔第１稿〕の第１ページに自筆で書き込まれた"N6"の記述，及び歌詞の内容からみて，この四重唱はNo.6の(の一部）として作曲された可能性がある。

④ No.5とNo.7の稿については，楽譜資料Ａ２とＡ３を参照せよ。

Ａ２ 〔1834年版〕No.5〔第１稿〕の自筆スコア A-Wgm Schenk Aut 9 (VI 17696)

横長判（縦24.1cm×横31.5cm)， 12段の灰緑色の五線紙Wz#13とWz#14で，端は切り揃えられている。表紙なしで，青いテープで綴じられている。

全体は14枚で，記入ページ27ページ，最後のページは空白。

第１ページ上端の記述：（自筆で)" Duetto." （筆者不明）"aus der Oper: die Jagd. / von Joh. Schenk"（左上に青いボールペンで，ウィーン楽友協会の所蔵番号）"⑨"（その後に黒いインクで)"VI 17696" （左上に）"5/ 〔dup 〕licat" この最後の記述は後に抹消されている。

Ａ１に含まれる〔第２稿〕と比べると，Allegro 部分の直前のフレーズのみ異なる。このフレーズは，〔第１稿〕の方が長く，〔第２稿〕では短縮され，それに伴って台本にある歌詞の最後の２行が省略されている。この自筆譜には，〔第２稿〕にみられる音型が鉛筆で書き込まれているため，この楽譜の方が先に作られ，この楽譜を基にして〔第２稿〕

が作られたものと推測される。

A 3　〔1834年版〕No.7〔第１稿〕の自筆スコア　A-Wgm VI 17683 (Q 9346)

横長判（縦約22.1cm×横約30.9cm），12段の灰緑色の五線紙Wz＃15で，端を切り揃えてある。表紙なしで，青いテープで綴じられている。

全体は８枚で，記入ページ15ページ，最後のページは空白。

Ａ１に含まれる〔第２稿〕と比べると，音型等の微細な相違がある。この自筆譜には，〔第２稿〕にみられる音型が鉛筆で書き込まれているため，この楽譜の方が先に作られ，この楽譜を基にして〔第２稿〕が作られたものと推測される。

C 1　No.12 のヴォーカル・スコア　A-Wgm VI 17695　(Q 9352)

A-Wgm VI 17695　(Q 9353)　〔Duplikat〕

横長判（縦約21.4cm×横約31cm），10段の五線紙で，端を切り揃えてある。４枚（最後のページは空白）が，表紙なしで綴じられている。

タイトルページの記述 "/:Mein Anton ist mein Leben:/ / Aria/ /:Aus der opera: die Jagd:/ / Per il/ clavi Cembalo// von Herrn Schenk"

(5) 台本

ａ１　おそらく初演の際に印刷された台本

Die Jagd// Eine/ komische Oper in zwey Aufzügen/ nach/ Colle und Weise./ Für das kaiserl. königl. Hoftheater// Die Musik ist von Hrn. Schenk// Wien,/ bey Christoph Peter Rehm./ 1799.　80 ページ。

A-Wn-M 641.437-A.M.2.TB;　A-Wn-M 440.778-A.M.120.TB;

U-Wc Schatz Coll. 9597

楽譜資料Ａ１の〔1799年版〕と〔1834年版〕の歌詞とａ１とを比べると，基本的に，〔1799年版〕の歌詞の方が台本に近い。しかし，No.1とNo.3においては，例外的に，〔1834年版〕の歌詞の方がａ１に類似している。

(6) 作曲と上演に関するドキュメント

シェンクの自伝には，この作品の作曲に関して次のような記述がある。

「1799年には，再びケルントナートア劇場のために，２幕のオペラ『狩』を作曲した。これは，５月７日に上演された。」(Schenk, J.B. 1830N: 84)

1799年 8月 1日から1800年 7月末日までの『オーストリア・ハンガリー帝国最高劇場管理部会計報告』には，この作品の作曲報酬 225グルデンがシェンクに支払われたことが，次のように記録されている。「第 193号　オペラ『狩』の作曲に対し，ヨハン・シェンクに，225.- 〔グルデン〕」(A-Wsta Hoftheater Sonderreihe 33: 91)

ハイドンの知人であったヨーゼフ・カール・ローゼンバウム(Joseph Carl Rosenbaum, 1770-1829)の日記には，この作品の初演に関して次のように記されている。「1799年５月７日，火曜日，.....夕方，ケルントナートア劇場にて，シェンクの音楽による演劇『狩』の初演を見た。音楽には多くの喝采が寄せられたが，台本はまったく失敗であった。....」(A-Wn-H S.n.194-204; Redant 1968: 64)

1799年 8月28日の"Allgemeine Musikalische Zeitung" 紙においても，同じような評価が記されている。「最近，ヴァイセの『狩』の改作がシェンク氏の音楽により上演されたが，成功しなかった。」(Anonymus 1799: Sp.814)

バウエルンフェルトは，この作品の改訂版〔1834年版〕の作曲について，次のように伝えている。「....シェンクがオペラ『狩』を改訂しようと決心した時には，すでに80歳を越えていた。彼は，重大な秘密としてこの決心を私に打ち明けた。年老いた先生を喜ばせるために，私は必要に応じて台本を作り直しましょう，と申し出た。.....彼は，実際に第１幕を完成し，清書し，生前の最後の晩秋にはスコアを完成した。その後，さらに推敲を加えていたが，その途中で病に倒れ，.....作曲を止めざるをえなかった。」(Bauernfeld 1837: 53-54)

#12 “Der Faβbinder”
「桶屋」（1802年）

(1) 作曲年と根拠: 1802年（Teilautograph A 1のタイトルページに記入されている）

(2) 上演記録

ハダモフスキーによれば[1]，1802年12月18日[2]にケルントナートア劇場で初演され，その後1810年12月28日までのあいだに，合計42回（1802年12月20日，1803年1月4日，9日，17日，2月14日，3月3日，7日，14日，22日，28日，4月11日，5月1日，14日，6月16日，21日，7月1日，8月16日，9月10日，11月4日，12月30日，1804年2月1日，3月8日，4月19日，5月3日，8日，6月15日，7月2日，9月9日，10月12日，18日，11月6日，12月8日，1805年2月2日，3月2日，13日，9月30日，10月5日，11月3日，1807年11月12日，13日，1810年12月27日，28日）再演された。(Hadamowsky 1966: 43)

(3) 作品の構成と主題

登場人物: 親方マルティン（Martin），桶屋，ハンヒェンの後見人〔バス〕

ハンヒェン（Hannchen），若い農民の娘，マルティンの被後見人，シュテフェンの恋人〔ソプラノ〕

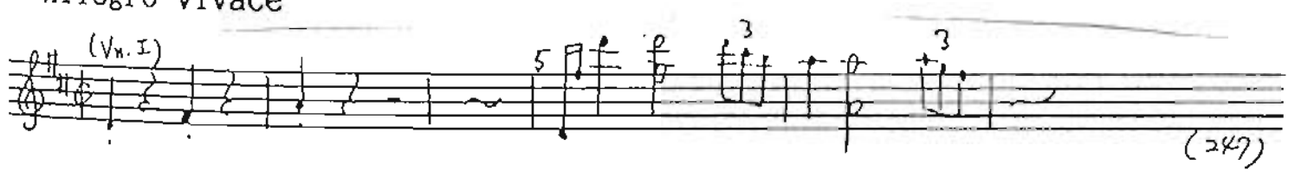
シュテフェン（Steffen），若い退役民兵，マルティンの下僕〔テノール〕

ツェップ（Zep），近所のぶどう園主〔テノール〕

フェルテン（Velten），村の粉屋，シュテフェンの叔父〔バス〕

序曲（Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr）　楽譜資料A 1，B 1

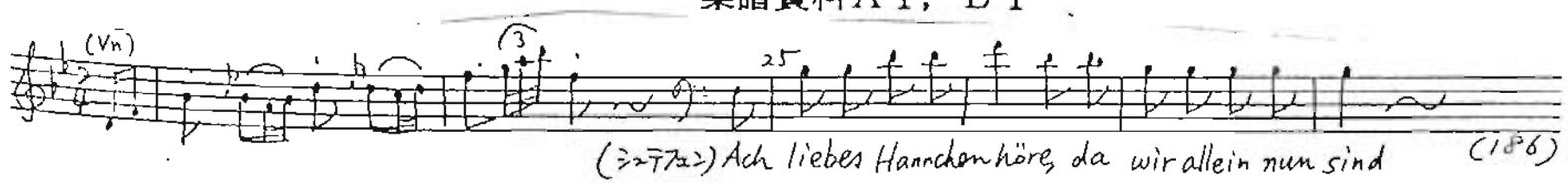
Allegro vivace



第1場（マルティンの仕事場: ハンヒェン，シュテフェン）

No.1 二重唱（ハンヒェン，シュテフェン，Str，2Kl，2Fg，2Hr）

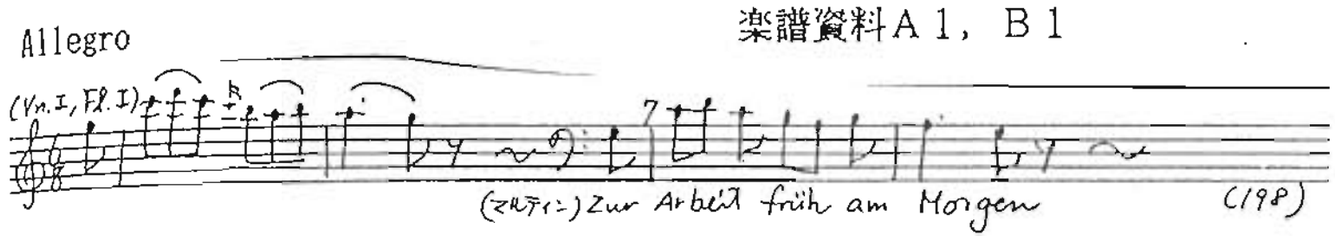
Allegro　楽譜資料A 1，B 1



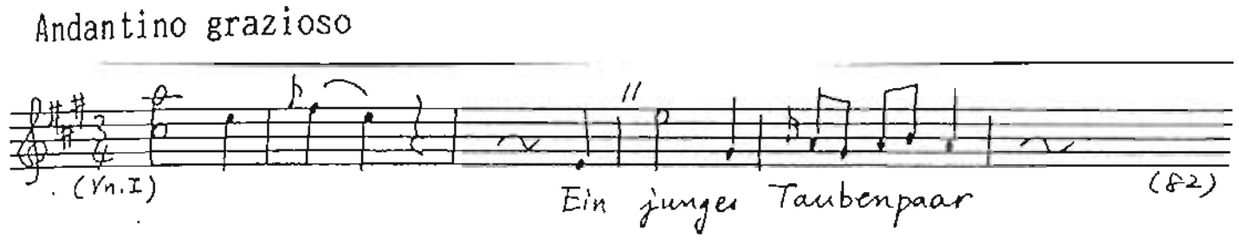
第2場（マルティン，ハンヒェン，シュテフェン）

No.2 三重唱（マルティン，ハンヒェン，シュテフェン，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）

楽譜資料Ａ１，Ｂ１



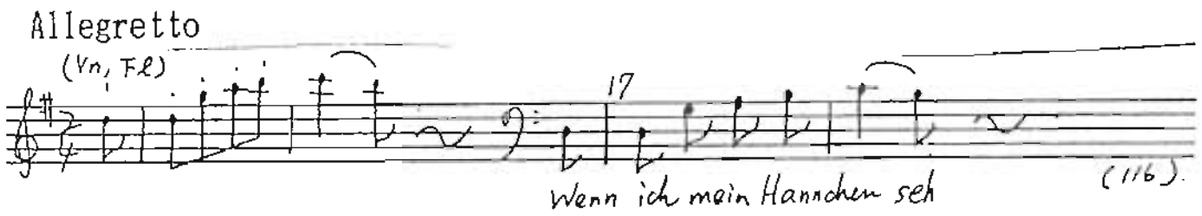
No.3 アリア（ハンヒェン，Str，1Fl，2Kl，2Fg）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１



第3場（ハンヒェン，シュテフェン）

第4場（シュテフェン）

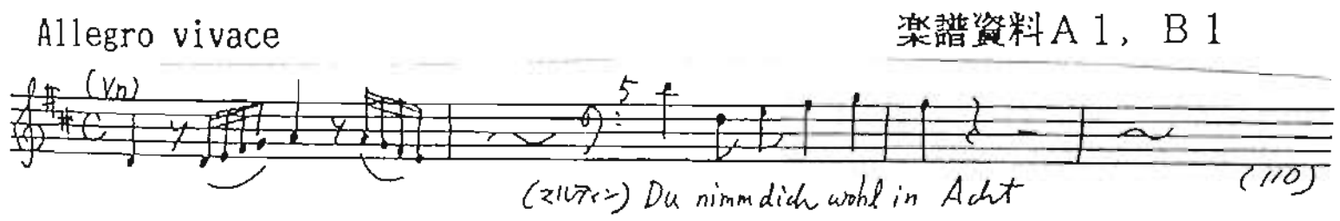
No.4 アリア（シュテフェン，Str，1Fl，2Ob，1Fg，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１



第5場（マルティン，シュテフェン）

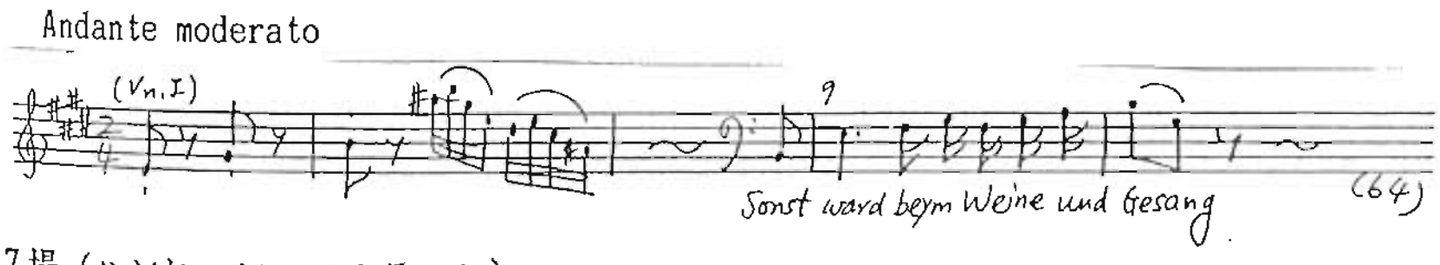
No.5 二重唱（マルティン，シュテフェン，Str，2Ob，2Fg，2Hr）

楽譜資料Ａ１，Ｂ１



第6場（マルティン）

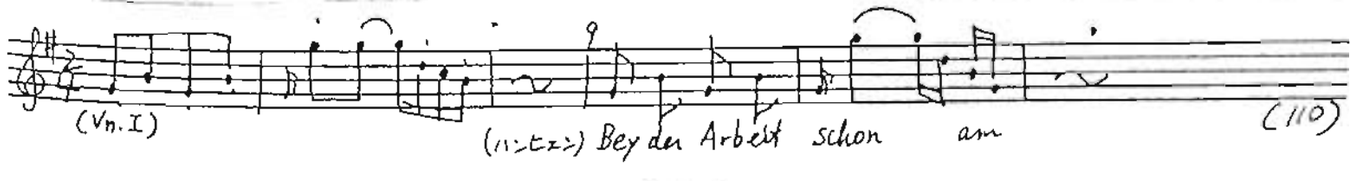
No.6 カヴァティーナ（マルティン，Str，1Ob，2Hr）　楽譜資料Ａ１，Ｂ１



第7場（ハンヒェン，マルティン）

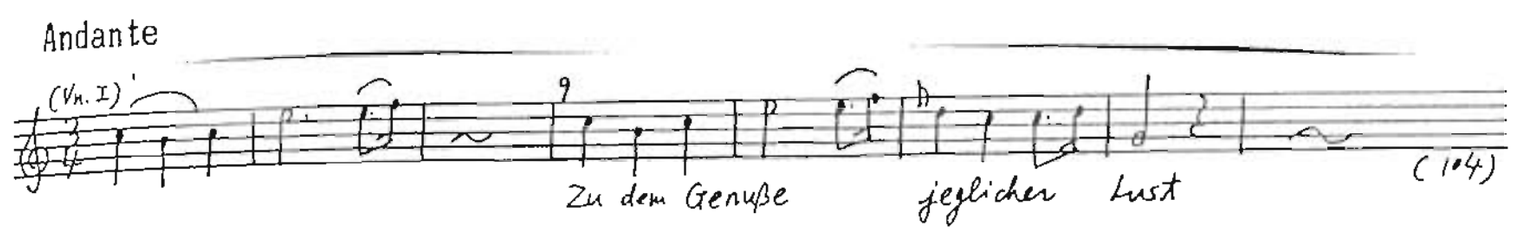
No.7 二重唱（ハンヒェン，マルティン，Str，2Fl，2Fg，2Hr）

楽譜資料Ａ１，Ｂ１



第8場（ハンヒェン）

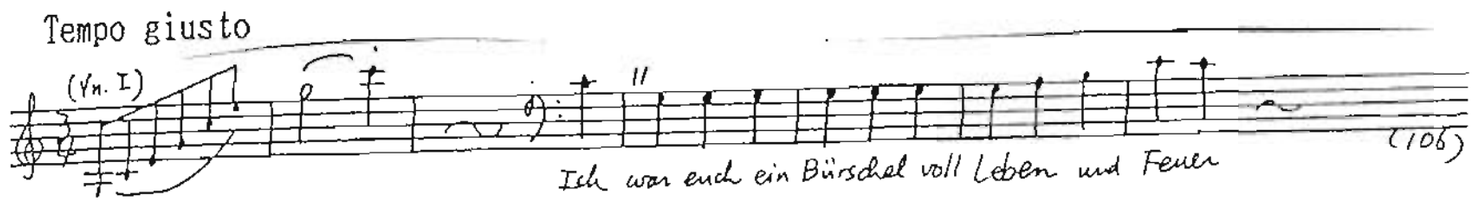
No.8　アリア（ハンヒェン，Str，2Fl，2Kl，2Fg，2Hr）　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１



第9場（ハンヒェン，シュテフェン）

第10場（ツェップ，ハンヒェン，シュテフェン）

No.9　アリア（ツェップ，Str，2Ob，2Fg，2Hr）　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１

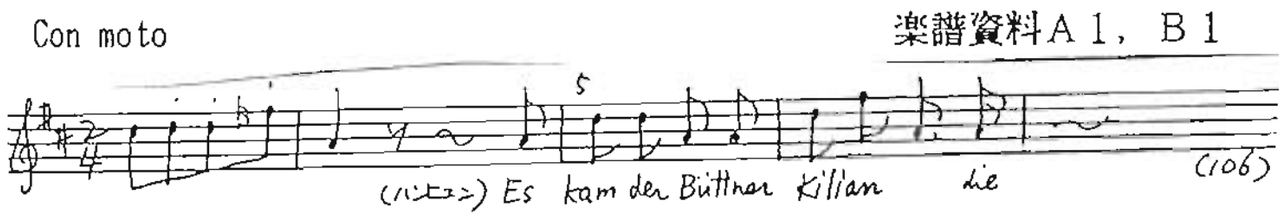


第11場（ハンヒェン，ツェップ，マルティン）

第12場（ハンヒェン，シュテフェン，マルティン）

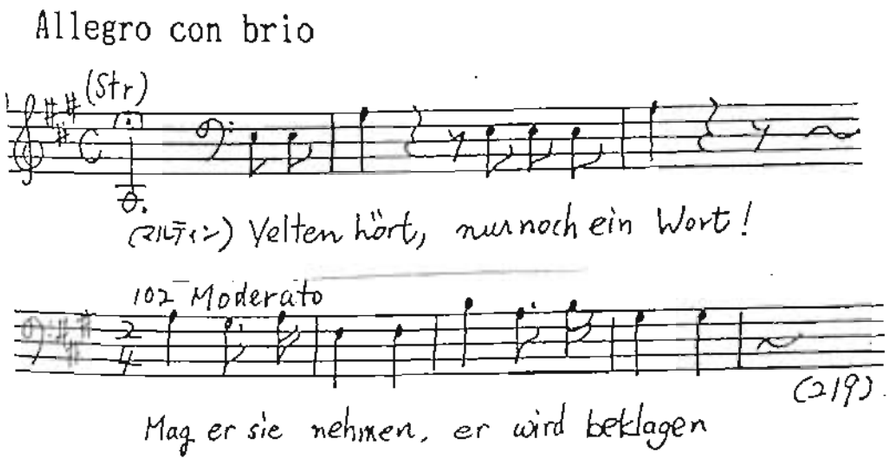
No.10 ヴォードヴィル（ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，Str，2Fl，2Fg，2Hr）

楽譜資料Ａ１，Ｂ１



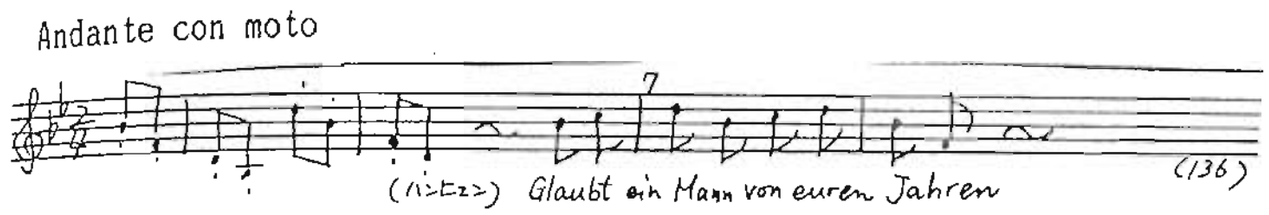
第13場（フェルテン，ハンヒェン，シュテフェン，マルティン）

No. 11　四重唱（ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテン，Str，2Fl，2Ob，2Fg，2Hr）　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１



第14場（ツェップ，前場の人々）

No.12 ヴォードヴィル（ハンヒェン，シュテフェン，ツェップ，マルティン，フェルテン，Str，2Fl，2Ob，2Kl，2Fg，2Hr）　　楽譜資料Ａ１，Ｂ１



問題のある曲

ジングシュピール「桶屋」 (Introduzione, No.1～No.13)　　楽譜資料＊20

(4) 楽譜資料

A1　曲全体のTeilautograph　(筆写譜が混じった自筆譜)

A-Wgm Aut Schenk 16 (Ⅳ 17611)

No.1の最初の1枚, No.2の全体 (27枚), 及びNo.11 の全体 (24枚) は筆写譜である。

横長判 (縦22.4cm×横31cm), 16段, 12段, 及び10段の五線紙で, 端は切り揃えられている。大理石模様の厚紙表紙で1冊に製本されている。表紙の記述は“Der Faßbinder/ Singspiel/ 1802/ Schenk”で, 青いボールペンでウィーン楽友協会の所蔵番号“⑯”が付記されている。背表紙には, “Der/ Faßbinder/ ein Singspiel/ in einem Aufzuge/ von Schenk.”と金で刻印されている。

製本されているが, 綴じられた上下の部分から, 紙の組み合わせ方を知ることが可能である。各曲の規模に合わせて, 必要な数のドッペルボーゲンを組み合わせ, ラーゲが作られている。シェンクは, 曲ごとにラーゲとページ番号を改めている。

合計 186枚で, 記入ページ 365ページ, 空白ページは 7ページ(f.21v, 64v, 73v, 129v, 147v, 186r, 186v) である。

タイトルページの記述: (筆者不明の飾り文字で) “Der/ Faßbinder/ ein/ Singspiel/ in/ einem Aufzuge” (フックスの筆跡で) “Partitura Autographa” (左下に飾り文字で) “In Musik gesetzt von Herrn Schenk.” (右下に, おそらく自筆で) “1802” (右上に, ライブラリアンによる所蔵番号) “Ⅳ. 17611”

用いられている紙はWz#38 (16段, 12段, 10段) で, 筆写譜の部分には, Wz#38, Wz#17を含む3種類の紙が用いられている。

ラーゲ	フォリオ	内容	ページ番号	紙
	1r	タイトル		Wz#38
1- 5	1v ～21r	序曲	1は欠, 2～40	
	21v	空白		
6- 9	22	No.1 (Ms)	1は欠, 2	Wz#38
	23～37	(Aut)	3～32	
10-12	38～64r	No.2 (Ms)	欠〔1～53〕	
	64v	空白		
13-14	65～73r	No.3	1は欠, 2～17	Wz#38
	73v	空白		
15-16	74～83	No.4	1は欠, 2～20	Wz#38
17-19	84～96	No.5	1は欠, 2～26	Wz#38
20-21	97～104	No.6	1は欠, 2～16	Wz#38
22-24	105 ～118	No.7	1は欠, 2～28	Wz#38
25-27	119 ～ 129r	No.8	1は欠, 2～21	Wz#38
	129v	空白		
28-29	130 ～138	No.9	1は欠, 2～18	Wz#38
30-31	139 ～ 147r	No.10	1は欠, 2～17	Wz#38
	147v	空白		
32-33	148 ～171	No.11 (Ms)	欠〔1～48〕	Wz#17
34-37	172 ～185	No.12	1は欠, 2～28	Wz#38
	186		2ページ空白	

A1におけるコピスト

筆写譜の部分(Nos.1, 2, 11)は, 3人のコピストによって筆写されている。このうち, No.1の筆跡はスコヴァティ・コピストKp#42, No.11 の筆跡はKp#3のものである。Kp#3は, 前作 #11「狩」(1799年) のTeilautograph A1において, 自筆訂正入りの筆写譜を筆写している。

B1 自筆の書き込み入りの筆写スコア A-Wn-M K.T.148

プロンプター用手書き台本, 及びマルティン役用のヴォーカル・スコアと手書き台本が

付随している。

① スコア

横長判（縦約22.5cm×横約31.5cm），10 段，12段，及び16段の五線紙で，端は切り揃えられていない。ボール紙で表紙をつけた３分冊が，さらにボール紙でひとまとめにされている。

第１分冊は76枚，第２分冊は58枚，第３分冊は81枚の五線紙を使用。合計 215枚で，記入ページ 424ページ，空白ページは 6ページ(f.51v，76v，85v，171v，197v，215v）である。ページ番号はなく，各ラーゲの第１ページ上端に番号(1～15）が記入されている。

タイトルページの記述 "originale/ Der/ Faßbinder/ ein Deutsches Singspiel/ in/ Einen Aufzuge./ Die Musik ist von Herrn Schenk."

第１分冊の裏表紙内側の記述: 1807 den 12 Novemb. H. Weidmann 〔? 〕/ Einnahm 〔? 〕 6200."

この筆写譜には，７種類の筆跡が認められる。そのうちの１種類は，上記のTeil-autograph Ａ１にも見られる，スコヴァティ・コピストKp#42の筆跡である。また，プロンプター用手書き台本は，Kp#17の筆跡である。Kp#17は，#9「村の床屋」（1796年）の自筆書き込み入り筆写スコア（楽譜資料Ｂ１）に付随する台本を筆写しているコピストである。

序曲，Nos.6，7，9，10，12 においては，冒頭のテンポ表示，或いは楽器表示に自筆の記入がみられる。また，序曲，No.2，5，7，8，9，10，11，12においては，楽譜中に，強弱やテンポに関する自筆の書き込みがみられる。これらの部分は，Kp#９，Kp#12，Kp#13，Kp#18，Kp#19，Kp#42の６人が筆写した部分にあたる。

上記Teilautograph Ａ１の筆写譜の部分(Nos.1，2，11)と比較すると，少なくともNo.2とNo.11 に関しては，この筆写譜の方が明らかに丁寧に筆写されている。

② マルティン役用のヴォーカル・スコア

No.2，5，7，10，11，12のみ伝承しており，No.6（マルティンのカヴァティーナ）は含まれていない。

横長判（縦約22cm×横約32cm），10段と12段の五線紙で，端は切り揃えられていない。曲ごとに糸で綴じられている。

合計60枚（記入ページ 117ページ，空白ページ 3ページ）。ページ番号，Faszikel-Nummer共になし。

各曲の第１ページ右上の記入 “Martin H.Weinmiller”

この楽譜には，５種類の筆跡が認められ，そのうちの３種類は本体のスコアにみられる筆跡（Kp♯９，Kp♯18，Kp♯42）と一致する。

No.2（Kp♯９）とNo.12(Kp♯20）では，歌詞，強弱記号，伴奏パートに一部自筆による書き込みがみられる。

No.12 の終結フレーズは，楽譜資料Ａ１やＢ１本体のスコアに記されている内容と異なっている。楽譜資料Ａ１，及びＢ１本体のスコアにおいては該当箇所が訂正，或いは省略して書かれているため，このヴォーカル・スコアにおける内容の方が，早い時期に作られた稿である可能性がある。

③ Martin役用の手書台本

横長判（縦約22.2cm×横約17.2cm),で，製本されている。

第１ページ右下の記入 “H. Weinmüller/ 〔? 〕27ter 8^{bris} 802.”

全体の筆跡は，Kp♯17のものと照合できる。

Ｃ１ 筆写パート譜 CS-Pnm XLI A 81

筆者未確認。

問題のある楽譜資料

*20 作品全体の筆写スコア U-Wc M1500 S315 F3 MUSIC 3673 ITEM3

横長判（寸法不明)， 12段の五線紙で，端を切り揃え，表紙を付けて一冊に製本されている。

タイトルページには，“Der Faßbinder/ eine Operette/ in Einem Aufzuge”と記され，その左下に別の手で“by Johann Schenk”と記されている。また最後には，“In der k.k. Hof-/ Bibliothek zu Wien/ abgeschrieben/ beendet am 1. July 1910/ William Kupfer”と記されている。

内容は，導入曲（Introduzione）とNo.1～13から成り，前述の楽譜資料Ａ１，Ｂ１とは全く異なる音楽である。

⑤ 台本

ａ１ プロンプター用手書き台本

Der Faßbinder// Ein Singspiel in einem Aufzuge./ Aus dem französischen übersetzt.// die Musik ist neu vom H.Schenk.// für die k. k. Hoftheater// (?)

〔後に抹消〕

Kp#17の筆跡による。内容は，次のａ２と一致する。

A-Wn-M S.m.32532

ａ２　おそらく初演のために印刷された台本

Der/ Faßbinder.// Ein/ Singspiel/ in einem Aufzuge./ Aus dem Französischen übersetzt.// Die Musik ist neu vom Herrn Schenk.// Für die k.k.Hoftheater.// Wien,/ auf Kosten und im Verlag bey J.B./ Wallishaußer.// 1802.　46ページ。

A-Wn-D 1743-A;　A-Wn-Th 629.192-A.Th;　A-Wn-Th 621.682-A.Th.Adl.4

A-Wst A 84625;　U-Wc Schatz-Coll. 9595.

ａ３　1805年の印刷台本

Der/ Faßbinder// Eine/ Komische Oper/ in einem Aufzuge.// Aus dem Französischen übersetzt.// Die Musik ist neu von Herrn Schenk.// Aufgeführt auf dem Hochfürstl. Esterhazyschen/ Theater in Eisenstadt.// Gedruckt zum Hochfürstlich eigenen Gebrauch./ 1805.　40 ページ。

A-Wgm 10564 Textbuch

内容はａ２と同じ。第２ページには，以下の配役が印刷されている。「マルティン＝ロッター氏 (Herr Rotter)，ハンヒェン＝マルクス嬢 (Mdlle. Marx)，シュテフェン＝トライドラー氏 (Herr Treidler)，ツェップ＝宮廷俳優ヴァイトマン氏，フェルテン＝メークリッヒ氏 (Herr Möglich) 」　ランドンによれば，1805年 9月13日から10月12日までの間に，エステルハーザでシェンクのオペラ３曲が上演された。(Landon 1977: 337)　この台本は，その機会に作られたものと思われる。

ｂ１　シェンクのジングシュピールの原作の台本

Der/ Faßbinder// Ein Singspiel/ in einem Aufzuge/ aus dem Französischen übersetzt.// Aufgeführt/ im k. k. Nationaltheater.// Wien/ zu finden beym Logenmeister.// 1780.　47ページ（＋空白ページ１ページ）

A-Wn-Th 621.723-A.Th.Adl.3; A-Wn-Th 698.427-A.Th.189C

(6) 作曲と上演に関するドキュメント

シェンクの自伝には，このジングシュピールの作曲と初演に関して，次のような記述がある。

「宮廷俳優のヨーゼフ・ヴァイトマン氏は，何年も前から，ジングシュピール『桶屋』で酔っぱらいの老人の役ツェップを演じていた。観客は，その特徴的な演技にいつも満足を示していた。しかし，その間にフランスの原作の音楽が古めかしいものとなってしまい，そのため，長いあいだレパートリーからはずされていた。この役をもう一度演じたいと考えた友人ヴァイトマンは，このオペレッタに新しい音楽を付けるようにと，私に頼んできた。こうして，新しい音楽を付けた『桶屋』が，1802年12月18日に再び上演され，ヴァイトマンの死に至るまで上演され続けた。」(Schenk, J.B. 1830N: 84)

ハダモフスキーによれば，古いフランスの音楽つきの「桶屋」とは，アントワーヌ・アレクサンドル・アンリ・ポワンシネ (Antoine Alexandre Henri Poinsinet, 1735-69) によるフランス語の原作を編作したもので，フランソワ・アンドレ・ダニカン・フィリドール (François André Danican Philidor, 1726-95) の作曲によるものであった[3]。この作品は，1780年 6月29日にウィーンで初演され[4]，その後1796年 3月 9日までの間にケルントナートア劇場とブルク劇場で合計30回上演された。(Hadamowsky 1966: 42-43) よって，シェンクの自伝の記述に従えば，ヨーゼフ・ヴァイトマンがシェンクに作曲を依頼したのは，1796年 3月 9日以降ということになる。

注

(1) 但し，ハダモフスキーは，この作品をウムラウフ作曲のバレエと取り違えている。

(2) ローゼンフェルト＝レーマーは，初演の日付けを1802年11月18日と1802年12月17日の二通り記している。(Rosenfeld-Roemer 1921: 23, 99)　バウアーは1802年12月17日としている。(Bauer 1955: 31)　ゾンライトナーは，この作品について何も記録していない。

(3) 台本: A-Wn-Th 698.427-A.Th.189C 及び A-Wn-Th 621.723: A.Th.Adl.3; プロンプター用手書き台本: A-Wn-M S.m.32533; スコア (筆写譜): A-Wn-M 16156

(4) 初演のちらし: A-Wn-Th 773.042-D.Th.

第２章の要約

本章では，シェンクのジングシュピールの楽譜資料，台本，およびドキュメントに目を向け，作品ごとの主題目録を作成して資料記述を付した。その際，楽譜資料は，自筆譜との近接度に基づいて三つのカテゴリーに分類し，良質な資料を比較考量してテクストの再現を試みた。その実例として，付録４に#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）の台本付き校訂楽譜を付した。

シェンクのジングシュピールの自筆譜は，12作品すべてについて現存している。#6「題名のないジングシュピール」（1790年）の自筆譜はオーストリア国立図書館に，その他の作品の自筆譜はウィーン楽友協会に所蔵されている。

作品全体の自筆譜が完全なかたちで現存しているのは，#1「宝掘り」（1780年），#4「暗中模索」（1787年），#6「題名のないジングシュピール」（1790年）(A-Wn-M 16480)の３作品である。その他の作品のうち，#7「収穫祭の冠」（1791年）と#10「パントマイム」（1798年）の２作品は，一部が欠落した状態で現存している。また，#3「田舎のクリスマス」（1786年），#5「思いがけない海の祝祭」（1789年），#6「題名のないジングシュピール」（1790年）(A-Wgm Aut Schenk 46)，#8「アッハメットとアルマンツィーネ」(1795年)，#9「村の床屋」（1796年），#11「狩」（1799年），および#12「桶屋」(1802年）の７作品は，自筆譜の中に筆写譜が混じった状態で，すなわち，いわゆるTeilautograph のかたちで現存している。このうち，#3「田舎のクリスマス」（1786年），#5「思いがけない海の祝祭」（1789年），#11「狩」（1799年）の３作品は，作品の一部が欠落している。#2「ぶどう摘み」（1785年）の自筆譜として伝わっている楽譜資料については，帰属作品の問題があると思われるので，次の第３章で詳しく論ずる。

自筆譜，および Teilautographのうち，タイトルページが現存しているのは次の９作品である。すなわち，#1「宝掘り」（1780年），#3「田舎のクリスマス」（1786年），#4「暗中模索」（1787年），#5「思いがけない海の祝祭」（1789年），#6「題名のないジングシュピール」（1790年）(A-Wn-M 16480)，#8「アッハメットとアルマンツィーネ」(1795年)，#9「村の床屋」（1796年），#10「パントマイム」（1798年），および#12「桶屋」（1802年）の９作品であり，これらの作品においては，タイトルページに自筆で作曲年代が記入されている。

ケルントナートア劇場で初演された4作品，すなわち#4「暗中模索」（1787年），#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年），#9「村の床屋」（1796年），#12「桶屋」(1802年）の4作品については，宮廷劇場コピスト，ヴェンツェル・スコヴァティの周辺コピスト（Kp#31～Kp#46）が筆写に参加した筆写譜が現存している。これらの筆写譜は，ケルントナートア劇場における上演に用いられた可能性があるものとして，重要な意味をもつ。

資料評価の三つのカテゴリーのうち，Bと評価された筆写譜――すなわちシェンクの書込や訂正がある筆写譜，あるいはスコヴァティ・コピストによる筆写譜――を自筆譜（カテゴリーA）と比較すると，必ずしも，自筆譜（カテゴリーA）を典拠として筆写譜（カテゴリーB）が作られた，という関係でない場合が見受けられる。例えば，自筆譜にはない訂正が筆写譜に自筆で加えられていたり，筆写譜に書き込まれている指示が自筆譜では異なる筆記具であとから付加されている，という例がみられる。また，自筆譜で後から省略指示が加えられている部分が，筆写譜では，はじめから省略して筆写せずに，一度全体を筆写してから省略部分を糸で綴じている例も見られる。このような状況から，シェンクがおそらくは上演の前後に細かい付加・訂正や稿の改変をおこなったこと，カテゴリーAの楽譜資料とカテゴリーBの楽譜資料はかなり短い時間差で，場合によっては，ある程度並行して作成されたこと，が推測される。

自筆最終稿の作成と上演のための筆写スコアの作成が，時間的余裕のない状態で進められていたとすれば，シェンクが自筆譜を最終稿とせず，コピストに筆写させた楽譜を最終稿とした可能性も大きい，と考えられる。シェンクの自筆譜に Teilautographが多いことの理由は，このような状況にあった可能性がある。

カテゴリーCに属する楽譜資料は，主に，単一の曲の筆写スコアと，筆写ヴォーカル・スコア，および出版譜である。これらの楽譜資料には，シェンクが直接目をとおした形跡はなく，上演との直接的な関わりも見出せない。

シェンクのジングシュピールの台本は，#4「暗中模索」（1787年），#6「題名のないジングシュピール」（1790年），#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年），#9「村の床屋」（1796年），#11「狩」（1799年），および #12「桶屋」（1802年）の6作品のものが現存している。いずれも，類似した内容の台本が各種現存しており，当時人気のあった題材であることが推測される。この6作品のうち，#6「題名のないジングシュピー

ル」（1790年）以外の５作品は，ケルントナートア劇場で初演された作品である。

シェンクのジングシュピールは，#1「宝掘り」（1780年）を例外として，すべて上演の記録がのこっている。しかし，作曲と上演に関する直接的なドキュメントは，部分的にしか現存していない。作曲事情に関する主な情報源は，シェンクの自伝の記述である。但し，自伝の記述は，年月日等に関しては間違っている場合がある。ケルントナートア劇場で初演された作品に関しては，上演に関するドキュメント（劇場の出納簿，劇場管理部会計報告，および初演のちらし等）が部分的に現存する。他方，レオポルトシュタット劇場とフライハウス（ヴィーデン）劇場で初演された作品に関して，そのようなドキュメントはまったくのこっていない。これらの三つの劇場における上演記録は，ウィーンの演劇史研究の文献（Hadamowsky 1934; Deutsch 1937; Hadamowsky 1966）により，確認することができる。但し，フライハウス（ヴィーデン）劇場で初演された作品に関しては，初演の記録しかのこっていない。これは，同劇場が1801年に閉鎖されたという事情に起因している可能性がある。

第３章　帰属作品に問題のある楽譜資料

第１節　帰属作品の考察における外的補助手段

ある曲が本来どの作品に帰属していたかを考察する際には，第一に，当該楽譜資料に記された登場人物が，どの台本の登場人物であるか，あるいはどのストーリーに合致する役柄であるか，という点が手掛りとなる。また，本来Ａという作品のために作られた楽曲がのちにＢという作品に転用された可能性を考慮する場合にも，当該楽譜資料に記された登場人物名と歌詞の内容が，ＡとＢの両方の台本における登場人物やストーリーとどのように合致するか，を検討しなければならない。いずれにしても，これらの考察は，主に，当該楽譜資料に記された登場人物の名前と歌詞の内容を手掛りとするものである。

第二に，楽譜資料そのものの外的状況から，作品の帰属の問題を論ずることも可能である。例えば，あるアリアの自筆譜に使われている五線紙が，そのジングシュピールの他の部分にまったく用いられていない場合，そのアリアが後から挿入されたものである可能性と，本来別の作品に帰属するにもかかわらず誤って後からその作品の楽譜中に紛れ込んだ可能性との，二つの可能性が考えられる。このような外的状況による考察においては，以下に述べるようなシェンクの自筆譜に関する知見が，考察の拠り所となる。

１．自筆譜に用いられた紙と作曲年代との関係

シェンクのジングシュピールの自筆譜のうち，タイトルページに自筆で作曲年代が記入されている自筆譜に用いられている五線紙の種類は，次ページの表２―１に●で示したとおりである。

表２－１　自筆譜に用いられた五線紙と作曲年代

五線紙の漉し番号（34＝Wz#34）
年代と明瞭な相関を示しているグループ＝①，②，③

作品名　(所蔵番号)	作曲年代	34	3	2	9	1	33	12	20	21	4	11	18	35	40	30	5	19	6	42	8	36	22	23	26	32	16	37	27	38	24
		①																	②									③			
スターバト・マーテル(A-Wgm Aut Schenk 2)	1779	○																													
カンタータ「親しげな愛のひととき(A-Wgm Aut Schenk 6)	1779	○	○																												
#1「宝掘り」(A-Wgm Aut Schenk 10)	1780	●	●	●																											
付随音楽「E. v. シュタインハイム」(A-Wgm Aut Schenk 20)	1780				○	○																									
ハープ協奏曲 F-dur (A-Wgm Aut Schenk 36)	1784						○																								
#3「田舎のクリスマス」(A-Wgm Aut Schenk 11)	1786					●	●	●	●	●																					
#3「田舎のクリスマス」序曲 (A-Wgm Aut Schenk 30)	1786					●					●	●																			
ハープ協奏曲 Es-dur (A-Wgm Aut Schenk 33)	1786												○																		
#4「暗中模索」(A-Wgm Aut Schenk 12)	1787					●			●	●	●			●	●	●															
ハープ協奏曲 B-dur (A-Wgm Aut Schenk 34)	1788										○																				
ハープ協奏曲 Es-dur (A-Wgm Aut Schenk 35)	1788					○			○		○						○														
#5「思いがけない海の祝祭」(A-Wgm Aut Schenk 13)	1789									●	●					●															
#6「題名のないジングシュピール」(A-Wn-M 16460)	1790									●						●	●	●													
交響曲第１番 Es-dur (A-Wgm Aut Schenk 22)	1791															○		○													
交響曲第６番 D-dur (A-Wgm Aut Schenk 27)	1791															○															
#7「収穫祭の冠」序曲 (A-Wgm Aut Schenk 32)	1791										●																				
チマローザの「秘密の結婚」による弦楽四重奏曲 (A-Wgm Aut Schenk 42)	1792																○	○													
#3「田舎のクリスマス」後に付加された二重唱 (A-Wgm Aut Schenk 11)	1792																●														
#8「アッハメットとアルマンツィーネ」(A-Wgm Aut Schenk 14)	1795									●	●		●						●	●	●	●	●				●				
#9「村の床屋」(A-Wgm Aut Schenk 15)	1796												●									●	●	●	●	●	●				
クラヴィーア協奏曲 (A-Wgm Aut Schenk 43)	1796												○																		
#10「パントマイム」(A-Wgm Aut Schenk 21)	1798																										●	●	●		
#12「樽屋」(A-Wgm Aut Schenk 16)	1802																													●	
#11「狩」(1834年版) (A-Wgm Aut Schenk 9)	1834																												●		●

表2—1を概観すると，シェンクがジングシュピールを作曲しはじめた1780年から，H11「狩」の改訂に取り組んだ1834年まで，一貫して用い続けられた五線紙はない。表2—1の左上から右下に向かって，用いられた紙が次第に変化している様子がみられる。この傾向は，シェンクの別ジャンルの年代入り自筆譜（表1では○で表す）を考慮に加えると，より明確に観察することができる。表2—1で●と○の上下に引かれた横線は，用いられた五線紙と作曲年代との相関を明瞭にするために，五線紙が用いられた年代の上限，あるいは下限を示したものである。例えば，1779年と1780年の年代入りの自筆譜3点に見られる三種類の五線紙（グループ①：Wz#34，Wz#3，Wz#2）は，1784年以降の年代入り自筆譜にはまったく用いられていない。グループ②の九種類の五線紙（Wz#6，Wz#42，Wz#8，Wz#36，Wz#22，Wz#23，Wz#26，Wz#32，Wz#16）は，1795年以降に初めて用いられ，1798年より後の作品には用いられていない。さらに，グループ③の四種類の五線紙（Wz#37，Wz#27，Wz#38，Wz#24）は，1798年以降に初めて用いられている。他方，1784年から1792年までのあいだは，用いられた紙と作曲年代との相関は一律ではない。一種類の五線紙が用いられた期間の長さはさまざまであり，例えばWz#33（1784～86年）やWz#20（1786～88年）のように2～3年のあいだだけ用いられた五線紙と，Wz#21，Wz#4のように10年間にわたって断続的に用いられている五線紙とがある。

表2—1は，現存する年代入り自筆譜だけを土台にして作ったものであるため，これ以外のデータが新しく加われば，表の内容も変わってくるという可能性を常に有している。よって，自筆譜の五線紙の種類だけを根拠として，年代記入のない自筆譜の作成年代を推定することには大きな危険がある。但し，他の観点と合わせて判断する場合には，自筆譜の五線紙の種類も有効な観察点となりうる。すなわち，他の状況証拠によりある自筆譜がAという作品に帰属すると推測される場合，その自筆譜にAの自筆譜と同じ種類の五線紙が用いられているという事実は，この推測を支える一つの傍証として捉えることが可能である。

2．自筆譜にみられる記譜の特徴

年代記入のあるジングシュピールの自筆譜にみられる記譜の特徴は，表2—2に●で示したとおりである。

表２―２　自筆譜における記譜の特徴の年代的変化

作品名	(所蔵番号)	作曲年代	(1)音部記号の記入位置 ① 全頁	② 冒頭各段と左頁	③ 冒頭一頁	④ 冒頭二頁	(2)拍子記号位置 ① 各段一個	② 二段に以上一個	(3)スコア配列 ① 弦管声低	② 管弦声低	(4)楽器名 ① 五線の外	② 五線の上	(5)強弱 ① pia for 有	② pia for 無	(6)省略指示 ① "coi ~"	② "col ~"	③ "in 8va"	④ "unis."	⑤ "in 3za"	⑥ "col 3za"	⑦ "per 3za"
連禱	(A-Wgm Aut Schenk 3)	1778	○				○		○		○		○		○						
スターバト・マーテル	(A-Wgm Aut Schenk 2)	1779	○				○		○		○		○								
カンタータ「親しげな愛のひととき	(A-Wgm Aut Schenk 6)	1779	○				○				○		○								
カンタータ「羊飼いのひととき」	(A-Wgm Aut Schenk 5)	1779		○			○		○		○				○						
#1「宝掘り」	(A-Wgm Aut Schenk 10)	1780		●			●		●		●		●		●						
付随音楽「E. v. シュタインハイム」	(A-Wgm Aut Schenk 20)	1780		○			○		○		○		○	○	○						
ハープ協奏曲 F-dur	(A-Wgm Aut Schenk 36)	1784	○				○			○	○			○		○					
Kl. とOrch. のためのアンダンテ	(A-Wgm Aut Schenk 39)	1784		○			○			○	○			○		○					
#3「田舎のクリスマス」	(A-Wgm Aut Schenk 11)	1786		●			○			○	○			○		○	○			●	
#3「田舎のクリスマス」序曲	(A-Wgm Aut Schenk 30)	1786		●	○			○		○	○			○		○	○	○			
ハープ協奏曲 Es-dur	(A-Wgm Aut Schenk 33)	1786			○			○		○	○			○		○	○	○			
#4「暗中模索」	(A-Wgm Aut Schenk 12)	1787		●			●	●		●	●			●		●	◐	●	●	●	
ハープ協奏曲 B-dur	(A-Wgm Aut Schenk 34)	1788		○			○			○	○			○		○	○	○			
ハープ協奏曲 Es-dur	(A-Wgm Aut Schenk 35)	1788		○			○			○	○			○		○	○	○		○	
#5「思いがけない海の祝祭」	(A-Wgm Aut Schenk 13)	1789		●			●			●	◐			●		◐	◐	◐		●	
#6「題名のないジングシュピール」	(A-Wn-M 16460)	1790		●				●		●	◐			●		◐	◐	●		◐	
交響曲第１番 Es-dur	(A-Wgm Aut Schenk 22)	1791		○				○		○	○			○		○	○	○			
交響曲第６番 D-dur	(A-Wgm Aut Schenk 27)	1791		○				○		○	○			○		○	○	○			
#7「収穫祭の冠」序曲	(A-Wgm Aut Schenk 32)	1791		●				●		●	●			●		●	●	●		●	
チマローザの「秘密の結婚」による弦楽四重奏曲	(A-Wgm Aut Schenk 42)	1792		○				○		○	○			○		○	○	○		○	○
#3'「田舎のクリスマス」後に付加された二重唱	(A-Wgm Aut Schenk 11)	1792		●				●		●	●			●		◐	◐	◐			◐
#8「アッハメットとアルマンツィーネ」	(A-Wgm Aut Schenk 14)	1795		●				●		●		●		●		◐	◐	◐			◐
#9「村の床屋」	(A-Wgm Aut Schenk 15)	1796			●	●		●		◐		●		●		◐	◐	◐			◐
クラヴィーア協奏曲	(A-Wgm Aut Schenk 43)	1796			○	○		○		○		○		○		○	○	○			○
#10「パントマイム」	(A-Wgm Aut Schenk 21)	1798			●			●		◐		●		◐		◐	◐	◐			
#12「桶屋」	(A-Wgm Aut Schenk 16)	1802			●			●		◐		◐		◐		◐	◐	◐			
#11「狩」〔1834年版〕	(A-Wgm Aut Schenk 9)	1834		●				●		◐		◐		◐		◐	◐	◐			◐

表2—2に見られるとおり，自筆譜の記譜の特徴は，かなり明瞭な年代的変化を示している。この変化の様相は，ジングシュピール以外のジャンルの年代記入のある自筆譜（表2—2では○で表す）を考慮に加えると，より明確に捉えることができる。

まず，特徴の変わり目に何年かの移行期間があるものとして，次の二つを挙げることができる。

(1) 音部記号の記入位置：1778～1779年の自筆譜においては，①すべてのページの五線の開始部分に音部記号が記入されている。1779～1795年の自筆譜においては，②冒頭と各左ページ（偶数ページ）に音部記号を記入しているが，右ページでは省略しているものが多くなる（譜例2—1；例外として，1784年と1786年に①と③の例が3点みられる）。さらに，1796～1802年の自筆譜では，①全ページ，あるいは②冒頭と各左ページに音部記号が書かれている自筆譜は全くなくなり，代わって，③冒頭ページのみ，あるいは④冒頭と第2ページにのみ記入されている。

(2) 拍子記号の記入位置と大きさ：1778～1789年の自筆譜においては，①拍子記号が五線の各段に1つずつ書いてある（譜例2—1，譜例2—2）が，1786，1787，および1790年以降の自筆譜ではCと¢を除いて，②2段以上に大きく一つの拍子記号を書く（譜例2—3）ようになる。

これに対して，以下の特徴は，ある年代を境に明瞭に変化する。

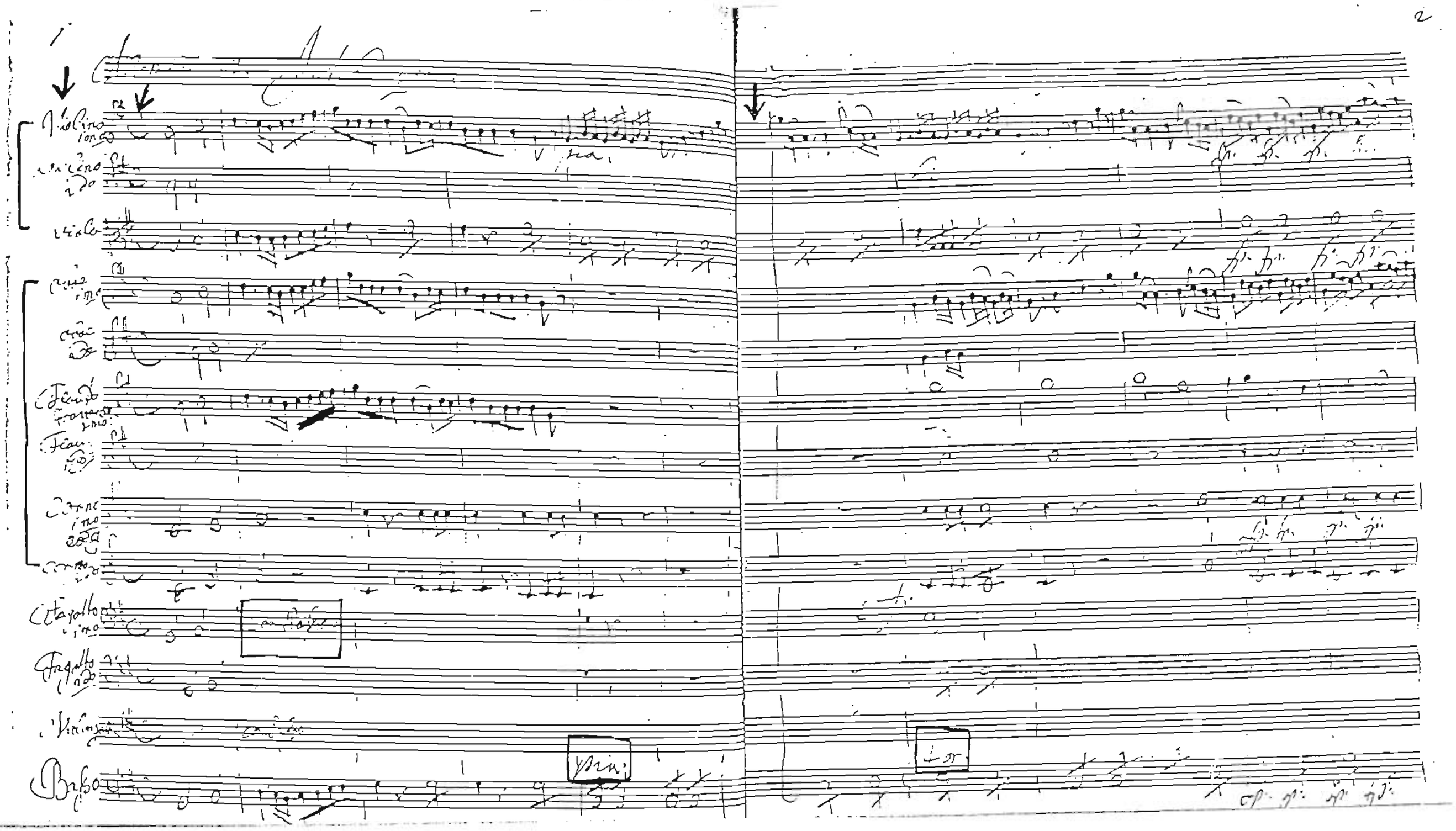
(3) スコアにおける各パートの配列：1778～1780年の自筆譜では，上から，①弦楽器，管楽器，低音楽器の順に配列されている（譜例2—1）が，1784年以降の自筆譜では②管楽器が弦楽器の上に配置される（譜例2—2，譜例2—3）ようになる。

(4) 各曲の冒頭に記される楽器名の位置：1778～1792年の自筆譜では，①五線の外側の空白部分に小さく書いてある（譜例2—1，譜例2—2）が，1795年以降の自筆譜では，②五線の上に重ねて大きく記入（譜例2—3）されている。

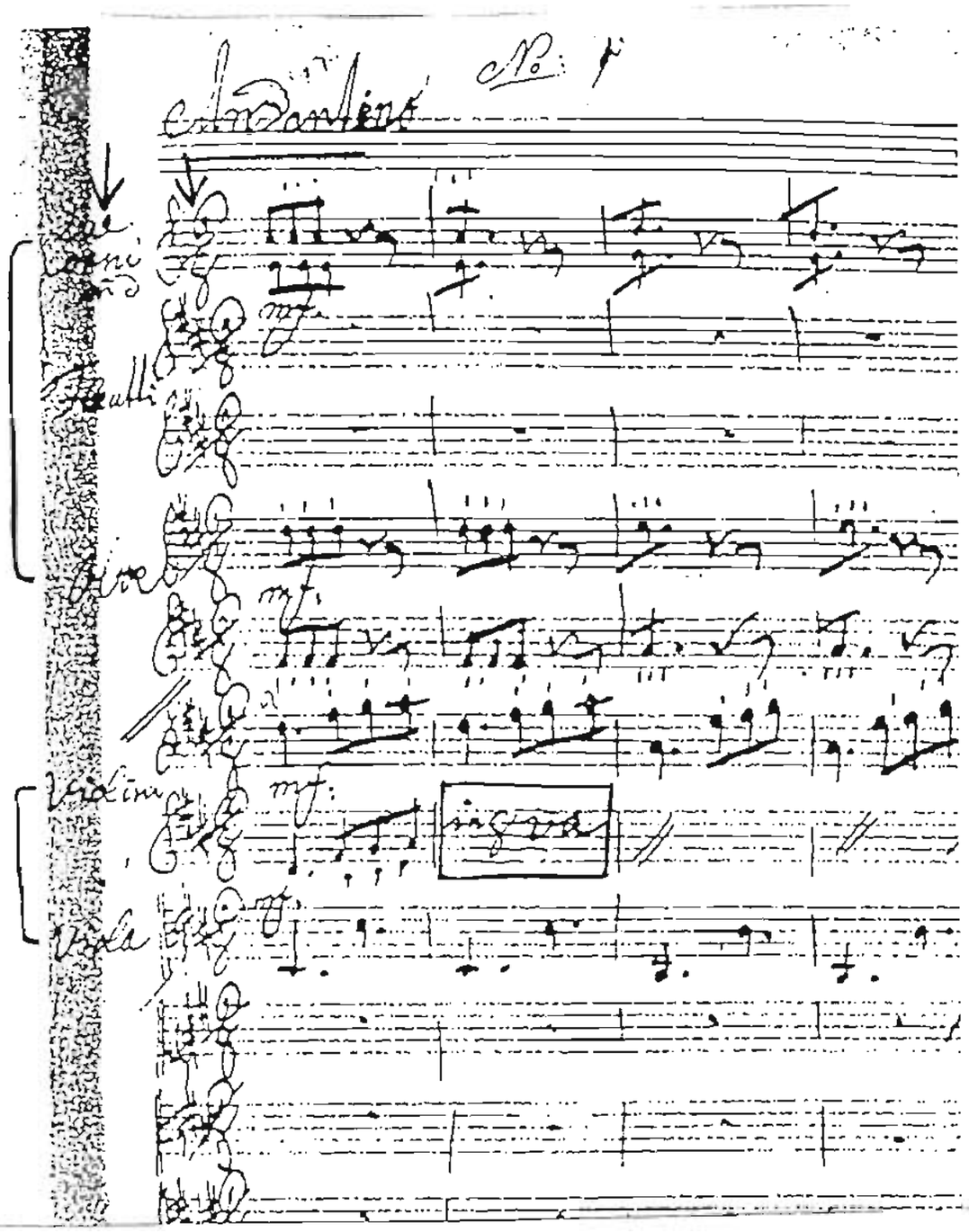
(5) 強弱記号の書き方：1780年以前の自筆譜ではpiano とforte を① pia，for と書く場合がある（譜例2—1）が，1784年以降は②p，fに統一されている。

(6) 早い時期から用いられている省略指示は，//〔上段と同様に〕と“coi/col ～”〔～パートと同様に〕の二種類である。このうち，後者の綴りの“coi”はイタリア語の前置詞 conと複数の男性定冠詞 iを組み合わせた縮小形，“col”は前置詞 conと単数の男性定冠詞ilを組み合わせた縮小形である。本来，これらは，あとに続く名詞が単数であるか複数であるかによって形が決まるべき語であるが，シェンクはあとに続く名詞の単複にか

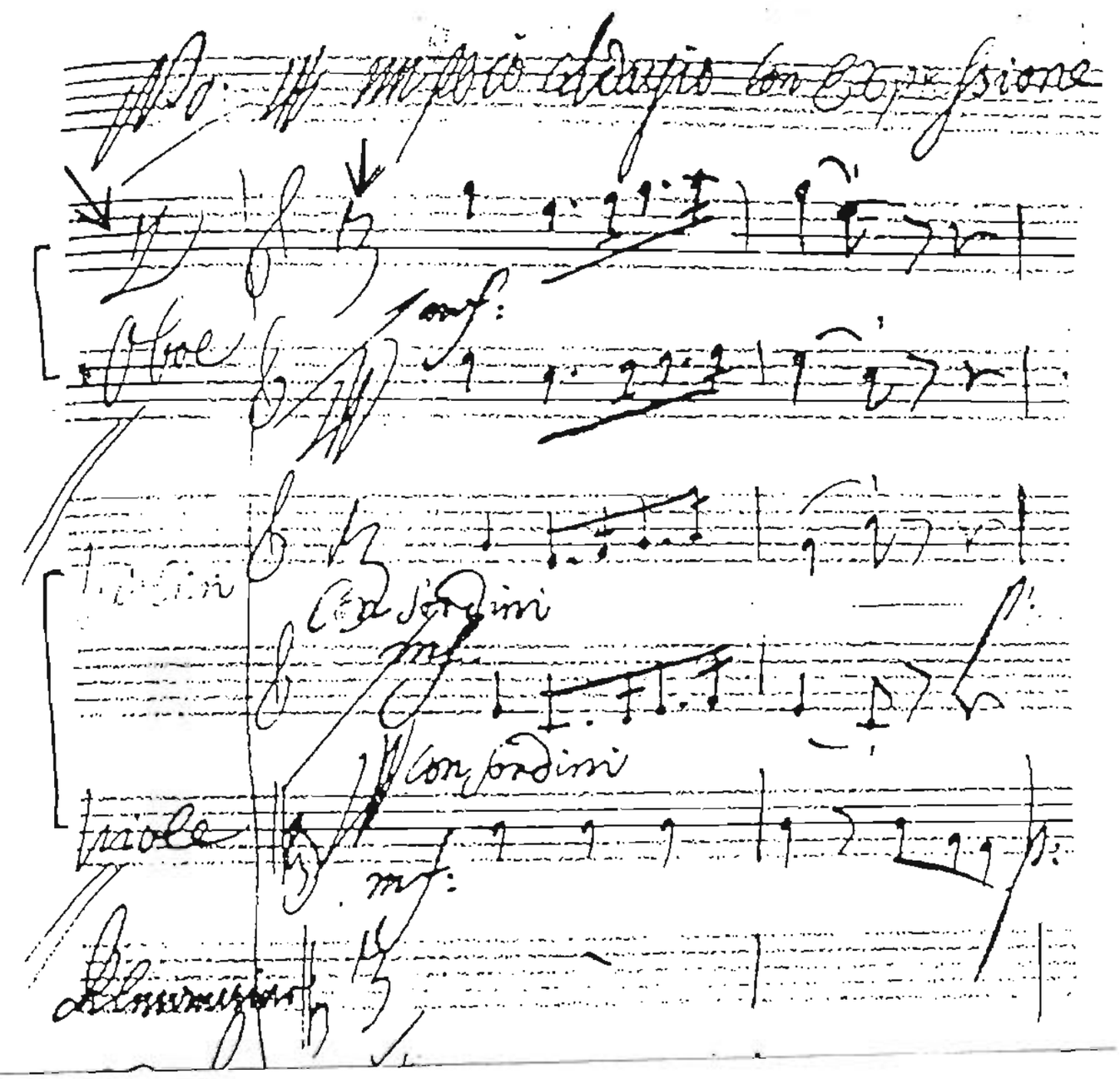
譜例２―１　#1「宝掘り」（1780年）序曲　冒頭　(1)音部記号の記入位置　②冒頭と各左ページ
(2)拍子記号の位置　①各段に一個
(3)スコアの配列　①弦楽器が上段
(4)楽器名の記入位置　①五線の外
(5)強弱記号　①"pia" "for" あり
(6)省略指示　①"coi　～"



譜例２―２　#4「暗中模索」（1787年）No.1　冒頭
(2)拍子記号の位置　①各段に一個
(3)スコアの配列　②管楽器が上段
(4)楽器名の記入位置　①五線の外
(5)強弱記号　②“pia”“for”なし
(6)省略指示　③“in 8va”



譜例２―３　#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）No.4　冒頭
(2)拍子記号の位置　②数段に一個
(3)スコアの配列　②管楽器が上段
(4)楽器名の記入位置　②五線の上
(5)強弱記号　②“pia”“for”なし

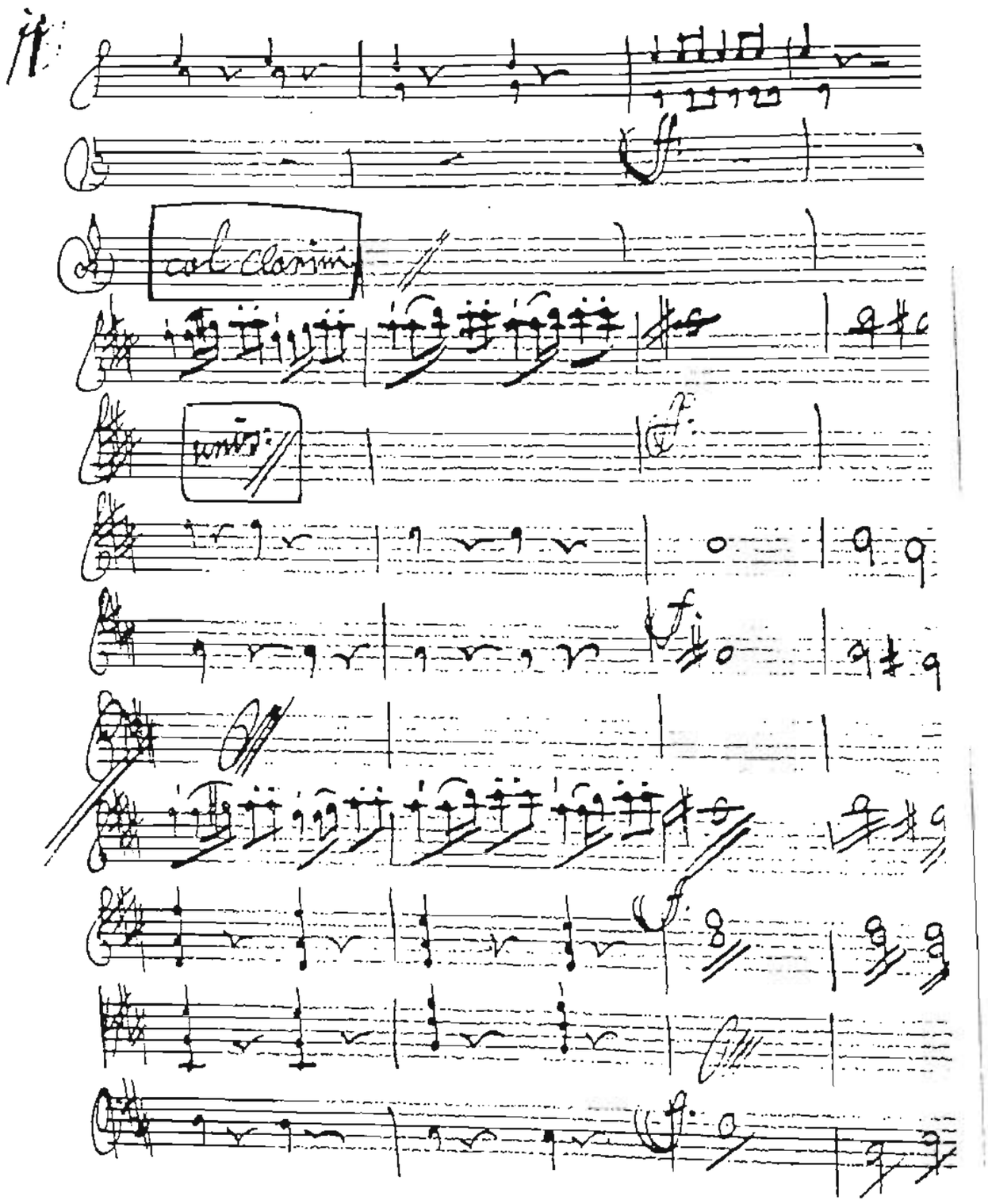


かわらず，年代によってすべて①“coi”，または②“col”という形を用いている。その結果，“coi Basso”(譜例２－１；正しくはcol Basso)，あるいは“col clarini”(譜例２－４；正しくはcoi clarini)といった，文法的に正しくない使い方がされている。

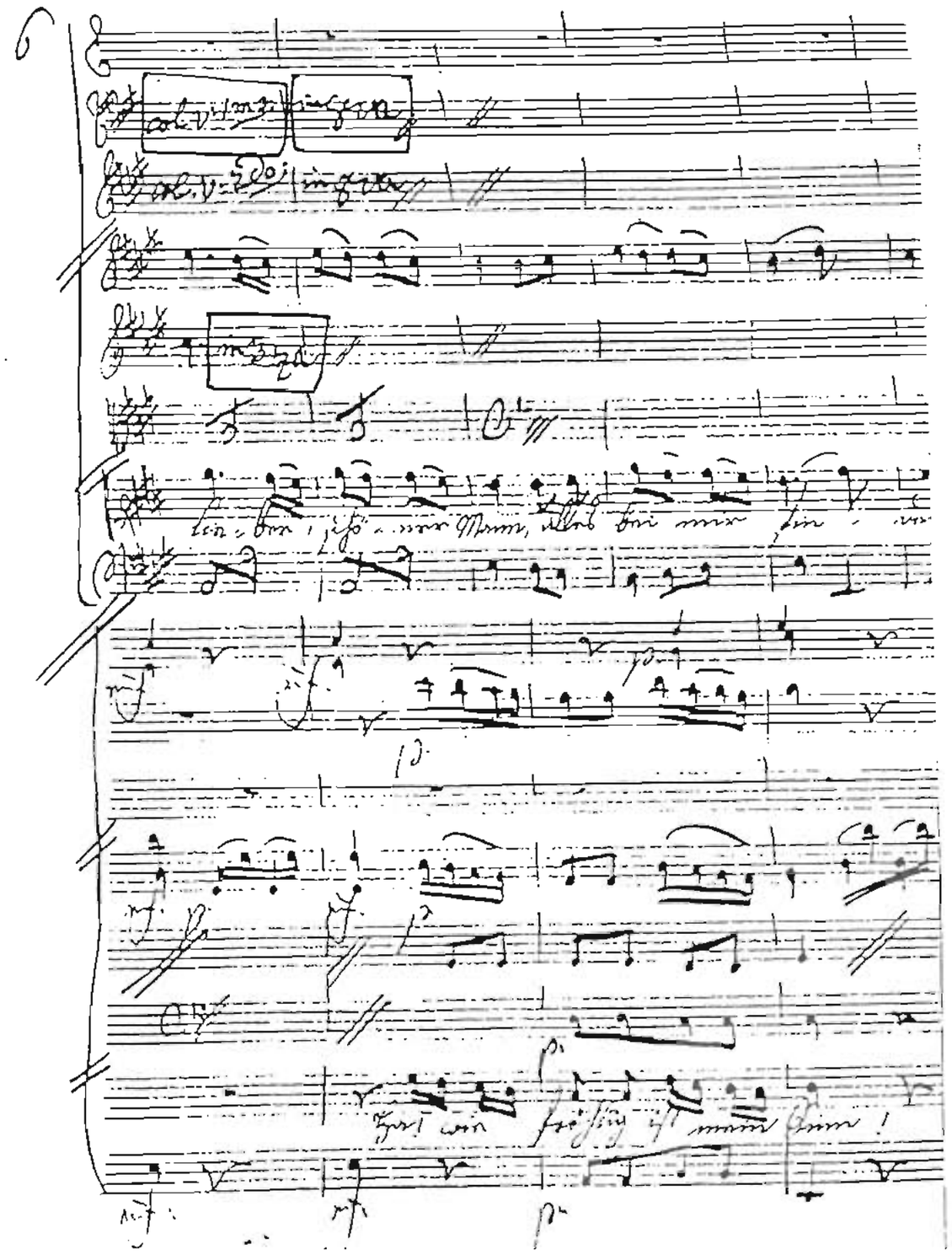
1784年以前の自筆譜では，上記の二種類以外の省略指示は全く無く，全てのパートが書き込まれている。これに対して，1786年以降，③“in 8va”〔オクターヴの音程で平行に：譜例２－２〕，④“unis”〔ユニゾンで：譜例２－４〕，“in 3za/ col 3za/ per 3za”〔三度の音程で平行に〕といった指示を書き込む例がみられる。1787年の自筆譜では⑤“in 3za”〔譜例２－５〕，1786～1792年の自筆譜では⑥“col 3za”〔譜例２－６〕，1792，1795，1796年の自筆譜では⑦“per 3za”〔譜例２－７〕という書き方がされている。

これらの特徴は，それぞれ特定の年代を境に明瞭に変化しているため，年代記入のない自筆譜の年代を推定する際の根拠として用いることが可能である。

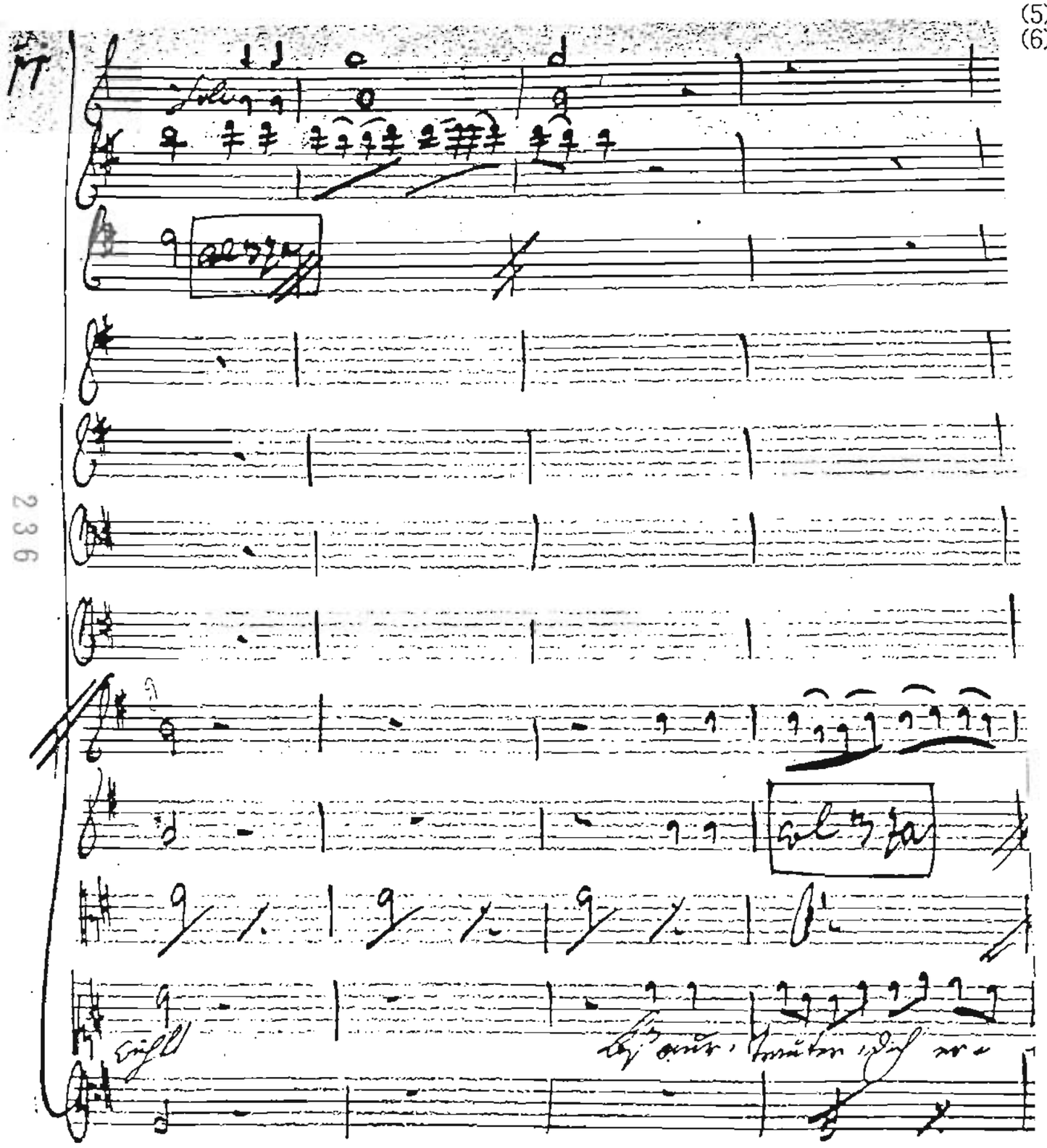
譜例２―４　#4「暗中模索」（1787年）序曲　T.71～
(6)省略指示　②"col　～"
④"unis."



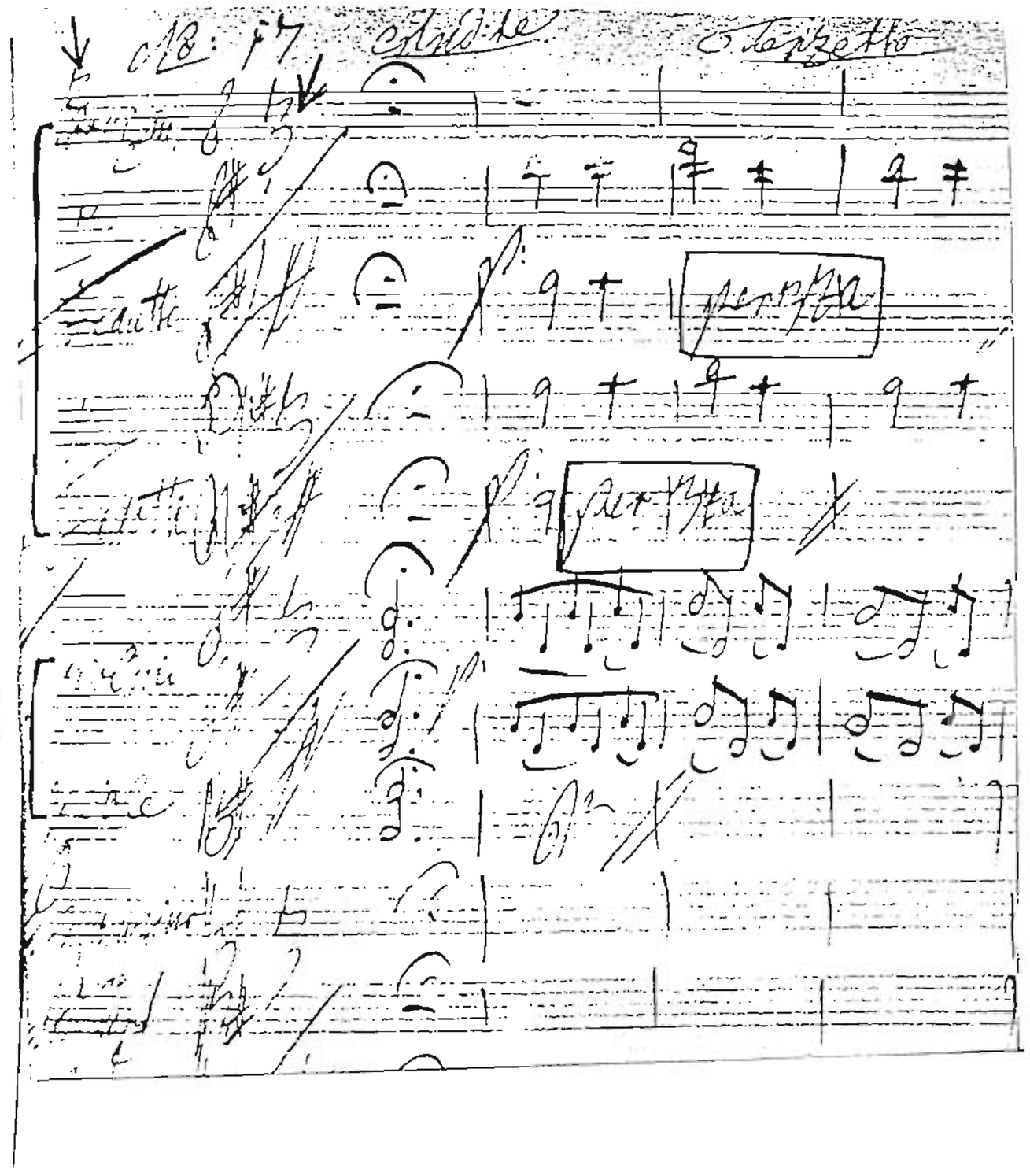
譜例２―５　#4「暗中模索」（1787年）No.8　T.83～
(6)省略指示　②"col　～"
③"in 8va"
⑤"in 3za"



譜例２―６　#5「思いがけない海の祝祭」（1789年）No.15 T.88～
(6)省略指示
⑥"col 3za"



譜例２―７　#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）No.17（第２稿）冒頭
(2)拍子記号の位置　②数段に一個
(3)スコアの配列　②管楽器が上段
(4)楽器名の記入位置　②五線の上
(5)強弱記号　②"pia" "for" なし
(6)省略指示　⑦"per 3za"



第２節　帰属作品の考察

第1節に示した観点により，前章の資料記述の中で＊番号を付した楽譜資料，すなわち帰属作品に問題があると考えられる楽譜資料＊１～＊20について，以下に考察を試みる。このうち，楽譜資料＊１～＊18はウィーン楽友協会に所蔵されている未製本の自筆譜であり，楽譜資料＊19と＊20は筆写譜である。

＃２　「ぶどう摘み」（１７８５年）

この作品においては，７曲の楽譜資料に帰属作品の問題があると考えられる。すなわち，楽譜資料＊１（No.2　ハンヒェンのアリア），＊２（No.4　ハンヒェンのアリア），＊３（No.7　マルティンのアリア），＊４（No.8　ハンヒェンのアリア），＊５（No.9　ハンヒェンとシュテフェンの二重唱），＊６（No.12 アンナ母さんのアリア），および＊７（曲番不明　ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテンの四重唱「フェルテン，ちょっと話を聞いてくれ」）の７曲であり，これらはウィーン楽友協会アルヒーフにおいて，#2「ぶどう摘み」（1785年）の自筆譜として未製本のまま束ねられている。このうち，楽譜資料＊４，＊５，および＊７の第１ページには，アロイス・フックスの筆跡で「シェンクのオペレッタ『ぶどう摘み』に帰属」と書き込まれており，また楽譜資料＊１と＊３には筆者不明の筆跡で「ぶどう摘み」と記されている。しかし，楽譜資料＊１～＊５と＊７の計６曲は，以下の理由により，#12「桶屋」（1802年）に帰属する可能性が高いと考えられる。

まず，楽譜資料＊１～＊５と＊７の６曲にみられるハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテンという役柄が，#2「ぶどう摘み」（1785年）の登場人物であることを示す筆写譜や文献はない。他方，この４人の登場人物名は，すべて #12「桶屋」（1802年）の台本に現れている。

すでに前章の主題目録で示したように，#12「桶屋」（1802年）は，シェンクが宮廷俳優ヨーゼフ・ヴァイトマンに依頼されて作曲した作品である。1780年６月29日から1796年３月９日までのあいだ，ウィーンの宮廷劇場ではフィリドール作曲のジングシュピール「桶屋」が上演されていた。(Hadamowsky 1966: 42-43)　その後この作品は，「音楽が古めかしくなったため」上演レパートリーからはずされていたが，老人ツェップの役柄を演

じていたヴァイトマンはこの役を再度演じたいと考え，シェンクに新しい音楽を付けるようにと依頼した。(Schenk, J.B. 1830N: 84) このような成立事情から考えると，ヴァイトマンがシェンクに作曲を依頼したのは，フィリドール作曲の「桶屋」が最後に上演された1796年3月9日より後のことと考えられる。現存する #12「桶屋」のTeilautograph (A-Wgm Aut Schenk 16) のタイトルページには，自筆で1802年という年代が記入されている。また，フィリドール作曲の「桶屋」の台本（前章の主題目録における台本ｂ１）とシェンクが作曲した台本（前章の主題目録における台本ａ１）とを比べると，表２―３に示すように，全体構成と歌詞の多くが前者から後者へ受け継がれている。

表2―3　「桶屋」の二つの台本の比較（→は歌詞の類似を示す）

フィリドール作曲の「桶屋」（1780年）台本ｂ１		シェンク作曲の #12「桶屋」（1802年）台本ａ１
No.1 ハンヒェンとシュテフェンの二重唱	→	No.1 ハンヒェンとシュテフェンの二重唱
No.2 ハンヒェンのアリア		
No.3 ハンヒェン，シュテフェン，マルティンの三重唱	→	No.2 ハンヒェン，シュテフェン，マルティンの三重唱
No.4 ハンヒェンのアリア		No.3 ハンヒェンのアリア
No.5 シュテフェンのアリア	→	No.4 シュテフェンのアリア
No.6 シュテフェンとマルティンの二重唱	→	No.5 シュテフェンとマルティンの二重唱
No.7 マルティンのアリア	→	No.6 マルティンのカヴァティーナ
No.8 ハンヒェンとマルティンの二重唱	→	No.7 ハンヒェンとマルティンの二重唱
No.9 ハンヒェンのアリア		No.8 ハンヒェンのアリア
No.10 ハンヒェンとシュテフェンの二重唱		No.9 ツェップのアリア
No.11 ハンヒェンとマルティンのヴォードヴィル	→	No.10 ハンヒェンとマルティンのヴォードヴィル
No.12 ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテンの四重唱	→	No.11 ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテンの四重唱
No.13 ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテン，ツェップのヴォードヴィル	→	No.12 ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテン，ツェップのヴォードヴィル

さて，問題の楽譜資料＊１～＊３の３曲の歌詞は，フィリドール作曲の「桶屋」の台本（ｂ１）にみられる歌詞と非常によく似ている。

まず，楽譜資料＊１（No.2　ハンヒェンのアリア）の歌詞は，フィリドール作曲の「桶屋」の台本（ｂ１）のNo.2（ハンヒェンのアリア）の歌詞とほとんど同一であり，異なっているのは下線の二語のみである。

楽譜資料＊１の歌詞

Ein Blick, ein Wort entdeckt mir oft,
Wie sehr sein liebend Herz gehofft;
Doch ich verlache seine Schmerzen,
Und seine Blicke
Sind keine Stricke
Junger Herzen.

Singe ich mir ein frohes Lied,
So ist er auch sogleich bemüht,
Mir durch sein Schreyen zu gefallen;
Doch frag ich allen:
Kann wohl sein Lallen
Mir gefallen ?

Enteil ich ihn mit schnellen
Schritten,
So folgt er mir doch immer nach;
Doch sieht man gleich an seinen Tritten,
Daß seinen Füssen,
Um mich zu küssen,
Die Kraft gebricht.

「桶屋」の台本ｂ１の歌詞（No.2）

Ein Blick, ein Wort entdeckt mir oft,
Wie sehr sein liebend Herz gehofft;
Doch ich verlache seine Schmerzen,
Und seine Blicke
Sind keine Stricke
Junger Herzen.

Singe ich mir ein frohes Lied,
So ist er auch sogleich bemüht,
Mir durch sein Schreyen zu gefallen;
Doch frag ich allen:
Kann wohl sein Lallen
Mir gefallen ?

Flieh ich ihn denn mit schnellen
Schritten,
So folgt er mir doch immer nach;
Doch sieht man gleich an seinen Tritten,
Daß seinen Füssen,
Um mich zu küssen,
Die Kraft gebrach.

この二語の相違により，歌詞の意味と韻律の変化は生じていない。但し，台本ｂ１の歌詞には規則的な脚韻がみられるのに対して，楽譜資料＊１の歌詞では，第３節の最後の行の脚韻が揃っていない。

次に，楽譜資料＊２（No.4　ハンヒェンのアリア）の歌詞も，同様に，フィリドール作曲の「桶屋」の台本（ｂ１）のNo.4（ハンヒェンのアリア）の歌詞と酷似しており，下線の部分のみが異なっている。

楽譜資料＊２の歌詞

Einen Weinstock, der voll Trauben
und des Gartens Zierde war,
suchte Phillis zu berauben,
streckte schon ihr Händchen dar.
War allein und konnte glauben,
niemand würde sie gewahr.

Doch wer kennt nicht Amor's Tücke!
Dieser Gott verschont nicht leicht.
Sie bemerkt ihn nicht zum Glücke,
wie er in den Busch sich schleicht,
lächelt noch mit frohem Blicke,
als sie schon ein Pfeil erreicht.

「桶屋」の台本ｂ１の歌詞（No.4）

Einen Weinstock, der voll Trauben
und des Gartens Zierde war,
suchte Phillis zu berauben,
und streckt schon ihr Händchen dar;
Sie war allein und konnte glauben,
niemand wurde sie gewahr.

Doch wer kennt nicht Amor's Tücke!
Dieser Gott verschont nicht leicht.
Und ein Blatt zu seinem Glücke,
hatte ihm den Schutz gereicht;
Gleich nahm er mit frohem Blicke
den Pfeil, des Gift ins herze steigt.

Drauf spricht er zu diesem Kinde,
das den Schmerz der Wunde spürt:
Glücklich, daß ich hier dich finde,
Neugier hat mich hergeführt.
Alles Naschen, das ist Sünde,
Doch ihr werdet leicht verführt.

Drauf spricht er zu diesem Kinde,
das den Schmerz der Wunde spürt:
Das Glück, daß ich dich hier finde,
hat von Neugier hergerührt;
Alles Naschen, das ist Sünde,
Doch ihr werdet leicht verführt.

以上のように，両者は部分的に異なっているが，歌詞の意味と韻律と脚韻に大きな違いはない。

さらに，楽譜資料＊３（No.7　マルティンのアリア）の歌詞も，フィリドール作曲の「桶屋」の台本（ｂ１）のNo.7（マルティンのアリア）の歌詞と似ている。但し，似ている部分は第１節のみであり（下線の部分は異なっている），第２節以降は異なる内容となっている。

楽譜資料＊３の歌詞

Sonst lebt ich frey ohne Sorgen,
Es war kein Gram in meiner Brust.
Ich schlief gantz ruhig bis an Morgen,
In dem Wein fand ich alle Lust.

Er lacht so frisch,
er schmeckt so süß, so gut,
so klar, so leicht.

Er macht die alten Glieder,
so munter, kräftig wieder!
und wird zuletzt der Kopf auch schwer -
so wünscht/ trinkt man doch stets mehr.

「桶屋」の台本ｂ１の歌詞（No.7）

Sonst war ich stets ohne Sorgen,
Mein Geist war ruhig und vergnügt,
Denn ich schlief bis an den Morgen,
Wenn ich vom Weine recht besiegt.

Und wenn ich mir ein Liedchen sang,
Mein Glücke doppelt zu geniessen,
Ließ ich bey meiner Flasche Klang
Den Wein in meine Kehle fliessen;
Er macht mit seinem Glu, Glu, Glu,
Mir einen hohlen Baß dazu.

Doch itzt ist es umgekehrt,
Da der Wein der Liebe weicht,
Ist mir alle Lust verwehrt,
So die Flasche mir gereicht.

Hörst du Schicksal! meine Klagen,
O! so laß doch Lieb und Wein,
Nur zum Ende meiner Plagen,
Freunde stets zusammen seyn.

楽譜資料＊３ではワインを賛美する内容の三節の歌詞であるのに対して，「桶屋」の台本ｂ１のNo.7は，恋の悩みでワインを堪能できないことを嘆く四節の歌詞となっている。脚韻はそれぞれ異なっているが，「桶屋」の台本ｂ１の歌詞の脚韻の方が規則的である。

以上のように，楽譜資料＊１～＊３の歌詞はいずれもフィリドール作曲の「桶屋」の台本（ｂ１）の歌詞と類似している。脚韻の状態は，後者が原作であることを示唆している。

次に，楽譜資料＊１～＊３に用いられている五線紙に注目すると，楽譜資料＊１～＊３にはWz#18が，また楽譜資料＊３の一部にWz#36が用いられている。前節の表２―１に示したとおり，Wz#18は1786年，1795年，および1796年の年代入り自筆譜に用いられている。

またWz#36は，1795年と1796年の年代入り自筆譜に用いられている。

さらに，楽譜資料＊１～＊３における二つの記譜の特徴，すなわち(1) ④音部記号を冒頭２ページのみに記入　と(4) ②楽器名を五線の上に記入は，前節の表２―２によれば，それぞれ1796年，および1795年以降の年代を示唆している。

以上の状況からみて，楽譜資料＊１～＊３は，#2「ぶどう摘み」（1785年）に帰属する曲ではなく，1796年頃にフィリドール作曲の「桶屋」の歌詞に変化を加えて作曲されたが，結局 #12「桶屋」（1802年）の最終稿には採用されなかった曲と推測される。

楽譜資料＊４（ハンヒェンのアリア）は，#3「田舎のクリスマス」（1786年）の〔No.5〕ハンヒェンのアリア（#3「田舎のクリスマス」の楽譜資料Ｃ１とＣ２）とほぼ同一である。異なっているのは一語だけで，第２節の歌詞のFelix が楽譜資料＊４においてはSteffen となっている（下線部分）。

楽譜資料＊４の歌詞	#3「田舎のクリスマス」の楽譜資料 Ｃ１とＣ２〔No.5〕の歌詞
Bis man nur ein Schätzchen hat, haben in der großen Stadt es die Mädchen gnädig. Doch bevor ich mir zum Mann einen Dummen wählen kann, bleib ich lieber ledig.	Bis man nur ein Schätzchen hat, haben in der großen Stadt es die Mädchen gnädig. Doch bevor ich mir zum Mann einen Dummen wählen kann, bleib ich lieber ledig.
O mein Steffen ist es werth, daß mein Herz ihm ganz gehört. Ist sein Haar gleich nicht voll Mehl und sein Kleid voll Rosenöl, hat er doch ein treues Blut, hat Verstand und ist so gut.	O mein Felix ist es werth, daß mein Herz ihm ganz gehört. Ist sein Haar gleich nicht voll Mehl und sein Kleid voll Rosenöl, hat er doch ein treues Blut, hat Verstand und ist so gut.
Doch das beste möchte seyn, er liebt mich auch ganz allein, ja das glaub ich immer. Doch ob auch ein Herr der Stadt nur ein einzig Mädchen hat, Nein, das glaub ich nimmer.	Doch das beste möchte seyn, er liebt mich auch ganz allein, ja das glaub ich immer. Doch ob auch ein Herr der Stadt nur ein einzig Mädchen hat, Nein, das glaub ich nimmer.

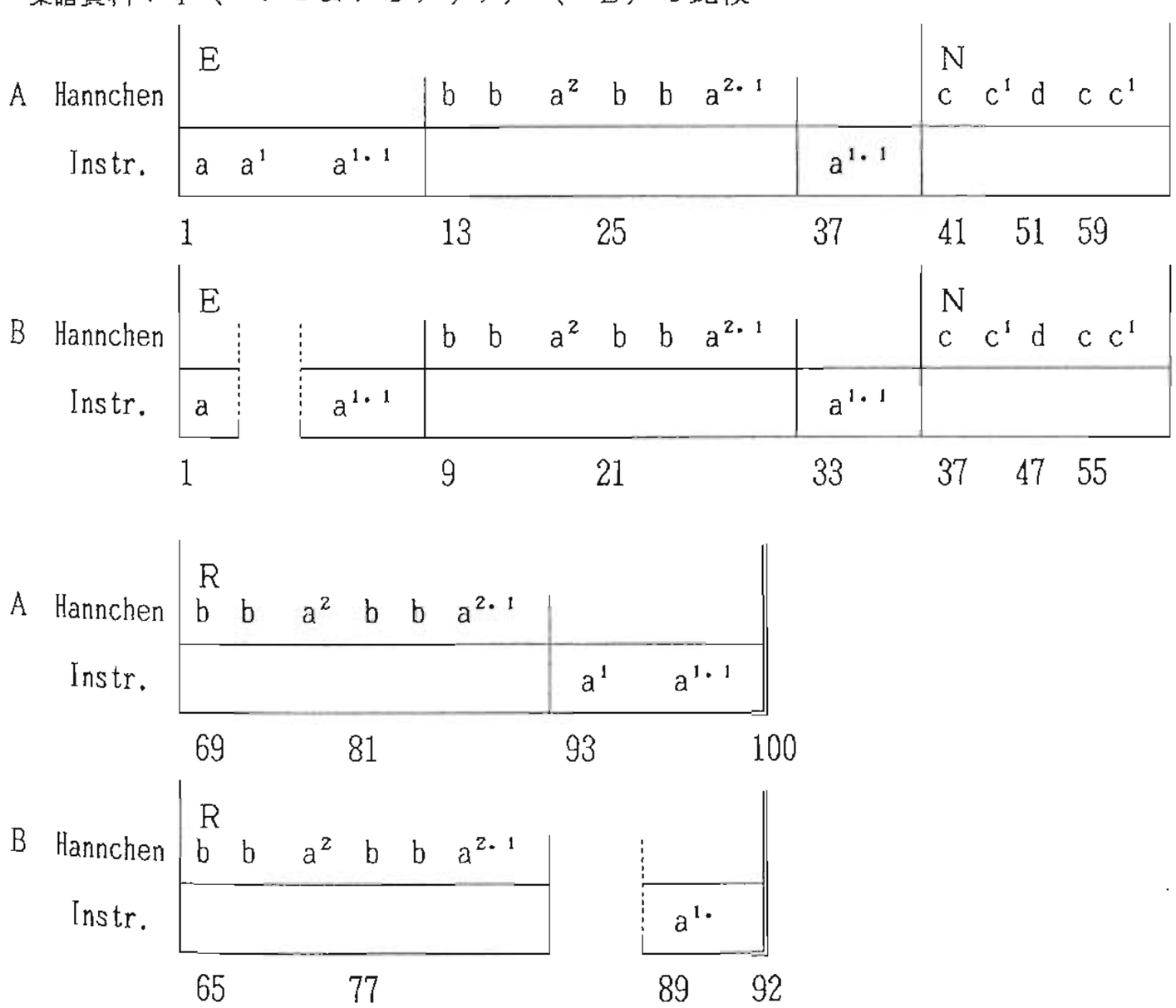
この歌詞は，いずれも「馬鹿な男と結婚するくらいなら一生独身でいたい。フェリックス（またはシュテフェン）は金持ちではないが，忠実で理解にあふれており，愛するに足る人物である」という内容であり，結納金目当ての母親に金持ちの馬鹿息子と結婚させられそうになったハンヒェンが，父親を味方につけて恋人フェリックスとの仲を成就させようとする#3「田舎のクリスマス」（1786年）のストーリーと合致する。すでに指摘したように，楽譜資料＊４の歌詞においては恋人の名前がシュテフェンとなっている。シュテフ

ェンという登場人物は，シェンクのジングシュピールの中では #12「桶屋」（1802年）にのみ現れている。しかし，#12「桶屋」（1802年）は，ハンヒェンが年寄りの後見人マルティンの愛を退けて若いシュテフェンと結婚するというストーリーで，この歌詞に現れている「馬鹿な男」や「金持ち」は問題となっていない。よって，歌詞の内容から判断すると，この曲は最初に#3「田舎のクリスマス」（1786年）のアリアとして作曲され，その後，歌詞の中のフェリックスという名前をシュテフェンに変えて #12「桶屋」のNo.8に転用された，と推測される。#12「桶屋」（1802年）のTeilautograph と台本ａ１においても，やはりNo.8はハンヒェンのアリアとなっている。

#3「田舎のクリスマス」（1786年）の〔No.5〕と楽譜資料＊４を比べると，後者では前奏と後奏が４小節ずつ短い。下のタイムラインに示すとおり，単に，三部分シェイプの前奏と後奏のａ^{1} フレーズを省略するという簡単な方法で編曲が行われている。

タイムライン　２―１

#3「田舎のクリスマス」（1786年）〔No.5〕ハンヒェンのアリア（＝Ａ）と
楽譜資料＊４（ハンヒェンのアリア）（＝Ｂ）の比較



楽譜資料＊４に用いられている五線紙はWz#18で，前述の楽譜資料＊１～＊３と同一である。前節の表２―１によれば，この五線紙は，1786年，1795年，および1796年の年代入り自筆譜で用いられているものである。

楽譜資料＊４における二つの記譜の特徴，すなわち(1) ④音部記号を冒頭２ページのみに記入　と(4) ②楽器名を五線の上に記入　は，前述の楽譜資料＊１～＊３における特徴と一致しており，前節の表２―２によれば，それぞれ1796年，および1795年以降の年代を示唆している。

以上の状況からみて，楽譜資料＊４は，#2「ぶどう摘み」（1785年）に帰属する曲ではなく，本来#3「田舎のクリスマス」（1786年）の〔No.5〕として作曲した曲の歌詞の一語を変え，前奏と後奏を１フレーズずつ省略して，#12「桶屋」のNo.8に転用したものと推測される。用いられている五線紙と記譜の特徴が一致することから，楽譜資料＊４は，楽譜資料＊１～＊３と同じ1796年頃に作成されたものと推測される。しかし，やはり楽譜資料＊１～＊３と同様に，結局 #12「桶屋」（1802年）の最終稿には採用されなかった。

楽譜資料＊５（No.9　ハンヒェンとシュテフェンの二重唱）の二人の登場人物名は，上述の楽譜資料＊１～＊４と同様，#12「桶屋」（1802年）の登場人物と一致する。しかし，楽譜資料＊５の歌詞は，フィリドール作曲の「桶屋」の台本（ｂ１）の歌詞ともシェンク作曲の #12「桶屋」（1802年）の台本（ａ１）の歌詞とも一致しない。

楽譜資料＊５に用いられている五線紙は，楽譜資料＊１～＊４と同じWz#18であり，前節の表２―１によれば，1786年，1795年，および1796年の年代入り自筆譜で用いられているものである。

楽譜資料＊５における二つの記譜の特徴，すなわち(1) ④音部記号を冒頭２ページのみに記入　と(4) ②楽器名を五線の上に記入　は，前述の楽譜資料＊１～＊４における特徴と一致しており，前節の表２―２によれば，それぞれ1796年，および1795年以降の年代を示唆している。

以上の状況からみて，楽譜資料＊５は，#2「ぶどう摘み」（1785年）に帰属する曲ではなく，上述の楽譜資料＊１～＊４と同様に1796年頃に #12「桶屋」のために作曲されたが，結局1812年の最終稿には採用されなかった曲と推測される。但し，楽譜資料＊５の場合には歌詞の一致という根拠が欠けているため，推測の根拠は上述の楽譜資料＊１～＊４に比べて弱い。

以上述べたように，楽譜資料＊１～＊５の５曲は，1796年頃に #12「桶屋」のために作曲され，うち３曲の作曲にあたってはフィリドール作曲の「桶屋」の台本（ｂ１）に近い歌詞が用いられた。#12「桶屋」（1802年）のTeilautograph（A-Wgm Aut Schenk 16）にはこれらの５曲は含まれておらず，また欠落している曲もないため，これら５曲はその後歌詞ともども放棄され，別の歌詞で最終稿（1802年）が作曲された，と推測される。フィリドール作曲の「桶屋」の台本（ｂ１），楽譜資料＊１～＊５，およびシェンクの #12「桶屋」（1802年）の最終稿とのあいだの歌詞の類似関係は，以下の表２―４に示すとおりである。

表2－4　「桶屋」の二つの台本と楽譜資料＊１～＊５の歌詞の類似関係
(→は歌詞の類似を表す)

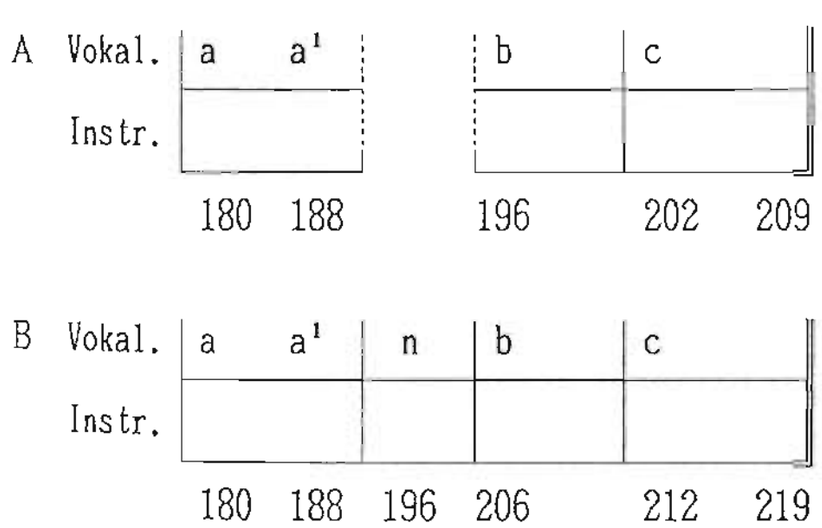
フィリドール作曲の「桶屋」(1780年) 台本ｂ１		問題の楽譜資料 (1796年頃)		シェンク作曲の #12「桶屋」 台本ａ１ (1802年)
No.1 ハンヒェンとシュテフェンの二重唱			→	No.1 ハンヒェンとシュテフェンの二重唱
No.2 ハンヒェンのアリア	→	楽譜資料＊１ (No.2 ハンヒェンのアリア)		
No.3 ハンヒェン，シュテフェン，マルティンの三重唱			→	No.2 ハンヒェン，シュテフェン，マルティンの三重唱
No.4 ハンヒェンのアリア	→	楽譜資料＊２ (No.4 ハンヒェンのアリア)		No.3 ハンヒェンのアリア
No.5 シュテフェンのアリア			→	No.4 シュテフェンのアリア
No.6 シュテフェンとマルティンの二重唱			→	No.5 シュテフェンとマルティンの二重唱
No.7 マルティンのアリア	→	楽譜資料＊３ (No.7 マルティンのアリア)	→	No.6 マルティンのカヴァティーナ
No.8 ハンヒェンとマルティンの二重唱			→	No.7 ハンヒェンとマルティンの二重唱
No.9 ハンヒェンのアリア		楽譜資料＊４ (No.8 ハンヒェンのアリア)		No.8 ハンヒェンのアリア
No.10 ハンヒェンとシュテフェンの二重唱		楽譜資料＊５ (No.9 ハンヒェンとシュテフェンの二重唱)		No.9 ツェップのアリア
No.11 ハンヒェンとマルティンのヴォードヴィル			→	No.10 ハンヒェンとマルティンのヴォードヴィル
No.12 ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテンの四重唱			→	No.11 ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテンの四重唱
No.13 ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテン，ツェップのヴォードヴィル			→	No.12 ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテン，ツェップのヴォードヴィル

楽譜資料＊7（曲番不明　ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテンの四重唱「マルティン，ちょっと話を聞いてくれ」）は，#12「桶屋」（1802年）のTeil-autograph（A-Wgm Aut Schenk 16）のNo.11(ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテンの四重唱）と酷似している。#12「桶屋」（1802年）のTeilautograph においては，No.1の最初の1枚，No.2の全体，およびNo.11 の全体が筆写譜であるが，その他の自筆部分とともに1冊に製本されて伝承している。

楽譜資料＊7と#12「桶屋」（1802年）のTeilautograph のNo.11(筆写譜）とを比較すると，前者では訂正や書き加えが多く見られ，前者で線を引いて省略が指示されている箇所は，後者では省略して筆写されている。また，後者では終結部に1フレーズ（10小節）が加わっている。

タイムライン2―2

楽譜資料＊7（ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテンの四重唱）の末尾（＝A）と #12「桶屋」（1802年）のTeilautograph のNo.11(筆写譜）の末尾（＝B）の比較



楽譜資料＊7に用いられている五線紙Wz#38は，#12「桶屋」（1802年）のTeil-autograph では，No.11 を除くすべての部分に用いられている。前節の表2―1によれば，Wz#38は #12「桶屋」（1802年）のTeilautograph にのみ用いられており，他に同じ五線紙を用いた年代入り自筆譜はない。

また，楽譜資料＊7に見られる二つの記譜の特徴，すなわち(1) ③音部記号を冒頭ページのみに記入　は1796～1802年の年代入り自筆譜に，また(4) ②楽器名を五線の上に記入は，1795年以降の年代入り自筆譜に見られる特徴と一致する。

以上の状況を綜合すると，楽譜資料＊7と #12「桶屋」（1802年）のTeilautograph の

No.11 は，同一作品のために書かれた同一楽曲の別稿と見るのが妥当であると考えられ，楽譜の状態から，前者が #12「桶屋」（1802年）のNo.11〔第１稿〕，後者が〔第２稿〕である，と推測される。

以上述べたように，#2「ぶどう摘み」（1785年）の自筆譜として伝承しているうちの６曲，すなわち楽譜資料＊１～＊５，および＊７は，いずれも #12「桶屋」（1802年）に関係する楽譜であることが推測される。このように #12「桶屋」（1802年）と関連がある曲が，まとまって#2「ぶどう摘み」（1785年）の自筆譜として伝承していることの理由として，以下の三つの可能性が考えられる。

第一の可能性は，これら６曲が，1796年頃，フィリドール作曲の「桶屋」の台本（ｂ１）の歌詞を基にして，「ぶどう摘み」という題名に編作されたという推測である。しかし，#2「ぶどう摘み」（1785年）のほかに，もう一つ同じ題名の作品が存在したことについて，シェンクの自伝には何も言及されておらず，上演記録もない。また，「収穫祭の冠」という題のジングシュピールが編作されて「ぶどう摘み」という題を付けられた実例（#7「収穫祭の冠」の台本ｂ５）を見ると，そのストーリーにはぶどう摘みとの関係がある。それに対して，「桶屋」のストーリーには，特にぶどう摘みと結びつく要素がない。すなわち，第一の可能性には強力な根拠があるとは言えない。

第二の可能性は，#2「ぶどう摘み」（1785年）が再演された過程において，1796年頃，楽譜資料＊１～＊５の５曲が加えられたという可能性である。しかし，先に述べたように，この５曲の登場人物（ハンヒェン，シュテフェン，マルティン）が#2「ぶどう摘み」（1785年）の登場人物であることを示す記録が存在しないこと，また，この５曲の自筆譜が作られたと思われる時期（1796年）に，#2「ぶどう摘み」の上演記録（1786～92年，1794～95年，1800～03年）がない(Hadamowsky 1934: 284)ことの二点から，この可能性も疑問視される。

以上の状況から，これら６曲が#2「ぶどう摘み」（1785年）の自筆譜として伝承しているのは，これらの楽譜が「ぶどう摘み」という題名の作品に帰属していたからではなく，何らかの外的要因によるものではないか，という第三の可能性を考えざるをえない。先に指摘したように，楽譜資料＊１，＊３～＊５，＊７の第１ページにはアロイス・フックス，または筆者不明の筆跡で，これらの資料が#2「ぶどう摘み」（1785年）に帰属することが注記されている。これらの注記が何に基づいて記されたものであるのかは不明である。し

かし，現段階においては，これらの書込が誤解に基づいたものであるという可能性，またこれらの書込自体がその後当該作品の帰属に関して誤解を生む原因となった可能性を，否定することはできない。

他方，同様に#2「ぶどう摘み」（1785年）の自筆譜として伝承している楽譜資料＊6（No.12 アンナ母さんのアリア）であるが，アンナ母さんという役柄が#2「ぶどう摘み」（1785年）の登場人物であることを示す傍証はなく，またシェンクの他のジングシュピールにも全く見当たらない。前節の表2―1にみられるとおり，楽譜資料＊6に用いられている五線紙Wz＃21は1786年，1787年，1789年，および1790年の年代入り自筆譜に見られ，10年にわたって断続的に用いられている。また，前節の表2―2に示されているように，楽譜資料＊6に見られる二つの記譜の特徴，すなわち(2) ②拍子記号を2段以上にひとつ，大きく記入　は1786年以降の年代入り自筆譜に，また(4) ①楽器名を五線の外側に小さく記入　は，1792年以前の年代入り自筆譜に見られる特徴と一致する。このように，用いられている五線紙と記譜の特徴は，いずれも#2「ぶどう摘み」（1785年）より遅い年代を示唆している。しかし，以上の状況から，楽譜資料＊6がどの作品に帰属するのかを判断することはできない。

以上のように，#2「ぶどう摘み」（1785年）の自筆譜として伝承している7曲の楽譜資料（＊1～＊7）は，いずれも，#2「ぶどう摘み」（1785年）に帰属すると考えることに無理がある。楽譜資料＊1～＊5，および＊7の6曲は #12「桶屋」（1802年）と関連があると推測され，楽譜資料＊6は，帰属作品の推定が不可能である。

＃３　「田舎のクリスマス」（１７８５年）

この作品においては，９曲の楽譜資料に帰属作品の問題があると考えられる。すなわち，楽譜資料＊８（No.13 カスパーのアリア），＊９（No.14 カスパーとリーゼの二重唱），＊10（No. 19　オスミンのアリア），＊11（曲番不明　軽騎兵の曹長のアリア「何年も前から望んでいた」〔g Moll稿〕），＊12（曲番不明　軽騎兵の曹長のアリア「何年も前から望んでいた」〔a Moll稿〕），＊13（曲番不明　ムッシュー・ジャンのアリア「愛しい娘よ，こちらにおいで」），＊14（曲番不明　セレーネのイタリア語アリア「愛しい恋人のそばで」），＊15（バス独唱の断片），および＊16（二つの二重唱と二つのアリアのスケッチ）の９曲である。これらの楽譜資料は，いずれも未製本の自筆譜で，#3「田舎のクリスマス」（1786年）の製本されたTeilautograph（A-Wgm Aut Schenk 11）に付随して伝承している。しかし，1921年にローゼンフェルト＝レーマーがこれらの楽譜資料を検討した段階では，このうち楽譜資料＊８と＊９は#2「ぶどう摘み」（1785年）に帰属する曲として，(Rosenfeld 1921-Roemer: 68)　また楽譜資料＊11～＊14と＊16の５曲は帰属作品不明の曲として記述されていた。(Rosenfeld-Roemer 1921: 36)　これらの楽譜資料は，以下の理由により，#3「田舎のクリスマス」（1786年）に帰属する曲ではなく，それぞれ，別の作品に帰属する曲，あるいは帰属作品不明の曲と推測される。

楽譜資料＊８（No.13 カスパーのアリア）と楽譜資料＊９（カスパーとリーゼの二重唱）は，1921年のローゼンフェルト＝レーマーの学位論文においては，#2「ぶどう摘み」（1785年）に帰属する作品として記述されている。(Rosenfeld-Roemer 1921: 68)　事実，この二人の登場人物は，#3「田舎のクリスマス」（1786年）には登場せず，オーストリア国立図書館所蔵の#2「ぶどう摘み」（1785年）の三重唱の筆写譜（A-Wn-M 16157）に見られる登場人物（カスパー，リーゼ，伯爵）と一致している。#2「ぶどう摘み」（1785年）の台本は現存していないため，歌詞を照合することはできない。

楽譜資料＊８と＊９に用いられている五線紙，Wz#41とWz#25は，いずれもシェンクの他の作品には用いられていない。#2「ぶどう摘み」（1785年）の曲で現存する２曲は，いずれも筆写譜で伝承しているため，#2「ぶどう摘み」（1785年）の自筆譜の本体にどのような五線紙が用いられていたかは，不明である。

楽譜資料＊８と＊９に見られる三つの記譜の特徴のうち，(3) ②楽器配列＝管楽器を弦楽器の上に記入　と(6) ③“in 8va”あり　は1784年以降の年代入り自筆譜と共通し，(6)

④"unis"なし　は1786年以降の年代入り自筆譜と共通している。すなわち，記譜の特徴は，これらの曲が#2「ぶどう摘み」（1785年）の一部である可能性を示唆している，と言いことができる。

以上の観察により，楽譜資料＊８と＊９は，#2「ぶどう摘み」（1785年）に帰属する曲であり，ローゼンフェルト＝レーマーの研究（1921年）以後に，現状のように#3「田舎のクリスマス」の曲として誤置された，と推測される。

楽譜資料＊10（No.19 オスミンのアリア）の登場人物，オスミンは，#3「田舎のクリスマス」（1786年）の登場人物ではなく，#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）に登場する。#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）のTeilautograph（A-Wgm Aut Schenk 14）と台本ａ１，ａ２においては，No.19 は同じくオスミンのアリアであるが，楽譜資料＊10とは歌詞と音楽が異なっている。しかし，どちらの曲も，オスミンが乳母に変装して歌うという状況設定が共通している。楽譜資料＊10においては，乳母であることを強調するために，オスミンの歌唱パートはアルトの音域で記譜されている。

楽譜資料＊10に用いられている五線紙，Wz＃６は，#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）のTeilautograph のNo.8，〔No.10 〕，〔No.13 〕，No.18 において用いられている。

楽譜資料＊10に見られる四つの記譜の特徴，すなわち(1) ②音部記号は冒頭と各左ページに記入　(2) ②拍子記号は二段以上にひとつ，大きく記入　(4) ②楽器名は五線の上に大きく記入　(6) ⑦"per 3za" は，いずれも#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）のTeilautograph における特徴と一致している。

以上により，楽譜資料＊10は#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）のNo.19の別稿として，#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）と同時期に作曲された，と推測される。

楽譜資料＊11と＊12は，軽騎兵の曹長のアリアの二つの異稿である。このうち，楽譜資料＊12（g Moll稿）は，オーストリア国立図書館所蔵の #10「パントマイム」（1798年）の筆写譜（A-Wn-M S.m.10210; A-Wn-M S.m.10207）と内容が一致するため，#10「パントマイム」（1798年）に帰属する曲であることが確認できる。

楽譜資料＊11と＊12に用いられている五線紙，Wz＃16とWz＃37は，#10「パントマイ

ム」（1798年）の付随音楽の自筆スコア（A-Wgm Aut Schenk 21)に用いられているものと同一である。

楽譜資料＊11と＊12に見られる二つの記譜の特徴，すなわち(1) ③音部記号＝冒頭ページのみ　および(4) ②楽器表示＝五線の上に大きく記入　は，#10「パントマイム」(1798年）の付随音楽の自筆スコアに見られる特徴と一致する。

楽譜資料＊11と＊12を比較すると，楽譜資料＊11では歌詞が書き込まれており，三節の繰り返しが，繰り返し記号を用いずにすべて記載されている。但し，第二節と第三節の伴奏楽器のパートの記譜は，“come sopra”として省略されている。ページ番号（32～50）は，その前の部分（1～31ページ）が存在していたことを示唆している。これに対して，楽譜資料＊12には歌詞が記入されておらず，三節の繰り返しは繰り返し記号で示されている。ページ番号（1～8）は，この楽譜が独立して作成されたことを示唆している。このような楽譜の状態に基づき，ここでは，楽譜資料＊11（a Moll稿）を先に作られた〔第1稿〕と考え，楽譜資料＊12（g Moll稿）を〔第2稿〕と推測する。〔第2稿〕は，楽譜資料＊12と #10「パントマイム」（1798年）の筆写譜（A-Wn-M S.m.10210; A-Wn-M S.m.10207）の三つの資料が伝承していること，そのうち楽譜資料＊12と筆写譜（A-Wn-M S.m.10210）には同一の Stichwort（音楽の開始のきっかけとなる台詞：“Ja, ja laß er sich hören”）が記入されていること，の二点から，実際の演奏に用いられた稿である可能性が高い。

以上の観点により，楽譜資料＊11と＊12は #10「パントマイム」（1798年）に帰属するアリアの二つの稿と結論づけられる。

楽譜資料＊13（ムッシュー・ジャンのアリア）については，シェンクの作品中に一致する登場人物名が見当たらない。楽譜資料＊13に用いられている五線紙Wz＃4は，1786～1789年，1791年，および1795年の年代入り自筆譜に用いられている。また，楽譜資料＊13に見られる記譜の特徴，すなわち(2) ②拍子記号を二段以上にひとつ，大きく記す書き方は，1784年以降の年代入り自筆譜の特徴と一致している。以上の状況から，この曲は帰属作品を推測することが不可能であり，帰属作品不明の曲と言わざるをえない。

楽譜資料＊14（セレーネのイタリア語アリア）も，楽譜資料＊13と同様，シェンクの作品中に一致する登場人物名が見当たらない。楽譜資料＊14に用いられている五線紙Wz＃36は，1795年と1796年の年代入り自筆譜に用いられている。また，楽譜資料＊14に見られる

記譜の特徴，すなわち(4) ①楽器名を五線の外側に小さく記す書き方　は，1792年以前の年代入り自筆譜の特徴と一致している。以上の状況から，この曲は帰属作品を推測することが不可能であり，帰属作品不明の曲と言わざるをえない。

楽譜資料＊15（バス独唱の断片）は，曲の途中の断片であるため，登場人物名が記されていないが，記入されている歌詞は，#11「狩」（1799年）の台本ａ１のNo.15(第２幕フィナーレ）の王の歌詞と一致している。#11「狩」のTeilautograph (A-Wgm Aut Schenk 9)は，〔1799年版〕の自筆譜と筆写譜，および〔1834年版〕の自筆譜から成り，No.15 は筆写譜で伝承している。

楽譜資料＊15に用いられている五線紙Wz#26は，上述のTeilautograph の中では，やはりNo.15(筆写譜）の部分に用いられている。また，楽譜資料＊15に見られる記譜の特徴，すなわち(1) ③音部記号は冒頭ページにのみ記入，および(2) ②拍子記号は二段以上にひとつ，大きく記入　は，#11「狩」〔1799年版〕のTeilautograph の自筆部分における特徴と一致している。

以上により，楽譜資料＊15は，#11「狩」〔1799年版〕のNo.15(第２幕フィナーレ）の消失した自筆譜の断片と考えられる。

楽譜資料＊16（二つの二重唱と二つのアリアのスケッチ）は，登場人物名が不明であり，また歌詞が一致する他の資料もない。用いられている紙Wz#９は，前節の表２―１に示されているとおり，1780年の年代入り自筆譜に用いられているものと一致する。楽譜資料＊16はスケッチであるが，(2) ①拍子記号を各段にひとつずつ記入する書き方は，1789年以前の年代入り自筆譜の特徴と一致している。以上の状況から，楽譜資料＊16の帰属作品を推測することは不可能であり，帰属作品不明の曲と言わざるをえない。

以上のように，#3「田舎のクリスマス」（1786年）の自筆譜として伝承している９曲の楽譜資料（＊８～＊16）は，いずれも，#3「田舎のクリスマス」（1786年）に帰属すると考えることに無理がある。楽譜資料＊８（No.13 カスパーのアリア）と＊９（No.14 カスパーとリーゼの二重唱）は#2「ぶどう摘み」（1785年）に，楽譜資料＊10（No.19 オスミンのアリア）は#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1790年）に帰属することが推測される。楽譜資料＊11と＊12（曲番不明　軽騎兵の曹長のアリア「何年も前から望んでい

た」の二つの稿）は #10「パントマイム」（1798年）に帰属することが確認でき，楽譜資料＊15（バス独唱の断片）は #11「狩」〔1799年版〕のNo.15 の断片であることが確認できた。楽譜資料＊13（ムッシュー・ジャンのアリア），＊14（セレーネのイタリア語アリア），および＊16（二つの二重唱と二つのアリアのスケッチ）については，現在の研究状況では帰属作品を推測することはできず，帰属作品不明の曲と言わざるをえない。これら9曲の楽譜資料のうち7曲は，前述のように1921年のローゼンフェルト＝レーマーの研究では，#3「田舎のクリスマス」（1786年）に帰属する曲としては扱われていなかった。よって，これらの楽譜資料は，1921年よりあとに#3「田舎のクリスマス」（1786年）の未製本自筆譜として間違って分類されたもの，と推測される。

＃７　「収穫祭の冠」（１７９１年）

この作品においては，２曲の楽譜資料に帰属作品の問題があると考えられる。すなわち，楽譜資料＊17（No.1　ヤコプとレースヒェンの二重唱のスケッチ）と＊18（No.6レースヒェンとペーターの二重唱の断片）である。#7「収穫祭の冠」（1791年）の自筆譜（A-Wgm Aut Schenk 17)は，タイトルページと序曲が欠落しており，未製本のまま束ねられている。1921年のローゼンフェルト＝レーマーの研究では，楽譜資料＊17は，一方では帰属作品不明の曲に分類されているが，(Rosenfeld-Roemer 1921: 36)　別の箇所では#7「収穫祭の冠」（1791年）のNo.1とされており，(Rosenfeld-Roemer 1921: 76)　記述に矛盾がある。楽譜資料＊18については，ローゼンフェルト＝レーマーは#7「収穫祭の冠」（1791年）のNo.6と記している。(Rosenfeld-Roemer 1921: 76)　しかし，この２曲は，以下の理由により，#7「収穫祭の冠」（1791年）に帰属する曲とは考えがたい。

楽譜資料＊17（ヤコプとレースヒェンの二重唱のスケッチ）にみられる二人の登場人物は，#7「収穫祭の冠」（1791年）の登場人物には含まれていない。同じ登場人物は，#11「狩」(1799 年）に現れている。しかし，楽譜資料＊17の歌詞の内容（君のためにのみ，この胸は高鳴る；愛の喜びを感じ....）から，ヤコプとレースヒェンが恋人同士の関係であることが推測されるにもかかわらず，#11「狩」（1799年）の台本ａ１においては，この二人は親子の関係になっている。つまり，登場人物名は一致するが，人物の関係は一致しない。

楽譜資料＊17に用いられている五線紙Wz＃18は，1786年，1795年，および1796年の年代入り自筆譜に用いられているが，#11「狩」（1799年）のTeilautograph（A-Wgm Aut Schenk 9）には用いられていない。楽譜資料＊17はスケッチであるが，記譜の特徴，すなわち(2) ②拍子記号を二段以上に一個大きく記す　は，1786年以降の年代入り自筆譜との共通性を示している。

以上の状況より，楽譜資料＊17は，#7「収穫祭の冠」（1791年）に帰属すると考えることにも，また #11「狩」（1799年）に帰属すると考えることにも無理があり，現段階では帰属作品不明のスケッチと考えるのが妥当と思われる。

楽譜資料＊18は，レースヒェンとペーターの二重唱の断片で，No.6と番号付けされている。この二人の登場人物うち，ペーターは#7「収穫祭の冠」（1791年）に登場するが，レ

ースヒェンは登場人物に含まれていない。この二人の名前が見られるのは，#11「狩」(1799年）の台本であり，No.7としてレースヒェンとペーターの二重唱がある。

#11「狩」には〔1799年版〕と〔1834年版〕の二つのヴァージョンがあるが，どちらの版も消失した曲があり，不完全にしか現存していない。Teilautograph (A-Wgm Aut Schenk 9) には，〔1799年版〕のNo.7（レースヒェンとペーターの二重唱）は含まれておらず，〔1834年版〕のNo.7（レースヒェンとペーターの二重唱）のみが現存している。楽譜資料＊18には歌詞が書き込まれていない。しかし，次のページの譜例に示すように，楽譜資料＊18の冒頭の歌唱旋律（譜例２—8A）は #11「狩」〔1834年版〕のNo.7の冒頭の歌唱旋律（譜例２—8B）と類似している。さらに，楽譜資料＊18の冒頭の歌唱旋律には，#11「狩」（1799年）の台本に記されたNo.7の歌詞（譜例２ —8Aの〔　〕内）を当てはめることが可能である。

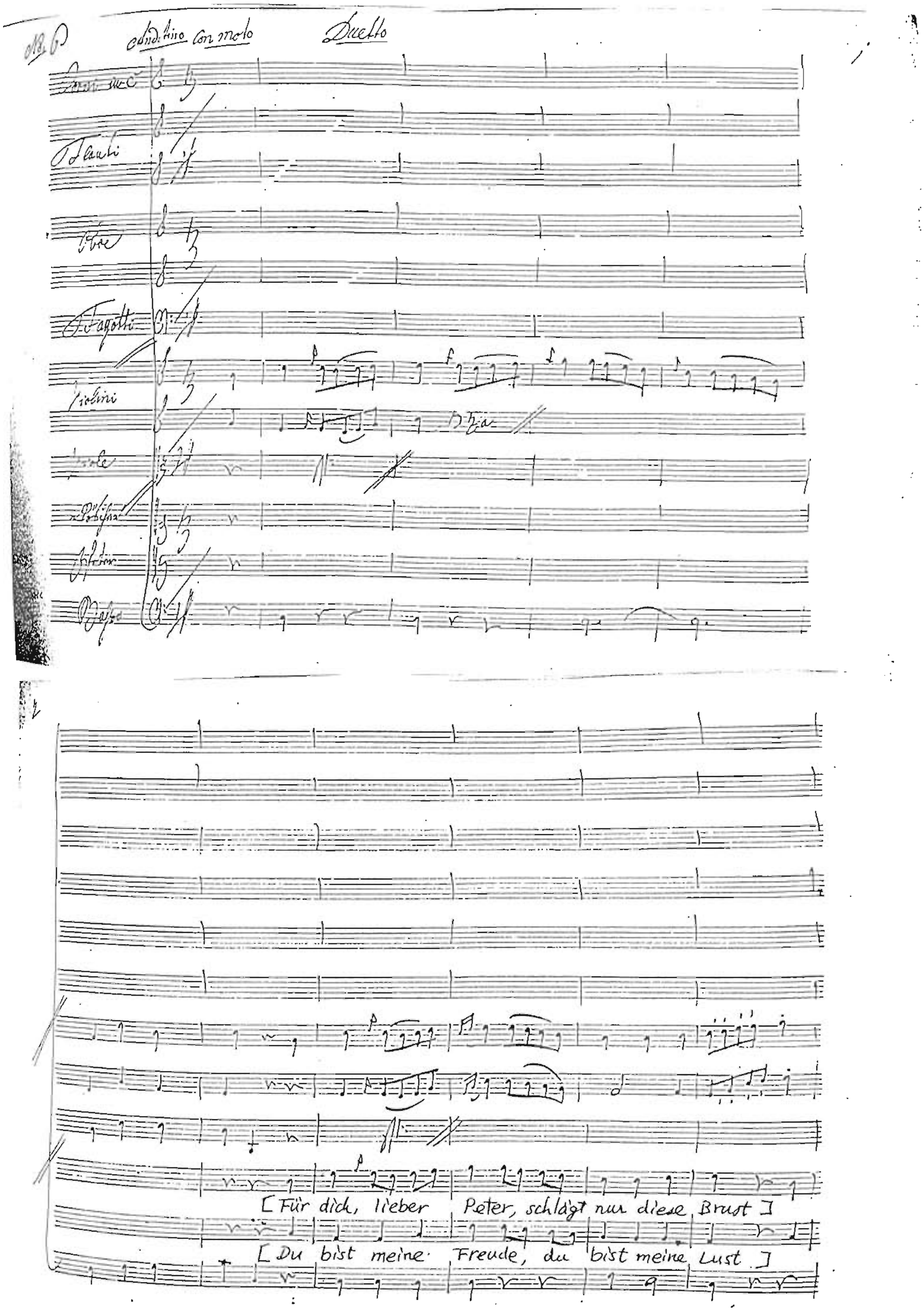
楽譜資料＊18に用いられている五線紙Wz#29は，#11「狩」のTeilautograph には〔1799年版〕にも〔1834年版〕にも用いられておらず，また，ほかの年代入り自筆譜にも用いられていない。

楽譜資料＊18に見られる記譜の特徴，すなわち(4) ②楽器名を数段の五線の上に大きく記す書き方は，1795年以降の年代入り自筆譜の特徴と一致する。さらに，楽譜資料＊18の筆跡（譜例２—8A）には，#11「狩」〔1834年版〕の楽譜全般に見られる手の震え（譜例２—8Bの矢印）が見られない。

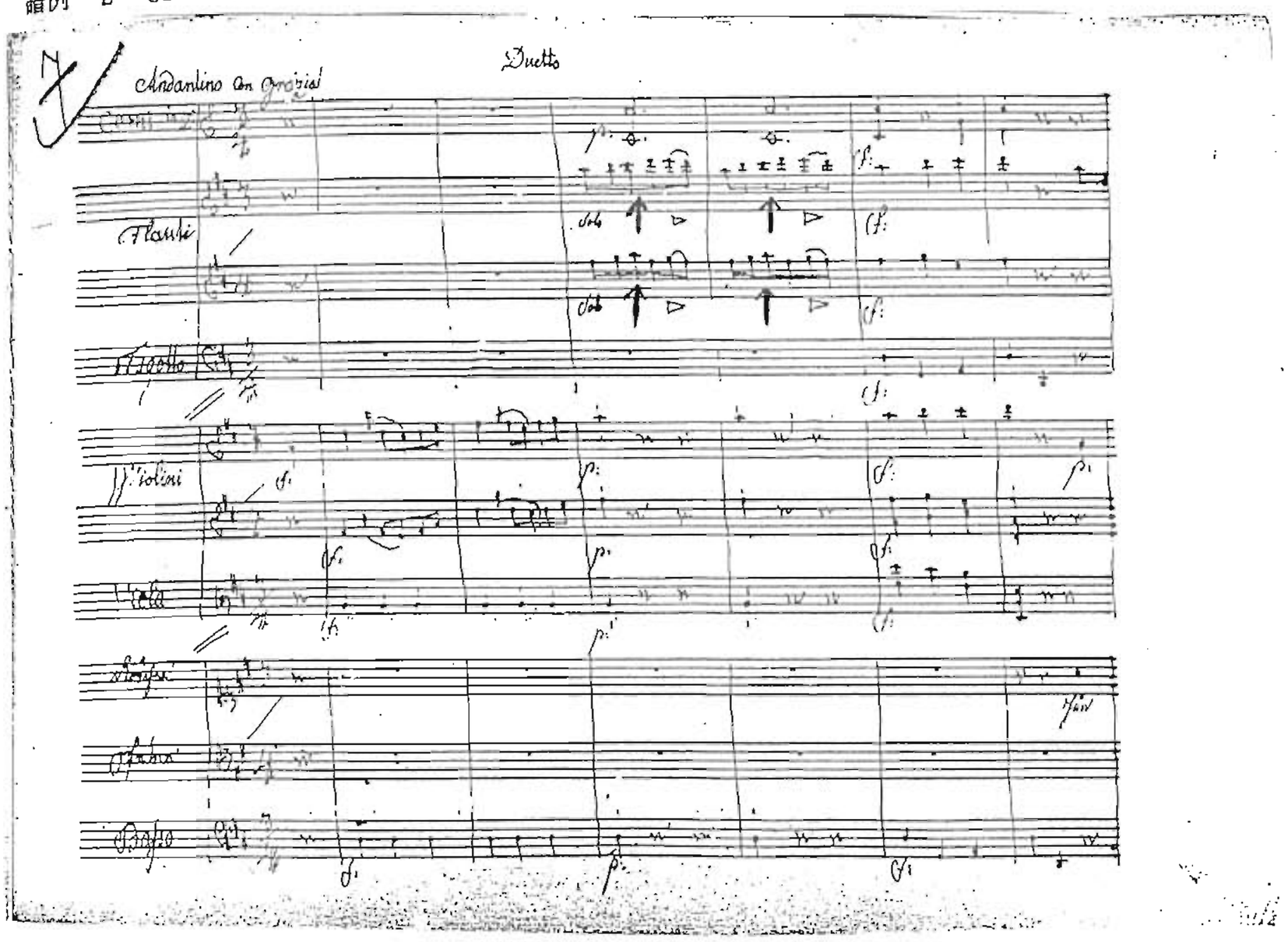
以上の状況から，楽譜資料＊18は，#7「収穫祭の冠」（1791年）に帰属する曲ではなく，消失している #11「狩」〔1799年版〕のNo.7（レースヒェンとペーターの二重唱）の断片ではないか，と推測される。但し，なぜ楽譜資料＊18がNo.7ではなく，No.6と番号付けされているのか，その理由は不明である。

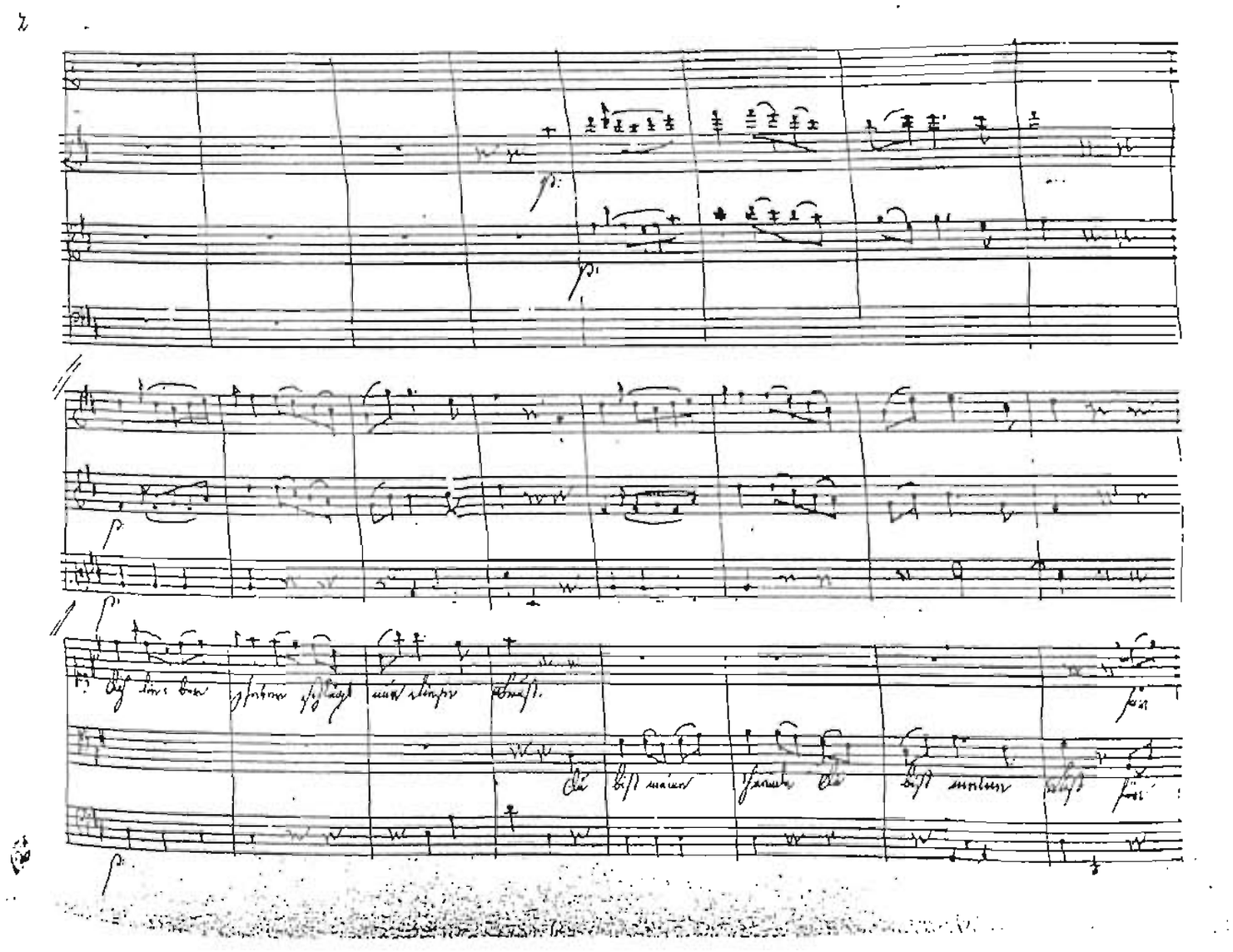
以上のように，#7「収穫祭の冠」（1791年）の自筆譜として伝承している２曲の楽譜資料（＊17と＊18）は，いずれも，#7「収穫祭の冠」（1791年）に帰属すると考えることに無理がある。楽譜資料＊17は，現在の研究状況では帰属作品を推測することができない。楽譜資料＊17は，消失している #11「狩」〔1799年版〕のNo.7の断片と推測される。

譜例　2－8A　楽譜資料＊18　第1，第2ページ



譜例　2--8B　#11「狩」〔1834年版〕No.7　冒頭２ページ





#8　「アッハメットとアルマンツィーネ」
（1795年）

この作品では，楽譜資料＊19に帰属作品の問題があると考えられる。楽譜資料＊19は，自筆譜ではなく，ピアノ伴奏付き歌曲を集めた筆写譜に含まれている。

楽譜資料＊19（ソプラノ用アリア「愛は常にミルテの王冠を飾り」）のタイトルには「アッハメットとツェニーデより」と記されており，イフラント台本の「アッハメットとツェニーデ」のための挿入曲であることを示している，と考えられる。このアリアを歌う登場人物名は記されておらず，記入された歌詞は，シェンクの#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）の台本の歌詞とは一致しない。楽譜資料＊19には“〔Johann Schenk〕”と書込があるが，この筆跡はタイトルの筆跡とは異なっており，おそらく後から書き足されたものと考えられる。

「アッハメットとツェニーデ」は，ゲルバーの『新・歴史的伝記的音楽家事典』(Gerber 1813/14: Sp.49-50)以来，シェンクの#8「アッハメットとアルマンツィーネ」(1795年）と混同され続け，1980年にブランスコームによって，この二つが異なる作品であることが明示された。(Branscombe 1980C: 625)

以上のように，楽譜資料＊19が#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）に帰属することを示唆しているのは，楽譜資料＊19に記された“〔Johann Schenk〕”という書込だけである。しかし，この書込は後から記された可能性が強く，全面的に信頼することはできない。このような状況から，楽譜資料＊19はイフラント台本の「アッハメットとツェニーデ」のための作曲者不明の挿入曲であるにもかかわらず，ゲルバーの『新・歴史的伝記的音楽家事典』以来広まっていた誤解に基づいて，シェンクの#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）に帰属するアリアとして伝承した，と考えるのが妥当と思われる。

＃１２　「桶屋」（１８０２年）

この作品では，楽譜資料＊20の帰属に問題があると考えられる。楽譜資料＊20は，作品全体の筆写譜である。

楽譜資料＊20に記された登場人物名は，シェンクの #12「桶屋」（1802年）の登場人物と一致するが，各曲の音楽はシェンクの #12「桶屋」（1802年）とはまったく異なっており，オーストリア国立図書館に現存するフィリドール作曲のジングシュピール「桶屋」のスコア（A-Wn-M 16156）と一致する。楽譜資料＊20の末尾には，「1910年７月１日，ウィーン宮廷図書館にて筆写完了。ウィリアム・クプファー」と記されている。タイトルページの左下には「ヨハン・シェンク作曲」と記されているが，その部分の筆跡はタイトルの筆跡とは異なっている。

以上のように，楽譜資料＊20が #12「桶屋」（1802年）に帰属することを示唆しているのは，タイトルページに記された作曲者名だけである。しかし，この書込は後から記された可能性が強く，全面的に信頼することはできない。このような状況から，楽譜資料＊20は，おそらくオーストリア国立図書館に現存するフィリドール作曲の「桶屋」のスコア（A-Wn-M 16156）を典拠として1910年に筆写されたものであり，その後同じ題名であるためにシェンクの #12「桶屋」（1802年）と誤解されて伝承した，と考えるのが妥当と思われる。

第３章の要約

帰属作品に疑問がある作品について検討する場合，次の二つの観点が考察の拠り所となる。その第一は，その曲が作品のストーリーに合致するものであるかどうか，という観点であり，登場人物の名前と歌詞の内容が作品と一致するかどうか，が主要な観察点となる。第二の観点は，資料の外的状況である。シェンクの自筆譜に用いられている五線紙と記譜の特徴には，年代的な変化が認められる。これを前提として，問題となる自筆譜に用いられている五線紙や記譜の特徴を根拠として，その曲が帰属する作品の作曲年代を推測することが可能である。

第２章の資料記述において帰属作品に疑いが認められた自筆資料，すなわち楽譜資料＊１～＊18について，登場人物名，歌詞，自筆譜に用いられている五線紙，記譜の特徴を検討した結果，次の表２―５，２―６，２―７のような結論が得られた。

表2－5　楽譜資料＊１～＊７の帰属作品の考察

楽譜資料	根拠	結論
＊1（No.2　ハンヒェンのアリア）	登場人物：　#12「桶屋」（1802年）と一致 歌詞：フィリドールの「桶屋」No.2と類似 五線紙：1786，1795，1796年を示唆 記譜の特徴：1795年以降，1796年を示唆	フィリドールの「桶屋」の台本を基に，1796年頃作曲。1802年の最終稿には採用せず
＊2（No.4　ハンヒェンのアリア）	登場人物：　#12「桶屋」（1802年）と一致 歌詞：フィリドールの「桶屋」No.4と類似 五線紙：1786，1795，1796年を示唆 記譜の特徴：1795年以降，1796年を示唆	
＊3（No.7　マルティンのアリア）	登場人物：　#12「桶屋」（1802年）と一致 歌詞：フィリドールの「桶屋」No.7と類似 五線紙：1786，1795，1796年を示唆 記譜の特徴：1795年以降，1796年を示唆	
＊4（No.8　ハンヒェンのアリア）	登場人物：　#12「桶屋」（1802年）と一致 歌詞：#3「田舎のクリスマス」〔No.5〕ハンヒェンのアリアと類似 五線紙：1786，1795，1796年を示唆 記譜の特徴：1795年以降，1796年を示唆 音楽：#3「田舎のクリスマス」〔No.5〕ハンヒェンのアリアの前奏と後奏を１フレーズずつ省略	1796年頃，#3「田舎のクリスマス」〔No.5〕を編曲し「桶屋」No.8に転用。但し，1802年の最終稿には採用せず
＊5（No.9　ハンヒェンとシュテフェンの二重唱）	登場人物：　#12「桶屋」（1802年）と一致 五線紙：1786，1795，1796年を示唆 記譜の特徴：1795年以降，1796年を示唆	1796年頃，「桶屋」のために作曲最終稿に不採用
＊6（No.12 アンナ母さんのアリア）	五線紙：1786，1787，1789，1790年を示唆 記譜の特徴：1786年以降，1792年以前を示唆	帰属作品不明
＊7（曲番不明ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテンの四重唱）	登場人物：　#12「桶屋」（1802年）と一致 歌詞：　#12「桶屋」（1802年）No.11 と一致 五線紙：　#12「桶屋」（1802年）と一致 記譜の特徴：　#12「桶屋」（1802年）と一致　省略・訂正指示が多い 音楽：　#12「桶屋」（1802年）No.11 に比べて末尾で１フレーズ欠落	#12「桶屋」（1802年）の No.11 の〔第１稿〕

表2－6　楽譜資料＊8～＊16の帰属作品の考察

楽譜資料	根拠	結論
＊8（No.13　カスパーのアリア）	登場人物：#2「ぶどう摘み」（1785年）と一致 記譜の特徴：1784年以降，1786年以降を示唆	#2「ぶどう摘み」（1785年）に帰属
＊9（No.14　カスパーとリーゼの二重唱）	登場人物：#2「ぶどう摘み」（1785年）と一致 記譜の特徴：1784年以降，1786年以降を示唆	
＊10（No.19 オスミンのアリア）	登場人物：#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）と一致 歌詞：#8「アッハメットとアルマンツィーネ」No.19 オスミンのアリアと状況設定（乳母に変装）が一致 五線紙：#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）と一致 記譜の特徴：#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）と一致	#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）のNo.19（オスミンのアリア）の異稿。1795年頃作曲。
＊11（曲番不明　軽騎兵の曹長のアリア a Moll稿）	登場人物：#10「パントマイム」（1798年）と一致 歌詞：#10「パントマイム」（1798年）の軽騎兵の曹長のアリア〔g Moll稿〕と一致 五線紙：#10「パントマイム」（1798年）と一致 記譜の特徴：#10「パントマイム」（1798年）と一致，繰り返しをすべて記譜	#10「パントマイム」（1798年）の軽騎兵の曹長のアリア〔第1稿〕
＊12（曲番不明　軽騎兵の曹長のアリア g Moll稿）	登場人物：#10「パントマイム」（1798年）と一致 歌詞：#10「パントマイム」（1798年）の軽騎兵の曹長のアリアと一致 五線紙：#10「パントマイム」（1798年）と一致 記譜の特徴：#10「パントマイム」（1798年）と一致，繰り返し記号で記譜	#10「パントマイム」（1798年）の軽騎兵の曹長のアリア〔第2稿＝上演稿〕
＊13（ムッシュー・ジャンのアリア）	五線紙：1786～89年，1791年，1795年を示唆 記譜の特徴：1784年以降を示唆	帰属作品不明
＊14（セレーネのイタリア語アリア）	五線紙：1795年，1796年を示唆 記譜の特徴：1792年以前を示唆	
＊15（バス独唱の断片）	歌詞：#11「狩」（1799年）No.15 と一致 五線紙：#11「狩」（1799年）と一致 記譜の特徴：#11「狩」（1799年）と一致	#11「狩」〔1799年版〕のNo.15 の断片
＊16（二つの二重唱と二つのアリアのスケッチ）	五線紙：1780年を示唆 記譜の特徴：1789年以前を示唆	帰属作品不明

表2－7　楽譜資料＊17，＊18の帰属作品の考察

楽譜資料	根拠	結論
＊17(No.1 ヤコプとレースヒェンの二重唱のスケッチ)	登場人物：　#11「狩」（1799年）と一致するが，人間関係は異なる 五線紙：1786年，1795年，1796年を示 記譜の特徴：1786年以降を示唆	帰属作品不明
＊18(No.6 レースヒェンとペーターの二重唱の断片)	登場人物：　#11「狩」（1799年）と一致 歌詞：　#11「狩」（1799年）No.7とリズム一致 記譜の特徴：1795年以降，1834年より前	#11「狩」（1799年）No.7の断片

この結果，帰属作品に問題のある自筆譜，すなわち楽譜資料＊１～＊18は，上記の観点による帰属作品の推測の強度にしたがって，以下の六つのカテゴリーに分けることができる。

(1) 他の資料と，登場人物，歌詞，音楽，五線紙，記譜の特徴が一致するため，他の作品に帰属することが明らかな曲

楽譜資料＊７（ハンヒェン，シュテフェン，マルティン，フェルテンの四重唱）

楽譜資料＊11（軽騎兵の曹長のアリア a-Moll 稿）

楽譜資料＊12（軽騎兵の曹長のアリア g-Moll 稿）

楽譜資料＊15（バス独唱の断片）

(2) 登場人物，歌詞，五線紙，記譜の特徴から，他の作品に帰属することが強く示唆されている曲

楽譜資料＊１（No.2　ハンヒェンのアリア）

楽譜資料＊２（No.4　ハンヒェンのアリア）

楽譜資料＊３（No.7　マルティンのアリア）

楽譜資料＊４（No.8　ハンヒェンのアリア）

楽譜資料＊10（No.19 オスミンのアリア）

(3) 登場人物，歌詞，記譜の特徴から，他の作品に帰属することが示唆されている曲

楽譜資料＊18（No.6　レースヒェンとペーターの二重唱の断片）

(4) 登場人物，五線紙，記譜の特徴から，他の作品に帰属することが示唆されている曲

楽譜資料＊５（No.9　ハンヒェンとシュテフェンの二重唱）

(5) 登場人物と記譜の特徴から，他の作品に帰属することが推測される曲

楽譜資料＊８（No.13 カスパーのアリア）

楽譜資料＊9（No.14 カスパーとリーゼの二重唱）

(5) 五線紙と記譜の特徴は現在の帰属作品と異なる作曲年代を示唆しているが，資料の現況では本来の帰属作品について具体的な示唆が得られない曲

楽譜資料＊6（アンナ母さんのアリア）

楽譜資料＊13（ムッシュー・ジャンのアリア）

楽譜資料＊14（セレーネのイタリア語アリア）

楽譜資料＊16（二つの二重唱と二つのアリアのスケッチ）

楽譜資料＊17（ヤコプとレースヒェンの二重唱のスケッチ）

次に，帰属に問題があると思われる筆写譜，すなわち楽譜資料＊19と＊20について検討した結果，楽譜資料＊19は，シェンクの作品に一致する曲がなく，また当該資料に書き込まれた作曲家名（“Johann Schenk”）があとからの書き加えであること，および「サルタン，アッハメット――またはアッハメットとツェニーデ」のための付随音楽がシェンクの#8「アッハメットとアルマンツィーネ」（1795年）と混同され続けてきた作品であることから，おそらくは誤解に基づきシェンクの作品として伝承したもの，と推測される。楽譜資料＊20は，フィリドール作曲の「桶屋」と内容が一致する。この資料においても，シェンクの名前はあとから書き加えられたものであり，おそらくは，シェンクの作品と同じ題であるために，シェンクの作品と誤解されて伝承したもの，と推測される。したがって，楽譜資料＊19と＊20は，いずれもシェンクの作品ではなく，他の作曲家の作品と推測される。

以上の考察の結果，第2章の主題目録において帰属作品に疑義があるとした曲（楽譜資料＊1～＊20）を本来の帰属作品にしたがって整理しなおすと，次の表2－8のようになる。

表2—8　シェンクのジングシュピールの楽譜資料（本来の帰属作品別）

作品	カテゴリーA	カテゴリーB	カテゴリーC
#1 (1780)	A 1		
#2 (1785)	＊8，＊9		C 1，C 2
#3 (1786)	A 1，A 2，A 3，A 4，A 5，A 6		C 1，C 2
#4 (1787)	A 1	B 1，B 2	C 1
#5 (1789)	A 1		
#6 (1790)	A 1，A 2		
#7 (1791)	A 1，A 2，A 3，A 4		
#8 (1795)	A 1，＊10	B 1	C 1，C 2
#9 (1796)	A 1	B 1，B 2，B 3	C 1～C 9，その他
#10 (1798)	A 1，＊11，＊12		C 1，C 2，C 3，C 4
#11 (1799)	A 1，A 2，A 3，＊15，＊18		C 1
#12 (1802)	A 1，＊1，＊2，＊3，＊4，＊5，＊7	B 1	C 1
帰属作品不明	＊6，＊13，＊14，＊16，＊17		
真作性に疑問			＊19，＊20

表2—8を概観すると，シェンクの楽譜資料の現存状況は，ローゼンフェルト＝レーマー（1921年）とブランスコーム（1980年）が捉えていた状況と，以下の三つの点で大きな相違がある。その第一は，#2「ぶどう摘み」（1785年）が，2曲の自筆譜（楽譜資料＊8，＊9）と2曲の筆写譜だけが現存する断片曲となること，第二に，#2「ぶどう摘み」（1785年）の自筆譜と考えられていた楽譜（A-Wgm Aut Schenk 18）の多くが #12「桶屋」（1802年）に帰属すると考えられること，そして第三に，帰属作品不明の曲数が増加した，ということである。以上の問題については，本論第3部第3章において，様式的観点から再度検討を加える。